



Title	言い訳の日タイ対照研究
Author(s)	Sopitvutiwong, Yuphawan
Citation	大阪大学, 2013, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/51162
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

博士論文

題目 言い訳の日タイ対照研究

提出年月 2012年12月

言語文化研究科言語社会専攻

氏名 SOPITVUTIWONG YUPHAWAN

要旨

一般的に人々は、社会生活を送る上で、なるべく問題を起さぬよう心がけている。しかし、いくら気をつけても、問題が生じてしまう場合が少なくない。その際、当然被害を受けた側（以下「被害者」と呼ぶ）に不快感や不満な気持ちを与えてしまうため、被害を及ぼした側（以下、「加害者」と呼ぶ）または及ぼしたと疑われる側は、何らかの方法で相手との関係を修復しようとする。日本社会のように謝罪という行動が優先的に求められる社会に住む日本人は、謝って関係修復を試み、謝罪だけでは足りない場合には、被害が起きた原因の説明（本稿では「言い訳」と呼ぶ）を行う。ところが、筆者の国であるタイ社会は、日本社会とは異なり、謝罪は不可欠だが、それよりもなぜ被害が起きたのかについて言い訳することが優先される。このようにそれぞれの国には、独自の社会規範が存在するため、異文化・異習慣の社会に住むことになった場合、まず、その社会の文化や習慣を理解する必要が出てくるのである。本稿は人間関係にそうしたトラブルが起きた状況での言語行動に着目し、日本語母語話者（以下「JP」と呼ぶ）とタイ語母語話者（以下「TH」と呼ぶ）がトラブルをめぐってどのような行動を取るかを明らかにすることが目的である。

上記の目的を達成するため、本稿では日常的に起こり得るトラブルの状況として、①待ち合わせに遅刻したという「時間」と、②相手の物に損傷を与えたという「物」の場面を取り上げ、JPとTHの言い訳の使用がそれぞれどのような特徴を持ち、またどのように異なるかを明らかにし、ひいては言い訳の会話に反映される両言語母語話者の責任感のあり方を考察する。

本稿の調査は、20代のJPとTH、女性同士8組、計16組（=32名）を対象に、ロールプレイ調査とロールプレイ後、各場面で調査対象者が取った行動についてフォローアップインタビューを行った。ロールプレイの設定条件は、「時間」と「物」に関するトラブルの状況を、それぞれ間接状況（「直接的に自分の行動によらない原因で被害が与えられた場合」と、直接状況（「直接的に自分の行動による原因で被害を与えた場合」）に二分し、さらに、被害の程度を軽重に分けた。また、相手との関係は、同等の相手に限定したが、その距離を「親・疎」に分けて考察した。

分析にあたっては、文字化したロールプレイデータを用いて、会話を「言い訳」の段階と、「問題解決」の段階に分けた上で、すべての発話に発話機能を割り当て、会話全体の発話の連鎖を分析した。特に、「言い訳」の段階について詳細に分析を行い、言い訳の発話タイプの分類、言い訳の内容、そして、言い訳に対する反応についても考察した。さらに、状況によって、生じた問題をどのように解決するかという問題解決の段階まで続く会話があったため、本稿はこの問題解決の部分を中心に責任の取り方についても考察したい。

調査の結果は以下の通りである。

①会話全体の流れについて

言い訳タイプの使用は、相手の所有物に被害が生じた「物」の場面では、自分の非の有無を問わず、JPとTHの結果は同様に、加害者が自ら言い訳をする〔自発的言い訳〕が最も多かった。これは、相手から借りた物に何が起こったかは加害者にしか分からないためであると考えられる。一方、待ち合わせに遅刻した「時間」場面でも、共に〔自発的言い訳〕が最も多かったが、THの場合は〔【文句】に対する言い訳〕の使用が、被害の軽重いずれにおいても見られた。

言い訳会話の流れは、JPは「時間」状況も、「物」状況も、被害の程度により流れが少し異なる。例えば、遅刻場面ではほとんどの会話は第一発話に【謝罪】がよく用いられているが、重い状況になると、第三者（＝作家）に配慮するような発話も観察された。また、会話の終わらせ方にも違いが見られ、被害程度の軽い場合は【謝罪】で会話を終了させるが、被害程度が重くなると、問題解決の段階まで続ける会話が多い。それに対して、THは被害の軽重いずれの状況においても、加害者の発話の種類が豊富で、また言い訳に対する被害者の反応も、肯定的な反応と否定的な反応の両方が使用されているという流れになっている。さらに、会話の終了部分では、軽重のいずれの状況においても同じような問題解決の方法を使っており、JPと異なる結果であった。

②加害者が使用する言い訳内容及びその言い訳に対する被害者の反応

加害者が使用する言い訳の内容は、JPとTHの間で結果が大きく異なる。JPは自分に非があるか否かにかかわらず、多くの調査対象者が〔正直に言う〕言い訳を選択した。それに対して、THは内容の選択が、その原因が自分に起因するかどうかによって異なっている。つまり、交通事情、雨のような自分の行動によらない場合、THの調査対象者はその原因を〔正直に言う〕言い訳を選択したが、その原因が自分にある場合、〔正直に言わない〕言い訳を選択した人が多かった。

また、【言い訳】を行う際、JPとTHがとる言語行動の違いが見られた。JPは、被害の原因が自分にあるか否か、また被害の程度の軽重に関係なく、【謝罪】、【自己非難】など非を認めるようなもの、あるいは第三者に配慮するような【心配の表明】、【後悔】などと一緒に言い訳を用いる。一方、THは自分に非があるかどうかによって【言い訳】を行う際の発話が異なる。すなわち、自分に非がなければ、相手との関係を改善しようとしてタイ語母語話者の言語行動の特徴の一つである【冗談】を言ったり、【責任の回避】や【責任の軽減】などを言ったり、自分に非がないことを主張しようとする。しかし、自分に非があると、【努力の表明】、【悪気なしの表明】、【責任の軽減】など自己防衛の発

話を用いる傾向がある。

言い訳に対する被害者の反応も、JP と TH の間で結果が食い違っている。JP はいかなる状況・相手に対しても、【理解】、【受け入れ】のような肯定的な反応を示す傾向があるのに対して、TH は親疎関係によって反応が異なり、疎の相手には受け入れ的な反応を示すが、親の相手には、否定的な反応をよく用いる。タイでは親しさを表すのに、どれだけストレートに物事が言えるかが一つの基準になる。そのため、親の相手にはたとえ否定的に聞こえても、今後も関係を維持していく上で、不満などを率直に表すことが大事とされる。つまり、TH の被害者が親の相手に対して否定的な反応をするのは、親しい関係であることの象徴であると思われる。反対に、疎の相手にはそれほど深い付き合いが期待されず、何かトラブルが起きたとき、とりあえずその場を繕っておけばいいと考えるため、疎の相手に対してTHは無難な反応、つまり受け入れ的な反応を示すことが多いのである。しかし、受け入れ的な反応を示すとはいえ、やはり不満の程度が甚だしい時にはそれを伝える必要がある。そこでTHは直接的ではなく、間接的に遠まわしに相手に不満を伝える【皮肉】という方法を使う。この意味で【皮肉】の使用というのはTHの特徴の一つであると言えよう。

また、今回の調査では、両言語で[正直に言わない]言い訳の使用が見られたが、使われ方は異なっている。JP の場合、[正直に言わない]言い訳の例として、[曖昧な表現の使用]という方法が挙げられるが、TH の場合、「渋滞にあった」などの[ステレオタイプの言い訳の使用]の他、[第三者への罪の押し付けの使用]という方法がよく見られて興味深い。特に、TH で第三者への罪の押し付けが顕著に見られることについては、タイの社会事情に説明を求める必要があるだろう。日本では、人に被害を与えたとき、その被害について謝罪をして責任を取ることが期待され、謝罪さえすれば社会ないし世間から許されやすくなる。それに対して、タイでは、与えた被害に対して謝罪をすれば、社会ないし世間が許しや理解をするより、まずその被害相応の弁償を問う傾向があり、場合によっては必要以上の弁償を要求することもある。そのため、加害者は、不当な責任追及を恐れ、第三者へ罪を押し付ける方法を取ってそれを事前に防ごうとするのではないかと思われる。

上記の結果のように、何か問題が生じたとき、たとえ自分に非がなくても、「とりあえず謝っておく」ことがJPにとっては何よりも大事だと考えられる。相手に謝れば許してもらえると予測されるため、多くの加害者が率直に非を認め、それに対して被害者も受け入れ的な反応で返すのではないかと思われる。一方、THの結果は「ナー」、つまり、顔、ないし面子を非常に大事にしたゆえの結果であると考えられる。すなわち、素直に非、特に自分の行動による非を認めたら、相手にひどく非難されて面子をつぶされ、辱められかねない。そうなれば自分の信用にもかかわってくる。そのため、タイ人は自分の非ではないことを主張しようとしたり、第三者へ罪を押し付けたり、ステレオタイ

プを使用したりして自分の面子を保つことを優先するのである。とはいえ、TH が非を認めない、あるいは自分に非がないことを主張するからといって、決して責任を取らないわけではない。発生した問題に対して JP は最初に謝罪するという形で責任をとるが、TH は積極的に具体的な案を出すことで責任を取る姿勢を見せていると言えよう。

この結果からも明らかなように、背景にある文化あるいは習慣などの違いによって、当然それぞれの社会における考えや行動のパターンが異なる。したがって、自分が属している社会の行動パターンと異なるものに遭遇したとき、決して自国文化の基準のみに照らし合わせて考えるのではなく、相手の文化の行動を理解しようとするのが、友好的な人間関係を構築・維持していく上で重要であると、本稿の結論から言えるのである。

Abstract

In everyday social interaction, instances of social predicaments are ubiquitous. Whenever a social predicament occurs, we cannot avoid the resulting conflicts. The victim will feel uncomfortable and annoyed, whereas the harm-doer is supposed to try to find a way to resolve the problem in order to restore their relationship with the victim.

The purposes of this research are (1) to compare the usage of excuses when harm-doers attempt to explain the cause of the problem in Japanese and Thai, (2) to compare the victim's response to the excuse in Japanese and Thai, and (3) to investigate problem solving among Japanese and Thai. This study also examines the results of social factors that may have some effects on both victims and harm-doers' verbal behavior: (a) the relative power status of the participants, (b) the seriousness of the offense, and (c) whether the offense is direct or indirect. Using the scenario method, social predicaments were set up with two main themes: "time" and "belongings". 16 pairs of Japanese and Thai women in their 20s were asked to play the role of harm doer and victim in the situation of running late and the situation of causing damage to the victims' belongings.

Based on the data, this study can conclude the following results:

1. Overview of the conversation

First, it was found that in the belongings offense predicament, almost all Japanese and Thai harm-doers tend to offer an "excuse willingly". Both also had a tendency to use this excuse type in the running late offense predicament also, however, some Thais preferred to express an "excuse reacting to blame"; the excuse used as a reaction to the harm-doers when blamed by the victims.

Next, regarding conversation flow, Japanese harm-doers always started with saying **【Apology】** and ended the conversation with the same **【Apology】**, even if it was only a mild offense. But if it was a severe offense, they would start with a word concerning the person conducting the experiment, who had been waiting, and the

conversation would then go to the problem solving process, whereas Thai harm-doers, in all social predicaments, tended to use various speech acts and most of the conversations led to the problem solving process. Furthermore, regarding the reaction of victims toward the harm-doer's excuse, Japanese tended to respond to the excuses positively whereas Thai would respond positively or negatively depending on their relationship.

2. Harm-doer's excuse content and victim's response

It was found that Japanese harm-doers tended to explain the cause of problems by offering an "honest excuse", even if the offense not their fault. Whereas Thai harm-doers tended to use "honest excuses" if they had no fault such as when running late due to a traffic jam, and might use a "dishonest excuse" if they are at fault.

When harm-doers gave an excuse, there were some differences in the speech act among Japanese and Thai. Japanese used mainly **【Apology】**, **【Self-criticism】**, **【Regard one】**(=the third person), **【Reflect on the past act】** in both running late and belongings damage predicaments and both mild and severe offense, whereas Thai harm-doers tended to use **【Humor】**, **【Avoidance of responsibility】**, **【Responsibility reduction】** in the predicaments that were not their fault. Moreover, when it was their fault, Thais often used **【Expression of the effort】**, **【Expression of innocence】**, **【Responsibility reduction】**, the speech act that protects them.

As for the response of the victim, very clear differences between Japanese and Thai were found. Japanese victims tended to respond positively by using **【understanding】** of the excuse or **【Acceptance】** of one's apology. In contrast to this, Thai victims would respond positively if they are not close to the harm-doer and respond negatively if they are close to the harm-doer, such as stating their dissatisfaction directly. In Thai, it can be said that talking frankly and honestly is necessary to further maintain a smooth relationship between close friends, whereas for other acquaintances, there is no need to try to understand each other; they just use **【Acceptance】** of one's apology as a way of speaking tactfully to satisfy both sides. Thai victims also use **【Irony】** to indirectly express their feeling of dissatisfaction.

Moreover, when harm-doers provide a “dishonest excuse”, Japanese mostly use an “ambiguous expression”, whereas Thai mostly use “stereotypical excuses” or “place blame on an innocent person”. The reason why Thai use the above excuse expressions is due to the social background. In Thai society, when one has made a mistake, he or she is expected to take responsibility, and sometimes the responsibility may be bigger than the mistake. No one wants to take responsibility for more than the mistake they have made, so they place some blame on another person as a way to nip the issue in the bud. On the contrary, in Japanese society, people always try to understand others and forgive them for their misgivings when they apologize and admit to their fault.

From the above result, we may can assume that in Japanese society the act of apologizing plays a vital role when a mistake occurs, regardless of whether the mistake is an actor’s fault or not. Japanese will accept an apology and forgive. Conversely, the result from the Thai subjects of “naa”, meaning “face”, can be thought of as a result of them placing significant importance on maintaining face. To put it another way, by honestly admitting that they are to blame for something, especially when it was due to their own actions, a Thai person will be severely criticised by the other party, causing them to lose face and be humiliated. If this happens, they will also lose the other party’s trust. Knowing this, a Thai person will strive to maintain face by doing such things as claiming they are not to blame, “placing blame on an innocent person”, and making use of “stereotypical excuses”. Nevertheless, this does not mean that Thai people do not take any responsibility for their mistakes, even when they did not make the mistake, but they will take responsibility by trying to resolve the problem concretely and actively, whereas Japanese tend to accept responsibility by apologizing. People act differently due to their different society’s rules, and as such we should not judge one’s acts as inappropriate by applying our own society’s rules to them.

目次

	頁
第1章 はじめに	1
1.1 研究動機.....	1
1.2 本稿の構成.....	2
第2章 先行研究	3
2.1 「言い訳」の定義.....	3
2.1.1 先行研究における「言い訳」の定義.....	3
2.1.2 本稿における「言い訳」の定義.....	4
2.2 「言い訳」に関する研究.....	5
2.3 謝罪ストラテジーとして言い訳を言及する研究.....	9
2.3.1 日本語の謝罪の研究.....	9
2.3.2 日本語と他の言語との謝罪の対照研究.....	10
2.3.3 日タイの謝罪の対照研究.....	10
2.4 修復作業に対する応答の先行研究.....	12
2.5 親疎関係に言及する先行研究.....	16
2.6 先行研究の問題点と課題.....	18
第3章 予備調査	19
3.1 予備調査の概要.....	19
3.1.1 予備調査の実施日・調査協力者.....	19
3.1.2 データの収集方法.....	19
3.1.3 分析方法.....	20
3.2 予備調査の結果.....	21
3.2.1 被害が直接的に自分の行動によらない場合の言い訳.....	22
3.2.1.1 日本語母語話者の場合.....	22
1)[正直に言う]場合.....	23
2)[正直に言わない]場合.....	24
3.2.1.2 タイ語母語話者の場合.....	24
1)[正直に言う]場合.....	24
2)[正直に言わない]場合.....	25
3.2.2 被害が直接的に自分の行動による場合の言い訳.....	25
3.2.2.1 日本語母語話者の場合.....	26
1)[正直に言う]場合.....	26

2)[正直に言わない]場合.....	27
3. 2. 2. 2 タイ語母語話者の場合.....	27
1)[正直に言う]場合.....	27
2)[正直に言わない]場合.....	29
3. 2. 3 まとめ.....	33
3. 3 予備調査の問題点.....	33
第4章 本調査.....	35
4. 1 調査の目的.....	35
4. 2 調査対象者.....	35
4. 3 調査場所と期間.....	35
4. 4 データ.....	36
4. 4. 1 データ収集方法.....	36
4. 4. 2 データ収集方法の利点と限界.....	39
4. 5 分析の枠組み.....	39
4. 6 データの分析の手順.....	47
第5章 直接的に自分の行動によらない原因で被害が与えられた場合の言い訳.....	48
5. 1 「直接的に自分の行動によらない原因で相手との待ち合わせ時間に遅刻した」状況について.....	48
5. 1. 1 会話全体の流れ.....	49
5. 1. 1. 1 使用された言い訳のタイプ.....	49
5. 1. 1. 2 言い訳会話の連鎖組織.....	50
5. 1. 1. 2. 1 日本語母語話者.....	53
(a) 《間接・時間》で使用された言い訳のタイプ.....	53
(b) 《間接・時間・軽》会話の流れ.....	53
(c) 《間接・時間・重》会話の流れ.....	54
5. 1. 1. 2. 2 タイ語母語話者.....	57
(a) 《間接・時間》で使用された言い訳のタイプ.....	57
(b) 《間接・時間・軽》会話の流れ.....	57
(c) 《間接・時間・重》会話の流れ.....	60
5. 1. 1. 3 《間接・時間》状況での会話の流れのまとめ.....	63
5. 1. 2 加害者が使用する言い訳内容、及びその言い訳に対する被害者の反応.....	64
5. 1. 2. 1 言い訳の発話の特徴と被害者の反応の特徴.....	64
5. 1. 2. 1. 1 [正直に言う]場合.....	64
(1) 日本語母語話者の場合.....	65

(2) タイ語母語話者の場合.....	68
5. 1. 2. 1. 2 [正直に言わない]場合.....	72
5. 1. 2. 2 《間接・時間》における加害者の言い訳の内容と、 それに対する被害者の反応のまとめ.....	72
5. 1. 3 《間接・時間》のまとめと考察.....	73
5. 2 「直接的に自分の行動によらない原因で相手の所有物に被害が与えられた」 状況について.....	74
5. 2. 1 会話全体の流れ.....	75
5. 2. 1. 1 使用された言い訳のタイプ.....	75
5. 2. 1. 2 会話の連鎖組織.....	76
5. 2. 1. 2. 1 日本語母語話者.....	78
(a) 《間接・時間》で使用された言い訳のタイプ.....	78
(b) 《間接・時間・軽》会話の流れ.....	78
(c) 《間接・時間・重》会話の流れ.....	79
5. 2. 1. 2. 2 タイ語母語話者.....	81
(a) 《間接・時間》で使用された言い訳のタイプ.....	81
(b) 《間接・時間・軽》会話の流れ.....	81
(c) 《間接・時間・重》会話の流れ.....	83
5. 2. 1. 3 《間接・物》状況での会話の流れのまとめ.....	86
5. 2. 2 加害者が使用する言い訳内容、及びその言い訳に対する被害者の反応.....	86
5. 2. 2. 1 言い訳の発話の特徴と被害者の反応の特徴.....	87
5. 2. 2. 1. 1 [正直に言う]場合.....	87
(1) 日本語母語話者の場合.....	87
(2) タイ語母語話者の場合.....	91
5. 2. 2. 1. 2 [正直に言わない]場合.....	96
5. 2. 2. 2 《間接・物》加害者の言い訳の内容と、 それに対する被害者の反応.....	96
5. 2. 3 まとめと考察.....	97
5. 3 直接的に自分の行動によらない原因で被害が与えられた場合の総括.....	98
第6章 直接的に自分の行動による原因で相手に被害を与えた場合.....	100
6. 1 「直接的に自分の行動による原因で相手との待ち合わせ時間に遅刻した」 状況について.....	100
6. 1. 1 会話全体の流れ.....	101
6. 1. 1. 1 言い訳のタイプの使用結果.....	101
6. 1. 1. 2 言い訳会話の連鎖組織.....	102

6. 1. 1. 2. 1	日本語母語話者.....	105
(a)	《直接・時間》で使用された言い訳のタイプ.....	105
(b)	《直接・時間・軽》会話の流れ.....	106
(c)	《直接・時間・重》会話の流れ.....	107
6. 1. 1. 2. 2	タイ語母語話者.....	109
(a)	《直接・時間》で使用された言い訳のタイプ.....	109
(b)	《直接・時間・軽》会話の流れ.....	109
(c)	《直接・時間・重》会話の流れ.....	111
6. 1. 1. 3	《直接・時間》状況での会話の流れのまとめ.....	113
6. 1. 2	言い訳の内容とそれに対する反応.....	115
6. 1. 2. 1	言い訳の発話の特徴と被害者の反応の特徴.....	116
6. 1. 2. 1. 1	[正直に言う]場合.....	116
(1)	日本語母語話者の場合.....	116
(2)	タイ語母語話者の場合.....	119
6. 1. 2. 1. 2	[正直に言わない]場合.....	122
(1)	日本語母語話者の場合.....	123
(2)	タイ語母語話者の場合.....	126
6. 1. 2. 2	《直接・時間》での加害者の言い訳の内容と、 それに対する被害者の反応のまとめ.....	131
6. 1. 3	《直接・時間》のまとめと考察.....	132
6. 2	「直接的に自分の行動による原因で相手の所有物に被害を与えた」 状況について.....	133
6. 2. 1	会話全体の流れ.....	134
6. 2. 1. 1	使用された言い訳のタイプ.....	134
6. 2. 1. 2	会話の連鎖組織.....	135
6. 2. 1. 2 .1	日本語母語話者.....	137
(a)	《直接・物》で使用された言い訳のタイプ.....	137
(b)	《直接・物・軽》会話の流れ.....	137
(c)	《直接・物・重》会話の流れ.....	139
6. 2. 1. 2. 2	タイ語母語話者.....	140
(a)	《直接・物》で使用された言い訳のタイプ.....	140
(b)	《直接・物・軽》会話の流れ.....	141
(c)	《直接・物・重》会話の流れ.....	144
6. 2. 1. 3	《直接・物》状況での会話の流れのまとめ.....	145
6. 2. 2	加害者が使用する言い訳内容、及びその言い訳に対する被害者の反応.....	146
6. 2. 2. 1	言い訳の発話の特徴と被害者の反応の特徴.....	147

6. 2. 2. 1. 1 [正直に言う]場合.....	147
(1) 日本語母語話者の場合.....	147
(2) タイ語母語話者の場合.....	150
6. 2. 2. 1. 2 [正直に言わない]場合.....	155
(1) 日本語母語話者の場合.....	155
(2) タイ語母語話者の場合.....	158
6. 2. 2. 2 《直接・物》加害者の言い訳の内容と、 それに対する被害者の反応のまとめ.....	161
6. 2. 3 まとめと考察.....	162
6. 3 直接的に自分の行動による原因で相手に被害を与えた場合の総括.....	163
第7章 相手に被害を及ぼした状況での問題解決の方法と責任感の現れ.....	165
7. 1 問題解決の段階における発話機能の出現傾向.....	166
7. 2 問題解決の方法と責任の取り方についての考察.....	181
7. 2. 1 謝罪のあり方.....	181
7. 2. 2 問題解決の提案と責任の取り方.....	181
7. 2. 3 第三者への配慮と問題解決の優先順位.....	183
第8章 まとめと考察.....	185
8. 1 まとめ.....	185
8. 1. 1 直接的に自分の行動によらない原因で被害を与えられた場合の結果.....	185
8. 1. 1. 1 「直接的に自分の行動によらない原因で相手との 待ち合わせ時間に遅刻した」状況.....	185
(1) 会話全体について.....	185
(2) 加害者が使用する言い訳内容及びその言い訳に対する被害者の反応...186	186
8. 1. 1. 2 「直接的に自分の行動によらない原因で相手の所有物に 被害を与えられた」状況.....	187
(1) 会話全体について.....	188
(2) 加害者が使用する言い訳内容及びその言い訳に対する被害者の反応...188	188
8. 1. 2 直接的に自分の行動による原因で被害を与えた場合の結果.....	188
8. 1. 2. 1 「直接的に自分の行動による原因で相手との 待ち合わせ時間に遅刻した」状況.....	188
(1) 会話全体について.....	188
(2) 加害者が使用する言い訳内容及びその言い訳に対する被害者の反応...189	189
8. 1. 2. 2 「直接的に自分の行動による原因で相手の所有物に 被害を与えられた」状況.....	190

(1) 会話全体について.....	190
(2) 加害者が使用する言い訳内容及びその言い訳に対する被害者の反応...	191
8.2 考察.....	192
① 加害者の使用する言い訳とそれに対する被害者の反応の関係.....	192
② 使用される発話機能と設定要因の関係.....	194
②-1 使用される発話機能と被害の原因(間接的・直接的).....	194
②-2 使用される発話機能と内容の軽重.....	195
②-3 使用される発話機能と親疎関係.....	196
③ [正直に言わない] 言い訳の日タイ比較.....	198
8.3 今後の課題.....	199
参考文献.....	200
卷末資料1 予備調査のロールカード.....	208
卷末資料2 本調査のロールカード.....	224

第1章

はじめに

1.1 研究動機

一般的に社会生活を営む上で、そのメンバーは定められた規範に則った行動を取るのが望ましいとされる。メンバー全員がルールに従えば、当然社会は平穏であるが、多様な人々が共に生活を送る環境では、予期せぬ様々なトラブルが起こる。また、そのトラブルの原因が自分にあるかどうかに関係なく、同じ社会で暮らす周りの人に被害や迷惑をかけ、人間関係に摩擦が起きることもある。さらに、人にはそれぞれ個性があるように、社会にも個々の特徴がある。ある社会の常識が別の社会の非常識になることも決して珍しくなく、社会によって人間関係上の摩擦の種類も異なる。

近年、言語行動の研究が盛んに行われているが、これは、言語行動が社会や文化における常識や価値観を反映しており、ある言語社会における言語行動の仕方を明らかにすることが、異文化間の相互理解のために不可欠であるという認識が広まっていることによるものと思われる。特に相手との人間関係を左右する謝罪、断り、不同意などのような言語行動について、これまで、日本語、英語、中国語、タイ語など様々な言語において研究がなされ、多数の成果が挙げられている。

中でも、筆者が特に関心を持っているのは、トラブルが生じたときの言語行動である。何らかのトラブルが生じた際、それぞれの社会において期待される言語行動が異なることは興味深い。例えば、2011年に起きた福島原子力発電所の爆発事故を例にとると、この事故で多くの人々が被害を受けたため、日本人の感情としては、関係者による謝罪をまず第一に求めるのが一般的であろう。しかし、謝罪をしたからといって問題が解決されるわけではなく、その先にあるのは、原因の追及や、被害者の今後の生活に対するケアなどといった問題である。タイ人である筆者からすると、謝罪よりもむしろその後の問題への対処の方が重要だと思われるが、それでも日本人は謝罪にこだわり、責任の所在をはっきりさせてからでなければ、次の段階へは進めないようである。また、謝罪とともに事情説明も要求され、今後同様の事故が起きぬよう、事故の発生過程を徹底的に突き止めることが、日本社会では重要だとされる。

これは、トラブルが生じたとき、謝罪と説明どころか、責任を取るべき人間や機関が責任を放棄したり、あるいは他人に責任転嫁したりすることが多いタイとは対照的である。このような違いをどのように理解にすればよいのか、また本当に国民性による違いなのかと、筆者は常に疑問を感じる。

このような日本とタイの違いを考えるために、筆者は、ソーピットウツティウォン(2010)で、トラブルの

場面における日本語母語話者とタイ語母語話者の言語行動の違いを理解するために、説明(本稿では「言い訳」と呼ぶ)という言語行動に焦点を当てて研究を行った。取り上げた場面は、日常的によく見られる遅刻の場面であった。結果として、日本語母語話者とタイ語母語話者の間に「遅刻」に対する異なる意識があることや、遅刻したとき、両母語話者が取る行動の違いがあることが明らかになった。タイ語母語話者の場合、5分や10分程度遅れてもほとんどの人は気にせず、特に親しい友達同士であると、遅刻しても謝らないのが普通であった。また、約束内容によっては、待たされた側も、たとえ相手が謝らなくても、あまり不満や怒りなどを感じないこともあり、一分でも約束の時間を過ぎたら遅刻であると認識している日本語母語話者とは大きく異なる。さらに、遅刻した時に第一発話として謝罪をすることも日本語母語話者の特徴の一つであることが調査で明らかになった。このような研究結果を踏まえつつ、本稿では、待ち合わせの場面という「時間」の被害だけではなく、相手の物に被害を与えたような「物」の被害場面にまで調査対象を広げて、トラブルが生じたときの日本語母語話者とタイ語母語話者の言語行動をより広く明らかにする。

1.2 本稿の構成

本稿では、先述したように、調査に際して、被害の内容を「時間」と「物」の2つに分け、その上で、相手に生じた迷惑・被害を、直接加害者の行動によるものかどうかさらに分けて調査を行う。また、分析の視点として、相手との親疎関係と被害程度の軽重という要因を設定し、それが加害者の言い訳及び言い訳に対する被害者の反応にどのような影響を与えるかも考慮する。最終的に、言い訳の場面における加害者・被害者の行動が責任の取り方にどのように反映されるのかについても言及する。

本稿の構成は以下のとおりである。まず、第2章では、先行研究における「言い訳」の定義を概観し、本稿での「言い訳」の定義付けを行った上で、言い訳に関する先行研究、謝罪に関する研究、および本研究で行うロールプレイの場面設定における設定要因と関連する研究を紹介し、先行研究の問題点を指摘する。第3章では、本調査で使用する設定条件の適切さを確認するための予備調査について述べる。予備調査の反省点を踏まえて行った本調査の概要については第4章で述べ、第5章では、本調査の〈直接的に自分の行動によらない原因で被害が与えられた場合〉の結果と考察、第6章では、〈直接的に自分の行動による原因で被害が与えられた場合〉の結果と考察について述べる。第7章では、〈問題解決と責任感〉に言及し、データに現れた問題解決がどのように責任の取り方と結びついているのかを考察し、最後に第8章で改めて第5章～第7章までの調査の結果をまとめる。

第2章

先行研究

本章では、先行研究における「言い訳」の定義を概観し、本稿での「言い訳」の定義付けを行った上で、言い訳に関する先行研究、謝罪に関する研究、および本研究で行うロールプレイの場面設定における設定要因と関連する研究を紹介し、先行研究の問題点を指摘する。

2.1 「言い訳」の定義

2.1.1 先行研究における「言い訳」の定義

「言い訳」に関する先行研究を概観すると、「言い訳」の定義は研究者の間でも多様であることがわかる。西村(2007)では、勧誘の断り談話において述べられる理由を言い訳¹と呼んでいるが、他の研究では、基本的に言い訳は、生じている何らかの不都合な行動について行う説明であるとしている。表2-(1)は、先行研究における言い訳の定義をまとめたものである。

表 2-(1) 先行研究における「言い訳」の定義

Scott&Lyman(1968) Schlenker (1980) Schönbach (1980, 1985)	Verbal explanation for problematic behavior designed to rectify a predicament. ² (Gonzales, M.H. et al, 1990:610)
John Heritage (1988)	Overt explanation in which social actors give accounts of what they are doing in terms of reasons, motives or causes.(Heritage, J., 1988:128)
Gonzales, M.H. (1992), Gonzales, M.H. et al (1990)	Accounts are designed to mitigate others' tendency to reach undesirable conclusion about the character of the offending actor. (Gonzales, M.H., 1992:960) Explanations proffered by people to other people in a social context, and interactants differ on such social variables as power, status, sex

¹ 西村(2007)が対象としている言い訳は、Beebe et al (1999)による「間接的断り」の意味で、excuse, reason, explanationとして位置づけられている。西村は、断りのメッセージを送りながら、その断りがもたらす危害を緩和するという複数の機能を果たす大切な言語行為であると述べている(西村 2007:95)。

² Gonzales, M.H. et al (1990)からの引用。

	and numerous personality characteristics. (Gonzales, M.H. et al, 1990: 611)
Shimada(2003)	These disruptive situations, often have negative consequences for all interactants, actors proffer verbal explanations or accounts : linguistic tactics that are employed to regain their social identities and restore equilibrium to a damaged encounter. (Shimada, 2003: 29)
Shimada(2004, 2006)	Accounts are verbal explanations offered to explicate the inappropriate or awkward behavior. An actor offers accounts to regain his or her social identity steer clear of conflicts or maintain the social order by verbally filling gap between action and expectation. (Shimada, 2004:43, Shimada, 2006:130)

Scott&Lyman(1968)、Schlenker(1980)、Schönbach(1980, 1985)が、言い訳を問題のある行動に対する説明と定義しているのに対し、Gonzales(1992)は、ポライトネス理論に基づく研究であり、ポライトネスの手段としての account の項目として言い訳を位置づけ、聞き手の face に対する話し手の配慮として言い訳を捉えている点で異なる。

また、Shimada (2003) は、それまでの先行研究を踏まえた定義づけを行っているが、Shimada (2004, 2006) では定義を改め、これまでの先行研究では言及されなかった、なぜ言い訳を行うのかという点を含めており、最も詳細に定義づけしているといえるだろう。

2. 1. 2 本稿における「言い訳」の定義

上述のように、「言い訳」は「トラブル場面、またはあらゆる不都合な行動を明らかにするための説明」であるが、同じような用語として「理由をあげる」や「弁明」などがあり、Shimada (2004)、粕川正光・藤崎哲郎・王晋民(2010)などは account (弁明) という言葉を用いている。「理由」は「理由をあげる」すなわち、事柄に対する説明をあげることであり、一方「弁明」は相手に納得してもらうよう説明して事情をはっきり述べる行為で、いずれも意味としてはニュートラルなイメージを持つ。しかし、本稿で扱うのは、話し手自身に原因がある場合とそうでない場合の両方を含んだ、相手に迷惑・被害が与えられた(約束の時間に遅れた状況と、相手の物に被害を与えた状況)というトラブル場面において、話し手が自分の社会的なアイデンティティーを取り戻したり、いざこざを避けたり、社会的な

秩序を維持したりするために行う説明である。それゆえ、聞き手にとっては、「責任を回避しようとしている」と感じることもあり、マイナスのイメージが強い。本研究における「言い訳」は、Shimada (2004) で述べられている account のうちの一部を参考にしつつ、Shimada(2004) の定義を援用して、次のように定義する。

<本稿における言い訳の定義>

本稿における「言い訳」は、「あらゆる場面における不適切な行動に対して行われる、相手への言語的な説明。その行動の原因を明らかにするために提供されるもので、相手の期待に沿わない自分の行動を言葉で説明することによって、いざこざを避けたり、社会的な秩序を維持したりしようとする行為」とする。

2.2 「言い訳」に関する研究

「言い訳」に関する研究は、言い訳の種類 (Scott & Lyman 1968, Schönbach 1980, McLaughlin, Cody & Rosenstein 1983, McLaughlin, Cody & O'Hare 1983) と、言い訳の選択使用に与える要因に関するもの (前田 1989, Itoi, Ohbuchi, & Fukuno 1996 と Shimada 2003, 2006) がある。

言い訳の研究の先駆者として言い訳を分類した Scott & Lyman (1968) は、言い訳を *excuse* と *justification* の2種類に分け、前者は自分の行動が悪い、良くない、または不適切だと認めた上で、責任を否定することであり、後者は自分の責任であると認めているが、その正当性を主張するものであると述べている。これについて、Schönbach (1980) は、この2分類は、犯罪以外の過失場面では用いられず、逸脱行動や、ルール違反などの過失の場面では用いられないと指摘し、改めて言い訳を、以下の①容認 (*concession*³)、②言い訳・弁明 (*excuse*)、③正当化 (*justification*)、④拒否 (*refusal*⁴) の4種類に分類した。

①容認: 行為者がその過失を認め、全面的な責任を取り、後悔などを表明したり、弁償を申し出たりすること

②言い訳・弁明: 行為者はその過失を認めているが、その過失が自分の欠点、または力不足などで発生したと述べることでその責任を減らそうとすること

③正当化: 行為者は過失の因果関係を認識してはいるが、その損害を軽減したり、責任を否認

³ Itoi, Ohbuchi, & Fukuno (1996) では *Apology* と呼ばれる。

⁴ Itoi, Ohbuchi, & Fukuno (1996) では *Denial* と呼ばれる。

したりすることによって自分の行動が正しいと見せようとする事

④拒否: 行為者とその過失との関係を否認すること

なお、この4分類については、Itoi, Ohbuchi, & Fukuno(1996)、Shimada(2003)でも用いられている。

さらに、Schönbach は、言い訳の会話の流れを以下のように示している。

Agent A	Agent B
(1)Failure event	
(2)	Reproach
(3)Account	
(4)	Evaluation

(Schönbach, 1980:195)

続いて、McLaughlin, Cody & Rosenstein(1983)と、McLaughlin, Cody & O'Hare(1983)は、Schönbach の言い訳の4分類を援用し、さらに、ポライトネス理論のネガティブフェイスの視点を加え、自分を犠牲にする行動として容認と言い訳・弁明の2種類を「Mitigating account」に、他人を犠牲にする行動として正当化と拒否の2種類を「Aggravating account」に分けている。そして、二つに分けた「account」を別個に扱うのではなく、緊張感、対人関係の葛藤が和らげる「Mitigating account」と、緊張感、対人関係の葛藤が悪化させる「Aggravating account」を一直線上に示し、連続的なものとして整理している。

一方、言い訳の選択使用に与える要因に関する研究として、Itoi, Ohbuchi, & Fukuno(1996)は、アメリカ人大学生(174人)と日本人大学生(169人)にDCT(談話完成テスト)を実施し、トラブル場面において、親密関係、被害の程度、accountの動機付けがどのようにaccountの選択に影響を与えるか、違いを明らかにしようとした。調査では、それぞれの被害の状況⁵において、それぞれのaccountをどの程度行うか評定させた。その結果、6つのaccounts⁶の方略の中で、日・米の母語話者は共に謝罪を最も使用していることがわかったという。また、日本人はアメリカ人より、特に親しい関係の相手に対してMitigating accountを使い、Aggravating accountはあまり使用しないという結果であった。また、日本人の場合、女性の方が謝罪をよく使用するという男女による違いも見られる

⁵ Itoi, Ohbuchi, & Fukuno(1996)で設定された状況とは、(a)加害者が相手にコーヒーをこぼした、(b)自分が乗っていた自転車が相手の車にぶつかった、(c)自分が間違っただviceをしたせいで、相手が講師に叱られた、(d)自分も頑張っていたが、他人のせいで仕事がうまくいかなかった、という4つの状況である。それぞれの状況は被害の大小によって分けられており、さらに、相手との親疎関係もこの設定条件の一つであるとされている。

⁶ 6つの弁明の方略とは、①謝罪、②言い訳・説明、③正当化-1、④正当化-2(責任の軽減)、⑤拒否、⑥弁明しない、というものである。

が、動機付けによる違いは見られないということもわかった。このaccountの選択の違いは、集団主義文化である日本は、人間関係の維持などが重視されているのに対して、個人主義文化であるアメリカは、個人や自律性が強調されるため、日米の文化的価値の違いを反映していると結論づけている。

しかしながら、文化的価値が大きく異なる日本人とアメリカ人の動機付けの結果が同じ傾向になっているという点に疑問が残る。つまり、個人主義であるアメリカ人が、なぜ自分のイメージの改善よりも、相手の怒りを緩和することのほうを重視しているのかという疑問にたいする説明がなされていない。

前田(1989)は、報道されたインタビューシーンや、新聞記事などを事例として分析し、言い訳のメカニズムとして、言い訳の機能を解明することと、説得性がどのように関わるかを分析した。まず、人々が何のために言い訳をするのかという点については、人々の社会的秩序への指向性を措定し、相互作用秩序を維持する目的として用いるという相互作用構成機能と、自我を心的安定させようとする目的としての自我防衛機能、という2つの機能があるとしている。また、言い訳と説得性との関係は、行為の重大性、話し手と聞き手との関係(地位、心的な負い目、負債関係)など様々な要因が絡んでくるという。さらに、この研究では、行為者が使用した戦略としての言い訳が行為者の意図通りに機能するかを明確にするために、(A)行為者は自ら発したその言い訳が、高い解明力を持つか(A+)、あるいは低い解明力を持つか(A-)、(B)行為者の発したその言い訳が、確かに解明力を持っていると、この相手(受容者)は考えるか(B+)、あるいは、解明力を持っていないと考えるか(B-)、(C)実際に言い訳を発した後、結果的に受容者によってその言い訳が、解明力があると認知されたか(C+)、あるいは解明力がないと認知されたか(C-)という言い訳の3つの位相(前田,1989:108)を設定している。最後に、前田は言い訳と謝罪という言語行動の違いについて、次のように述べている。謝罪も言い訳も好ましくない行為の遂行に起因するうしろめたさを行動の基本要因として、それを当該する目標に向かって駆動させる、その処理の仕方の相違によって区別される。つまり、言い訳はそれを克服する形で採用される戦略であるのに対して、謝罪はそのうしろめたさを直接的に宣言することによって、ある種の破局をみずから招き、そこから自分の新たな心的安定を求めようとする戦略であるという(pp.109)。

Shimada (2003, 2006)は、accountの選択使用に影響を与える要因について報告している。Shimada(2003)はアンケート調査を用い、日本語母語話者の学生を対象に4つの場面⁷のそれぞれ

⁷ 4つの場面は下記の通りである。

①重い過失*をひどく非難された、②重い過失を軽く非難された、
③軽い過失**をひどく非難された、④軽い過失を軽く非難された

れに上記の 4 種類のaccountを選択させ、非難度・過失のレベル・性という要因が弁明の方略にどのように影響を与えるかを調べている。性の要因による違いとして、女性はよく「容認」を使用するのに対して、男性はよく「正当化」と「拒否」を使用するという。また、過失のレベルによる違いとして、過失が重いと、拒否が使われ、相手からの非難がひどい場合、言い訳・弁明が使用される傾向があると結論付けている。

一方 Shimada (2006) では、DCT (談話完成テスト) を用い、大学生を対象に、自尊感情 (self-esteem) ・非難度・過失のレベル・account 動機⁸が、account のコミュニケーション過程に与える影響について調べたものであり、①自尊感情の高い人は、それを守るために正当化などのような自己防衛的なaccountを使う傾向がある、②過失のレベルと非難度がaccountの選択使用に影響を与える、③非難度は基本的に過失と相対的な関係にあるという。②の具体的な例として、過失が重いと、容認・言い訳などがよく使用され、軽い過失の場面で軽く非難されれば、それに対して容認、言い訳・弁明が使用されるが、過失が軽いにもかかわらず、ひどく非難されると、行為者が正当化や、拒否を使用するなどという結果が出ているという。

Shimada のこの二つの研究で結果が異なるのは、調査方法の違いによると考えられる。用意された答えから選択させるというアンケート調査方法は、大量のデータを収集するという利点はあるが、その答えは現実のものとは異なる可能性がある。それに対して、DCT は、特に答えを与えず、状況だけを説明し、被験者がその人物の立場に立ってどう反応するかを自由に書かせるため、アンケートに比べると現実に近い結果が得られると考えられる。したがって、どのような調査方法を取るかによって、得られる結果に違いが出る可能性を示唆しており、この点を考慮に入れて結果を理解する必要があると言えるだろう。

ソーピットウツィウオン (2010) は、遅刻場面において日本語母語話者とタイ語母語話者がどのような言い訳をするかを研究したものである。研究方法としては、①「遅刻」に対してどのような認識の違いがあるかについてアンケート調査を行い、次に②実際に遅刻したとき、日タイの母語話者が取る行動がどのように異なるかについて、ロールプレイの手法を用いて調査した。①のアンケート調査では、「遅刻」に対する認識にはそれほど違いはないが、日本語母語話者は目上に対しては親・疎に関係なく、目上であることを考慮するが、タイ語母語話者は親しい目上の人を同等関係の人と同様に考えるようであり、目上の人に対する認識は多少異なることがわかった。②のロールプレイ調査では、日・タイの母語話者の間に顕著な違いが見られた。日本語母語話者は遅刻したとき、すぐ

*友人の車を電信柱にぶつけてフェンダーの部分に穴をあけた。

**友人のデジタルカメラを落としたので、傷を付けた。

⁸ account 動機とは、行為者がどういう目的で言い訳をするかということである。つまり、相手の怒りの気持ちを和らげるために「容認」、また、自分のイメージを守るために「言い訳」を使うことである。

謝り、自分に非があってもそれを正直に言う。また、相手も【言い訳】によって遅刻者が失ったフェイスを取り戻すために、【受け入れ】や【理解】などを表明することが多い。それに対して、タイ語母語話者は、自分が遅刻したことより、待っていた相手に気を配ることの方が大事だと考え、【謝罪】よりも【気配り】を第一発話として用いる。また、自分のフェイスを脅かさないよう徹底的に遅刻の原因を説明、あるいは失った自分のイメージの改善に努めるため、あまり【謝罪】を使用しないという。

ソーピットウッティウオン(2010)は他の言い訳の研究と異なり、ロールプレイを使用し、より実際の会話に近いデータが得られている。しかし、分析対象の状況は遅刻の場面のみで限定的である。また、親疎関係の要因が設定されているものの、その要因による違いには言及されていない。

2.3 謝罪ストラテジーとして言い訳を言及する研究

「言い訳」は、謝罪ストラテジーの一つとして取り上げられることがある。謝罪ストラテジーの研究は、2.3.1「日本語の謝罪研究」、2.3.2「日本語と他の言語との謝罪の対照研究」、そして、2.3.3「日タイの謝罪の対照研究」の3つに分けられる。

2.3.1 日本語の謝罪の研究

粕川正光・藤崎哲郎・王晋民(2010)は、トラブル場面で問題解決するために弁明をする⁹方略の一つとして謝罪を取り上げている。この研究は単に「すみません」、「ごめんなさい」などの定型表現を研究するのではなく、先行研究であるMcLaughlin, Cody & Rosenstein(1983)と、McLaughlin, Cody & O'Hare(1983)がMitigating accountと呼ぶ発話を中心に、謝罪内容を8項目に分けて、日本語母語話者の友人間の謝罪場面における謝罪内容の重要性の認識の違いについて研究している。調査は千葉県のある大学に通う124名の男女の学生を対象に、設定された各トラブルの場面における謝罪の重要性を評定させたものである。質問は、被害の大小、責任の大小によって場面が設定され、同一場面で回答者に加害者と被害者の両方を想定させた。その結果、責任と被害が大きい場合は、謝罪やしたことを悔いることを述べる重要性は低く認識されている。なぜなら、このようなときに謝罪を述べるという行動は、罰の回避や軽減が目的だと認知されているため、友人関係などの親密性の高い人間関係に悪い印象を与える恐れがあり、謝罪行動を控えようとする傾向があるからだという。

粕川正光・藤崎哲郎・王晋民の研究は、日本人被験者が被害や責任の大きさの異なる各状況での謝罪の重要性についてどのような認識をしているのかを把握するのに適している。この研究で

⁹ 粕川正光・藤崎哲郎・王晋民(2010)では、「弁明」という用語が使用されている。

は、謝罪内容を、責任を認める、事情を説明する、相手を心配するなどの、8項目に分けて分析している。その結果として、謝意を述べる、および、したことを悔いるという言語的な謝罪は、責任の大小と被害の大小の相互作用に有意傾向が見られたという。すなわち、責任も大きく、被害も大きい場合は謝意を述べる重要性が低い。一方、責任が小さく、被害が大きい場合はしたことを悔いる表明が高く評価されるが、責任が大きい場合は、単に後悔するよりも直接働きかけをすることがより重要となるため、したことを悔いる表明が低く評価されたという。しかし、残りの6項目の謝罪内容の使用に関しては、罰の回避や攻撃的感情の軽減という目的につながり、かえって被害者にネガティブな効果を与えるということが考えられるため、結果にあまり影響を与えなかったということである。

2.3.2 日本語と他の言語との謝罪の対照研究

続いて紹介する研究は、謝罪を中心とした研究であるため、純粋な言い訳の研究ではないが、謝罪ストラテジーの一つとして、「説明・弁明」に言及されているという意味で、言い訳と関連があるものとして扱う。

熊取谷(1993)は、危害が生起する状況において、英語及び日本語での修復作業のために用いられた方略の一つとして、不快状況が生じた理由・状況の説明が用いられると述べている。池田(1993)は「説明・弁明」をよく使うアメリカ人に対して、日本人は、あまり言い訳をせず、ただ「すみません」「ごめんなさい」などの「謝罪表明」だけを使用するという。また、平賀(1996)も、日本人はよく「直接的な発話行為」(「申し訳ありません」、「すみません」などの決まり文句)を用いると述べ、さらに謝罪のことばの他に、「相手への気配り」の使用も見られたと述べている。平賀は、ソト集団に対してよく使われる「責任の所在」の説明を好まない傾向は、本音・建前社会の日本を反映していると指摘している。最後に、近藤(2002)も、上記の先行研究と同様の結果で、日本人はアメリカ人より謝罪のことばを多く使っているという。近藤によると、謝罪の言葉は相手への「負」(=傷)を認識することばであり、謝罪することによって、相手の気持ちも癒され、自分の心もすっきりするわけなので、日本人はあまり言い訳を使わず、謝罪の言葉だけを用いると説明している。

2.3.3 日タイの謝罪の対照研究

日本語とタイ語の謝罪の対照研究には、堀江(1993)、Fuangkajonsak(2005)等がある。

堀江(1993)は、日本に滞在している86人のタイ人留学生を対象に、謝罪のことばについての意識調査を行い、日本語とタイ語の謝罪のことばの使い方には、1)「あいさつことば」¹⁰としての使い

¹⁰ 堀江の言う「あいさつことば」とは「呼びかけ」のことである。

方、2)「謝罪と同時に感謝」の使い方、3)「相手に悪いことをしたと罪を認める」使い方、4)「社会的エチケット」としての使い方の4つの使い方においてずれがあるという。たとえば、3)の一例として、日本語では遅刻をして「相手に悪いことをしたと罪を認める」際に謝罪のことばを使用するが、「タイ人はたとえ三十分遅刻したとしても、(khoo)thood(=すみません/ごめんなさい)を使う人は少ない。多くの場合、『道がひどい渋滞でたいへんだった』と遅刻の理由を説明したり、あるいは、遅刻については一切触れなかったり、あるいは、相手が長く待っていたかたずねたりする」(堀江 1993:24)と述べている。

さらに、日本人が使う謝罪のうち、その罪を話し手が犯したのか否か、またそのことによって利益を得たかどうかなど、タイ語では考慮されない謝罪の要因が多く、そのようなことが関わる場面ではよく誤解が生じていると考察している(堀江 1993:27)。

Fuangkajonsak (2005) は、①日本語が分からないタイ語母語話者と、日本に滞在している日本語母語話者の50人ずつを対象にしたDCTと②日本とタイのドラマ各5本の二種類を用いて「罪の重さ」、「相手の地位」、「親疎関係」の3つの社会的条件を設定し、日・タイの謝罪の対照研究を行っている。謝罪戦略の使用については、下記のように4タイプに分類している。

- 1) 直接的謝罪(「すみません」「ごめんなさい」などの定型表現)
- 2) 容認(「その罪の言及」、「許し求め」、「後悔の表明」など)
- 3) 相手を満足させる(「思いやり」、「改善の約束」、「補償申し出」など)
- 4) 説明(「弁明・言い訳」、「故意なしの表明」など)

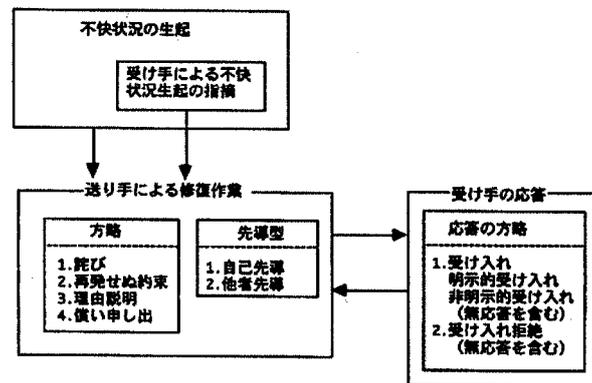
Fuangkajonsak は、謝罪の戦略について、タイ語母語話者がよく「説明」を使うのに対して、日本語母語話者はあまり使用を好まず、逆に「直接的謝罪」のほうが圧倒的に多いということを指摘している。そして、日本語とタイ語は共に、「過失の重さ」、「相手の地位」、「親疎関係」という条件が、謝罪戦略の使用に影響を与えたことも指摘している。すなわち、過失の重さという要因から見ると、過失の重さにかかわらず選択される戦略は、日本語とタイ語共に「直接的謝罪」が最も多く、次に多く用いられる戦略は過失のレベルによって異なる。過失のレベルが低い場合は「容認」、過失のレベルが大きい場合は「相手を満足させる」を用いる。相手の地位という要因から見ると、これも日本語とタイ語ともに「直接的謝罪」の戦略が最も多く使用されているが、次に多く用いられる戦略は、日本語は「容認」、タイ語は「容認」と「相手を満足させる」である。親疎関係の要因から見ると、「直接的謝罪」が日本語でもタイ語でも最も使用されたが、次に多く用いられる戦略は、親しい相手ならば日本語では「容認」、タイ語では「相手を満足させる」が使用されているという結果が述べられている。

しかし、上記の社会条件が謝罪の使用に影響を与えると述べられたにもかかわらず、なぜそのような違いが表れたかについては言及されていない。

2.4 修復作業に対する応答の先行研究

本節では、問題が起こった際にどのようにそれを修復し、解決するかに関する研究を取り上げる。

熊取谷(1993)は、発話行為の対照研究のより包括的で統合的なアプローチの有効性を主張し、「詫び」の日英の対照研究を行っている。この研究の特徴は、修復作業における談話プロセスの基本構造を提示したことである。さらに修復作業に対する受け手の応答の種類を、大きく受け入れと受け入れ拒絶の2つに分けている。



熊取谷 (1993 : 37)

熊取谷は、受け入れについては、後に続く発話行為を次のように分類している。

1. 受け入れ

(1) 明示的な放免

① 不快状況の評価の下方修正

(a) offense の深刻さの軽減

(b) 修復作業の必要性の否定

② 許す旨の表明

(2) 非明示的な放免

2. 拒絶(修復作業が不適切・不十分である旨の表明)¹¹

(熊取谷 1993:35)

¹¹ 修復作業に対する無応答は非明示的な受け入れとして機能し得るのだという。

Bunwittaya(2007)は、149 人の日本語母語話者と 158 人のタイ語母語話者を対象に、DCT 手法を用いて、過失の程度、被謝罪者の社会的な立場、相手との親密関係という 3 つの社会的条件がどのように謝罪に対する応答に影響を与えるかについて、日本語とタイ語を対照した研究である。Bunwittaya は、日本語にもタイ語にもポジティブな応答、モデレイト的な応答、ネガティブな応答という 3 つの戦略の使用が見られ、特にタイ語母語話者は、注意や責任要求などのようなネガティブな応答を用いる可能性が高いと述べている。また、謝罪への応答パターンに関して、日本語母語話者は「ごめん①、今日用事あったの?②」のように、①謝罪への応答と②気遣いを、共に使用するという、ポジティブな応答が含まれるパターンを多く使用しているのに対して、タイ語母語話者は「ทำผิดไปไหนเนี่ย (どうしてたのよ) ① ช้อมมาคืนด้วย (弁償してくれ) ②」のように、質問形の非難の①と、弁償要求の②を一緒に使用するようなネガティブな応答が含まれるパターンを多く使用しているという結果であった。最後に、日本語とタイ語に共通する結果として、過失の程度と、被謝罪者の社会的な立場という要因は、謝罪の応答の選択に影響を与えているが、相手との関係という要因はあまり影響を与えていないようであるという。換言すれば、過失が重くなると、日本語母語話者は相手のフェイスを脅かすようなネガティブな応答戦略を使用する傾向があり、相手が社会的に高い立場にいと、ポジティブな応答が含まれるパターンをよく用いるが、タイ語母語話者は日本語母語話者と同じく、相手が社会的に高い立場にいと、モデレイトな応答や、ポジティブな応答が含まれるパターンをよく用いる。また、過失が軽いと、相手のフェイスを脅かすようなネガティブな応答戦略を使用する傾向があり、過失が重くなると、相手のフェイスを脅かす程度の少ないポジティブな応答戦略を使用し、さらに、ポジティブな応答が含まれるパターンの使用も増加する傾向があるということである。

上記の研究結果のように、修復作業の段階でタイ語母語話者はしばしばネガティブな反応を使うため、タイ語のネガティブな反応という言語行動を中心とした研究が他にも多数ある。以下、タイ語におけるネガティブな反応に関する言語行動の研究として Panpothong (1996)、Sukwisith (2004)、Pongsuriya (2006)、Jaisue (2006)を紹介したい。

Panpothong (1996)は、小説の台詞部分やテレビドラマの会話、タイ語母語話者に対するインタビュー、及びタイ語母語話者同士の会話の観察を用い、タイ語における語用論的な反語の性質と、コミュニケーション上の機能を明らかにしようとした研究である。結果として、タイ語母語話者の反語の使用として、①前半と後半が反対の意味を持つ言葉の使用、②起こり得ない事の表現、③大きさに言うこと、④相手の立場に対する不適切な言葉遣いの使用、⑤ある言葉の音調をわざと高くすること、という 5 つの戦略をあげている。また、これらの反語の現れ方として、①Directive

irony ②Expressive irony ③Commissive irony という3つの形式があると述べ、この反語の機能は、自分の滑稽さから笑いを取る効果があるという。

Sukwisith (2004)は、男女の作者による小説を各3篇選び、それぞれの作者とその小説について話し合う会話を分析し、タイ語における叱責という発話行為を研究している。その結果、タイ語における叱責は、①直接的に叱責する(汚い言葉で叱ったり、あるいはマイナスの意味のある言葉で叱ったりすることなど)、②間接的に叱責する(皮肉、相手を非難するための比喻、婉曲表現、叱責の対象と関連がある第三者への八つ当たりなど)、③支持方略(マイナスの気持ちを表すために感嘆句を使用することなど)という3つの方略が用いられていることが確認された。また、データに現れた叱責の言葉から、年配の人に敬意を払わなかったり、人の悪口を言ったりするような行為はタイ社会では認められないことが分かったという。そして、叱責された側には、相手(叱責した側)から敬意を払われなかったり、社会に認められなかったり、あるいはあるグループから外されたりするようなネガティブな効果が与えられるようである。また、男女差による結果も指摘されている。男性が男性を叱責する場合は、汚い言葉で自分の思うままに言うのに対して、女性を叱責する場合は皮肉を使ったり、汚い言葉で叱責したりする傾向がある。一方、女性は相手が男性でも女性でも同様に、汚い言葉を使ったり、皮肉を使ったり、または比喻を使ったりする叱り方であったということである。

Pengsuriya (2006)は、タイ語の4篇の小説の台詞部分に注目し、タイ語母語話者の非難するときの行動(言語形式と方法)がどのように非難のストラテジーや過失レベルと関係するかを明らかにしようとした研究である。20-60歳までの60人を対象に、非難のストラテジーと過失のレベルの関係を明確にするために小説のデータを基にし、アンケートを作成してDCT調査を行って、小説のデータに現れた非難の言語形式、非難の方法、非難の性質を明らかにした。その結果、相手を非難する場合は、肯定の形式の使用が最も多く、また、そのとき、相手のフェイスを守ったり、他人に品がない、あるいは礼儀正しくない人間だと思われたくないがゆえに、間接的な非難をよく使ったりすることが観察された。また、非難する方法に関しては Off record¹²の方法が最も使用されているという。さらにはポライトネス理論を基に分析されたアンケート調査の結果から、選択される非難のストラテジーは過失レベルに影響されず、相手との距離が遠ければ、過失のレベルの高低にかかわらず、Positive Politenessのストラテジーが使われ、次いで間接的なストラテジーが使用されているが、直接的な非難は最も使用が少ないと述べている。このPengsuriyaの研究は、タイ語を対象とする他の先行研究と同様の結果を示している。すなわち、タイ語母語話者は友達作りが好きだったり、仲間

¹² off recordとは、ブラウン&レビンソン(1987)が提唱したポライトネスのストラテジーの1つであり、ほのめかしたり、曖昧に述べたりするなど、フェイス侵害行為を明示しないことである。この研究で挙げられた例としての、「เงินหกพันสี่สิบล้านบาท (6千は一晩で使いきれちゃうよ)」は、相手がくれたお金が少なすぎることを暗に非難しているものである。

を大事にしたり、また、社会に認められることを好む性格があるため、Positive Politenessがよく用いられるということである。ただし、若い世代(20-29代)はあまり深く考えずに、自分が思うままに言う傾向があるという興味深い結果も指摘されている。

Jaisue (2006)は、タイ全国の男女の大学生、及び短大の学生の150人にDCTを行い、タイ語における発話行為としての不満表明のストラテジーと、相手との関係による不満表明の違いを明らかにしようとした研究である。DCTの状況設定については、先行研究とタイ語母語話者への面接調査に基づき、「借りた友達のノートをなくした状況」、「ラジオの音を大きくした状況」、など8つの不快な場面を設定し、さらに親友同士と、単に友達同士というように、相手との関係を親・疎によって分けている。その結果、タイ語母語話者は、何らかの状況に対して不快を感じたとき、何もしないよりは、言語的な行動を使って相手に不満を表明する傾向があること、また、不満表明の方略として、①直接的に不満を表明する、②間接的に不満を表明する、③支持方略、という3つの方略の使用が見られ、間接的に不満を表明する方略が最も使用されることが明らかにされている。Jaisueは、このような結果はタイ語母語話者の「グレンチャイ」(=遠慮)という対人配慮の価値観に影響を受けていると考えられると述べている。一方、被害の程度による結果として、被害が大きければ大きいほど、不満を表す表現がより多く使用されること、また、相手との親疎関係は相手に対して不満を表明するかどうかに影響を与えないが、不満表明の方略を選択するのに影響を及ぼし、親友の相手には直接的に不満を表明する方略を使う上に、汚い言葉などと一緒に使用する傾向があるという結果も指摘されている。

以上がタイ語におけるネガティブな言語行動の先行研究である。これらの研究(Sukwisith, 2004、Pengsuriya, 2006、Jaisue, 2006)は、タイ語母語話者が相手にネガティブな反応をするとき、間接的な方法をよく使うという点で一致している。この結果から、ネガティブな反応もタイ語母語話者の反応の特徴の一つだと断言できるだろう。しかし、先行研究で使用されているデータは、小説の台詞、テレビドラマ、アンケートによるDCT調査なので、いずれも自然さに欠けていることは否めない。また、特に、ドラマの場合、このようなネガティブな行動を大げさに見せる場合が多いため、実際にタイ語母語話者がそのような言い方をするかは疑問である。また、相手に対してネガティブな行動を取るとき、必ずしも言語的な行動だけをとるわけではない。沈黙などでも自分の不快を表すことができ、さらに音調など様々な要因も関わって来るので、文字によるデータだけではこれらの点を充分考慮した分析ができない可能性があると思われる。

2.5 親疎関係に言及する先行研究

本節で挙げる親疎関係の研究とは、言い訳の研究、謝罪の研究、および修復作業に対する応答の研究以外で、親疎関係に言及する言語行動の研究を指す。

Rungruanganant (2001)は、タイの大学生である男子 101 人、女子 139 人に、今まで自分を怒らせたことがある人(怒らせた場面)、または自分を悲しませたことがある人(悲しませた場面)を思い出させ、Transgression-Related Interpersonal Motivations Inventory (TRIM)式の解答用紙に評定させたものである。この調査により、親密な対人関係と被害の程度への認識がどのように友達同士の許しに影響を与えるかを明らかにしている。その結果、①怒らされた場面も悲しまされた場面も親密度の高い対人関係のほうが親密度の低い対人関係より許しやすい、②怒らされた場面も悲しまされた場面も、被害程度が軽いと認識された場面のほうが被害程度が重いと認識された場面より許しやすい、③悲しまされた場面のほうが怒らせた場面より許しやすいということが明らかになった。

特に、親密な対人関係における「許し」について、Rungruanganant は次のように述べている。親密度の高い対人関係にある友達のミスで不愉快を与えられた場合は、その被害の内容がどの程度であれ、その人との対人関係を維持したいのであれば、不愉快な気持ちを見捨て、あるいは被害を良いように解釈し、阻害された関係を取り戻そうとするため、より許しやすくなるのではないかと。しかし、この研究は男女の被調査者からデータを収集したにもかかわらず、男女による違いがあるかどうかは述べられていない上、「許し」は謝罪などの要因とも関わる可能性が高いと思われるが、その点は分析されていない。

シンハウォーラサップ(2007)は、日本語母語話者とタイ語母語話者各 8 組を対象に、ロールプレイとフォローアップインタビューを用い、依頼場面における感謝の発話の使用について日本語とタイ語を対照している。依頼場面の設定は、①依頼を承諾してもらったとき、②依頼を遂行してもらったときという 2 場面に分け、さらに相手との人間関係を「上・同等・下」の 3 種類、依頼内容の負担度を「軽・重」の 2 種類に分けている。ただし、相手との親疎関係は親しい関係のみに設定されている。その結果として、場面①依頼を承諾してもらったときは、日本語母語話者は同等の相手と目下の相手に感謝表現を使用しているが、タイ語母語話者は目上の相手と目下の相手に感謝表現を使用しているという違いが見られた。親友同士の場合、相手のために何かをしてあげることが当然だと思われるため、依頼を承諾してもらった時点では、タイ語母語話者は感謝を言うことが重要ではないとみなしている点が、日本語母語話者とは異なる。また、場面②依頼を遂行してもらったときは、日本・タイの両母語話者は、依頼内容の負担度の大小を問わず、感謝の表明が見られ、「ありがとう」のような定型表現がどの相手に対しても最も使用されたが、「あんた、最高だわ」のような定型表現

以外のストラテジーは親しい目上の相手には見られなかったと述べている。また、この研究は親しい関係についての他の調査結果にも言及している。例えば、タイ語母語話者の特徴の一つとして、冗談の使用が観察されたなどである。しかし、親しい関係といっても、相手が先生、後輩、友達などでは、それぞれ距離が違うのではないかと思われる。また、目上の相手に依頼を承諾してもらったとき、日本語母語話者が感謝表現を使用しないのは、相手がまだそれを実行していないからで、代わりに「よろしくお願いします」のような相手に敬意を表す定型表現が使われているが、タイ語にはこのような感謝に替わる表現がないため、当然感謝の表現を使用しなければならないのではないかと考えられるだろう。

最後に、Ploykhao (2008)は、インターネットのある掲示板に見られたインターネットプロバイダーサービス提供に対する200メッセージの文句を分析対象とし、タイ語母語話者の掲示板における不満の表明について研究している。掲示板での人間関係は直接的な人間関係ではないが、文句の標的となった相手は一応「疎」の相手と見なすことができるだろう。その結果、タイ語母語話者は絵などで文句を表明することもあるが、主に言語で不満を表明することが多かった。また、観察された不満表明の方法は、対象となったインターネットのプロバイダーの会社に対し直接的に不満を表明する方法のみである。その中で、不満な気持ちの表明、脅かし、叱り、罵りなどの10パターンが使用された。このように、掲示板への書き込みは、投稿者が特定されないこともあり、よりストレートに感情が表せるのではないかとPloykhaoは述べている。また、この研究の結果から、タイ社会の特徴であるとされている「グレンチャイ」(=遠慮)と「対人関係」という文化的な背景とは逆の事柄が指摘されている。すなわち、タイ社会では、「グレンチャイ」という概念が大切にされており、たとえ不満を感じても、タイ人は直接的にその不満の気持ちを表さないようにしているため、それが相手との論争を防ぎ、また自己評価を下げさせない効果があるのであるが、それは今後も付き合いがある相手や、今対面している相手に対してのみ適応する概念であるというのが、一般的な認識である。ところが、インターネット掲示板の書き込みのような状況では、このような文化的な背景が無視され、相手に配慮せず、直接的に自分の不満・文句を表明できると、Ploykhaoは結論付けている。

このPloykhaoの指摘については、このように相手に配慮せず、直接的に自分の不満を表明するという行動は、被害の程度、そのときの感情、性別など様々な要因と深く関わってくると思われるため、自分が誰であるか特定できない場面において、タイ語母語話者がストレートに物事が言えるという結論を出すには論拠が不十分であると思われる。また、インターネットへの書き込みが可能なのは限られた人々、特に若い世代やインターネット環境が整備されている都会に居住する者が中心になるため、タイ人がそのような言語行動を取ると一般化して論じるのは不適切であると言えよう。

2.6 先行研究の問題点と課題

以上、本研究と関連する先行研究について見てきた。これらの先行研究から、次のような問題点が挙げられる。

- ①これまでの言い訳についての研究は、社会心理学の観点からの研究が中心で、言い訳の方法、言い訳と非難の度合いや自尊感情のレベル、性別などの他の要因との関わりの影響を探るものがほとんどであり、言語行動としての言い訳の研究は未だ少数である。
- ②先行研究のほとんどは、ドラマの録画、アンケート、DCT を資料としている。大量のデータ収集には、アンケートや、DCT の方法は有効だが、実際の言語使用をそのまま反映した結果を得ることは難しい。また、アンケートやDCTにおける質問項目や状況設定が詳しく説明されていない研究も見られる。
- ③「言い訳をする」という行動に焦点を当て、談話分析の観点から研究したものは、管見の限りゾーピットウツティウォン(2010)しかないが、研究対象となった状況は遅刻場面だけに止まっている。

以上のような問題点から、本稿では、より自然な会話に近い結果が得られるロールプレイの手法を採用し、日本語母語話者とタイ語母語話者を対象に、日常的に起こりうる遅刻や、物を損傷した場合など、過失の場面における過失の原因の説明(=言い訳)に焦点を当てて研究していく。

第3章

予備調査

本研究は、日本語母語話者あるいはタイ語母語話者による過失が起こった状況における「言い訳」に関して、相手との親疎関係や、過失内容の重さという条件が「言い訳をする」言語行動にどのように関わるかを調べることを目的としている。そこで、本章では、本調査を行う前に行った予備調査の概要をまとめ、本調査において留意すべき点を述べる。

3.1 予備調査の概要

3.1.1 予備調査の実施日・調査協力者

2010年6月から7月にかけて、大阪に在住しているJP 2組と、TH 2組、合計4組(8名)を対象に予備調査を実施した。調査は、関西地域にあるA大学の20代の大学・大学院の女子学生に協力を得た。この予備調査は、本調査のロールプレイの設定の適切さを確認するために行うものであり、JPとTHそれぞれの専門分野などの学歴に関する条件は、適切さに影響しないと考え、特に限定していない。

3.1.2 データの収集方法

予備調査では、ロールプレイの手法を使い、ICレコーダーで録音して、データを収集した。ロールプレイは、本調査と同様の設定条件¹³で、以下の16場面を設定した。

¹³ 設定条件に関しては、第4章を参照されたい。

表 3-(1) 予備調査のロールプレイ設定条件とその具体的な状況

ロールプレイ設定条件			場面	具体的なロールプレイ場面	
直接	時間	軽	親	1	自分のせいで、買い物の約束に 30 分遅刻した
			疎	2	自分のせいで、買い物の約束に 30 分遅刻した
		重	親	3	自分のせいで、映画を見る約束に 30 分遅刻した
			疎	4	自分のせいで、公演の参加の約束に 30 分遅刻した
	所有物	軽	親	5	相手の本に折り目をつけた
			疎	6	相手のノートに折り目をつけた
		重	親	7	相手のバッグに赤ワインをこぼした
			疎	8	相手のバッグに赤ワインをこぼした
非直接	時間	軽	親	9	交通事情のせいで、買い物の約束に 30 分遅刻した
			疎	10	交通事情のせいで、買い物の約束に 30 分遅刻した
		重	親	11	交通事情のせいで、作家のインタビューの約束に遅刻した
			疎	12	交通事情のせいで、作家のインタビューの約束に遅刻した
	所有物	軽	親	13	いつの間にか相手の本に折り目がついた
			疎	14	いつの間にか相手のノートに折り目がついた
		重	親	15	相手のバッグにワインがこぼれた
			疎	16	相手のバッグにワインがこぼれた

予備調査のロールカードの一例 (p.208 巻末資料 1 を参照)

<場面8:親友のノートに折り目を付けた>

<p>場面 5 加害者</p> <p>立場 大学の 4 年生 (B)</p> <p>相手 1 年生の時からあなたと同じ学部_に在籍し、同じ専攻である親しい友達 (A)</p> <p>場所 教室の前</p> <p>状況 あなたが友達に貸してもらった本に折り目を付けた状況を想像してください。</p> <p>背景 先週あなたは A さんにハリーポッターの本を貸してもらって、週末の間に読んでしまおうと思いました。しかし、読んでいる途中、あなたはつい本に折り目を付けてしまいました。今日その本を返すために持ってきました。ちょうど授業の前で A さんに会いました。その時 A さんに何と言いますか。どうして本がこうようになったかを説明し、会話をして下さい。</p>
<p>場面 5 被害者</p> <p>立場 大学 4 年生 (A)</p> <p>相手 1 年生の時からあなたと同じ学部_に在籍し、同じ専攻である親しい友達 (B)</p> <p>場所 教室の前</p> <p>状況 あなたが親友にものを貸している状況を想像してください。</p> <p>背景 先週、友達 B さんにハリーポッターの本を貸してあげました。今週末 B さんに読んだ感想を聞きたいと思っていたら、ちょうど授業の前に B さんに会いました。その時にあなたは B さんに何と言いますか。B さんと会話をして下さい。</p>

3. 1. 3 分析方法

分析に際しては、録音したロールプレイデータを文字化し、分析資料とした。尚、会話データの文字化については、ザトラウスキー (1993)、西坂・串田・熊谷 (2008) を参考にした。分析では、会話分析の手法を用いて、まず、文字化したデータを、言い訳の談話に入る前の両者の呼びかけや挨拶を〔開始部〕、言い訳会話のやりとりがなされる過程を〔主要部〕、そして次の行動へ移る部分を〔終結部〕に分けた。次に全ての発話がどのような発話機能で用いられているのかを分析し、発話機能のラベルをつけた。本章では、【言い訳】の発話に注目して考察する。

3.2 予備調査の結果

予備調査の目的は、本調査で実施するロールプレイの設定の適切さを確認するためなので、本節では、加害者が使用する言い訳の内容に注目して論じ、調査協力者によって状況設定の理解にばらつきや不統一などがどうかを検討する。3.2.1で被害が直接的に自分の行動によらない場合の言い訳、3.2.2で被害が直接的に自分の行動による場合の言い訳、3.3.3でまとめの順に述べる。

表 3-(2)は予備調査の16 場面で見られた JP と TH の言い訳内容別の結果である。

表 3-(2) 全 16 場面で見られた JP と TH の言い訳内容別

言い訳の使用		JP	TH
場面 1	正直に言う	2	1
	正直に言わない	0	1
言い訳をしない		0	0
場面 2	正直に言う	2	0
	正直に言わない	0	1
言い訳をしない		0	1
場面 3	正直に言う	2	0
	正直に言わない	0	2
言い訳をしない		0	0
場面 4	正直に言う	1	0
	正直に言わない	0	2
言い訳をしない		1	0
場面 5	正直に言う	2	1
	正直に言わない	0	1
言い訳をしない		0	0
場面 6	正直に言う	2	0
	正直に言わない	0	2
言い訳をしない		0	0
場面 7	正直に言う	2	1
	正直に言わない	0	1
言い訳をしない		0	0
場面 8	正直に言う	2	1
	正直に言わない	0	1
言い訳をしない		0	0
場面 9	正直に言う	2	2
	正直に言わない	0	0
言い訳をしない		0	0
場面 10	正直に言う	2	2
	正直に言わない	0	0
言い訳をしない		0	0
場面 11	正直に言う	2	1
	正直に言わない	0	0
言い訳をしない		0	1
場面 12	正直に言う	2	2
	正直に言わない	0	0
言い訳をしない		0	0
場面 13	正直に言う	2	2
	正直に言わない	0	0
言い訳をしない		0	0
場面 14	正直に言う	2	2
	正直に言わない	0	0
言い訳をしない		0	0
場面 15	正直に言う	2	2
	正直に言わない	0	0

	言い訳をしない	0	0
場面16	正直に言う	2	2
	正直に言わない	0	0
	言い訳をしない	0	0
合計		32	32

この結果を見ると、JPとTHの言い訳の使用に違いがみられた。JPは〈場面4〉以外、全調査協力者がその被害の原因を[正直に言う]結果となった。それに対して、THは〈場面9～場面16〉のような被害の原因が自分がない場合、ほとんどがJPと同様で[正直に言う]結果となった。ところが、〈場面1～場面8〉のように原因が自分にある場合、全場面で[正直に言わない]協力者がいる。

以下で、JPとTHが用いた会話例を挙げながら、「被害が直接的に自分の行動によらない場合の言い訳」と「被害が直接的に自分の行動による場合の言い訳」の2つに分け、言い訳の内容を考察する。また、分析の際、さらに言い訳の内容を[正直に言う]と、[正直に言わない]の2つに分けて結果を述べる。

3.2.1 被害が直接的に自分の行動によらない場合の言い訳

被害が直接的に自分の行動によらない状況とは、〈場面9～場面16〉の6場面である。これらの状況においてJPとTHの使用した言い訳内容は一致している。つまり、〈場面9～12 交通事故のせいで待ち合わせ時間に30分遅刻した〉場合は、「電車人身事故でさ、全部タイヤが乱れて」などの【言い訳】が使用されている。一方、〈場面13～16 無意識で相手の所有物に被害が与えられた〉場合は、「なんか表紙のところに折れ目がついて(.)て」などの【言い訳】が使用されている。上記に挙げた【言い訳】は、被害の原因をそのまま言い訳にするものなので、本研究では、[正直に言う]タイプに分類する¹⁴。尚、以下で時間・所有物に被害が与えられた状況をそれぞれの会話例を挙げながら考察する。

3.2.1.1 日本語母語話者の場合

3.2.1で述べたように、その被害が直接的に自分の行動によらない場合、どの相手に対しても、被害の程度にかかわらず、JPは被害の原因をそのまま言う結果であった。以下、交通手段のせいで待ち合わせ時間に遅刻した場面と、いつの間にか相手の所有物に傷が付いた場面について、会話例を挙げながら説明する。

¹⁴ 言い訳の分類に関しては、第4章を参照されたい。

1)[正直に言う]場合

前述したように被害が直接的に自分の行動によらない状況では、今回の日本語のデータでは[正直に言う]会話しか見られなかった。その例が以下の会話である。

会話 JP1<場面1>

主要部		
1	A: B ちゃ:ん,遅:い.	⇒ 【冗談】
2	B: あ>A ちゃん,A ちゃん<ごめ:ん.	⇒ 【謝罪】
3	A: うん. [どう]したん?	⇒ 【受け入れ】【説明要求】
4	B: [あ].	
5	B: あのさ,電車人身事故[でさ].	
6	A: [うわ]::[あ,そうやったんや].	⇒ 【言い訳】
7	B: [で:全部]ダイヤ乱れて.	
8	A: ああ:,そう[なんや:].	⇒ 【理解】
9	B: [そう.]ごめん.でもって,携帯も忘れたから,[連絡できひんかった].	⇒ 【謝罪】【弁明】
11	A: [ああ:].	⇒ 【理解】
12	A: そんで↓か.	
13	B: そう.[ごめんな].	⇒ 【謝罪】
14	A: [そりゃ]仕方なかったな.	⇒ 【受け入れ】【気遣い】
15	B: ごめん.何してた?	⇒ 【謝罪】【情報要求】

会話 JP 2<場面 13>

主要部		
1	B: かばん(.)から出したときに,	
2	A: うん.	⇒ 【結果の言及】
3	B: なんか表紙のどこに折れ目がついて(.)[て].	
4	A: [あ,そうなん?][全然].	⇒ 【理解】【気遣い】
5	B: [あ,たぶん,]	⇒ 【言い訳】
6	B: 私をやっちゃってん.[***ごめん].	⇒ 【謝罪】
7	A: [¥いいよ.そんな¥気にせへんし].	⇒ 【気遣い】
8	B: あ,本当に?	⇒ 【確認要求】
9	A: うんうんうん.	⇒ 【確認】
10	B: もうありがとー.	⇒ 【感謝】
11	A: うんうん.[全然大丈夫].	⇒ 【受け入れ】【気遣い】
12	B: [助かった,めっちゃ].	⇒ 【安堵】

上記の日本語の会話は、会話 JP1 が<場面1 交通事情のせいで親友との約束に 30 分遅刻した>状況であり、会話 JP2 が<場面13 いつの間にか親友の本に傷が付いた>状況である。会話 JP1 では、遅刻者が 5B-7B で「あのさ,電車人身事故でさ_で:全部ダイヤ乱れて。」と【言い訳】を言い、そして会話 JP2 では、加害者が 5B-6B で「あ,たぶん,私をやっちゃってん。」と【言い訳】を言っている。このように会話 JP1 も会話 JP2 も、使用されている言い訳の内容は、被害の原因をそのまま言っているもので、[正直に言う]タイプに分類した。

2)[正直に言わない]場合

データなし。

次にタイ語の会話を見ていく。

3. 2. 1. 2 タイ語母語話者の場合

被害が直接的に自分の行動によらない場合、JP と同様でどの相手に対しても、また被害の程度の軽重を問わず、TH の協力者はその被害の原因をそのまま言う結果であった。

1)[正直に言う]場合

TH の[正直に言う]会話は以下の通りである。

会話 TH1 < 場面 1 >

主要部		
1	A: ↑ un ↑ ไป ↑ โทนมภาวะ. ¥ขึ้นรอ[.hh] un ตั้งครึ่งชั่วโมง[ແລ້ວนะ¥]. A: ↑ 君 ↑ ど ↑ へ行ってきたの. ¥あたし[hh] 君を 30 分も待ってたん[だよ¥].	⇒ 【文句】
2	B: [เฮีย.hhh] [hhขอโทษที:]แบบว่าพอดีเนี่ย B: [あっ.hhh] [hh ごめ:ん]あの BTS が	} 【謝罪】 【言い訳】 【結果の言及】【悪気なしの表明】
3	B: รถไฟฟ้ามันเนี่ยมันขัดข้องเนี่ย, ไม่รู้มันเป็นไร. เอมมาสายเลย. ไม่ตั้งใจมาสายเนี่ย. B: トラブっちゃって, 何があったのかよく分かんないけど, それで B: 遅れちゃった. でもわざとじゃなかったよ.	
4	A: [มีวะ[.hhh] うそじゃん.hhh	
5	B: [เฮีย]โทษที.=เฮีย:::เคี้ยวถามที่รถไฟฟ้าเลยเนี่ย. มันมันมัน(.)มันเนี่ยจริงๆ. B: [いや, ごめん.=じゃ:::BTS に聞いてみてよ, そ-そ-それ(.)]	⇒ 【謝罪】【主張】
6	B: มันแบบว่ามาสายเราก็เลยสายด้วยเลย. ไม่ตั้งใจ, โทษที[นะ:::]. B: それが本当だって, それが遅れたから, 私も遅刻になったんだ. B: わざとじゃないよ, ごめん[ね:::].	⇒ 【言い訳の言い直し】 【悪気なしの表明】【謝罪】
7	A: [ฮะ?] [うん?] [うん.]	
8	B: จ้า. はい.	⇒ 【理解】

会話 TH2 < 場面 13 >

主要部		
1	B: เอมนึกคือเนี่ย B: あ君、実は:	} 【前置き】
2	A: คือ? ัน?	
3	B: ใต้ก่อนที่เรา-สมุดที่เราอืมยกไปอะ, B: 前-君が貸してくれたノートだけど,	} 【思い出し】
4	A: เอ้อ. ู้ん.	
5	B: เอม. เราเพิ่งเห็นเว้ย. ว่าแบบก่อนที่เราจะจดอะ, เราเห็นว่ามันมีรอยยับเว้ยนกก.	
6	B: เราไม่รู้ว่ามันแบบ[คือมันยับ]มาก่อนปะ(.)หรือว่าไง B: 気づいたばかりだけど, なんか書く移す前に, ノートにしわが付いてるのを B: 見つけたの. でも, それは[前からあった]かどうかが(.)わかんない.	⇒ 【結果の言及】 【言い訳】
7	A: [อ้าวหรือ?] そうなの?	
8	B: เอมไม่รู้เหมือนกันว่าจะไม่ได้สังเกตอะ B: 私も見えてないので, よく分からない.	⇒ 【情報提供】
9	B: เอม, เราก็ไม่แน่ใจว่าเพราะเราหรือเปล่าอะ. แทนต้นแบบ(.)ยังไงก็ขอโทษ[นะนกก.] B: ूंん, 自分のせいかもしれない. まあ(.)とりあえずごめんなさい[ね.]	

10	B:	คือมันอาจจะเป็นเพราะว่าเราไปยึดใส่ในกระเป๋านั่นอะไรก็ได้อะ, อิม. ขอโทษนะ	⇒	【謝罪】【再言い訳】
	B:	もしかしたらかばんに詰め込んだからかも, うん. ごめんなさい.		
11	A:	[เสียงไม่เป็นไรจ] ใ้ใ้ใ้ใ้ใ้ใ้ใ้		
12	A:	ไม่เป็นไรจจ.	⇒	【許し】
	A:	全然全然..		
13	B:	อิม(うん)		

上記のタイ語の会話は、会話 TH1 は、＜場面1 交通機関のせいで友人との約束に 30 分遅刻した＞状況であり、会話 TH2 は、＜場面13 いつの間にか友人の本に折り目が付いた＞状況である。会話 TH1 では、遅刻者が 2B で「.hhขอโทษที:แบบว่าพอดีนี่ย รถไฟฟ้ามันเนี่ยมันขัดข้องเนี่ย,ไม่รู้มันเป็นไร.เลยมาสายเลย.ไม่ตั้งใจมาสายนะเนี่ย.(あの BTS がトラブルっちゃって,何があったのかよくわかんないけど.それで遅れちゃった.わざとじゃなかったよ.)」と【言い訳】を言い、会話 TH2 では、加害者が 6B の後半で「เราไม่รู้ว่แบบคือมันยับมาก่อนปะ(.)หรือทำไม(でも、それは前からあったかどうかが(.)わかんない.)」、9B で「เราก็ไม่แน่ใจว่าเพราะเราหรือเปล่าอะ.(自分のせいかもしれない.)」、そして、10B で「คือมันอาจจะเป็นเพราะว่าเราไปยึดใส่ในกระเป๋านั่นอะไรก็ได้อะ(もしかしたらかばんに詰め込んだからかも,)」と 3 回も【言い訳】を言っている。このように会話 TH1 と会話 TH2 で使用されている【言い訳】は被害の原因をそのまま言っているので、[正直に言う]タイプに分類した。

2)[正直に言わない]場合

データなし。

以上の結果のように、被害が直接的に自分の行動によらない場合は、JP も TH も、言い訳を正直に言うことが明らかになった。これは相手にもたらされた被害が、加害者自身による直接的な行動ではないため、気軽に言い訳として使えるのではないかと推測できる。また、直接的に自分の行動によらないが、責任の有無は否定できないため、会話の中で【謝罪】や【責任の言及】などの発話が共起している。

次に、「被害が直接的に自分の行動による場合の言い訳」の結果を見ていく。

3. 2. 2 被害が直接的に自分の行動による場合の言い訳

被害が直接的に自分の行動による状況とは、＜場面1～場面8＞の 6 場面である。これらの状況では、JP と TH の間で言い訳の使用結果が異なっている。また、その違いは相手との関係、及び内容の軽重という要因が影響を与えていることが判明した。以下、JP と TH それぞれの言い訳内容の使用がどのような要因に影響を受けたか会話例を挙げながら考察する。

3.2.2.1 日本語母語話者の場合

被害が直接的に自分の行動による場合、JP 調査協力者のほとんどが、3.2.1で述べた、被害が直接的に自分の行動によらない場合の言い訳と同様に、被害の原因を正直に言うという結果が出た。

1)[正直に言う]場合

会話 JP3<場面1>

主要部		
1	B: ごめん, ¥¥遅れて.hh	⇒ 【謝罪】【容認】
2	A: .hhBさん、何しとつ¥たん? ¥.hh	⇒ 【説明要求】
3	B: ごめん. 今日.h きょう:寝坊しちゃって.	⇒ 【謝罪】【言い訳】
4	A: あ, そうなん[や].	⇒ 【理解】
5	B: [で], 連絡しようと思ったんだけど, 充電 h(.)が切れ	⇒ 【弁明】
6	B: [ちゃって]本当ごめん.hh	【謝罪】
7	A: [あ::]	⇒ 【理解】
8	A: あ.hh 全然(.)大丈夫.	⇒ 【気遣い】
9	B: ***ずっと待ってたよね.	⇒ 【気配り】
10	A: う:ん. 待ってたけど, まあ(0.5)¥大丈夫¥.hh	⇒ 【同意】【気遣い】
11	B: ああ, 本当ごめん.	⇒ 【謝罪】
12	A: あ h は h は h は h¥全然¥h. (略)	⇒ 【受け入れ】

会話 JP4<場面8>

主要部		
1	B: パーティーのときに, 赤ワインをこぼしちゃって.	⇒ 【言い訳】
2	A: あ, [ほんまに].	⇒ 【理解】
3	B: [洗濯]に出したんだけど,	
4	A: うんうん.	
5	B: なんかないでもシミが残っちゃってて.	⇒ 【対処遂行の報告】
6	A: あ, そう[なんや].	
7	B: [取れ]ないやんか.	
8	A: うんうん.	⇒ 【理解】
9	B: [[で-]]	
10	A: [[ああ]]いいで. 別に[¥そんな]気に¥せへんし.	⇒ 【許し】【気遣い】
11	B: [あ, 本当に].	⇒ 【確認要求】
12	B: °ごめんな°.	【謝罪】
13	A: うん, 全然.	⇒ 【受け入れ】【気遣い】

上記の会話 JP3 は、<場面1 親友と買い物する約束に 30 分遅刻した>会話であり、会話 JP4 は<場面8 あまり親しくない友達のバッグに赤ワインをこぼした>会話である。まず、会話 JP3 では、遅刻者 B が 3B で「ごめん. 今日.h きょう:寝坊しちゃって__」と【謝罪】とともに遅れた原因を正直に【言い訳】している。一方、会話 JP4 も同じように 加害者 B が 1B で「赤ワインをこぼしちゃって」と素直に自分がこぼしたという【言い訳】をしている。

以上の結果のように、被害が直接的に自分の行動による場合も、ほとんどの JP の調査協力者はその原因を正直に言う結果であった。

2)「正直に言わない」場合

データなし。

以上の結果のように、被害が直接的に自分の行動による場合、日本語では16会話のうち、15会話で被害の原因をそのまま言い訳にしている。残り1つの会話は言い訳が行われていないため、分析対象から外した。また、どの相手に対しても、どのような状況でも、被害の原因を正直に言う傾向がある。言い換えれば、相手との親疎関係、内容の軽重という要因はJPの言い訳の使用に影響を与えないということが言えよう。

次に、タイ語の結果を見ていく。

3. 2. 2. 2 タイ語母語話者の場合

被害が直接的に自分の行動による場合、THはJPと違って、その被害の原因を[正直に言わない]調査協力者が多かった。以下で、タイ語の[正直に言う]場合、そして、[正直に言わない]場合の順に結果を述べる。

1)[正直に言う]場合

今回の調査結果において、被害の原因を[正直に言う]タイ語は、場面1、場面5、場面7、場面8の会話の状況である。場面1、場面5、場面7の共通点は相手が親友であるため、加害者がその被害原因を認めて正直に言いやすいのではないかと思われる。ただし、場面8は相手とあまり親しくなく、しかも、被害の程度が重いにもかかわらず、なぜきちんと自分が犯したミスを認めるのかについて、以下の会話例を用いて考えたい。

以下、タイ語の[正直に言う]会話例を挙げながら考察する。

会話 TH3<場面5>

主要部	
1 B: เอบอกขอบคุณมากเลย.เรา-เออชอบแหละสนุกมากเลย.=แถมค้นพบว่า.hhมีเรื่องจะบอกแหละ.hh B: 本当にありがとう.私-それ好きだよ.=超楽しかった=でも君に.hh 言いた B: <u>ことあるんだけど.hh</u>	⇒ 【感謝】【前置き】
2 B: [เราจะโกรธเราไปสำเนียง(0.3)คือ-คือหนังสืออะ,เราเมื่อวานเราแอบทำขยับ(นิดนึง).นิดนึง.hh B: [私を怒る]かな.(0.3)あの,あのう本なんですけど, B: 昨日(ちよつと)折り目付けちゃった.ちよつとだけ.hh	⇒ 【不安の表明】【言い訳】 【責任の軽減】
3 A: [↓ ทำอะไร?]. ↓ なんて?	
4 A: เทรอ A: そうか.	⇒ 【理解】
5 B: อืม.เห็นๆตุตุ,((ทำท่าให้ดู))นิดเดียวจ้. B: うん.ほら見てみて,((本を見せる))ちよつと ちよつとだけ.	⇒ 【同意】【再責任の軽減】
6 A: °อืม.° A: °うーん.°	⇒ 【保留】
7 B: ขอโทษ.h๕น๕น๕น๕.↑ ไม้↑ได้↑ตั้ง↑ใจอะ. B: ごめん.h๕น๕น๕君๕.↑わ↑ざ↑と↑じゃないんだ.	⇒ 【謝罪】【悪気なしの表明】
8 A: °อืม.° A: °うーん.°	⇒ 【保留】

会話 TH3 は、<場面5 親友の本に折り目を付けた>状況である。加害者 B がまず 1B で「เอบอกขอบคุณมากเลย.เรา-เออชอบแหละสนุกมากเลย.=แถมค้นพบว่า.hhมีเรื่องจะบอกแหละ. (本当にありがとう.私-それ好きだよ.=超楽しかった=でも君に.hh 言いたいことあるんだけど.hh)」と【感謝】、【前置き】を述べた後、2B で「เราจะโกรธเราไปสำเนียง.hh คือ-คือหนังสืออะ,เราเมื่อวานเราแอบทำขยับ(นิดนึง).นิดนึง.hh (私を怒るかな.(0.3)あの,あのう本なんですけど,昨日{ちよつと}折り目付けちゃった.ちよつとだけ.hh)」と【不安の表明】をし、そして、【責任の軽減】と共に【言い訳】をしている。

この会話は、相手が親しい友達なので、自分に非があっても、気軽に本当のことが言えるのではないだろうか。ただし、【言い訳】した際、「ちよつとだけのしわがついているんだ」と「ちよつと」ということばを強調し、責任を軽減しようとする態度も見られた。

次に被害程度の重い状況の中で、言い訳を[正直に言う]タイ語の会話を紹介する。

会話 TH4<場面8>

主要部	
1 B: เอบม(.)คือ:เรามีเรื่องจะขอโทษอะ B: あの(.)謝らなきゃならないことがあるんだ.	⇒ 【前置き】
2 A: อ้อ.เรื่องอะไรเธอ? A: ええ.何?	⇒ 【情報要求】
3 B: คือครั้งที่(.)ก่อนหน้าที่เราอืม(.)กระเฝ้า[ของAไปอะ]. B: <u>それが,この(.)この前 A に(.)バッグを借りたんだけど.</u>	⇒ 【前触れ】
4 A: [อ้อๆเออ.กระเฝ้า[เธอ]]ทำไมเธอ A: [ああ,うん.あのバッグ[ね]].どうしたの.	⇒ 【理解】【情報要求】
5 B: [อ้อ].(ええ.)	
6 B: เอบอ.คือในงานเลี้ยงอะเรา(.)ทำ(0.4)《กลืนน้ำลาย》มันเชิญไปทำไวน์ทรคนะ(0.2) 7 B: ↓ เอบม: ขอโทษมากเลยนะ. B: あの.パーティーのときに(.)ワイン(0.4)《つばを飲み込んだ》 B: <u>ワインをこぼしちゃって(0.2)↓ん:本当にごめんなさいね.</u>	⇒ 【言い訳】 【謝罪】

¹⁵ 「{ }」の中の発話は声を優しく伸ばして、相手に甘えようとする言い方である。

8	A: °อือจ° (0.2) เทรอ(0.5) แล้วมันเลอะเยอะมากป่าวอะ. A: °うんうん° (0.2) そっか.(0.5) 結構汚れてる?	(後 ⇒ 【理解】【確認要求】)
---	--	------------------

会話 TH4 は<場面8 あまり親しくない友達のバッグに赤ワインをこぼした>状況である。被害の程度の重い状況として加害者が正直に理由を言う唯一の会話である。加害者が 1B で「เออมี(.)คือเรามีเรื่องขอโทษอะ(あの(.)謝らなきゃならないことがあるんだ.)」と【前置き】をし、続いて 3B で「คือครั้งที่(.)ก่อนหน้าที่เราืม(.)กระเป๋าของAไปอะ.(それが、この(.)この前 A に(.)バッグを借りただけど.)」と【前触れ】を述べた後、6-7B「เออ.คือในงานเลี้ยงอะเรา(.)ทำ(0.4)《กลืนน้ำลาย》บังเอิญไปทำไวน์หกกรณี(0.2)あの.パーティーのときに(.)ワイン(0.4)《つばを飲み込んだ》ワインをこぼしちゃって(0.2)↓ん:本当にごめんなさいね。」と【謝罪】とともに【言い訳】をしている。

自分に被害の原因がある場合、ほとんどの協力者はあまり非を認めず、その原因を正直に言わない会話が多いのに、なぜこの会話は協力者が[正直に言う]ことにしたかをフォローアップインタビューで聞いたところ、「被害が大きすぎるので、怒られるとしても正直に言うべき。そして、バッグの賠償をしたいので本当のことを言うのです」と述べている。

次に、被害の原因が直接的に自分の行動によるものの、[正直に言わない]タイ語の会話を紹介する。

2)[正直に言わない]場合

今回のデータで、被害の原因が直接的に自分の行動による場合、THの調査協力者が最も使用したのは[正直に言わない]タイプで、特にあまり親しくない友達との会話で顕著であった。[正直に言わない]データの中では、①曖昧な表現を使用する、②第三者にミスを押し付ける、③ステレオタイプを使用するという方法が用いられていた。以下にそれぞれについて、会話例を用いながら詳述する。

①曖昧な表現を使用する

曖昧な表現を使用する方法は、被害の原因が確実に自分にあるにもかかわらず、それを明示的に示さず、もしかすると自分に原因があるかもしれないと、相手の想像に任せるような発話をする方法である。以下の会話 TH8 はこの方法の会話例である。

会話 TH5 <場面5>

主要部		
1 B:	↓ Aพอดีโทษทีนะ.เรา เมอ- เพิ่งเห็นเมื่อเช้าว่าแบบ(.)ตรงมุมมันแบบหักๆอะไม่รู้ว้า-	⇒ 【謝罪】【言い訳】
B:	↓ A ごめんね.わたし,け-,今朝気づいたばかりで(.)角が折れて	
B:	しまつてよくわかんないけど-	
2 A:	↑ un::hh[hh]h.un[▽痛んじょ***▽].hhh.	⇒ 【文句】
A:	↑ きみ::hh[hh]h.君[▽本が***▽].hhh	
3 B:	[.hh] [โทษทีโทษที]. [ごめんごめん].	⇒ 【謝罪】
4 B:	เขี้ยวหรือว่าจะซื้อใหม่ดีอะ.โธษ(.)รู้สึกผิดมากๆ. เพิ่งจะเห็นเมื่อเช้านี้เองอะ.°โทษที[โทษที].	} ⇒ 【補償の申し出】【反省】
B:	それとも新しいのを買おうか.あ~(.)本当に悪いなあ.今朝	
B:	気づいたばかりなんだ.°ごめん[ごめん].	
5 A:	[เออๆ]うん	
6 A:	ไม่เป็นไร.ไม่ต้องซื้อใหม่หรือนก,เพื่อนกัน.	
A:	いいよ.別に新しいのを買わなくていい,友達だから.	⇒ 【拒否】
7 B:	เหรอ?	
B:	ほんとう?	⇒ 【確認要求】
8 A:	เออ.[ช่างมัน]เถอะๆ	
A:	うん.[まあいい]よ.	⇒ 【確認】【気遣い】
9 B:	[โทษที]. ごめん.	
10 B:	ขอโทษนะ:::[ไม่ทำแล้ว].	
B:	ごめんね:::[もう二度としないから].	⇒ 【謝罪】【改善約束】
11 A:	[จ้ะ::]จ้ะๆ.hh	
A:	[は::い]うんうん.hh.	⇒ 【受け入れ】

会話 TH5 は、<場面5 親しい友達のノートに折り目を付けた>状況である。この会話も相手は親友で、さらに、ミスが軽いにもかかわらず、加害者であるBが自分自身がやったということを行わず、1Bのように「พอดีโทษทีนะ.เรา เมอ- เพิ่งเห็นเมื่อเช้าว่าแบบ(.)ตรงมุมมันแบบหักๆอะไม่รู้ว้า-. (ごめんね.わたし,け-,今朝気づいたばかりで(.)角が折れてしまつてよくわかんないけど-.)」と曖昧な言い方で【言い訳】をしている。

②第三者にミスを押し付ける

第三者にミスを押し付ける方法は、被害の原因が確実に自分にあるにもかかわらず、あたかも他人が起こしたかのように、責任転嫁する方法である。以下の会話 TH6 と TH7 はこの会話例である。

会話 TH6 <場面1>

主要部		
1 B:	↑ un:โทษทีขอโทษๆ[เออ].	⇒ 【呼びかけ】【謝罪】
B:	↑ 君:ごめんごめんごめん[うん].	
2 A:	[เขี้ยว]ทำไมเพิ่งมาอะ?	⇒ 【文句】
A:	[なんで]今頃来たの?	
3 B:	เขี้ยวโทษทีนก.พอดี(.)ไอนี้เวียนแม่เราโทรมาเวียนนก.ว่าจะโทรบอกทีนี้แบบเราหมดอะนก.[นี่เราก็ต้อง	} ⇒ 【謝罪】【言い訳】
B:	ต้องมาขำรตอีก.]	
B:	ごめん.ちょうど(.)ほらお母さんから電話かかって来たんだから.で君にしようと思ったけど,電池が切れちゃつて.[充電しなきゃならなくなつたん	
4 A:	[°เขี้ยว]จริงดี?	⇒ 【理解】
A:	[°あ°]そうなの?	
5 B:	เออ. うん.	⇒ 【確認】
6 A:	ไม่ทีนรกเงว่าจะกลับแล้วนะ.นึกว่าจะไม่มาแล้ว.เพราะตั้ง[ครึ่งชั่วโมงอะ::].hh.	
A:	もう来ないかな最初帰ろうと思ったよ.だって 30 分も[経つたから	⇒ 【文句】

7	B:	[↑ อก ↑ โทษะ:]. 君ごめん::	⇒	【謝罪】
8	B:	ไม่. จะ-เอะ: เราไม่ได้ตั้งใจมาสายเว้ยแก. แบบแม่โทรมาเว้ยแก,	}	【悪気なしの表明】【再言い訳】
	B:	いや. あの-わざと遅刻したわけじゃないよ. 母から電話がかかってきて,		
9	B:	โทรเข้าบ้านนะ. ที่นี้ก็จะโทรบอกแก็, ก็แบบคิดสายแม่อยู่		
	B:	家の電話だけど. で君に電話しようと思ったが, としやべってたから	}	【説明】
10	B:	[เอะ:]. แล้วว่าจะโทรบอกโทษที, แออย่าโกรธนะเว้ย.		
	B:	[う::ん]. あとで君に電話するつもりだったけど, ごめん. 怒らないで.	}	【謝罪】【許し乞い】
11	A:	[เอะ:]. (う:ん)		
12	A:	เออจ. ไม่เป็นไรละกัน ูんうん. まあ気にしないで.	⇒	【受け入れ】

会話 TH6 は、＜場面1 自分のせいで親友との買い物の約束に 30 分遅刻した＞状況である。遅刻者の B が 3B で「แม่โทรมาเว้ยแก(母から電話がかかって来たんだ.)」という【言い訳】を使っている。これは、母の電話に出なければならず、それに時間がかかってしまい、結果として遅れてしまったと、相手を説得するために、第三者である母を取りあげ、母のせいにしたのである。また 9B で「โทรเข้าบ้านนะ.(家の電話なんだけど.)」と【説明】を述べ、約束の場所に向かうことができない状態だったことをさらに強調している。そして、以下の会話 TH7も第三者にミスを押し付ける方法の例である。

会話 TH7 <場面7 >

主要部				
1	B:	เออแก็แต่คือ:(เสียงจี้)จะพูดยังดีอะ. รู้สึกแย่มากเลยอะ[ขอโทษ.]	}	【反省】【謝罪】
	B:	あの:(舌打ちをした)どう話せばいいかな. 本当に悪い.[ごめん].		
2	A:	[ทำไมอะ?] なんて?		
3	B:	《(กลืนน้ำลาย)》เราต้องบอกก่อนว่าขอโทษไว้ก่อนเลยอะแก็. เพราะว่าตอนที่อยู่ในงาน, เออะ::	}	【謝罪】
	B:	《(つばを飲み込む)》先に君に謝らなきゃならない. 実はパーティーのと		
4	B:	เรา-เรา-เรากินไวน์อะแก็แล้วเหมือนคนข้างๆเค้าเดินมาชนนะ.		
	B:	あの::私-私-私、ワインを飲んでて、で、隣の人にぶつかられたんだ.	}	【言い訳】
5	A:	° เหรอ. ° そうか. °		
6	B:	อือ. มัน()มันก็ทกแล้วมันทกรคกระเป๋แบบซุดด้วยอะ. เออแล้วเราลองไปแบบส่งร้านซักแล้ว,	}	【確認】【説明追加】 【対処遂行の報告】
	B:	แต่มันไม่ออกวะแก็.		
	B:	ええ. それ(.それがバッグにも服にもこぼれちゃったんだ. でも一応		
	B:	クリーニングに出したけ, 取れないみたい.	}	【確認】【相談】
7	A:	° อ่าว, จริงดี. °		
	A:	° あ, 本当に. °	⇒	【理解】
8	B:	เออ. ทำไงดีอะ.	}	【確認】【相談】
9	B:	ええ. どうしよう.		
10	A:	ไฉย. hh กระเป๋าใบนี้แบบโฮสท์เค้าให้มาด้วยอะ.	}	【文句】【物の大事さの表明】
11	A:	(ああ~. hh このバッグホストファミリーからもらったものだよ.		

会話 TH7 は、＜場面7 親しい友達のバッグに赤ワインをこぼした＞状況である。この状況の被害は最も重いため、加害者 B が 1B と 3B で「เออแก็แต่คือ:《(เสียงจี้)》จะพูดยังดีอะ. รู้สึกแย่มากเลยอะขอโทษ. 《กลืนน้ำลาย》เราต้องบอกก่อนว่าขอโทษไว้ก่อนเลยอะแก็. เพราะว่าตอนที่อยู่ในงาน, (あの::《(舌打ちをした)》どう話せばいいかな. 本当に悪い. ごめん. 《(つばを飲み込む)》先に君に謝らなきゃならない. 実はパーティーのとき,)」と【言い訳】する段階まで【反省】、【謝罪】の長い発話がある。そして、ようやく 4B で「เออเรา-เรา-เรากินไวน์อะแก็แล้วเหมือนคนข้างๆเค้าเดินมาชนนะ. (あの::私-私-私、ワインを飲んでて、で、隣の人にぶつかられたん

だ。」と【言い訳】が行われている。また、ここで使用されている言い訳も他人にミス押し付けるような【言い訳】であった。

③ステレオタイプの使用

ステレオタイプの使用は、あるカテゴリーに属する事物についての定型的なイメージを利用する方法である。以下の会話 TH8 はこの会話例である。

会話 TH8 <場面2>

主要部		
1	A: [[B]]ทำไมเพิ่งมาอะ:. A: [[B]]なんで今頃来たの:.	⇒ 【呼びかけ】【文句】
2	B: [[nek]] [[君]]	
3	B: แยกขอลไทยทีเวียะ B: 君々すまん々	⇒ 【謝罪】
4	A: หนังฉายแล้วนะเวีย. A: 映画もう始まっているよ.	⇒ 【文句】
5	B: โ้ย. รถมันติดรถมันติดนก. พุดจริงเวีย. คือโอ้นเวีย-เราไม่ได้ตั้งใจจะมาสาย. แต่แบบ-แต่แบบรถนก็กษ แล้วกับแบบ(.)โอ้นนั้นอะ, แกรรถติดอีกต่างหาก.	
6	B: だって渋滞渋滞. 本当よ. あの-わざと遅刻したわけじゃないよ. あの-ええと B: タクシーが(.)超捕まえにくくて, それに渋滞だし.	⇒ 【言い訳】【悪気なしの表明】
7	B: เออ. [แต่แบบมันไม่]เป็นไรหรอกนก. ตอนแรกมันก็มีโอ้นใจ, คำเรียกว่าไรนะ, [โอ้อะไรนะ?] ตั -うん. [でも心配]しないで. 最初にあれ, あれ, 何と言う, [なんだっけ?] よ-	} 【責任の軽減】【許しの求め】
8	A: [แล้วจะเอาไงเนี่ย?] จ้า, どうするの? [จริงสิ] (そうね.)	
9	B: ตัว-ตัวอย่างหนังอะ. เออไม่เป็นไร[นิดๆหน่อยๆ]นะ. B: よ-予告編だ.(ほんのちよっとだから), 大丈夫だよ.	
10	A: เออๆ. เห็นไม่โทรมา, ก็นึกว่าจะเขี่ยจะไม่มาแล้ว. A: うんうん. 連絡ないから, もう来ないかと思った.	⇒ 【許し】【文句】
11	B: เฮ้ย. ขอโทษนก. ไม่ได้ตั้งใจ[เออ] B: いや, ごめん. わざとじゃなかったから[うん.]	⇒ 【謝罪】【悪気なしの表明】
12	A: [โอเค]ๆ ([うん], 分かった分かった)	⇒ 【受け入れ】

会話 TH8 は、<場面2 あまり親しくない友達と買い物の約束に 30 分遅刻した> 状況である。この会話の言い訳は、待っていた側の 4A の「หนังฉายแล้วนะเวีย。(映画もう始まっているよ.)」という【文句】に対して行ったものである。ここで遅刻者が使用している【言い訳】は、5B-6B の「โ้ย รถมันติดรถมันติดนก พุดจริงเวีย. คือโอ้นเวีย เราไม่ได้ตั้งใจจะมาสาย แต่แบบ-แต่แบบรถนก็กษ แล้วกับแบบ(.)โอ้นนั้นอะ แกรรถติดอีกต่างหาก. (だって渋滞、渋滞. 本当よ. 私、わざと遅刻したわけじゃないよ. ただタクシーが(.)超捕まえにくかったんだ. それに渋滞だし.)」という発話である。タイの首都バンコクというと、『渋滞の町』というイメージが強い。そこで本当は自分のせいで遅れて家を出たのに、バンコクのこのステレオタイプを言い訳にすれば、より相手に受け入れられやすいと考えたのではないかと推測される。これがステレオタイプを使用する方法である。

以上のように、被害の原因が直接的に自分の行動による場合、タイ語は日本語と全く異なり、多

くの TH の調査協力者は[正直に言わない]という結果となった。また、その方法は「曖昧な言い方を使用する」、「第三者にミス押し付ける」、「ステレオタイプを使用する」の3つあることが今回の予備調査で確認された。

3.2.3 まとめ

言い訳内容の使用に関しては、次のようにまとめられる。

<被害が直接的に自分の行動によらない場合>

①JP も TH もどんな相手に対しても、内容の軽重と関係なく、被害の原因をそのまま【言い訳】にしている。

<被害が直接的に自分の行動による場合>

②JP の場合はどの相手であっても、またどの状況においても、ほとんどで被害の原因をそのまま言い訳とし、過失を認めている。

③TH の場合は、自分に非がある状況では、多くの調査協力者が自分の非をあまり認めずに[正直に言わない]会話が多かった。また、[正直に言わない]とき、[曖昧な表現を使用する]、[第三者にミス押し付ける]、[ステレオタイプを使用する]という、3つの方法が使われる。

被害が直接的に自分の行動による状況において、JPとTHの間に異なる結果が出た原因を解明するには、さらに詳しく考察する必要がある。しかし、本章は予備調査であるので、概観だけを述べ、詳しい分析は本調査の分析に譲る。

3.3 予備調査の問題点

予備調査で明らかになった問題点と本調査への改善の提案については、以下の通りまとめることができる。

①ロールプレイを行う手順に関して

ロールプレイを行った際、時間・所有物のそれぞれの状況において「親・疎」の会話を交互に行ったため、親・疎それぞれの人物への切り替えがしにくいとのことであった。改善案として、本調査では「親しい相手」の全場面のロールプレイを行ってから、「あまり親しくない相手」の場面を実施する。

②ロールカードの記述に関して

ロールカードに書かれている状況の説明が不十分、もしくは不明な点がいくつかあったため、本やバッグなどの被害に対してイメージする深刻さに協力者間でかなりばらつきがあった。また、大切なバッグと書かれていても、どのように大切なものか詳しい説明がないため、ノートと同じ扱いで会話をを行った調査協力者もいた。

直接的に自分の行動による被害ではないという設定のロールカードでは、「いつの間にか本に折り目が付いた」と曖昧な表現がなされていたため、一部の調査協力者は自分がやったことだと勘違いしていた。

改善案として、本調査では、調査対象者が正確に状況を理解できるように、実物を使用し、被害が「直接的」なのか「間接的」なのかを明確にする。加えて、ロールカードの情報を追加して設定内容を明確にする。

第4章

本調査の概要

本章では、予備調査の結果を踏まえ、改善を加えた上で行った本調査の概要を述べる。

4.1 調査の目的

本調査は、自分が過失を引き起こしたり、あるいは相手に過失を起こされたりした時、日本語母語話者およびタイ語母語話者の会話において、言い訳の使用にそれぞれどのような特徴があり、日本語とタイ語でどのように異なるかを明らかにし、言い訳の会話に反映される両言語での責任感のあり方を考察することを目的とする。

4.2 調査対象者

本調査の調査対象者は、20代の日本語母語話者女性8組、計16名、および、タイ語母語話者女性8組、計16名である。いずれも、対象者の専門分野や職業などを限定せず、日本語母語話者は訪タイ経験やタイ語学習経験、タイ語母語話者との接触経験等がなく、タイ語母語話者は来日経験や日本語学習経験、日本語母語話者との接触経験等がないことを条件として、調査の対象者を選定した。

実際に本調査のために協力を得た調査対象者は、国立、及び私立大学で理系・文系を専攻している現役の学生、または大学卒業者である。

4.3 調査場所と期間

調査を実施した場所および期間は、以下の通りである。

調査対象者	場所	期間
日本語母語話者	大阪を中心とした日本国内	2010年12月から1月にかけて
タイ語母語話者	バンコクを中心としたタイ国内	2010年10月中

4.4 データ

4.4.1 データ収集方法

本調査は、ロールプレイの手法を使用し、各場面の録音後、フォローアップインタビューも行った。

まず、調査対象者に連絡した際、先入観を持たせないために、調査の目的を知らせず、「ミスを犯したときなどのロールプレイをしてもらいたい」という旨のみを告げておいた。

ロールプレイは、ペアになった調査対象者に母語で書かれたロールカードを渡し、会話をしてもらう。この時お互いあらかじめ会話の準備や、相談などは一切許可しなかったが、会話を考えるために少し時間を与えた。そして、調査対象者から開始の合図を受けてから IC レコーダーで会話の録音を始めた。また、ペアのうちのどちらが会話を始めるかについても自由とした。

(1) ロールプレイ設定条件

ロールプレイの設定場面に関しては、ソーピットウツティウオン(2010)で扱った、相手に迷惑・被害を与えそうな遅刻の状況の他、相手の所有物に被害が起きそうな状況を加えることにした。そこで用いられる言い訳にどのような相違点があるかを明らかにするためである。また、より自然な行動のロールプレイをしてもらうために、同等の相手(=友達)との会話だけに絞った¹⁶。

ロールプレイは、表 4-(1)に示す設定条件によって、場面設定を行った。

表 4-(1) ロールプレイ設定条件

相手との関係	言い訳すべき状況の内容設定
① 親しい同等の相手	① 内容を「時間」と「所有物」の2つに分ける
② あまり親しくない同等の相手	② ①を、さらに相手に与えた迷惑・被害等が直接的に自分の行動によるもの「直接」と、そうでないもの「間接」の2つに分ける ¹⁷
	③ ②を、さらに「軽・重」に分ける

¹⁶ 自然会話での言い訳場面のデータ収集が非常に困難なため、ロールプレイ手法を用いることにした。また、ソーピットウツティウオン(2010)では、上下関係にある相手との会話の場面を設定したが、調査対象者が目上の立場になった経験がなく、そこで現れた言語行動が自然さに欠けているのではないかという指摘から、本稿では同等の相手との会話のみに焦点を当てた。

¹⁷ 「直接」とは、自分の行動が直接的に相手に迷惑や被害などを与えたものである。「間接」とは、相手にもたらした迷惑や被害などが直接的に自分の行動によらないものの、その責任の有無を否定することもできないものである。

この設定条件による具体的なロールプレイの場面設定は、以下の表 4-(2)の通りである。

表 4-(2) 本調査で用いるロールプレイの場面

ロールプレイ設定条件			ロールプレイの具体的な状況	
直接	時間	軽	親	場面 1 自分のせいで、買い物の約束に 30 分遅刻した
			疎	場面 2 自分のせいで、買い物の約束に 30 分遅刻した
		重	親	場面 3 自分のせいで、映画を見る約束に 30 分遅刻した
			疎	場面 4 自分のせいで、観覧しなければならない公演に 30 分遅刻した
	所有物	軽	親	場面 5 自分が持っていた相手の本に折り目をつけた
			疎	場面 6 自分が持っていた相手のノートに折り目をつけた
		重	親	場面 7 相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした
			疎	場面 8 相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした
間接	時間	軽	親	場面 9 交通事情のせいで、買い物の約束に 30 分遅刻した
			疎	場面 10 交通事情のせいで、買い物の約束に 30 分遅刻した
		重	親	場面 11 交通事情のせいで、作家のインタビューの約束に遅刻した
			疎	場面 12 交通事情のせいで、作家のインタビューの約束に遅刻した
	所有物	軽	親	場面 13 人にぶつかられて自分が持っていた相手の本に折り目がついた
			疎	場面 14 人にぶつかられて自分が持っていた相手のノートに折り目がついた
		重	親	場面 15 雨のせいで相手に貸してもらった大事なバッグが雨に濡れた
			疎	場面 16 雨のせいで相手に貸してもらった大事なバッグが雨に濡れた

本調査で収集したデータは、 $[8(\text{調査対象者の組数}) \times 16(\text{場面の数})] \times 2(\text{日本語とタイ語}) = 256$ 会話である。ただし、この中で言い訳が行われなかった会話は分析対象から除外する¹⁸。

¹⁸ 本調査において言い訳が行われなかったデータは、JP が 13 会話、TH が 4 会話、合計 17 会話である。

本調査のロールカードの一例 (p.224 巻末資料 2 を参照)

ロールカードの例 (場面8:あまり親しくない同等の相手のバッグに赤ワインをこぼした)

場面 8 (被害者)

立場 大学 4 年生(A)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(B)
場所 大学の食堂
状況 あなたが自分にとって大事なものをあまり親しくない友達にを貸している状況を想像してください。
背景 あなたの友達Bさんが文学部のパーティーに参加するタイ語専攻の代表として選ばれました。このパーティーに参加するにはタイの民族衣装を着なければなりません、Bさんには衣装は持っていますが、バッグは持っていません。ちょうどこの前タイに留学したときにタイ人のホストファミリーからプレゼントとしてもらった¹⁹ので、あなたはタイ衣装に合いそうなバッグを持っています。そこで、あなたはBさんにそれを貸してあげました。今食堂でBさんを見たため、この前のパーティーについて聞こうという気になりました。ちょうどBさんもあなたのところに歩いて来ています。
その時にあなたは B さんに何と言いますか。B さんと会話をして下さい。

場面 8 (加害者)

立場 大学 4 年生(B)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(A)
場所 大学の食堂
状況 あまり親しくない友達が貸してくれた大事なものに傷を付けてしまった状況を想像してください。
背景 あなたは文学部のパーティーに参加するタイ語専攻の代表として選ばれました。このパーティーに参加するには、タイの民族衣装を着なければなりません。しかし、あなたは衣装は持っていますが、その衣装に合えそうなバッグは持っていません。ちょうどこの前タイに留学したときホストファミリーからバッグをプレゼントとしてもらった A さんがあなたに貸してくれました。しかし、パーティーではあなたはバッグに赤ワインをこぼしてしまいました。しかも、その汚れは、いくら洗濯してもなかなか取れませんでした。今日 A さんにそのバッグを返すと約束しました。ちょうど今 A さんを見ました。
その時 A さんに何と言いますか。どうしてバッグにシミが付いたかを A さんに説明して、会話をして下さい。

(2) フォローアップインタビュー

ロールプレイ調査の際には、筆者が同席していたので、各場面の録音後、以下の質問項目について質問をした。質問項目は以下の通りである。

- 加害者が被害者に対してどのような配慮をして言い訳をしたのか
- なぜその原因を正直に言うか、あるいはなぜ正直に言わないのか
- 軽重という原因が言い訳の使用に影響を与えるか
- 謝罪の使用の有無について
- ロールプレイ場面の中でどれが最も非を重く感じたか
- 自分の遅刻したことによって作家である第三者にまで迷惑をかけることについてどのように思うか、またどのような感じがするか
- 被害者のその言い訳に対する感情

¹⁹ 波線部は予備調査で明らかになった問題点を訂正した部分である。

4.4.2 データ収集方法の利点と限界

第2章の先行研究でも指摘したように、先行研究でのデータ収集に用いられていた DCT は、大量のデータを収集できるという利点がある一方で、回答欄がかなり短い上に、答えを書かせるために考える時間も与えられるので、会話が自然さに欠けるという欠点がある。また、会話というものは、相手の言語行動を聴視してから自分の発話を決めていくものである。「言い訳をする」際の言語行動は、一発話で会話が終わることは考えにくく、内容の軽重や相手との関わり方などにより、やりとりが必要なものである。

本来ならば、自然会話が最も理想的なデータであるが、遅れた瞬間や、友達の大事なものに傷を付けたなどの状況でデータをとることはほぼ不可能である。そこで、自然さに欠けることを承知した上で、DCT より自然なデータが収集できると考え、ロールプレイを採用した。

本研究で採用したロールプレイはオープン・ロールプレイ(open role play)というものである。菅(2009)によると、オープン・ロールプレイは自然ではないが、与えられた状況の中で話し手と聞き手がどのようなやりとりをし、どのような結果に持っていくかという指定はしていないため、会話の開始から終わりまでより自然な会話が収集できるという。

しかしながら、限定した調査対象者によるデータ収集の限界として、次の3点が挙げられる。本研究はデータ収集の都合上、女性の会話のみを分析対象としたため、ここでは女性同士の会話の結果になり、①男女差は言及できない。また、調査はある地域(大阪・バンコク)に住んでいる 20 代の調査対象者によるため、②他の年齢、地域に住む母語話者が必ずしも同じ言語行動を取るとは限らない。各場面において日本語とタイ語各 8 つずつの会話データしかないため、③結果の一般化もしがたい。

4.5 分析の枠組み

ロールプレイは、ICレコーダーで録音したデータを文字化し、分析資料とした。尚、会話データの文字化については、ザトラウスキー(1993)、西坂・串田・熊谷(2008)を参考に以下の記号を用いた。

- [複数の参与者の発する音声が重なる開始の時点を示す
- [] 重なるの終わりを示す
- [[2 人の話し手が同時に会話を開始することを示す
- = 2 つの発話が途切れなく密着していることを示す
- °° 音が小さいことを示す

*	聞き取りにくい発話を示す
.h	吸気音を示す
言h	呼気音、または笑いを表す
(0.0)	音声が途絶えている秒数 を示す
(.)	(0.2)以下の短い間合いを示す
¥ ¥	笑い声で発話がなされることを示す
::	直前の音が延ばされていることを示す
<u>言葉</u>	音の強さを示す
<u>言葉</u>	音の大きいことを示す
言葉__	語尾の音調があえて平坦に保たれることを示す
?	語尾の音の上がりを示す
> <	発話のスピードが目立って速くなる部分を示す
↓↑	音調の極端な上がり下がりを示す
{言葉}	甘えているような話し方で言うことを示す

分析にあたっては、まず、文字化したデータを用いて、各会話データを、言い訳の談話に入る前の両者の呼びかけや挨拶、場面中で言及されるノートやパーティーに関する情報要求・情報提供などを行う部分を〔開始部〕、言い訳会話のやりとりがなされる過程、及び問題解決が行われる部分を〔主要部〕、そして、次の行動へ移る部分を〔終結部〕と区分する作業を行った。次に、〔主要部〕にある会話を「言い訳」の段階と、「問題解決」の段階に分けた上で、すべての発話に発話機能を割り当て、会話全体の発話の連鎖を分析した。特に、言い訳の段階について詳細に分析を行い、言い訳の発話タイプの分類、言い訳の内容、そして、言い訳に対する反応が相手との関係や、被害の重さとどのように関係するかという観点から考察した。さらに、状況によって、言い訳の段階だけでは会話がなかなか終わらず、生じた問題をどのように解決するかという問題解決の段階まで続く会話があったため、本稿ではこの問題解決の部分を中心に責任の取り方についても考察する。

以下に、本稿で分析に用いる発話機能²⁰について、大よそロールプレイのデータ会話中に出現した順序でリストアップし、それぞれの定義と、データ中に見られた発話の例を挙げておく。なお、日本語、またはタイ語どちらにしか使用されない発話がある。

²⁰ 発話機能については、平賀(1996)、シンハウオラサップ(2007)、菅(2009)を参考にした。

a) 加害者側

【謝罪】: 決まり文句として慣用句的に謝罪する発話

「ほんとにごめんね。」

「ฉันขอโทษ(ごめんなさい)」

【気配り】: 被害者を長く待たせたことに気を配る発話

「待たせたよね。」

「รอนานไปอะ?(だいぶ待った?)」

【心配表明】: 自分が遅刻したことに対して心配な気持ちを述べる発話

「ヤバイかな?」

「เป็นไรป่าววะ?(大丈夫かな?)」

【配慮】: 遅刻したことによって第三者に迷惑をかけたため、その第三者に配慮する発話

「ヤバイヤバイ. そうやんな.(作家) 待ってはるよな。」

【言い訳】: 遅刻や、被害の原因を述べる発話

「電車がなんかトラブルがあったらしくて」

「กระเป๋ามันเลอะ. เปียกฝน. (バッグが汚れた. 雨に濡れちゃった.)」

【事情説明】: 遅刻した際の状況、または、被害が引き起こされたときの状況を詳しく述べる発話

加: 「今日朝から授業だったんだけど: すごい遅刻しそうになって猛ダッシュしてたら」

被: 「うん」

加: 「そう:.. 走ったら、人にぶつかって荷物がぶちまけちゃってそのときにここにさ: 折り目が付い
ちやったんだよね:..」

加: 「แต่ว่า.. คือ(0.2)ฝนมันตกนะ. วันนั้นฝนมันตก. แล้วไม่มีร่ม. พอไม่มีร่มเนี่ย, มันก็เปียก (あの(0.2)雨が降ってたのよ. あの
日雨が降ってたのよ. 傘もなくて. 傘がないと、濡れちゃったんだ.)」

【対処遂行の報告】: 被害者の物に生じた被害についてどのように対処をしたかを告げる発話

「ちょっと洗濯して取ろうと思ったけど、取れへんくて。」

「มันเป็นรอยต่างอะ. คือเราซักแล้วอะ, แต่มันแบบซักไม่ออกอะ. (シミになって. 洗濯したけど, 取れなかった.)」

【弁明】: 待っていた側の【文句】や、なぜ連絡してくれないのかという不満に対して、説明する発話

「連絡も(.)しようと思ったんやけど, なんか携帯の調子が悪くて, 電源付かんくて」

「โทษทีแก. ชั้นไม่ได้ยินโทรศัพท์อะ. (ごめんなさい. 電話に気付かなかったんだ.)」

【許し求め】: 被害者に自分が犯したミスを許してもらおうとする発話

「ขอโทษนะ. อย่างอ่อนโยนนะ. (ごめんね. 怒らないでね.)」

【容認】: 自分が犯した非に対して全面的に責任を認める発話

「ごめん. すごい遅くなっちゃった。」

「โทษที. แบบไม่ได้ติดต่อไปด้วยอะ. (ごめん. なんか連絡しなかった.)」

【責任の表明】: 遅刻したことによって第三者にまで迷惑をかけたとき、何らかの方法で責任を取ろうとする発話

「เฮ้ยแกไม่ต้องซีเรียสนะ. เรื่องนี้ฉันรับผิดชอบเอง. (心配しないで. このことは私が責任を取るから.)」

【承諾】: 被害者の【共同行動要求】に同意を示す発話

被: 「早く行こう行こう。」

加: 「うん. 行こう」

被: 「เรารีบไปกันเถอะ (早く行こうか)」

加: 「โอเค (うん うん)」

【受け入れ】: 被害者からの【促し】、【注意】などに対して受け入れる発話

被: 「まあ、まあ、まあ後ろのほうから、こっそり」

加: 「はい」

被: 「คราวหน้าก็ระวังตัวกันนะ. (今度から気をつけてね.)」

加: 「โอเค. โอเค (うん. 分かった.)」

【責任の軽減】:遅刻したことで生じた責任の一部を減らそうとする発話

「ขึ้นออกมาแต่เช้าแล้วอะ,แต่รถที่นั่งมามันเสียอะ(朝早くから出てきたけど,乗ったバスが故障して.)」

【責任の回避】:被害者の物に生じた被害について自分がやったことではないと主張する発話

「เอ่อมันเป็นรอยยับนิดนึงนะ.แต่คือว่าเราไม่ได้ทำเอง(ちょっと折り目付いちゃったのよね.でも,私がやったわけじゃないよ.)」

【物の大事さの確認】:被害が与えられた被害者の物が相手にとって大事なものだと表明する発話

「ほんまにね,なんかめっちゃ大切なもんやったのに。」

「ชั้นรู้นะเลยว่ากระเป๋าี่สำคัญกับแกมากอะ.(このバッグが君にとって大事なものだと分かってるよ.)」

【悪気なしの表明】:遅刻したり、被害者のものに被害を与えたりしたミスは故意でしたわけではないと表明する発話

「คือมันยับนิดนึงขอโทษจริงๆ.เราไม่ได้ตั้งใจนะ.(ちょっと折り目が付いちゃって本当にごめんなさい.わざとじゃなかったんだ.)」

【冗談】:被害者との親しさを示すために遊びの気持ちで言う発話

被:「โหย.แล้วให้เราเป็นชาติ.มือถืออะไรก็ไม่ใช้เลยหรอเนี่ย? もう.長く待たせといて.携帯とかは持ってないわけ?)」

加:「เฮ้ยแก.คนเค้าใช้ไง.คนเค้าใช้เยอะแ่ก่เข้าใจปะ?เหมือนเวลาไปรับปริญญาคนมันใช้กันเยอะไง.พอรถไฟฟ้ามันขัดข้องปั๊ม,มันก็โทรหาปั๊มๆอย่างเงี้ยอะแก.hh(ああ.人が使っ.たくさんの人が使ってるから分かる?卒業式みたいに人が多く使ってる.BTSのトラブルが起こったと,みんなすぐ電話使うんだ.hh)」

備考:ここでの冗談は、加害者が卒業式のことを取り上げた部分である。これは、タイの卒業式には多くの人が集まり、お祝いの電話をかけたたり、SMSを送ったりするため、しばしば通信が不可能な事態になるという極端な事態に例えることで、冗談として機能している。

【改善約束】:今後の行動を改善すると述べる発話

「วันหลังเราไม่ทำแล้วนะ.(今度からはもうしない.)」

【感謝】: 自分が犯した非を許してくれることに対して感謝を述べる発話

被: 「全然大丈夫です。」

加: 「はい、ありがとうございます。」

被: 「ทำไงได้. มันเลอะไปแล้วข้างมันเหอะ. ไม่เป็นไร. (仕方がない. バッグがもう汚れたので、しょうがない. いいよ.)」

加: 「อ้อ. ขอบใจนะ. (うん. ありがとうね.)」

【後悔】: 自分の行動に対して悔やむ気持ちを述べる発話

「連絡すればよかったんですけど。」

【反省】: 遅れた、または被害者に貸してもらった物に被害を与えたことを反省していると述べる発話

「先輩に本当に申し訳ないことした」

「ขอโทษนะชั้นรู้สึกแย. ตอนแรกก็รู้สึกแยเพราะเผลไปพับสามสี่หน้าได้. (ごめんなさいね. 3-4 ページぐらい折り目つけちゃったから、最初なんか悪い…って思ったよ.)」

【提案】: 遅れたことにより映画等が見られなくなった、またバッグのシミが取れなかったことに対して新たな行動を提案する発話

「แต่ยวชั้นจะไปลองซักรีดอันใหม่แก. เผื่อเค้าจะเอาออกได้. (後で別のクリーニング屋さんに行ってみる. もしかして取れるかも.)」

【埋め合わせの申し出】: 遅れたことに対して他のもので補おうとする発話

「ごめん. なんかもおごるよ。」

【補償の申し出】: 被害者のものに被害を与えたことに対して、新しいものを買って返そうとする発話

「だれかタイに行ったおりに買ってきてもらおうかと思いますよ」

「เอาเป็นว่าเดี๋ยวจัณเฝียจะพยายามไปหาลายมาเหมือนอย่างงี้เลย. ซ้อมมาให้ใหม่เลยอะ. (じゃ、これと同じデザインのを頑張って探してくる. 新しいのを買って返すね.)」

【努力の表明】: これ以上被害者に迷惑をかけないように頑張って全力を尽くすことを表明する発話

「แต่ชั้นก็รีบแล้วนะเว้ย. เฝียดูดีวิ่งมาหัวฟูเลยดูดี. (でも急いでたよ. ほら走ってきて頭がぼうぼう.)」

【相談】:遅刻したり、被害者の物に被害を与えたことで生じた問題を解決するために相談する発話

「ไม่ออก.ฉันพยายามแล้วอะแก.ทำไงดีอะ? ((シミが)落ちなかった.頑張って取ったけど.どうしたらいい?)」

b) 被害者側

【受け入れ】:加害者の謝罪を受け入れる発話

加:「本当遅れてごめんね。」

被:「うんうん.」

加:「แกขอโทษนะ. (ごめんね.)」

被:「เออๆ. (ええ、ええ.)」

【気遣い】:遅れた側の【謝罪】、【容認】、【言い訳】などに対して気遣いを示す発話

加:「ちよっ-30分も遅れて」

被:「いいよ.別になんか人間観察してたら.結構楽しかったし.」

「อย่าเวอรั้งแต่พับมุมมันยังอ่านออก (大げさに謝らなくていい.ただの折り目だからまだ読めるし.)」

【理解】:加害者の【言い訳】を理解する発話

加:「電車がさ、止まっとってさ、ほんまにごめん」

被:「あ、ほんま」

加:「เฮ้ยโทษทีเว้ยโทษทีเว้ย.ตื่นสาย. (ごめんな,ごめん.寝坊してさ.)」

被:「เออๆ.ไปๆ. (うんうん.行こう行こう)」

【思いやり】:加害者が連絡してこなかった事情を察して、心配を表明する発話

「待ち合わせ時間になっても来ないから、どうしたのかなと思って。」

【許し】:加害者の遅刻、及び貸していた自分の物への被害等のミスを許す発話

「折り目ぐらいやったら、いいよいいよ。」

加:「ขอโทษจริงๆ.เราขอโทษจริงๆ 本当にごめんなさい. 本当にごめんなさい。」

被:「โอเค.ไม่เป็นไรๆ (うん.いいよいいよ.)」

【共同行動要求】:話し手と一緒に行動をするように要求する発話

被:「行こう行こう」

【説明要求】:遅れたことや、物への被害のことについて加害者に説明を求める発話

「どうしたん？」

《本を返してもらった後》「↑ん↑อะ↑ไร↑เฉีย(↑こ↑れ↑って↑何?)」

【文句】:加害者に対して不満の気持ちを表明したり、非難をしたりする発話

「連絡してくれればよかったのに。」

「โทษแล้วให้เรารอเป็นชาติ.มือถืออะไรก็ไม่มีใช้เลยหรือเนือ?(もう長く待たせといて.携帯とか持ってないわけ?)」

【注意】:加害者に対して今後の行動に注意する発話

「คราวหน้าก็ระวังแล้วกันเนือ.(今度から気をつけてね.)」

【責める】:加害者のミスを追求する発話

「ทำไมแกไม่รู้จักซุก(กระเป๋)เอาไว้ในตู้ใว้อย่างเงือ?(なんで体のどこかで(バッグを)隠したりしなかったの?)」

【皮肉】:本当に思っていることと反対のことを述べる発話

「พับมุกก็ดีเนือ.จะไดรูว่าหน้าไหนมีข้อความสำคัญเนือ(折り目つけてくれてまあよかったかな.どの頁に大切なことがあるか分かるし.)」

【物の大事さの強調】:加害者に貸したものが自分にとって大事な物だと主張する発話

「ทำไมแกไม่ระวังเลยอะ?หนังสืออันนี้แกมันหายากนะเวือ.(なんで気を付けてくれなかった?この本はね,手に入れるのが難しかったよ.)」

【否認】:加害者の【言い訳】を認めていないことを表す発話

加:「จริงๆเราถึงทันนะ.แต่วันนั้นมหาที่จอดรถไม่ได้จริงๆ.(本当は今日間に合ったよ.でも今日は本当に駐車場がなかった)

被:「ไม่จริงอะ.ตลอด.บอกจะให้มาสิบโมง,สิบโมง.(いや.いつもそう.10時,10時に来てって言ったのに.)」

【指摘】:加害者の本当の遅れた原因、及び貸していた自分の物の損傷程度を指摘する発話

「เขี้ยกั๊ก มั่น-มันหลายจุดเลยอะ. (君、シミ・シミが何箇所もあるんじゃないか.)」

4.6 データの分析の手順

本稿では、第5章と第6章で、[主要部]に含まれる言い訳の段階を中心に分析する。言い訳の段階とは、[主要部]の言い訳のやりとりの最初から、言い訳に対する反応までの部分を指す。分析においては、便宜上、先に「相手との待ち合わせ時間に遅刻した」という遅刻への被害の状況について述べ、次に、「相手の所有物に被害が発生した」という所有物への被害の状況の結果を述べる。具体的には、それぞれの状況内容において、①会話全体の流れ、②加害者が使用する言い訳内容、及びその言い訳に対する被害者の反応の2つのパートに分けて考察する。詳細は以下の通りである。

①会話全体の流れ

言い訳の隣接ペアを取り出し、①[自発的言い訳]、②[【説明要求】に対する言い訳]、③[【文句】に対する言い訳]の3種類に分ける。そして、それぞれのタイプの言い訳が被害の程度、及び相手との関係とどのように関わっているかを考察する。最後に、被害の軽重に分けて日本語とタイ語の会話例を取り上げながら、言い訳会話全体の特徴や相違点などについて考察する。

②加害者が使用する言い訳内容、及びその言い訳に対する被害者の反応

言い訳を[正直に言う]、あるいは[正直に言わない]の2つに分け、それぞれの状況における使用傾向を観察する。そして、会話例を挙げながら、[正直に言う]、または[正直に言わない]言い訳を使用するとき、どのような特徴があるか、及びそれぞれの発話が被害者である相手の反応にどのように影響を与えるかという点も考察する。

第7章では、[主要部]の会話を中心に分析するが、言い訳の段階が終わった後、すなわち、問題解決の段階に焦点を当てて分析する。分析の際、まず、遅刻への被害の状況と、所有物への被害の状況の、それぞれの状況で起きた問題を解決するために、問題解決の段階にどのような発話機能が現れたのかについて、使用傾向を考察する。次に、会話例を挙げながら、問題解決の発話がどのように使用されるかについて説明する。最後に、問題解決の段階に現れた発話が、JPとTHの責任の取り方にどのように反映されるのかについて論じる。

次章以降では、分析の結果および考察について述べていく。

第5章

直接的に自分の行動によらない原因で被害が与えられた場合の言い訳

本研究では、相手に被害や迷惑を与えそうな状況のロールプレイについて、直接的に自分の行動によって迷惑・被害を与えるものと、そうでないものという、二種類の状況を設定した。本章では、直接的に自分の行動によらない原因で被害が与えられた場合について、データを挙げながら論じていく。

以下、状況の内容によって、「相手との待ち合わせ時間に遅刻した」状況を「時間」、また「相手の所有物に被害が発生した」状況を「物」と、便宜上分けて分析し、前者を5.1で、後者を5.2で述べる。各節ではそれぞれ①会話全体の流れ、②加害者が使用する言い訳内容、及びその言い訳に対する被害者の反応の2つのパートに分けて考察する。①の会話全体の流れでは、ソーピットウツィウォン(2010)の言い訳のタイプの分類(①[自発的言い訳]、②[【説明要求】に対する言い訳]、③[【文句】に対する言い訳])を援用して分類したのち、会話全体の考察を行う。

5.1 「直接的に自分の行動によらない原因で相手との待ち合わせ時間に遅刻した」状況について

まず、本節で扱う「直接的に自分の行動によらない原因で相手との待ち合わせ時間に遅刻した」状況(以下《間接・時間》とする)とは、友達と待ち合わせをしたが、交通事情などが原因で遅刻した状況のことである。分析対象は以下表5-(1)の4場面である。

表5-(1) 5.1分析対象場面

場面	略称	状況内容
9	間接・時間・軽・親	交通事情のせいで親しい同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した
10	間接・時間・軽・疎	交通事情のせいであまり親しくない同等の相手と一緒にいく買い物の約束に30分遅刻した
11	間接・時間・重・親	交通事情のせいで親しい同等の相手と一緒に行く作家のインタビューの約束に30分遅刻した
12	間接・時間・重・疎	交通事情のせいで親しくない同等の相手と一緒に作家のインタビューの約束に30分遅刻した

分析の結果、《間接・時間》状況において、言い訳のタイプは、日本語母語話者(以下「JP」と呼ぶ)とタイ語母語話者(以下「TH」と呼ぶ)ともに[自発的言い訳]が最も多く使用されていた。また、

会話全体の流れは、加:【言い訳】⇒被:反応 までの流れは同じだが、それ以降の流れは日本語とタイ語で異なっている。言い訳の内容については、JP も TH も全員遅刻した原因を[正直に言う]結果であるが、【言い訳】をするとき共に用いられる発話には、違いが見られた。また、言い訳に対する被害者の反応は、JP は【理解】、【気遣い】のような肯定的な反応が圧倒的に使用されているのに対して、TH は肯定的な反応と否定的な反応が同じ程度の割合で使用されているということがわかった。

以下で具体的な例を用いながら、5. 1. 1で会話全体の流れを、5. 1. 2で加害者が使用する言い訳とそれに対する被害者の反応を詳述する。

5. 1. 1 会話全体の流れ²¹

この項では、言い訳会話の発話連鎖がどのように構成されているかについて論じる。分析の際、まず、言い訳の隣接ペアに着目し、言い訳のタイプをソーピットウツティウオン(2010)を基に、①[自発的言い訳]、②[【説明要求】に対する言い訳]、③[【文句】に対する言い訳]の3種類²²に分けた上で、それぞれのタイプの言い訳が被害の程度、及び相手との関係とどのように関わるかを考察する。次に被害の軽重に分けて日本語とタイ語の会話例を適宜取り上げながら、言い訳会話全体を考察する。最後に両言語における特徴や、相違点について考察する。

5. 1. 1. 1 使用された言い訳のタイプ

以下の表 5-(2)は、JP と TH の調査対象者が使用した言い訳のタイプの結果である。

²¹ 本稿は言い訳を研究しているため、言い訳が行われていない会話は分析対象外とした。

²² ①、②、③の言い訳の種類以外は[その他【発話機能】]のように表記する。

表 5-(2) 《間接・時間》状況における JP と TH が使用した言い訳のタイプ別の会話数

設定要因			具体的な状況		話者	言い訳のタイプ				合計	
						自発	説明	文句	他		言い訳なし
間接	軽	親	場面	内容							
				9	交通事情のせいで同等の相手と一緒に 行く買い物の約束に 30 分遅刻した	JP	4	3	1	-	-
				TH	2	2	4	-	-	8	
		疎	10	交通事情のせいで同等の相手と一緒に 行く買い物の約束に 30 分遅刻した	JP	5	2	1	-	-	8
				TH	4	1	3	-	-	8	
	重	親	11	交通事情のせいで同等の相手と一緒に 行く作家のインタビューの約束に 30 分遅刻した	JP	5	2	-	-	1	8
					TH	5	-	3	-	-	8
	疎	12	交通事情のせいで同等の相手と一緒に 行く作家のインタビューの約束に 30 分遅刻した	JP	4	2	-	-	2	8	
				TH	5	1	2	-	-	8	

上記の結果を、被害の程度と相手との関係の要因から見ると、言い訳のタイプの使用は<場面 9: 交通事情のせいで同等の相手と一緒に行く買い物の約束に 30 分遅刻した>を除いて、日本語とタイ語は同様の結果を示しており、遅刻してきた加害者自ら言い訳をする〔自発的言い訳〕が最も多かった。しかし、〔【文句】に対する言い訳〕については、JP ではほとんど見られないが、TH ではどの状況においても現れている。また、<場面 9>のように、被害の程度が軽く、しかも、親しい相手の場合では、TH は〔【文句】に対する言い訳〕を最も使用しているという違いが見られた。

次に言い訳会話全体の流れを考察する。

5.1.1.2 言い訳会話の連鎖組織

以下の図 5-(1)～(4)は被害の程度によって分けられる日本語とタイ語の言い訳会話の流れ²³である。会話の流れを、言い訳とその言い訳に対する反応までを前半、それ以降の会話から会話の終了までを後半に分けて考察する。尚、この前半の流れは、言い訳とそれに対する反応を中心に分析する第5章、第6章の分析対象で、後半の流れは問題解決を中心に分析する第7章の分析対象である。

²³ 会話の流れの図の中で使用される記号は次のような意味である。

- (1) 四角の中にある発話機能は、一つ、または複数使用されることがあるということである。
- (2) 【α】とは、話者のそれぞれが様々な発話を用いるため傾向を示すことが難しい場合のことを表しており、図では現れた発話のバリエーションを列挙している。
- (3) 括弧の中の数字は、その発話で会話が終了となる会話の数を表すものである。

図 5-(1) JP の《間接・時間・軽》会話の流れ

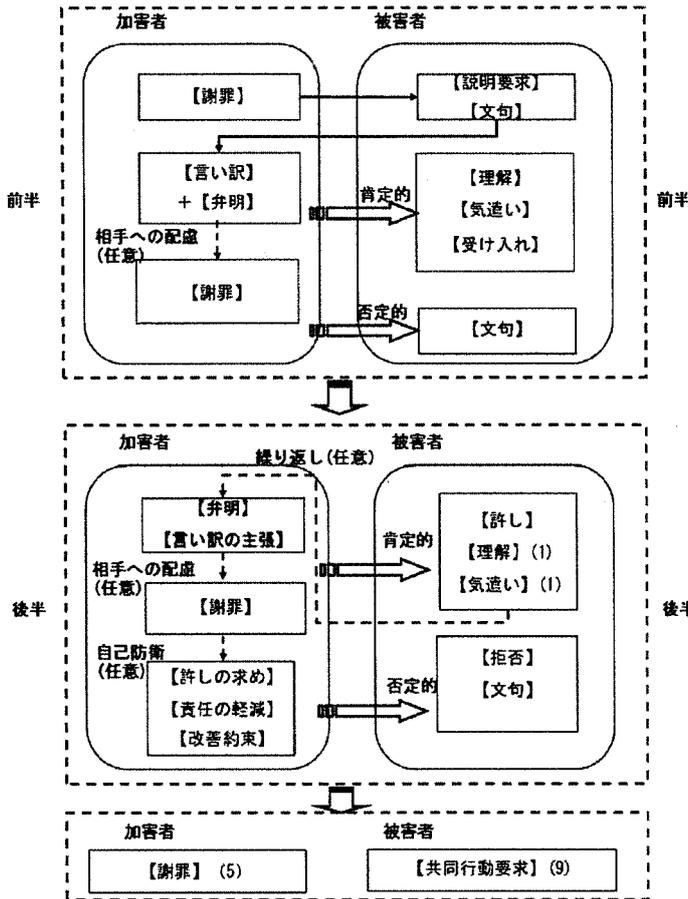
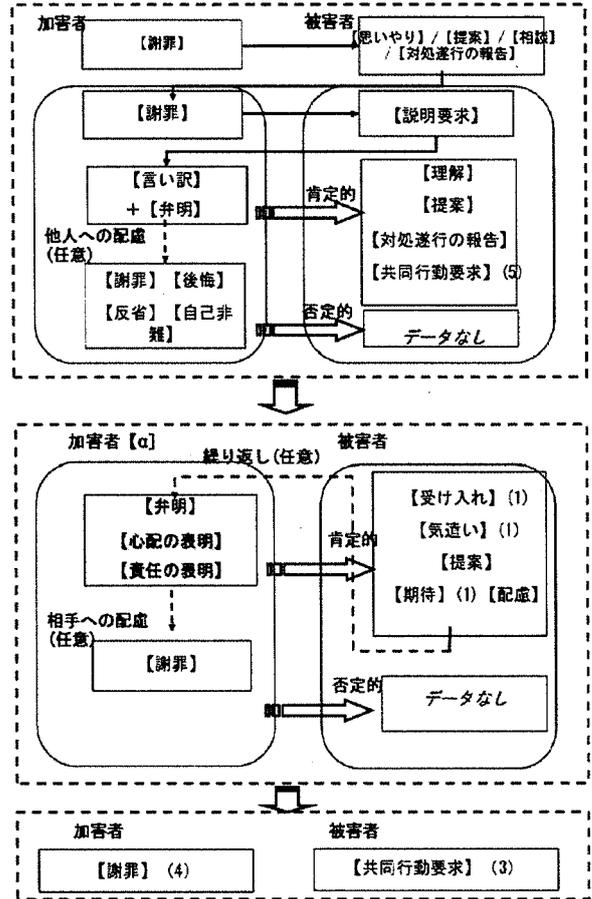


図 5-(2) JP の《間接・時間・重》会話の流れ



JP の《間接・時間》状況の会話の流れを示す図 5-(1)と図 5-(2)を見ると、被害の状況が重い状況(図 5-(2))では、会話の初めに作家である相手に配慮するような発話が見られるが、基本的には被害の程度に関わらず会話の前半は、加害者による【謝罪】から始まり、被害者からの【説明要求】、【文句】が続く。それに対して加害者の【言い訳】や【弁明】があって、被害者からの反応があるという流れである。しかし、会話の後半は被害の軽重によって異なる。被害の軽い場合は、加害者からの【弁明】や【言い訳の主張】があり、被害者の反応があって会話が終了するが、被害が重い場合は、第三者の作家にまで影響を及ぼすため、加害者から【弁明】、【心配の表明】など様々な発話がある。それに対して被害者から肯定的な反応があり会話が終了している。

最後に、問題をどのように解決したかについて述べる。JP は被害者からの【共同行動要求】で会話が終了になる。さらに、JP の場合は被害の軽重によらず、ほとんどの会話が【共同行動要求】で終了になるが、【理解】、【気遣い】、【受け入れ】、【期待】、【謝罪】などの様々な発話で終了する場合も見られた。

次は、THの会話の流れを見ていく。

図 5-(3) THの《間接・時間・軽》会話の流れ

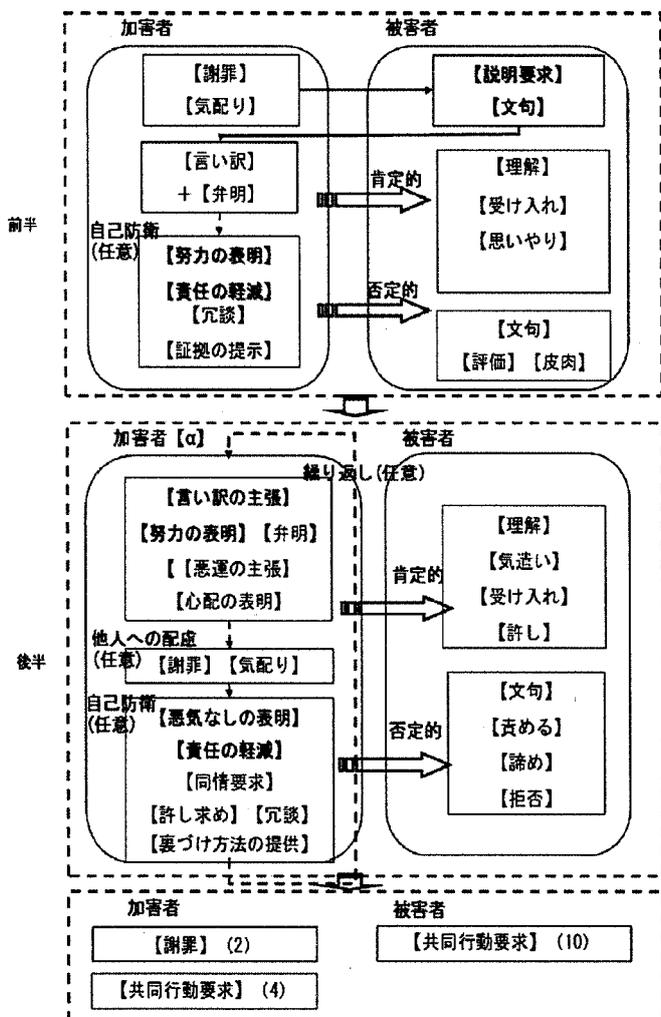
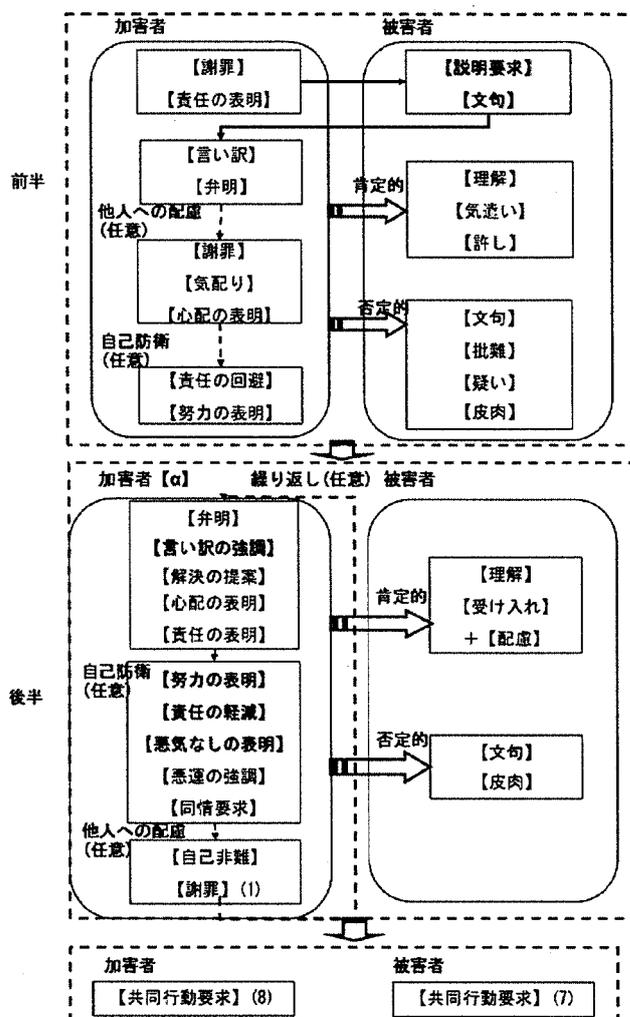


図 5-(4) THの《間接・時間・重》会話の流れ



THの会話(図 5-(3)、5-(4))では、被害の軽重の状況による会話の流れの違いは見られず、加害者による【謝罪】、【気配り】、【責任の表明】に対して被害者による【説明要求】や【文句】が続く。それに対して、加害者からの【言い訳】、【弁明】があり、それに被害者が反応をして、さらに加害者からの発話²⁴があり、被害者が反応をして会話が終了となっている。

TH間で発話の種類を比べると、THは、加害者側の発話も被害者側の発話も種類が豊富である。また、THではこの状況が直接的に自分に非がないため、【努力の表明】、【責任の軽減】、【悪気なしの表明】、【言い訳の強調】などの自己防衛的な発話が圧倒的に多い。

²⁴ 図 5-(3)、5-(4)の中の後半でこの発話は【α】で表記しているが、この【α】の中身である具体的な発話のタイプは、調査対象者によってそれぞれ異なる。

最後に、問題をどのように解決したかについて述べる。JP と同じく、【共同行動要求】で会話が終了になるが、その発話をする者に違いが見られる。JP の場合は、被害者からその発話がなされ、TH の場合は、加害者側がその発話をし、話を切ろうとするものが見られる。

次に、上記の図5-(1)～図5-(4)の流れを持つ日本語とタイ語の言い訳会話をそれぞれ取り上げながら、具体的な会話の連鎖組織を詳しく見ていく。

5. 1. 1. 2. 1 日本語母語話者

(a) 《間接・時間》で使用された言い訳のタイプ

《間接・時間》状況においては、[自発的言い訳]、[【説明要求】に対する言い訳]、[【文句】に対する言い訳]の3タイプの使用が見られた。被害の軽重どちらの状況においても[自発的言い訳]が最も多用され、[【文句】に対する言い訳]が最も少なかった。以下、軽・重それぞれの状況における会話例を挙げて考察する。

(b) 《間接・時間・軽》会話の流れ(図5-(1)を参照)

以下の会話JP5は、親しい同等の相手との会話例である。あまり親しくない相手との会話でもあまり違いがないため、その会話例は割愛する。

会話 JP5<場面9:交通事情のせいで親しい同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: ごめんね。遅刻して[ほん]とにごめんね。なんー。	}
2	A: [うん.]	
3	A: 大丈夫(.)だよ。	}
4	B: なんかね:(.)[電]車が(.)なんか(.)トラブルがあったらしくて、	
5	B: [うん.]	}
6	A: うん:	
7	B: なんかに故障かなんかで[動か]んくなっ(.)て__。で、30分<(.)ごめんね。	}
8	A: [うんうん.]	
9	B: 本当遅れて[ごめんね.]	⇒
10	A: [うんうんうん.]しょうがないよ、それは。	
11	B: で(.)連絡hも(.)しようと思ったん[や]けど、なんか携帯の調子が	}
12	A: [うん.]	
13	B: 悪くて、[電]源付かんくて。	}
14	A: [うん.]	
15	A: あらららh.	⇒
16	B: ¥本当[ごめんね¥]	
17	A: [大丈夫?]携帯。	⇒
18	B: なんかに修理に行く。	⇒
19	A: うんうん。	⇒
20	B: 明日修理に行ってくる。もうほんとごめんね。	⇒

会話 JP5 は場面9:《間接・時間・軽・親》の状況である。まず、遅刻した加害者 B が相手に会ってすぐに 1B で「ごめんね.遅刻してほんとにごめんね.」と【謝罪】をしている。そして、多くの場合は会話 JP1 のように 4B で「なんかね:(.)電車が:なんか(.).トラブルがあつたらしくて:,」と、7B と 9B で「なんか>故障かなんかで<動かんくなつ(.).て.で,30分<(.).ごめんね,本当.<遅れてごめんね.」と自発的に【言い訳】を【謝罪】とともにしている。それに対して、待っていた被害者である A が 10A で「うんうん.しょうがないよ,それは.」と相手の謝罪を【受け入れ】て、【気遣い】を表明している。ただし、ここで図 5-(1)のように言い訳の前に 30 分待たされた被害者によって【説明要求】、【文句】がなされる場合もある。

その後、加害者が 11B と 13B で「で(.).連絡も(.).しようと思ったんやけど,なんか携帯の調子が悪くて,電源付かんくて.」と遅刻することを事前に連絡しなかった【弁明】をし、16B で「¥本当ごめんね¥」と笑いながら【謝罪】をしている。最後に 20B で「もうほんとごめんね.」と【謝罪】をして会話が終わった。

このように、《間接・時間・軽・親》の状況では、遅刻してきた加害者が第一発話として【謝罪】をする。そして、多くの場合、遅刻した原因について加害者が自ら【言い訳】をするが、30 分も待たされた被害者に【説明要求】されたり、あるいは【文句】で反応されることもある。この被害者の【説明要求】、【文句】の使用は親・疎の相手において同じような割合になっている。これを受けて、加害者が【言い訳】をするが、このとき相手への配慮として【謝罪】がよく用いられる。また、【言い訳】とともに相手に連絡しなかったことへの【弁明】をする会話も多かった。それに対して、被害者は主に【理解】、【気遣い】、【受け入れ】、などの肯定的な反応をする際、【文句】の使用も多少見られた。

【言い訳】の後、連絡しなかった【弁明】をするが、自分が原因で遅刻したわけではないので、【言い訳の主張】の発話も見られる。また、この時再び【謝罪】が使用されるが、【許し求め】、【責任の軽減】、【改善約束】など、自分を守ろうとする発話も見られた。それに対して、ほとんどの被害者が【許し】、【理解】、【気遣い】などの肯定的な反応を示し、【共同行動要求】に移り、会話が終了する。

次に、《間接・時間・重》の会話例を見ていく。

(c) 《間接・時間・重》会話の流れ(図 5-(2)を参照)

以下の会話 JP6 は少数だが、【説明要求】によって【言い訳】がなされた親友との会話例である。

主要部		
1	B: >A,本当に遅れてごめん.<ほんとうに遅れてごめん.	⇒ 【謝罪】
2	A: どうしよっか,とりあえず(.)あほう:電話しとこっか.	⇒ 【相談】【提案】
3	B: 電話の,[ほん]とごめんね.電話-,電話番号分かる?	⇒ 【謝罪】【確認要求】
4	A: [うん.]	
5	A: うんうん.大丈夫[大丈夫.]	⇒ 【確認】
6	B: [ごめんね.]先輩に(.)本当に申し訳ないことした.	⇒ 【謝罪】【反省】
7	A: どうしたん? =	⇒ 【説明要求】
8	B: =なんかね,	
9	A: うん.	
10	B: 電車(.)のトラブル(.)があつて:,なんか動かなくな[ちゃつ]て.なんか	} 【言い訳】【謝罪】
11	A: [はあ]	
12	B: 理由を知らないけど.なんか-	
13	A: 人身事故かな.	
14	B: 人身事故かなんかだと思う.で:,それで,急いで来たんやけど.	
15	B: ほんとにごめんね.[本当ごめん]ね.30分も遅れて,ちょっと携帯(.)で,	} 【弁明】【謝罪】
16	A: [ううん,ううん.]	
17	A: うん.	
18	B: メールしようと思ったんやけど.	
19	A: うん.	
20	B: ちょっとなんか調子悪くって.電源つかんくなって,[今]本当使えない状態で.	} 【弁明】【謝罪】
21	A: [あ]	
22	A: うん.	
23	B: 本当,本当にごめんね.[本当ごめんね.]	
24	A: [大丈夫大丈夫.]	⇒ 【受け入れ】
25	B: 本当ごめんね,[本当にごめんね.]	⇒ 【謝罪】
26	B: [うん.¥大丈夫大丈夫¥]気にしないで.行こう行こう.	⇒ 【受け入れ】【共同行動要求】

会話 JP6 は場面11:《間接・時間・重・親》の状況である。この会話では初めに、被害者が2Aで「どうしよっか,とりあえず(.)あほう:電話しとこっか.」と迷惑をかけた作家について相手に【相談】・【提案】したり、加害者Bの6B「ごめんね,先輩に(.)本当に申し訳ないことした.」と【謝罪】とともに【反省】をして、過失を感じていることを表す発話をするなど、加害者と被害者から第三者である作家に配慮するような発話が現れた。

その後、被害者Aが7Aで「どうしたん?」と【説明要求】をし、それに対して、加害者Bが「電車(.)のトラブル(.)があつて:,なんか動かなくな[ちゃつ]て.なんか理由を知らないけど.なんか-人身事故かなんかだと思う.で:,それで,急いで来たんやけど.ほんとにごめんね,本当ごめんね.30分も遅れて.」と【謝罪】・【言い訳】をしている。続いて18-23Bで【弁明】と【謝罪】をしている。それに対して、被害者Aが24Aで「大丈夫大丈夫」と【受け入れ】てから、次の行動に移り、会話が終了となった。

次は、あまり親しくない同等の相手の場面で、自発的に言い訳を発する会話例を見ていく。

会話 JP7<場面12:交通事情のせいであり親しくない同等の相手と一緒に行く作家のインタビューの約束に30分遅刻した>

主要部	
1 B: ごめんね.	⇒ 【謝罪】
2 A: あ,うんうん.	⇒ 【受け入れ】
3 B: ヤバイかな:?	⇒ 【心配の表明】
4 A: とりあえず:さっき,あの,電話しといたから,	⇒ 【対処遂行の報告】
5 B: ほんまに?[ごめんな:ありがと:]	⇒ 【確認要求】【謝罪】【感謝】
6 A: [うん.遅くなるって言ってたから]とりあえず行こうか.	⇒ 【確認】【共同行動要求】
7 B: ふふん.ちょっと電車がさ:;	
8 A: あ,そっかそっか.	⇒ 【言い訳】【謝罪】
9 B: 止まっとってさ:,ほんまにごめ:ん.	
10 A: あ,ほんま.(0.2)まあまあ行こうか?	⇒ 【理解】【共同行動要求】

会話 JP7 は場面12:《間接・時間・重・疎》の状況である。この会話では、まず、加害者の 1B の【謝罪】の後に、B が 3B で「ヤバイかな:？」と遅刻したことについて【心配の表明】をしている。そうすると、被害者 A が 4A で「とりあえず:さっき,あの,電話しといたから,」と【対処遂行の報告】をしている。その後、B が 7B と 9B で「ちょっと電車がさ:;止まっとってさ:,ほんまにごめ:ん」と【言い訳】と一緒に【謝罪】をしている。それに対して、A が 10A で「あ,ほんま」と【理解】を示した後、すぐに【共同行動要求】に入り、会話が終了になっている。

重い状況での会話は軽い状況と流れが異なり、遅刻したことは、待っている友達だけではなく、インタビューに協力してくれる作家にまで迷惑をかけることになるので、会話の最初に加害者の発話として【謝罪】、【相談】、【心配の表明】、及び被害者側から【提案】、【相談】、【対処遂行の報告】のように、両者から作家に配慮するような発話が多く見られた。

まず遅刻してきた加害者が第一発話として【謝罪】をし、多くの場合はなぜ遅刻したか加害者が自ら【言い訳】をするが、30分も待たされた被害者に【説明要求】されることもある。【言い訳】の際、【謝罪】の他、【後悔】、【反省】、【自己非難】など、自分が犯したミスを重く受けとめている発話も見られた。また、【言い訳】と共に相手に連絡しなかったことの【弁明】をする会話も多かった。それに対して、被害者は【理解】、【提案】、【対処遂行の報告】の肯定的な反応しか用いなかった。

【言い訳】の後には、軽い状況とは違って、なぜ相手に連絡しなかったかの【弁明】の他、【心配の表明】など、第三者の相手に配慮するような発話が見られた。それに対して、この状況での被害者の反応は【理解】、【受け入れ】などの肯定的な反応しか見られない。最後に、【共同行動要求】に移り会話が終了となる。

これまでにJP《間接・時間》における親疎、被害の軽重のそれぞれの状況の会話を見てきた。《間接・時間》状況におけるJPの会話の流れの特徴は、以下の3つにまとめられる。

- ① 軽・重の被害内容によって違いが見られるが、親疎関係という要因に関しては、ほとんど差が見られない。
- ② 被害の程度が軽い(図 5-(1))場合は、言い訳に対して被害者の反応は肯定的・否定的、両方の反応が見られるが、被害の程度が重い(図 5-(2))場合は、肯定的な反応しか見られなくなる。
- ③ 会話JP2とJP3のように、第三者にまで迷惑・被害が及ぶ場合は、加害者・被害者ともに【相談】、【提案】、【心配の表明】、【対処遂行の報告】など、作家のことを大事に考えている発話を使用される。

上記の3つの特徴に加え、被害が重い状況は、時間的にあまり余裕がないため、会話全体が非常に短かったということも指摘されよう。

次に、THの言い訳会話の流れを見ていく。

5.1.1.2.2 タイ語母語話者

(a) 《間接・時間》で使用された言い訳のタイプ

《間接・時間》の状況で使用された言い訳のタイプは、[自発的言い訳]が最も多く使用され、次いで[【文句】に対する言い訳]、[【説明要求】に対する言い訳]の順である。しかし、あまり親しくない相手に対しては[自発的言い訳]が最も多く使用されるが、親友の相手になると、[【文句】に対する言い訳]が最も多く使用された。つまり、親・疎によって言い訳のタイプの使用が異なる。相手と親しければ親しいほど、【文句】のような不快・不満の感情を表しやすくなるため、多くのTHは[【文句】に対する言い訳]を使用することになったのだろう。

以下で、被害の程度の軽・重に分けて、それぞれの状況における会話例を挙げながら会話の流れを考察する。

(b) 《間接・時間・軽》会話の流れ(図 5-(3)を参照)

まず、被害の程度が軽い状況で親しい相手によく見られる会話例をTH9で見ていく。

会話 TH9 <場面9: 交通事情のせいで親しい同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: เฮ้ย A: [รอนานป่าววะ?] B: ออ้ย A: [だいが待ってた?]	⇒ 【気配り】
2	A: [ในที่สุดก็] โผล่มา. A: [やつと] 来たね.	⇒ 【文句】
3	B: เออ. ขอโทษวะแก.. แต่รอบนี้เราไม่ได้ตื่นสายอีกแล้วนะ. [รอบเนี่ย-] B: ええ. ごめ:ん. でも今回寝坊したわけじゃないよ [今回は-]	} 【謝罪】【責任軽減の主張】
4	A: [หุยก] มีเหตุผลไรอีกเธอ. hh A: [もう君] 何か他に言い訳があるの. hh	
5	B: เฮ้ยจริงๆ. รอบเนี่ยรถไฟฟ้ามันแบบ-ขัดข้องอะ. ไม่เชื่อแกไปตามที่ตู้รถไฟฟ้าเลยก็ได้เนะเว้ย. B: 本当だよ. 今回-BTS が故障したんだ. BTS の窓口に聞いてみたらいいよ.	} 【言い訳】 【裏づけ方法の提供】
6	A: โทษ.. แล้วให้เราเป็นคนดี. มีถืออะไรก็ไม่ใช้เลยเธอเนี่ย? A: <u>もう</u> . 長く待たせといて. 携帯とかは持ってないわけ?	
7	B: เฮ้ยแก. คนเค้าใช้ไง. คนเค้าใช้เยอะแ่กเข้าใจปะ? = เหมือนเวลาไปรับปริญญาคนมันใช้กันเยอะ.	} 【冗談】
8	B: > ¥พอรถไฟฟ้ามันขัดข้องปุ๊บ, มันก็โทรหาปุ๊บๆ อย่างเจี๊ยบอะ. ¥ < hh B: ああ. 人が使っ-. たくさんの人が使ってるから分かる? 卒業式みたいに人が多く使ってる. > ¥ BTS のトラブルが起こったと, みんなすぐ電話使うんだ. hh	
9	A: ทั่วไป [makesense] เลย. A: なんかあまり [意味よく分かん.]	
10	B: [ป่าวพรอ] ูそだ.	
11	B: ป่าวพรอ. ชั้นนั่งเล่นเฟซบุ๊ควะ. ชั้น.. ส่งเฟซบุ๊คไปให้แก, แกไม่ได้โทรวะ? B: ูそだ. 私 facebook をやってたんだ. 君にメッセージ送ったけど, 届いてない?	} 【冗談】
12	A: เออไม่ได้. มีถือเค้า low tech เกิน. hh. A: ูん届いてない. 私の携帯が超ローテクすぎだから.	
13	B: .hhh.h. เออพูดเล่นๆ แก. โทษที่แบบไม่ได้-ไม่ได้ติดต่อกันด้วยอะ. B: .hh.hh 冗談冗談だよ. ご-ごめんなんか連絡しなくて.	} 【謝罪】【容認】
14	B: เออไม่, ก็เห็นปกติตื่นสายประจำไง. แกน่าจะมาสาย ¥ บ้างอะไรบ้างนะ. ¥ hh. [แกคิด] ง. hh B: いや, なんか普段私がよく遅刻するから. 君もたまに遅れたり ¥ すると B: いいかも ¥. hh [(いつも時間通りに来ている) 君が悪い], 君が悪いんだ. hh	
15	A: [อ้อๆ.] (うんうん.)	⇒ 【受け入れ】
16	A: ได้ข่าวว่าจำเป็นต้องไปซื้อของ. A: 買物に行くんじゃないかった?	⇒ 【共同行動要求】
17	B: เออ. อย่างงั้นไปเถอะไปซื้อของกัน. อย่าพูดพ่ทำเพลงเลยไป. hh. B: うん. そしたら買物に行こう. もう無駄話をしないで行こう. hh.	⇒ 【受け入れ】【共同行動要求】

会話 TH9 は、場面9:《間接・時間・軽・親》の状況である。まず、遅れてきた加害者 B が 1B で「เฮ้ย A:รอนานป่าววะ?(おい A:だいが待ってた?)」と【気配り】から会話を開始した。すると、待たされた被害者 A は、2A で「ในที่สุดก็โผล่มา.(やつと来たね.)」と【文句】で反応している。B は、文句に対して、3B で「เออ.ขอโทษวะแก..แต่รอบนี้เราไม่ได้ตื่นสายอีกแล้วนะ.(ええ.ごめ:ん.でも今回寝坊したわけじゃないよ.)」と【謝罪】と共に【責任軽減の主張】をし、さらに、5B で「รอบเนี่ยรถไฟฟ้ามันแบบ-ขัดข้องอะ. ไม่เชื่อแกไปตามที่ตู้รถไฟฟ้าเลยก็ได้เนะเว้ย.(今回-BTS が故障したんだ. BTS の窓口に聞いてみたらいいよ.)」と【言い訳】と共に【裏づけ方法の提供】をしている。しかし、A は再度 6A で「โทษ..แล้วให้เราเป็นคนดี. มีถืออะไรก็ไม่ใช้เลยเธอเนี่ย?(もう. 長く待たせといて. 携帯とかは持ってないわけ?)」と【文句】を言っている。

すると、B は A の抱える不満な気持ちを軽減しようとして、7B-8B²⁵と 11B で【冗談】を言い、その後 13B-14B で「hhh.h.เออพูดเล่นๆแก.โทษที่แบบไม่ได้-ไม่ได้ติดต่อกันด้วยอะ.เออไม่,ก็เห็นปกติตื่นสายประจำไง.แกน่าจะมาสาย ¥ บ้างอะไรบ้างนะ. ¥ hhแกคิดง. hh (冗談冗談だよ.ご-ごめんなんか連絡しなくて.いや,なんか普段私がよく遅刻

²⁵ ここでは、加害者は冗談として卒業式のことを取り上げている。タイの卒業式には多くの人が集まり、お祝いの電話をかけたり、SMSを送ったりするため、しばしば通信が不可能な事態になることがあり、自分の置かれた状況をそのような極端な状況に例えているのである。

するから、君もたまに遅れたりするといいかも、hh(いつも時間通りに来ている)君が悪い、君が悪いんだ、hh)」と【冗談】を交えながら、【謝罪】と【容認】をしている。最後に、Aが15Aで「อ้อๆ。(うんうん.)」と【受け入れ】て会話が終わっている。

次に、あまり親しくない相手との会話を見ていく。

会話 TH10<場面10:交通事情のせいであまり親しくない同等の相手と一緒にいく買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: เอ้าA ขอโทษทีแก: พอดีว่าแบบรถที่นั่งมามีแบบว่า(.)มันเกิดเหตุขัดข้องวะแก: [รถเสีย.] B: あA:ごめん.なんか乗ってきたバスが(.)トラブっちゃって.: [バスが故障したんだ.]	⇒ 【謝罪】【言い訳】
2	A: [อ้อ.แก]ไม่เป็นไรเว้ย.	
3	A: แรกๆก็นึกว่าจะโทรบอกแกว่าไม่เป็นไร.ไม่ต้องมาเตือนฉันไปเองก็ได้. [なるほど.]マイペンライ A: だよ..最初君に自分で行くからもう大丈夫.来なくていいと連絡しよう A: と思ってたの.	⇒ 【理解】【皮肉】
4	B: อ้าวเธอ? เออๆ.โทษทีแก.: ฉันไม่อินโทรศัพท์วะ. B: そうなの?うんうん.ごめんなさい.電話に気付かなかったんだ.	⇒ 【理解】【謝罪】【弁明】
5	A: อ้อๆๆ. A: うんうんうんうん.	⇒ 【理解】
6	B: เออๆๆ.ขออภัย. B: うんうん.ごめんなさい.	⇒ 【謝罪】

会話 TH10 は、場面10:《間接・時間・軽・疎》の状況である。まず、遅刻した加害者 B が 1B で「เอ้าA ขอโทษทีแก: พอดีว่าแบบรถที่นั่งมามีแบบว่า(.)มันเกิดเหตุขัดข้องวะแก: :รถเสีย.(あA:ごめん.なんか乗ってきたバスが(.)トラブっちゃって.:バスが故障したんだ.)」と【謝罪】と共に【言い訳】をしている。それに対して、待たされた被害者の A は、2A-3A で「อ้อ.แกไม่เป็นไรเว้ย.แรกๆก็นึกว่าจะโทรบอกแกว่าไม่เป็นไร.ไม่ต้องมาเตือนฉันไปเองก็ได้.(なるほど.マイペンライだよ.最初君に自分で行くからもう大丈夫.もう来なくていいと連絡しようと思ってたの.)」と【理解】を示しつつ、【皮肉】を言っている。

そこで、加害者 B は、4B で「อ้าวเธอ? เออๆ.โทษทีแก: ฉันไม่อินโทรศัพท์วะ.(そうなの?うんうん.ごめんなさい.電話に気付かなかった.)」と【理解】を示した上で、【弁明】をすると共に【謝罪】をしている。最後に、被害者 A が 5A で「อ้อๆๆ.(うんうんうんうん.)」と【理解】を示すのに対して、遅刻者が 6B で「เออๆๆ.ขออภัย.(うんうん.ごめんなさい.)」と再び【謝罪】をして、会話が終わっている。

THの会話の流れとしてまず、多くの加害者が相手に会ってすぐに【謝罪】、【気配り】をする。そして、待たせられた被害者が親疎の関係により【説明要求】、【文句】、【過失の強調】、【責める】などを使い分け、不満の気持ちを伝える。そうすると、加害者はなぜ遅刻したかについて【言い訳】をし、またなぜ遅れることを先に連絡しなかったか【弁明】を行う。このとき、自分のせいで遅刻したわけではないが、「急いできたよ」と【努力の表明】をしたり、場を改善しようとして【冗談】の使用も見られた

のが、TH の特徴である。それに対して、待たされた被害者が【理解】、【受け入れ】と肯定的に反応する場合もあれば、【評価】、【文句】、【皮肉】と、否定的な反応を示す場合もある。

そして、その後加害者による【弁明】、【言い訳の強調】、【努力の表明】などの様々な発話(=【α】)がさらに続く。また、自分のせいではないので、【裏づけ方法の提供】、【悪気なしの表明】、【責任の軽減】などの付加の発話も多く使用している。それに対して、多くの被害者は肯定的な反応を示しているが、否定的な反応を示す調査対象者もいた。最後に、加害者による【謝罪】、または、被害者あるいは加害者による【共同行動要求】で会話が終わる。

次に、《間接・時間・重》の会話例を見ていく。

(c) 《間接・時間・重》会話の流れ(図 5-(4)を参照)

以下に示す会話 TH11 は親しい相手との会話である。

会話 TH11<場面11: 交通事情のせいで親しい同等の相手と一緒に行く作家のインタビューの約束に 30 分遅刻した>

主要部		
1	B: {Aขอโทษนะเว่ย. ชันมาช้าอะนกก... รถมันเสียจริงๆอะ.}	
	B: {A ごめん.遅かったわ... 電車が故障したんだ.}	⇒ 【謝罪】【容認】【言い訳】
2	A: นก,แรงมากนัดคนไว้ด้วย. ทำใจ.	
	A: {すごいことをやってくれたじゃない.人と約束してるし.どうしてくれるんだ.}	⇒ 【非難】
3	A: แล้วนกไม่โทรมาหาฉันเลย. ชันไม่รู้จะบอกเค้าว่ายังไงเลยนกก. [เข้าไปโทษะไปขอโทษ-.]	
	A: {電話もくれなかったし.向こうにどう伝えればいいのかわかんないよ.}	⇒ 【文句】
	A: {もう行こう行こう.謝りに-.}	⇒ 【共同行動要求】
5	B: [เขื่อนกไม่ต้องชี้แจงนะเว่ย.] =	
6	B: {เรื่องนี้ฉันรับผิดชอบเอง.=เดี๋ยวฉันเป็นคนบอกเค้าเองว่าฉันเป็นคนมาสายอะนกก.}	} 【責任表明】
	B: {.[心配しないで.] =このことは私が責任を取るから.=遅刻したのは}	
	B: 私だって自分から言うよ.	
7	A: แต่มันก็ไม่ตีป่าววะ? แล้วนกกจะไปบอกเค้าว่าไร.	
	A: {でもそれもよくないでしょ?作家に君がなんて言うの.}	⇒ 【否定】【情報要求】
8	B: {เขื่อนกไฟฟ้ามันขัดข้องจริงๆนะเว่ยนกก. ชันไม่รู้จะทำยังไงอะ.} ชันก็คิดที่ฉันไม่ได้โทรบอกนกกอะ.	
	B: {だって本当に電車が故障したんだって.どうしたらいいかわからなかったん}	} 【言い訳の主張】
	B: {それに君に電話しなかったのが悪かったよ.}	
9	A: เออๆ.ฉันเรารีบไปโทษะ.จะได้ไปบอกเค้าทันไป	
	A: {わかったわかった.じゃ急いで行こう.彼に説明しに行こう.}	⇒ 【受け入れ】【共同行動要求】
10	B: เออ.โอเค.	
	B: {うん.分かった.}	⇒ 【承諾】

会話 TH11 は場面11:《間接・時間・重・親》の状況である。まず、遅刻してきた B が 1B で「{A ขอโทษนะเว่ย. ชันมาช้าอะนกก... รถมันเสียจริงๆอะ.} (A ごめん.遅かったわ... 電車が故障したんだ.)」と甘えるような声で【謝罪】と共に【言い訳】を行っている。それに対して、被害者 A が 2A で「นก,แรงมากนัดคนไว้ด้วย. ทำใจ. (すごいことをやってくれたじゃない.人と約束してるし.どうしてくれるんだ.)」とすぐに【非難】をしている。続いて 3A で「แล้วนกไม่โทรมาหาฉันเลย. ชันไม่รู้จะบอกเค้าว่ายังไงเลยนกก.เข้าไปโทษะไปขอโทษ-. (電話もくれなかった

たしよ。向こうにどう伝えればいいのかわかんないよ。もう行こう行こう。謝りに-)」と連絡をくれなかったことに対して【文句】、そして、【共同行動要求】を行っている。

この後、加害者 B が 5B-6B で「เฮ้ยแกไม่ต้องซีเรียสนะเว้ย.=เรื่องนี้เดี๋ยวจับผิดชอบเอง.=เดี๋ยวจับเป็นคนบอกตัวเองว่าฉันเป็นคนมาสายอะแก。(心配しないで.=このことは私が責任を取るから.=遅刻したのは私だって自分から言うよ.)」と【責任の表明】をしている。それに対して、被害者が 7A で「แต่มันก็ไม่ดีป่าววะ?แล้วแกจะไปบอกเค้าว่าไร。(でもそれもよくないでしょ?作家になんて言うの.)」と【否定】・【情報要求】をしている。すると、加害者 B が 8B で「{เฮ้ยรถไฟฟ้ามันขัดข้องจริงๆนะเว้ยแก.ฉันไม่รู้จะทำยังไงอะ.}ฉันก็ผิดที่ฉันไม่ได้โทรบอกแกอะ.({だって本当に電車が故障したんだって.どうしたらいいかわからなかったんだ.})それに君に電話しなかったのが悪かったよ.)」と甘えるような声で【言い訳の主張】をした後、【自己非難】をしている。最後に、9A で「เออๆ.(わかったわかった.)」と【受け入れ】てから、【共同行動要求】に入っている。

次に、あまり親しくない相手との会話を見ていく。

会話 TH12<場面 12: 交通事情のせいであまり親しくない同等の相手と一緒に歩く作家のインタビューの約束に 30 分遅刻した

>

主要部		
1	B: เฮ้ย A:, ขอโทษจริงๆ เหนือรถไฟฟ้าที่เรานั่งมาอะ, มันเสีย. เรา ก็เลยต้องนั่งอีกขบวน-นั่งมาอะ. B: あ A:, 本当にごめんなさい。乗った BTS が、故障したんだ。それでもう一本に乗り換えなきゃならなかったんだ。	⇒ 【謝罪】【言い訳】
2	A: (0.2) ก็::เออ: ไม่เป็นไรมั้ง. ก็(.) เค้า(.) ที่เค้าคงรอได้อะ. เออ. A: (0.2) ああ: っ::ん. マイペンライだろう? あの(.) 人(.) 先輩が待っててくれるだろう。	⇒ 【理解】【皮肉】
3	B: ไม่ได้สิ. เอาจริงแล้วกัน. เดี่ยวขอเบอร์-เดี๋ยวเราอะขอเบอร์(.) นักเขียนคนนั้นอะ จาก A แล้วกัน. B: เดี่ยวเราอะโทรไปขอโทษเค้าเอง. แล้วบอกเค้าเองว่าเราสองคนอะ กำลังจะเดินทางไปหาเค้าแล้ว.	⇒ 【責任表明】
4	B: いや. じゃ, 電話番号頂戴. その作家の(.) 電話番号教えてもらわ. B: 彼に電話して謝るわ. そして私たちは今からそっちに向かうことも伝えとくね.	⇒ 【受け入れ】
5	A: เออ. ก็ดีเหมือนกันนะ. ที่เค้าจะได้ไม่กระวนกระวายนะ. A: うん. それもいいね. 先輩がいらいらしないように.	⇒ 【共同行動要求】【謝罪】
6	B: จะๆ. ไป. ขอ [โทษละ] กัน. B: うんうん. 行こう. [ごめん] ね.	⇒ 【受け入れ】
7	A: [เออ.] (うん.)	
8	A: เออ. (うん.)	⇒ 【受け入れ】

会話 TH12 は場面 12:《間接・時間・重・疎》の状況である。この会話も親しい状況(会話 TH3)と同じく、1B で【謝罪】、【言い訳】から始まっているが、被害者の反応は、【文句】のような明示的な批判をするのではなく、2A で「ก็::เออ: ไม่เป็นไรมั้ง. ก็(.) เค้า(.) ที่เค้าคงรอได้อะ. เออ. (ああ: っ::ん. マイペンライだろう? あの(.) 人(.) 先輩が待っててくれるだろう.)」と【理解】をした後に【皮肉】を使って、相手に過失を感じさせている。

そうすると、3B-4B で「เดี๋ยวเราอะโทรไปขอโทษเค้าเอง. แล้วบอกเค้าเองว่าเราสองคนอะ กำลังจะเดินทางไปหาเค้าแล้ว. (彼に電話して謝るわ. そして私たちは今からそっちに向かうことも伝えとくね.)」加害者自ら作家に謝ろうとす

る【責任の表明】をし、それに対して5Aで【受け入れ】ている。最後に、加害者Bが6Bで「จ้ะจ.ไป.ขอโทษนะ. (うんうん.行こう.ごめんね.)」と【承諾】をした後、【謝罪】と共に【共同行動要求】をしている。

タイ語の重い状況での会話の流れは軽い状況と同じ流れを持ち、多くの加害者が相手に会ってすぐに【謝罪】をする。ただし、状況の内容が重いため、日本語と同じように第三者である作家に気を配るような【心配の表明】の発話が見られた。そして、多くの会話は加害者が会話を続けて自発的に【言い訳】をするが、待たされた被害者が【説明要求】、【文句】で不満の気持ちを伝え、加害者に【言い訳】を言わせることもある。そうすると、加害者がなぜ遅刻したかと【言い訳】、及びなぜ遅れることを連絡しなかったかと【弁明】を行っている。このときに、付加の発話として【謝罪】、【気配り】などが一緒に用いられるが、自分のせいで遅刻したわけではないと、全面的に責任を負うのを回避しようとする【責任の回避】、または【努力の表明】の発話も多く見られた。それに対して、待たされた被害者からは【理解】、【気遣い】、【思いやり】、【許し】のような肯定的反応と、【文句】、【非難】、【皮肉】のような否定的な反応の2つに分かれる。

この後軽い状況と同じように、加害者による【弁明】、【言い訳の強調】、【努力の表明】などの様々な発話(= α)がさらに続く。また、自分のせいではないので、【悪運の強調】、【悪気なしの表明】、【責任の軽減】などの付加の発話も多く使用される。それに対して、被害者の反応も肯定的と否定的の2つに分かれている。最後に、被害者あるいは加害者による【共同行動要求】で会話が終わる。

以上で、《間接・時間》の状況におけるTHの会話の流れについて述べてきた。THの会話の特徴は次のようにまとめられる。

- ① THの会話の流れは、軽・重どちらの状況においても、同じ傾向である。ただし、軽い状況で相手が親友である場合は被害者の【文句】によって言い訳がなされるケースが多い。
- ② 加害者・被害者の両者からの発話は、ともに多種多様であり、加害者の発話は単に、【言い訳】と、【謝罪】だけでなく、【悪気なしの表明】、【言い訳の強調】などの発話の使用も多く見られる。
- ③ 被害者の反応は肯定的・否定的の両方の反応の使用が見られるが、親疎の相手によって使用が異なる。親の相手には否定的な反応が使用されやすいが、疎の相手には肯定的な反応が使用される。ただし、【皮肉】は純粹に肯定的な反応とは異なる。
- ④ 被害の程度が重い状況でも、会話が長く続く。

5.1.1.3 《間接・時間》状況での会話の流れのまとめ

本節では、《間接・時間》状況における会話について述べた。本節を締めくくる前に、JP と TH の会話の流れの相違点をまとめる。

- ① 使用する言い訳のタイプは、JP・TH ともに親疎関係、及び内容の軽重という要因に影響されず、基本的に自発的言い訳が使用される結果となった。ただし、被害が軽い状況の場合、親疎関係という要因が大きく影響を及ぼし、TH は【文句】に対する言い訳の使用が多くなる。
- ② 会話の流れに関して言えば、日本語の場合は被害の軽重にかかわらず、前半は同様であるが、後半は多少異なる。また、言い訳に対する被害者の反応も肯定的なものしかない。一方、タイ語の場合は軽・重問わず、会話の流れがほぼ同じである。また、TH は加害者・被害者ともに使用する発話が日本語に比べるとかなり種類が多い。
- ③ 特に重い状況では、長く話す時間がないため、JP の調査対象者はあまり長いやりとりをせず、【謝罪】、【受け入れ】のような発話を使ってすぐに作家のところに行こうと【共同行動要求】をし、会話を短くしようとするが、TH は被害者に【文句】を言われると、さらに【言い訳の強調】、【悪気なしの表明】のような発話で反応するため、会話がなかなか終わらず、長く続いている。

次項では、言い訳の発話とそれに対する被害者の反応の発話だけに焦点を当てて考察する。

5.1.2 加害者が使用する言い訳内容、及びその言い訳に対する被害者の反応

本項では、《間接・時間》状況において加害者が使用した言い訳について、会話例を挙げながら、JP と TH の間にどのような違いが見られたかを詳しく論じていく。尚、前述したようにここでは言い訳の会話の流れの前半だけに焦点を当てて結果を述べていく。

分析では、まず言い訳を[正直に言う]、あるいは[正直に言わない]の2つに分ける。

表 5-(3)は《間接・時間》状況のロールプレイデータに見られたJPとTHの言い訳内容別の結果である。

表 5-(3) 《間接・時間》状況におけるJPとTHが使用した言い訳内容別の会話数

《直接・時間》状況		JP	TH
場面9「軽・親」	正直に言う	8	8
	正直に言わない	0	0
言い訳をしない		0	0
合計		8	8
場面10「軽・疎」	正直に言う	7	8
	正直に言わない	0	0
言い訳をしない		1	0
合計		8	8
場面11「重・親」	正直に言う	8	8
	正直に言わない	0	0
言い訳をしない		0	0
合計		8	8
場面12「重・疎」	正直に言う	6	8
	正直に言わない	0	0
言い訳をしない		2	0
合計		8	8
合計		32	32

JP と TH はいずれも、被害の程度、及び親疎に関わらず、原因が直接的に自分の行動によらない《間接・時間》状況では、多くの調査対象者がその被害の原因を[正直に言う]結果であったため、[正直に言わない]場合の分析は見送る。以下で、JPとTHが用いている会話例を挙げながら、言い訳の内容と被害者の反応を考察する。

5.1.2.1 言い訳の発話の特徴と被害者の反応の特徴

ここでは、状況別に加害者が用いた言い訳の内容の特徴を見ていく。また、それぞれの言い訳の発話が被害者の反応にどのように影響を与えるかという点も考察する。

5.1.2.1.1 [正直に言う]場合

まず、日タイの母語話者が使用した[正直に言う]場合の会話例を挙げながら考察する。

(1) 日本語母語話者の場合

日本語のデータを見ると、この状況は自分に非がないため、ほとんどは遅刻の原因を[正直に言う]結果であったが、相手あまり親しくない人であると、言い訳をしない調査対象者もいた。そのような意味では、JPにとって、親疎の関係が「正直に言う」か「正直に言わない」かに影響を与えると見えるだろう。また、以下の図 5-(5)、5-(6)のように、被害の程度別で言い訳会話のパターンを見ると、親疎のどちらにおいても、似たようなパターンになっている。

図 5-(5) 被害程度の軽い状況において JP が使用している[正直に言う]言い訳会話のパターン

親しい関係	あまり親しくない関係
加:【言い訳】(+【謝罪】…)	加:【言い訳】(+【謝罪】【弁明】…)
被:【理解】/【受け入れ】/【気遣い】/【文句】	被:【理解】/【気遣い】/【文句】

図 5-(6) 被害程度の重い状況において JP が使用している[正直に言う]言い訳会話のパターン

親しい関係	あまり親しくない関係
加:【言い訳】(+【謝罪】【事情説明】【弁明】【気配り】 【後悔】…)	加:【言い訳】(+【謝罪】【事情説明】【弁明】 【自己非難】…)
被:【理解】/【受け入れ】	被:【理解】/【受け入れ】

図 5-(5)に示したように、被害の軽い状況で、JPが被害の原因を[正直に言う]とき、親・疎いずれの相手に対しても【言い訳】を行い、多くは【謝罪】とともに発せられている。また、その言い訳に対して被害者の多くは【理解】、【受け入れ】などのような肯定的な反応を示すが、【文句】のような否定的な反応で返す調査対象者もいた。

また、図 5-(6)に示したように被害の重い状況で、JPが被害の原因を[正直に言う]とき、【謝罪】のみならず、なぜ遅れたのか【事情説明】をしたり、遅れることを先に相手に連絡しなかったことについて【弁明】したり、あるいは自分の行動に対して、【自己非難】や、【後悔】などを表す発話も使われる。また、その言い訳に対する被害者の反応は、【理解】、【受け入れ】のような肯定的な反応しかない。

以下でまず、軽い状況での会話例を見ていく。

{被害の程度が軽い場合}

会話 JP8<場面9:交通事情のせいで親しい同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: なんかね:(.)[電]車が(.)なんか(.)トラブルがあつたらしくて:,	} 【言い訳】
2	B: [うん.]	
3	A: うん.	} 【言い訳の言い直し】【謝罪】
4	B: なんかに>故障かなんかで[動か]んくなつ(.)て..で,30分<(.)ごめんね.	
5	A: [うんうん.]	
6	B: 本当遅れて[ごめんね.]	
7	A: [うんうん.]しょうがないよ,それは.	⇒ 【受け入れ】【気遣い】

会話 JP9<場面9:交通事情のせいで親しい同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: ちょっとさ[:],阪急には珍しく電車が(.)なんか遅れてて[.]人身事故	} 【言い訳】【謝罪】
2	A: [うん] [うん]	
3	B: かなんか[で:]全然(.)進まなくて[.]だから遅れちゃって.(.)ごめんね.=	
4	A: [うん] [うん]	
5	A: =連絡してくれればよかったのに:	⇒ 【文句】

会話 JP8 と会話 JP9 は、場面9:《間接・時間・軽・親》の状況である。会話 JP8 で加害者 B が使用した言い訳は 1B の「なんかね:(.)電車が(.)なんか(.)トラブルがあつたらしくて:。」と、4B の「なんかに>故障かなんかで動かんくなつ(.)て..」であり、そして、会話 JP9 では 1B と 3B の「ちょっとさ:,阪急には珍しく電車が(.)なんか遅れてて_人身事故かなんかで:全然(.)進まなくて_」で、いずれも交通事情のせいで遅れたという正直な言い訳内容である。

ところが、被害者の反応は、会話 JP8 の 7A「うんうん.しょうがないよ,それは。」と【受け入れ】、【気遣い】のような肯定的な反応もある一方で、会話 JP9 の 5A の「連絡してくれればよかったのに:」と【文句】のような否定的な反応もある。加害者自身に原因がないため、ほとんどの調査対象者は【理解】、【受け入れ】のような肯定的な反応をするしかないのだろうが、会話 JP9 のように否定的な反応として【文句】を使うこともある。このような【文句】を言う会話は2例見られた。しかし、いずれも言い訳の内容に対する文句ではなく、連絡をくれなかったことに対してである。

この状況は被害の程度も軽く、しかも相手が親友なので、普段あまり自分の感情を表さない JP でも、自分の気持ちをよりストレートに出しやすくなるのではないかと推測される。

次は、あまり親しくない同等の相手との会話を見ていく。

会話 JP10<場面10:交通事情のせいであり親しくない同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: なんかさ、電車がさ[:]止まっちゃってさ[:]途中で、	⇒ 【言い訳】
2	A: [うん.] [うん.]	
3	A: うん.	} 【事情説明】
4	B: で、なんか他にいく方法ないかなと思ってんけど..	
5	A: うん.	
6	B: (0.2)そう。待つしかなくて.	
7	A: うん.	} 【理解】【思いやり】
8	B: こんな時間なっちゃって.	
9	A: あ、そっか。[いや]なんかさ、待ち合わせ時間になっても[来]ないから、	
10	B: [そう.] [ふん.]	} 【気遣い】
11	B: うん.	
12	A: .hあれ?どうしたんかなって思って、いや、でも、なんかメールとか	
13	A: もするまでもないかなって思って、まあ、待ってたけ-大丈夫、うん.	

会話 JP11<場面10:交通事情のせいであり親しくない同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: ちよつとなん[か]、めっちゃ電車止まっとって。(0.2)うち難波から来るんやけど.	⇒ 【言い訳】
2	B: [ん?]	
3	A: うん.	} 【事情説明】
4	B: うん、なんか御堂筋?	
5	A: うん.	
6	B: が:,なんか結構(.)もう来たときに[10分]ぐらい,[なんか]おしてます	
7	A: [hh] [hh]	} 【文句】
8	B: みたいな感じになって、	
9	A: 連絡くれ¥たらよかったのに:¥hh	

上記の会話 JP10 と会話 JP11 は、場面10:《間接・時間・軽・疎》の状況である。この2つの会話とも「なんかさ、電車がさ:止まっちゃってさ:途中で、」や、「ちよつとなんか、めっちゃ電車止まっとって。」と加害者が遅刻した原因を正直に言っている。

被害者の反応としては、会話 JP11 のように疎の相手に【文句】で返しているものが1例のみであり、ほとんどは JP10 の被害者の反応と同様で、【理解】で返している。

次に重い状況での会話例を見ていく。

{被害の程度が重い場合}

会話 JP12<場面11:交通事情のせいであり親しい同等の相手と一緒に行く作家のインタビューの約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: ヤバイ、ヤバイそうやんな。=[待つ]てはるよな。=[ごめん]	⇒ 【気配り】【謝罪】
2	A: [うん.] [うん.]	
3	B: ちよつと電車が遅れて[ごめ:ん.]連絡すればよかったんですけど.	⇒ 【言い訳】【謝罪】【後悔】
4	A: [あ,そうなんや.]	
5	A: うんうん.	⇒ 【理解】【受け入れ】

会話 JP13<場面12:交通事情のせいであり親しくない同等の相手と一緒に行く作家のインタビューの約束に 30 分遅刻した

>

主要部		
1	B: ごめん.すごい遅くなっ[ちゃった:]	【謝罪】【容認】
2	A: [ふんふんふん.]	
3	B: 今日電車が:[途]中で止まってしまって[.]で,しかも連絡しようと思った	【言い訳】【弁明】
4	A: [うん.] [うん.]	
5	B: んだけ[ど:](.)こんな日に限って携帯を忘れて[きてて:](.)ごめん.すごい遅く	【自己非難】【謝罪】
6	A: [ふん.] [うんうん]	
7	B: なっ[ちゃった.]=待たせたよね.	【気配り】
8	A: [うんうん.]	⇒ 【受け入れ】
9	A: うん.	

会話 JP12 は、場面11:《間接・時間・重・親》の状況である。会話 JP13 は場面12:《間接・時間・重・疎》の状況である。使用された言い訳の内容は、会話 JP12 では 1B と 3B の「ヤバイ,ヤバイそーやんな.=待ってはるよな.=ごめんちょっと電車が遅れてごめ:ん.」、そして、会話 JP13 では 3B の「今日電車が:[途中で止まってしまって」というもので、いずれも遅刻の原因を正直に述べている。

被害者の反応は、上記の会話のように【理解】、【受け入れ】の肯定的な反応のみであった。

以上の結果のように JP が使用している[正直に言う]言い訳の内容は全て同じで、親疎に関わらず、いずれの状況でも「電車が遅れた」と正直に言い訳をしていた。インタビューによると、「自分のせいじゃないから、そのまま(交通機関のせい)を言えるのです」、「自分に原因がないので、うそをつく必要がない」と述べている。また、被害者の反応は言い訳の内容の影響を受けないようである。

次に TH の結果を見ていく。

(2) タイ語母語話者の場合

タイ語のデータも日本語と同様で、自分に非がない場面では TH の調査対象者全員が遅刻の原因を[正直に言う]結果であった。また、言い訳の内容自体は被害者の反応に影響を与えないが、相手との親疎という関係が被害者の反応に影響を与えることが明確になった。

図 5-(7) 被害程度の軽い状況において TH が使用している[正直に言う]言い訳会話のパターン

親しい関係	あまり親しくない関係
加:【言い訳】(+【謝罪】【弁明】【事情説明】【証拠の提示】【責任の軽減】【冗談】…)	加:【言い訳】(+【謝罪】【事情説明】【責任の軽減】…)
被:【理解】/【思いやり】/【文句】/【疑い】/【評価】	被:【理解】/【受け入れ】/【許し】/【驚き】/【文句】/【皮肉】

図 5-(8) 被害程度の重い状況において TH が使用している[正直に言う]言い訳会話のパターン

親しい関係	あまり親しくない関係
加:【言い訳】(+【謝罪】/【弁明】/【気配り】/【事情説明】【努力の表明】/【冗談】…)	加:【言い訳】(+【謝罪】/【気配り】/【事情説明】/【心配の表明】/【責任の回避】…)
被:【理解】/【文句】/【非難】	被:【理解】/【気遣い】/【許し】/【文句】/【皮肉】

図 5-(7)に示したように被害が軽い状況で TH が被害の原因を[正直に言う]とき、親・疎いずれの相手に対しても全員が【言い訳】を行い、【言い訳】を行うとき、【謝罪】の他に、TH は急いで来た【証拠の提示】をしたり、または自分のせいで遅刻したわけではないと【責任の軽減】をしたりする様々な発話を使用されている。そして、その言い訳に対する被害者の反応は、疎の相手には【理解】、【受け入れ】のような肯定的な反応が見られるが、親の相手になると【文句】、【非難】のような否定的な反応で返す傾向がある。

そして、図 5-(8)に示したように被害の程度が重い状況では、【言い訳】を行うとき、軽い状況で用いられる発話の他に、被害の程度が重いため、急いで来ようとしたことを言う【努力の表明】、遅刻したことで起こりそうな問題に対する【心配の表明】、自分に原因がないという【責任の回避】などの使用が見られる。そして、親の相手との会話では、加害者自らその場の雰囲気改善しようとするために、【冗談】のような発話も見られた。また、その言い訳に対する被害者の反応は、自分に非がないにもかかわらず、軽い状況に比べると否定的な反応の使用が増え、また、あまり親しくない相手にでも、【皮肉】のような否定的な反応が見られた。

以下、まず軽い状況での言い訳の内容を見ていく。

{被害の程度が軽い場合}

会話 TH13<場面9:交通事情のせいで親しい同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: ช้าออกมาแต่เช้าแล้วอะ. แต่พอติดรถที่นั่งมามันเสียวะ. B: 朝早くから出てきたけど,乗ったバスが故障して.	⇒ 【責任の軽減】【言い訳】
2	A: อ้าว?แล้วทำไมแกไม่โทรมาบอกอะ. ปล่อยให้รออยู่ได้. A: そうなの?連絡してくれればよかったのに.ずっと待ってた.	⇒ 【文句】

会話 TH14<場面10:交通事情のせいであまり親しくない同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: เฮ้ยA เราขอโทษนะ. รถไฟฟ้ามัน(.)เกิดเหตุขัดข้องอะไรไม่รู้อะ . B: ああ, A,ごめんなさいね.BTS が(.)何かのトラブルがあったみたい.	} 【謝罪】【言い訳】
2	B: ตรงสถานีเพลินจิตอะ.(0.4) เออ.รอตั้ง(.)ครึ่งชั่วโมงนะกว่าจะมาถึงนี่อะ. B: プローンチット駅で.(0.4)うん.ここに来られるまで30分も(.)待ってたのよ.	
3	B: อ้อ.ขอโทษจริงๆ,ขอโทษจริงๆ. B: うん.本当にごめんなさい,本当にごめんなさい.	} 【事情説明】
4	A: โอเค.ไม่เป็นไรๆ. A: うん,分かった.いいよいいよ.	} 【謝罪】
		⇒ 【受け入れ】【許し】

会話 TH13 は、場面9:《間接・時間・軽・親》の状況で、会話 TH14 は、場面10:《間接・時間・軽・疎》の状況である。会話 TH13 で加害者 B が使用した言い訳は「เออ.ช้าออกมาแต่เช้าแล้วอะ. แต่พอติดรถที่นั่งมามันเสียวะ. (うん.朝早くから出てきたけど,乗ったバスが故障して.)」で、会話 TH14 では「เฮ้ยAเราขอโทษนะ.รถไฟฟ้ามัน(.)เกิดเหตุขัดข้องอะไรไม่รู้อะ. ตรงสถานีเพลินจิตอะ(0.4)เออ.รอตั้ง(.)ครึ่งชั่วโมงนะกว่าจะมาถึงนี่อะ. (ああ A,ごめんなさいね.BTS が(.)何かのトラブルがあったみたい. プローンチット駅で.(0.4)うん.ここに来られるまで30分も(.)待ってたのよ.)」という事実を述べている。

それに対して、被害者の反応は親友との会話の場合は、会話 TH13 のように、「อ้าว?แล้วทำไมแกไม่โทรมาบอกอะ. ปล่อยให้รออยู่ได้. (そうなの?連絡してくれればよかったのに.ずっと待ってた)」と【文句】で返すことが多いが、あまり親しくない相手になると、会話 TH14 のように、「โอเค.ไม่เป็นไรๆ. (うん,分かった.いいよいいよ.)」と【受け入れ】、【許し】で返す傾向がある。

次に、重い状況の結果を見ていく。

{被害の程度が重い場合}

会話 TH15<場面11:交通事情のせいで親しい同等の相手と一緒に行く作家のインタビューの約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: {Aขอโทษนะเว่ย.ฉันมาช้าอะแกละ..รถมันเสียจริงๆอะ..}	⇒ 【謝罪】【容認】【言い訳】
	B: {A ごめん.遅かったわ..電車が故障したんだ.}	
2	A: แกละแรงมากนี่คนโง่ด้วย.ทำไม. A: {すごいことをやってくれたじゃない.人と約束してるし.どうしてくれるんだ.}	} 【非難】
3	A: แล้วแกละไม่โทรมาหาฉันเลย.ฉันไม่รู้จะบอกเค้าว่ายังไงเลยแกละ[เฮ้ยไปเถอะไปขอโทษ-] A: {電話もくれなかった.向こうにどう伝えればいいかわかんないのよ.}	
	A: {もう行こう行こう謝りに-}	⇒ 【文句】【共同行動要求】

会話 TH16<場面12:交通事情のせいであまり親しくない同等の相手と一緒に行く作家のインタビューの約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: เฮ้ยA, ขอโทษทีเว่ย.พอดีรถไฟฟ้ามันแบบ-,วันนี้มันแบบเกิดเหตุขัดข้องอะแกละ.ฉันรอนานมากเว่ย. B: {あつA, ごめんなさい.なんかBTSが今日-,なんかトラブルがあったみたい.}	⇒ 【謝罪】【言い訳】
	B: {すぐく待たされたんだ.}	
2	A: {เพราะ?แกละ.รอนาน. ↑ ไม่เป็นไรๆ.เพราะว่าพี่เค้าก็รออยู่ข้างในแล้วเว่ย.}	⇒ 【理解】【皮肉】【文句】
	A: {そうなの?君かなり待ってた? ↑ マイペンライマイペンライ,}	
	B: {先輩も中で待ってるんだよ.}	

会話 TH15 は場面11:《間接・時間・重・親》の状況で、会話 TH16 は場面12:《間接・時間・重・疎》の状況である。会話 TH15 で使われている言い訳は「{Aขอโทษนะเว่ย.ฉันมาช้าอะแกละ..รถมันเสียจริงๆอะ..} ({A::遅くてごめんね.電車が故障したんだ.})」と甘えているような声で言い訳をしているもので、会話 TH16 での言い訳は「เฮ้ยA, ขอโทษทีเว่ย.พอดีรถไฟฟ้ามันแบบ-,วันนี้มันแบบเกิดเหตุขัดข้องอะแกละ.ฉันรอนานมากเว่ย.(あつA, ごめんなさい.なんかBTSが今日-,なんかトラブルがあったみたい. すぐく待たされたんだ.)」と【言い訳】を強調しながら、事実が述べられているものである。

それに対して、被害者の反応は、会話TH15 でははっきりと【非難】と【文句】の発話が返され、会話 16 では、初めは【理解】が示されているが、その後、【皮肉】²⁶、【文句】が用いられている。

会話 16 のように、タイ語では相手を批判するとき、特にあまり親しくない相手であると、「マイペンライ」という表現(日本語では「大丈夫」「気にしなくていい」という意味)を使って皮肉を言う傾向がある。この会話では、被害者が2Aで最初に「そうなの?君かなり待ってた?」と【理解】を示し同情をするが、その後「↑ マイペンライマイペンライ, 先輩も中で待ってるんだよ. と【皮肉】を言っている。このように「マイペンライ」を2回言った後、相手を批判する発話と共に用いられる傾向がある。また、「マイペンライ」を強調するように高く発しているが、冷たい言い方をしていることによって、非タイ語母語

²⁶ マイペンライの用法について、詳細はソーピットウッティウォン(2012)で論じている。

話者の中で知られている「大丈夫」「気にしなくていい」の意とは異なり、「大丈夫じゃない」という意味を暗示している。

以上の結果のように、この《間接・時間》状況においては、直接的に自分に非がないため、TH の調査対象者全員が[正直に言う]結果となった。インタビューによると、「ตัวเองไม่ได้เป็นต้นเหตุของการมาสายก็เลยพูดไปตามตรง (遅刻の原因は自分ではないので、そのまま言うことにした)」、「มันเป็นเหตุสุดวิสัยจริงๆ พูดความจริงออกไปก็คงไม่เป็นอะไร (これは仕方がないことなので、本当のことを言っても平気だろう)」と意見が述べられている。また、そのとき【責任の軽減】、あるいは【責任の回避】のような自分の自分に非がないことを主張する発話も見られている。そして、被害者の反応として、直接的に加害者の行動によって遅刻したことではないにもかかわらず、否定的な反応の使用が多く見られ、特に親友相手に【文句】、【疑い】などの反応で返されることが多い。さらに、今回の結果では、会話 TH8 のように、あまり親しくない相手には TH が遠回しに非難しようとして【皮肉】を使用する意図が読み取れよう。

5. 1. 2. 1. 2 [正直に言わない]場合

データなし。

5. 1. 2. 2 《間接・時間》における加害者の言い訳の内容と、それに対する被害者の反応のまとめ

以上、《間接・時間》の状況について、JPとTHの言い訳の内容と、被害者の反応の仕方を見てきた。この《間接・時間》の状況では、自分に非がないため、JP と TH の調査対象者全員が遅刻の原因を[正直に言う]結果となった。しかしながら、同じ結果になったとはいえ、【言い訳】を行う際に、JP と TH が取る言語行動は異なり、また、言い訳に対する被害者からの反応は明らかに異なる。JP と TH の相違点は以下のようにまとめられる。

- ① JP は主に非を認め、【言い訳】の際には、【謝罪】あるいは第三者に配慮するような【心配の表明】、【後悔】などが一緒用いられるのに対して、TH は場を改善しようとするために【冗談】を使ったり、あるいは【責任の回避】や【責任の軽減】などを使って、自分に非がないことを主張しようとする。
- ② 被害者の反応に関しては、JP はいずれの相手、状況でも【理解】のような肯定的な反応を示す傾向があるが、TH の反応には【理解】、【気遣い】などの受け入れ的な反応と、【文句】、【皮肉】などの否定的な反応の両方があり、相手との関係によって反応の使用が異なる。

5.1.3 《間接・時間》のまとめと考察

以上見てきたように、《間接・時間》状況でJPとTHが使用する言い訳タイプは、〔自発的言い訳〕が最も多い。これは遅刻してきた人がまず【謝罪】をし、その後、遅刻理由を説明するのが一般的だと考えられ、当然の結果といえるだろう。ところが、THの場合、相手と親しければ、被害者は自分の不快・不満の感情が言いやすくなり、場面9のような買い物に遅刻したという身近な状況では、多くのTHは被害者が先に文句を言い、加害者は【文句】に対する言い訳を使用する結果になった。この使用する言い訳タイプの違いは、THの親疎関係の影響によりもたらされているといえるだろう。

また、会話の流れについては、日本語は被害の軽・重どの状況においても似たような流れだが、重い状況での会話は比較的短い。一方、タイ語の場合は、軽・重どの状況においても、会話の流れも長さも同様である。JPは何らかのミスが生じたとき、よく【謝罪】を使って、一部自分にも責任があると先に認めてしまうので、相手に責められず、会話がすぐに終わる。しかし、THは自分に非がなかったら、必死で相手に自分のことを理解してもらおうと【言い訳の主張】、【責任の軽減】、【悪気なしの表明】などの発話を使う。それでも相手がなかなか納得してくれないので、会話が長く続くと考えられる。

また、会話の中で加害者・被害者それぞれが使用する発話を観察すると、JPは【言い訳】の際、【謝罪】を一緒によく使用し、また、【言い訳】に対する反応もほとんどが【理解】、【気遣い】などの肯定的な反応である。それに対して、THは【言い訳】の際、【謝罪】の他に、【責任の回避】など自己防御のような発話も目立つ。そして相手の反応も、相手を批判するような【文句】や【皮肉】などの発話の使用が目立つ。つまり、JPとTHの間で言い訳の際の言語行動の違いがあることは明白である。これは、日本語母語話者は、何らかのミスが生じたとき、たとえ自分に非がなくても、自分が一言謝っておけばお互いの気持ちがすっきりし、相手の非を責める理由がなくなると考えていることによるのではないだろうか。しかし、タイ語母語話者は、特に自分に非がないときは、自分が悪くないことを相手に理解してもらえよう、【証拠の提示】、【責任の軽減】など、自分に非がないことを必死に主張しようとする発話を多く使用する。それによって、被害者側は、余計に怒りを表明しやすくなり、否定的な反応を引き起こす結果となっているのではないかと考えられる。

5.2 「直接的に自分の行動によらない原因で相手の所有物に被害が与えられた」状況について

本節で扱う「直接的に自分の行動によらないものの相手の所有物に被害が与えられた」状況(以下《間接・物》とする)とは、友達から物(ノート/本・バッグ)を借りたが、直接的に自分に原因がない外的要因²⁷により、その物に被害が与えられた状況のことである。分析対象は以下の4場面である。

表 5-(4) 5.2分析対象場面

場面	略称	状況内容
13	間接・物・軽・親	人にぶつかられて自分が持っていた親しい同等の相手の本に折り目がついた
14	間接・物・軽・疎	人にぶつかられて自分が持っていたあまり親しくない同等の相手のノートに折り目がついた
15	間接・物・重・親	雨のせいで親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグが雨に濡れた
16	間接・物・重・疎	雨のせいであまり親しくない同等の相手に貸してもらった大事なバッグが雨に濡れた

分析の結果、《間接・物》状況における言い訳のタイプは、JPとTHともに〔自発的言い訳〕のタイプが最も使用された。会話全体の流れは、JPは「加: 言い訳⇒ 被: 反応⇒ 加: 対処遂行の報告²⁸ ⇒ 被: 反応⇒ 加: 問題解決・謝罪⇒ 会話の終了」となっているのに対して、THは「加: 言い訳⇒ 被: 反応⇒ 加: α ⇒ 被: 反応⇒ 加: 問題解決・謝罪⇒ 会話の終了」である。つまり、被害の程度や、親・疎の相手との関係によって、日本語とタイ語の会話の流れは異なっている。言い訳の内容については、JPもTHも全ての会話が、ノート/本・バッグを損傷させた原因を、第三者・雨のせいだと〔正直に言う〕ものであった。言い訳に対する被害者の反応は、相手や被害の程度の軽重を問わず、【言い訳】に対して【理解】で反応するJPの調査対象者に対して、THの調査対象者は、疎の相手には【理解】で反応するが、親の相手には【文句】、【責める】などの否定的な反応をする傾向が見られる。つまり、言い訳の際に取られる言語行動はJPとTHの間で違いがはっきりしている。

以下で具体的な例を用いながら、5.2.1で会話全体の流れを、5.2.2で加害者が使用する言い訳とそれに対する被害者の反応を詳述する。

²⁷ 本研究で扱う外的要因とは、意図的にでなく、雨降りや第三者などの行動により被害が与えられたことである。

²⁸ 下線は日本語とタイ語で異なる箇所を示している。

5.2.1 会話全体の流れ

本項では、言い訳会話の連鎖がどのように構成されているかについて論じる。

5.2.1.1 使用された言い訳のタイプ

以下の表 5-(5)は、《間接・物》状況における JP と TH の調査対象者が使用した言い訳のタイプの結果である。

表 5-(5) 《間接・物》状況における JP と TH が使用した言い訳タイプ別の会話数

設定要因			具体的な状況		話者	言い訳のタイプ				合計	
						自発	説明	文句	他		
		場面	内容								
間 接	軽	親	13	人にぶつかられて自分が持っていた同等の相手の本に折り目がついた	JP	8	-	-	-	-	8
					TH	8	-	-	-	-	8
		疎	14	人にぶつかられて自分が持っていた同等の相手の本に折り目がついた	JP	8	-	-	-	-	8
					TH	8	-	-	-	-	8
	重	親	15	雨のせいで同等の相手に貸してもらった大事なバッグが雨に濡れた	JP	8	-	-	-	-	8
					TH	7	1	-	-	-	8
		疎	16	雨のせいで同等の相手に貸してもらった大事なバッグが雨に濡れた	JP	8	-	-	-	-	8
					TH	7	-	-	1	-	8

上記の結果を、被害の程度と親疎関係の要因から見ると、JP と TH の間で使用された言い訳のタイプは相手や内容の軽重と関係なく、ほとんどが[自発的言い訳]のタイプを使用しており、ほぼ一致している。ただし、TH は[自発的言い訳]の他、[【説明要求】に対する言い訳]、そして[その他-【確認要求】に対する言い訳]のタイプの使用も見られる。

日タイの母語話者が[自発的言い訳]を用いている理由については、《間接・物》状況では、加害者が相手の所有物を使っている時に被害が与えられたため、何が起きて、あるいはなぜ被害が与えられたのかは加害者にしか分からないので、加害者が自発的に原因を言うのは当然だと考えられる。

まず、言い訳会話の全体の流れの考察に入る。

5.2.1.2 会話の連鎖組織

以下の図 5-(9)～図 5-(12)は、被害の程度によって分けられる日本語とタイ語の言い訳会話の流れである。

図 5-(9) JP の《間接・物・軽》会話の流れ

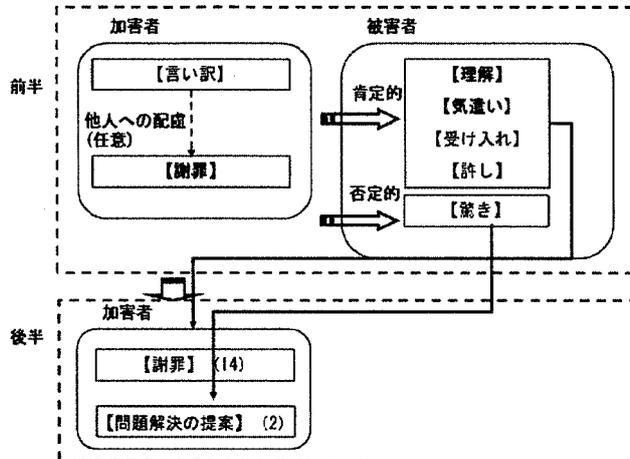
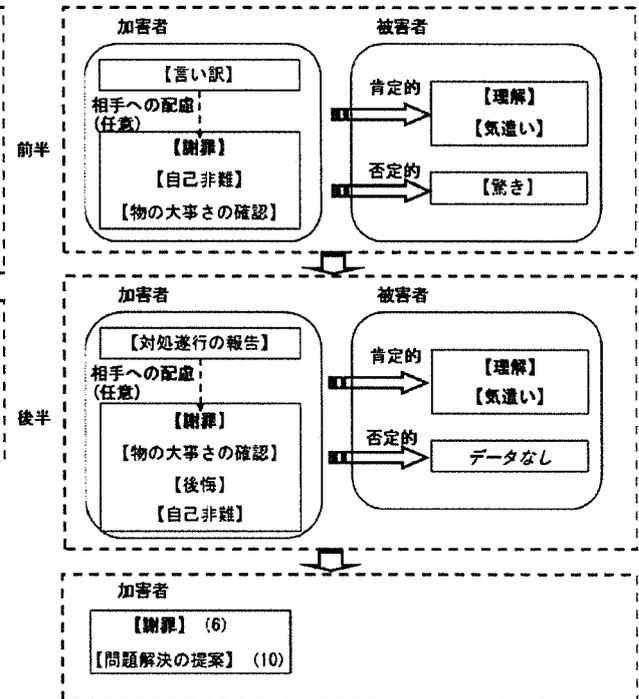


図 5-(10) JP の《間接・物・重》会話の流れ



JP の《間接・物》状況の会話の流れを示す図 5-(9)と図 5-(10)を見ると、軽い状況での会話と、重い状況での会話は少し違っている。いずれの状況でも、「加: 言い訳⇒ 被: 反応」のところまでは同じだが、被害が重くなると、「加: 対処遂行の報告⇒ 被: 反応」の部分が追加される。

また、JP の加害者・被害者が使用している発話は、加害者では【謝罪】、被害者では【理解】【気遣い】などのような発話が目立ち、《間接・時間》状況と同じで、JP の加害者と被害者が使用する発話の種類は、いずれの状況においてもそれほど多くない。

最後に、問題をどのように解決したかについて述べると、JP の場合は、軽い状況であると、【謝罪】で済む会話が多かったが、重い状況になると、問題解決まで続く会話がかった。

図 5-(11) TH の《間接・物・軽》会話の流れ

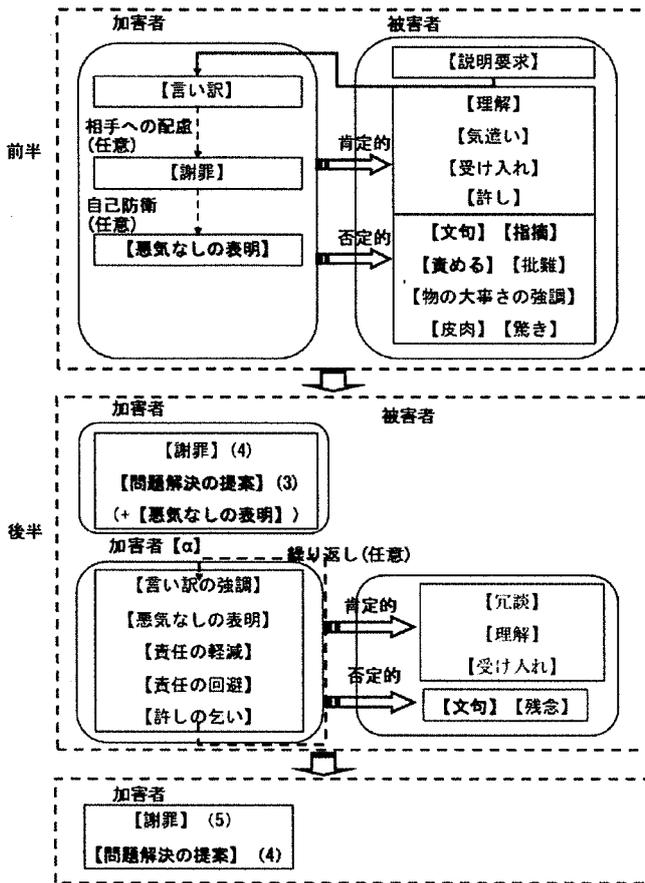
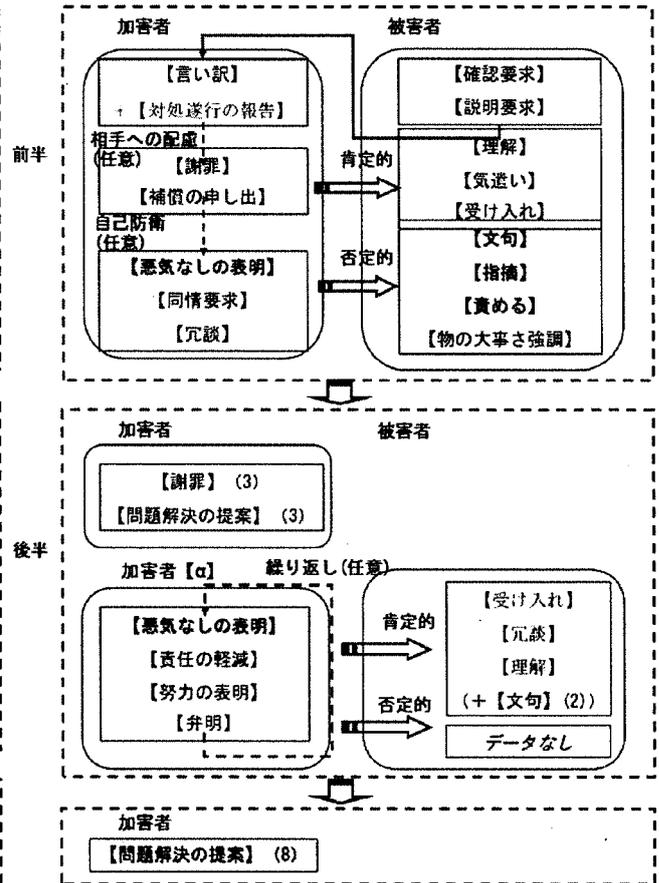


図 5-(12) TH の《間接・物・重》会話の流れ



それに対して、タイ語の会話（図 5-(11)と 5-(12)）では、被害の軽・重の状況で会話の流れにあまり違いはなく、「加: 言い訳 (+加: 対処遂行の報告) ⇒ 被: 反応 ⇒ 加: α ⇒ 被: 反応 ⇒ 会話の終了」というものであり、下線の部分は日本語と異なる。

また、TH の加害者の発話は、【謝罪】などのように相手への配慮から、【悪気なしの表明】のような自己防衛のものまで種類が豊富で、さらに、被害者の反応も、否定的な反応は、日本語と違って【驚き】だけではなく、【文句】、【指摘】、【責める】など様々である。

最後に、問題をどのように解決したかについて、TH の場合は、軽・重どの状況においても問題解決まで続く会話がなかった。

次に、上記の図 5-(9)～(12) の流れを持つ日本語とタイ語の言い訳会話をそれぞれ取り上げながら、会話の連鎖組織を詳しく見ていく。

5.2.1.2.1 日本語母語話者

(a) 《間接・物》で使用された言い訳のタイプ

JPは軽重どの状況においても〔自発的言い訳〕のタイプしか使用していないことがわかった。以下、被害の軽・重、それぞれの状況における会話例を挙げ、会話の流れを考察する。

(b) 《間接・物・軽》会話の流れ(図5-(9)を参照)

以下の会話JP1は、親しい同等の相手との会話例である。

会話JP14<場面13:人にぶつかられて自分が持っていた親しい同等の相手の本に折り目がついた>

主要部		
1 B:	あのさ:きよ、きよ-,朝から授業だったんだけど[:]すごい遅刻しそうになって(.)[猛]	【事情説明】
2 A:	[うん.] [うん.]	
3 B:	ダッシュしてたら,	【言い訳】
4 A:	うん.	
5 B:	(0.2)そう.:走ってたら,人にぶつかって(.)[荷物]がぶちまけちゃって[]その時に	【結果の言及】
6 A:	[うん.] [うん.]	
7 B:	ここにさ:折り目が付いちちゃったんだよね.:	⇒ 【理解】
8 A:	ああ:.	⇒ 【再言い訳】【謝罪】
9 B:	うん.ほんとなんか(.)すごい勢いでぶつかられて(.)申し訳ない.	⇒ 【受け入れ】【許し】
10 A:	[うんうん.] [うん.]	
11 A:	うん.いいよ,[別]に.	⇒ 【許しの確認要求】
12 B:	[うん.]	⇒ 【確認】
13 B:	あ,いい?	⇒ 【謝罪】
14 A:	うん.	⇒ 【受け入れ】
15 B:	ほんとごめんね.	
16 A:	うん,全然,全然.	

会話JP14は、場面13:《間接・物・軽・親》の状況である。加害者であるBは1Bと3Bで「あのさ:今日きよ-,朝から授業だったんだけど.:すごい遅刻しそうになって(.)猛ダッシュしてたら」と【事情説明】をした後、5Bと7Bで「走ってたら,人にぶつかって(.)荷物がぶちまけちゃって_その時にここにさ:折り目が付いちちゃったんだよね:」と【言い訳】と共に【結果の言及】をしている。そして、最後に9Bで「ほんとなんか(.)すごい勢いでぶつかられて(.)申し訳ない。」と【謝罪】をしている。それに対して、被害者であるAは、11Aで「うん.いいよ,別に。」と相手の謝罪を【受け入れ】て、【許し】を表明している。加害者Bは再び15Bで「ほんとごめんね。」と【謝罪】をし、それに対して、被害者Aが、「うん,全然,全然。」と【受け入れ】て、会話が終わる。

このように、まず、JPでは加害者からの【言い訳】から始まるが、このとき【謝罪】を一緒に用いることが多い。それに対して、被害者の多くは【理解】、【気遣い】などの肯定的な反応をするが、「え::?」のような【驚き】も見られている。最後に、被害者からの【受け入れ】や【許し】を受けて、ほと

んどの加害者は再度【謝罪】を表明し、会話が終了になる。ただし、新しい本を買って返すというよう
な問題解決に続く会話もある。

次に、《間接・物・重》の会話例を見ていく。

(c) 《間接・物・重》会話の流れ(図 5-(10)を参照)

以下の会話 JP15 は、あまり親しくない同等の相手との会話の例である。

会話 JP15 <場面 16: 雨のせいであまり親しくない同等の相手に貸してもらった大事なバッグが雨に濡れた>

主要部		
1	B: (0.2)hh ほんまに(.)ね、なんかめっちゃ大切なもんやったのに:.	【物の大事さの確認】
2	A: うんうん.	
3	B: 借りたんやけど.なんか-.	
4	A: え?うん.	【事情説明】
5	B: (0.3)ちよつとなんかその日(.)すごく雨が降っ-.[て]て__.	
6	A: [うん.]	【言い訳】【結果の言及】
7	A: あそうなん?	
8	B: でなんか(0.2)[雨]ちよつと濡れちゃったんよね.でなんか(.)ちよつとシミになっちゃて.	
9	B: なっちゃて.	⇒ 【驚き】【思いやり】
10	A: [まあ.]	
11	A: うおー.[え?]衣装大丈夫やったん?	⇒ 【情報提供】
12	B: [そう.]	⇒ 【安堵】
13	B: いや、衣装はほんまに.	⇒ 【確認要求】
14	A: あ[よかった.]	⇒ 【確認】【結果の言及】
15	B: [ね,な]んか.	⇒ 【理解】
16	A: うん.あ-あ-, かばんだけ濡れちゃったんや.	【対処遂行の報告】
17	B: そうそう.[なんか(.)で],ちよつとシミになっちゃって.	
18	A: [そうなんや:.]	
19	A: ええ.	⇒ 【理解】
20	B: (0.3)すごい(.)洗濯し(.)たんやけ(.)ど:.	
21	A: >え?洗濯したん?<	
22	B: 洗濯.こう,なんか,なんっていうの(.)シミ取りみたいな.	⇒ 【気遣い】
23	A: あそうなん?そうなん?	
24	B: してみたんやけど:.	
25	A: うん.	
26	B: ちよつと取れなくなっちゃって.	
27	A: あ,そうなんや.	
28	B: う::ん.	
29	A: じゃ,まあ:でも(.)たぶん直るもんちゃうし,仕方がないかもな,うん.	

会話 JP15 は、場面 16:《間接・物・重・疎》の状況である。まず加害者 B が 1B と 3B で「hh ほんまに(.)ね、なんかめっちゃ大切なもんやったのに:。借りたんやけど.なんか-。」と【物の大事さの確認】をした後、5B で「ちよつとなんかその日(.)すごく雨が降っ-.てて__。」と【事情説明】をし、そして、8-9B で「でなんか(0.2)雨ちよつと濡れちゃったんよね.で,なんか(.)ちよつとシミになっちゃて」と【言い訳】と共に【結果の言及】をしている。それに対して被害者の A が 11A で「うおー。」と一瞬【驚い】たが、その後すぐに、「え?衣装大丈夫やったん?」と相手の衣装について【思いやり】を表明してい

る。そして、17B で加害者に自分のバッグの状態の【結果の言及】を聞いた後、18A で「そうなんや..」と【理解】を表明している。

そして、ロールカードに書かれている内容を使い、加害者 B が 20B、22B、24B、26B で「すごい(.)洗濯し(.)たんやけ(.)ど..濯.こう,なんか,なんっていうの(.)シミ取りみたいな.してみたんやけど..ちょっと取れなくなっちゃって..」と【対処遂行の報告】をしている。最後に、A が 27A で「あ、そうなんや、」と【受け入れ】てから、29A で「じゃ、まあ:でも(.)たぶん直るもんちゃうし,仕方がないかもな,うん..」と【気遣い】を表明して、会話が終了となっている。

このように、まず加害者が【言い訳】をするが、【謝罪】、【自己非難】、【物の大事さの確認】などの相手への配慮の発話が一緒によく用いられる。それに対して、被害者は、軽い状況と同様で、【理解】、【気遣い】などの肯定的な反応するが、【驚き】の使用も見られている。

そして、「バッグを洗ったが、シミがなかなか取れない」と【対処遂行の報告】をする。このとき、【謝罪】、【物の大事さの確認】、【後悔】、【自己非難】など相手に配慮する発話を一緒によく使用している。それに対して、被害者の反応は【理解】、【気遣い】などの肯定的な反応しか見られない。そこで、加害者の【謝罪】で会話が終わるものもあるが、被害の程度が重い状況のため、バッグを弁償するというような問題解決まで続く会話が過半数を占めている。

以上、JP《間接・物》における親疎、被害の軽重のそれぞれの状況の会話を見てきた。《間接・物》状況における JP の会話の流れの特徴は、次の3つにまとめられる。

- ① 加害者が【言い訳】を行う際、特に被害の程度が重い状況では【謝罪】、【自己非難】、【物の大事さの確認】のような相手への配慮を表すものをよく用いている。
- ② 被害者も主に【理解】、【気遣い】などの肯定的な反応を多用している。
- ③ 会話の終了の仕方に関して、軽い状況では、加害者による【謝罪】で会話が終了となるが、重い状況になると、問題解決の段階まで続く会話が多くなっており、被害の程度の軽重で異なる。

次に、TH の言い訳会話の流れを見ていく。

5.2.1.2.2 タイ語母語話者

(a) 《間接・物》で使用された言い訳のタイプ

《間接・物》状況においては、JPと同じように、THも〔自発的言い訳〕を主に使用しているという結果となった。以下、軽・重それぞれの状況における会話例を挙げ、会話の流れを考察する。

(b) 《間接・物・軽》会話の流れ(図5-(11)を参照)

THの会話は被害者による肯定的な反応と否定的な反応の両方の使用が目立っているため、以下でそれぞれの反応の会話を取り上げる。まず、会話TH17は肯定的なものの会話例である。

会話TH17<場面14:人にぶつかられて自分が持っていたあまり親しくない同等の相手の本に折り目がついた>

主要部		
1	B: (前略) แต่ว่าhh(.)เอ่อมันเป็น(.)รอยยับนิดนึงนะ. แต่คือว่าเราไม่ได้ทำเอง. B: でもhh(.)あの:ノートに(.)ちょっと折り目ついちゃったのよね. B: でも私がやったわけじゃないよ.	【結果の言及】【責任の回避】
2	B: มีคนวิ่งมาชนเราอะ. เราไม่ได้ตั้งใจนะ, [เออ]. B: 人にぶつかって来られたんだ. 私のせいじゃないよ, [うん].	
3	A: [เหรอ-](そうか-)	
4	A: เหรอ. แต่ว่า(.)มันมีรอยอ่านได้ปะ? [สั-]	【理解】
	A: そうか. でも(.)なんか読めるでしょ? [じゃ-]	⇒ 【確認要求】
5	B: [คือมัน-]มันได้... แต่คือมันยับนิดนึง. B: [よ-]読めるけど... ちょっと折り目が付いちゃって.	【確認】【損傷程度の言及】
6	B: ขอโทษจริงๆขอโทษจริงๆ. เราไม่ได้ตั้งใจอะ.	
7	B: 本当にごめんなさい, 本当にごめんなさい. わざとじゃなかったんだ.	
8	A: เออๆ. ไม่เป็นไรหรอก. ก็คราวหน้าระวังๆแล้วกันเนอะ. A: うんうん. 大丈夫. 今度から気を付けてね.	⇒ 【理解】【許し】【注意】
9	B: อ้อ, อ้อ. B: はい, はい.	⇒ 【承諾】

上記の会話TH17は、場面14:《間接・物・軽・疎》の状況である。まず、加害者のBが1Bで「แต่ว่าhh(.)เอ่อมันเป็น(.)รอยยับนิดนึงนะ. แต่คือว่าเราไม่ได้ทำเอง. (でもhh(.)あの:ノートに(.)ちょっと折り目ついちゃったのよね.でも私がやったわけじゃないよ.)」と【結果の言及】と【責任の回避】を言った後に、2Bで「มีคนวิ่งมาชนเราอะ. เราไม่ได้ตั้งใจนะ,เออ. (人にぶつかって来られたんだ. 私のせいじゃないよ,うん.)」と【言い訳】と共に【悪気なしの主張】をしている。それに対して、被害者は4Aで「เหรอ. (そうか.)」と【理解】を表明した後、ノートの損傷について【確認要求】-【確認】を行っている。そして、損傷を確認したときに、被害者が8Aで「เออๆ. ไม่เป็นไรหรอก. ก็คราวหน้าระวังๆแล้วกันเนอะ. (うんうん. 大丈夫. 今度から気を付けてね.)」と【理解】【許し】をしているが、このとき【注意】もしている。そこで、加害者が9Bで「อ้อ, อ้อ. (はい, はい.)」と【承諾】して会話が終わる。

次の会話TH18は、【言い訳】に対する被害者の否定的な反応の会話例である。

会話 TH18<場面 13: 人につつかられて自分が持っていた親しい同等の相手の本に折り目がついた>

主要部		
1	B: แต่ฉันจะบอกว่าคุณดีเมื่อก็ตอนฉันจะ-, ตอนที่ฉันจะเดินมาหาคุณอะ. B: でもねさつきこつ-, こつちに向かって歩いてくる途中,	⇒ 【事情説明】
2	B: มีคนชนแล้วหนังสือตกหล่นลงไปอะ. หน้าปกกบกับเลยอะ. B: 人にぶつかられて本が落ちて. それで, 表紙に折り目ができちゃった.	⇒ 【言い訳】【結果の言及】
3	A: (0.4) ↑ โห ↑ กะ: ทำไมแกไม่ระวังเลยอะ. [หนังสือ] อันเนี่ยแก: มันหายากนะเว้ย. A: (0.4) ↑ もう ↑ きみ: : 何で気をつけてくれなかった? [この本] はね: A: 手に入れるのが難しかったよ.	⇒ 【文句】【物の大事さの強調】
4	B: [ก็มัน-] (だって)	
5	B: พอดีมันเดินมาชนนะ. ชนก็ไม่ว่ามันเดินมาชนก็ทำโทษอะนกก. B: やつがぶつかってきたんだ. どう歩いてたかよくわかんなかったんだ.	⇒ 【言い訳の繰り返し】 ⇒ 【責任の回避】
6	A: พู: ย. ดูดี, มีตำหนิเลย. หน้าปกด้วยอะ. A: あ: あ[見て, 傷] になっちゃったんだ. <u>しかも, 表紙だし.</u>	⇒ 【文句】
7	B: [ขอโทษนะเว้ย.] (ごめんなさい.)	
8	B: เออๆขอโทษอะ. B: うんうん. ごめん.	⇒ 【受け入れ】【謝罪】

会話 TH18 は、場面 13:《間接・物・軽・親》の状況である。まず、加害者が 1B で「แต่ฉันจะบอกว่าคุณดีเมื่อก็ตอนฉันจะ-, ตอนที่ฉันจะเดินมาหาคุณอะ。(でもねさつきこつ-, こつちに向かって歩いてくる途中,)」と【事情説明】をした後に、「มีคนชนแล้วหนังสือตกหล่นลงไปอะ. หน้าปกกบกับเลยอะ。(人にぶつかられて本が落ちて. それで, 表紙に折り目ができちゃった.)」と【言い訳】と共に【結果の言及】をしている。(0.4)の間で被害者がノートの状態を確認した後、3A で「↑ โห ↑ กะ: ทำไมแกไม่ระวังเลยอะ. หนังสืออันเนี่ยแก: มันหายากนะเว้ย。(↑ もう ↑ きみ: : 何で気をつけてくれなかった? この本はね: 手に入れるのが難しかったんだよ.)」と【文句】を言うと共に【物の大事さの強調】をするという、否定的な反応をしている。しかし、このように言われた加害者は、再度 5B で「พอดีมันเดินมาชนนะ. ชนก็ไม่ว่ามันเดินมาชนก็ทำโทษอะนกก。(やつがぶつかってきたんだ. どう歩いてたかよくわかんなかったんだ.)」と【言い訳】を繰り返して【責任の回避】をしている。すると、被害者は再び 6A で「พู: ย. ดูดี, มีตำหนิเลย. หน้าปกด้วยอะ。(あ: あ見て. 傷になっちゃったんだ. しかも, 表紙だし.)」と人に見えやすい表紙に折り目が入ったことについて、強調した声で【文句】を言い続ける。このように非難された末に、加害者は、やつと 8B で「เออๆขอโทษอะ。(ごめんなさい.)」と相手の文句を【受け入れ】て【謝罪】をしている。この後は問題解決に移っていく。

このように、多くの TH の会話は加害者による【言い訳】から始まる。すなわち〔自発的言い訳〕タイプの使用が最も多いといえるが、中には、本を取り出して、すぐ親友の被害者に【説明要求】で、あるいはあまり親しくない相手に物への損傷について【確認要求】で、会話が開始される例も見られた。会話の流れとしては、図 5-(11)のように、まず、加害者が【言い訳】をする。このとき JP と同様に相手への配慮として【謝罪】を使用する場合もあるが、自己防衛の【悪気なしの表明】などの発話と一緒に用いることも多い。それに対して、被害者は【理解】、【気遣い】などの肯定的な反応もするが、過半数は、特に親友の相手には【文句】、【指摘】、【責める】などの否定的な反応を多用している。

そして、肯定的な反応をされた場合、加害者が【謝罪】をして会話が終了となるものもあるが、問題解決まで続くものもある。一方、否定的な反応をされた場合は、すぐに謝るところか、多くの加害者は【責任の軽減】、【責任の転嫁】、【悪気なしの表明】、【許しの求め】、【言い訳の強調】などの自己防衛的な発話を多用する。それに対して、被害者の反応はさらに肯定と否定に分かれるが、最終的には、加害者からの【謝罪】で会話が終了するか、あるいは問題解決まで会話が続く。

次に、《間接・物・重》の会話例を見ていく。

(c) 《間接・物・重》会話の流れ(図 5-(12)を参照)

TH の会話は被害者による肯定的な反応と否定的な反応の両方が目立っているため、以下でそれぞれの反応の会話を取り上げる。以下の会話 TH19 は被害者による肯定的な反応の会話例である。

会話 TH19 <場面 16: 雨のせいであまり親しくない同等の相手に貸してもらった大事なバッグが雨に濡れた>

主要部		
1	B: แต่แบบ-ต้องขอโทษด้วยอะ. มัน(.)เลย. เปียกฝน. B: でも-謝らなきゃならないんだ. バッグが(.)汚れた. 雨に濡れちゃった.	⇒ 【謝罪】 ⇒ 【結果の言及】【言い訳】
2	A: เข้ม? ครองเนี่ยอะ. เหมอ. . A: え? ここの.	⇒ 【確認要求】
3	B: อือ::: B: う::ん.	⇒ 【確認】
4	A: ° อือ::: ° A: ° う::ん. °	⇒ 【理解】
5	B: มันเป็นรอยต่างอะ. คือเราซักแล้วอะ, แล้วมันแบบ[ซักไม่ออกอะ.] B: シミになって. 洗濯したけど, あの[取れなかった.]	⇒ 【結果の言及】 ⇒ 【対処遂行の報告】
6	A: [นี่คือ-](これって-)	
7	A: นี่คือ(.)แบบว่าลองทำความสะอาดแล้วใช่ปะ? A: これは(.)もう洗濯してみたってこと?	⇒ 【対処遂行の確認要求】
8	B: เออ. เมา-. B: ええ. 私-.	
9	A: ใต้ค-. A: これだけ-.	} 【確認】【感謝】【ほめ】
10	B: ไปซักแล้วอะ. [อือ::มัน]ไม่ออก. แต่แบบต้องขอบคุณAนะ. แบบกระเป๋ามันสวยมากเลยอะ. B: 洗濯したよ. [う::ん]取れない. まあでも A に感謝をしなくちゃ. B: バッグはすごく素敵だった.	
11	A: [เป็นอย่างไร?] (こんなった?)	
12	B: แต่แบบ(.)ฝนมันตกหนักมาก:::จริงๆ. B: でも(.)雨がすご:::く降ってて <u>本当に</u> .	⇒ 【事情説明の強調】
13	A: เออๆ. A: うんうん.	⇒ 【受け入れ】
14	B: เราขอโทษ. B: ごめんなさい.	⇒ 【謝罪】
15	A: ทำใจได้. ไม่เป็นไรหรอก. มัน(.)เลย. ไปแล้วช่างมันเถอะ. ไม่เป็นไร. A: 仕方ないな. 大丈夫. バッグは(.)もう汚れたのでしょうがない, いいよ.	⇒ 【断念】【許し】
16	B: อือ. ขอโทษนะA. B: うん. ありがとうね.	⇒ 【受け入れ】【感謝】

上記の会話 TH19 は、場面16:《間接・物・重・疎》の状況である。加害者が〔開始部〕で【感謝】を表明した後、1B で「แต่แบบ-ต้องขอโทษด้วยอะ. มัน(.)เดอะ.เปียกฝน. (でも-謝らなきゃならないんだ. バッグが(.)汚れた. 雨に濡れちゃった.)」と【謝罪】、【結果の言及】、【言い訳】をしている。被害者は、2A から9A までで、自分のバッグの損傷について【確認要求】をしている。それに対して、加害者が【確認】と共に【感謝】、そして、再び 12B で「แต่แบบ(.)ฝนมันตกหนักมาก:::จริงๆ. ても(.)雨がすご:::く降ってて本当に.」と【事情説明の強調】をしている。バッグに付いたシミが取れない事実は分かったが、相手があまり親しくないため、被害者は 13A で「เออๆ.(うんうん.)」と【受け入れ】ざるを得ない。また、この後の加害者の 14B の【謝罪】に対して「ทำไงได้. ไม่เป็นไรหรอก. มัน(.)เดอะไปแล้วช่างมันเถอะไม่เป็นไร. (仕方ないな. 大丈夫. バッグは(.)もう汚れたのでしょうがない, いいよ.)」と【断念】して、相手に【許し】を与えている。

続いて、以下の会話 TH20 は、被害者による否定的な反応の会話例である。

会話 TH20<場面15: 雨のせいで親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグが雨に濡れた>

主要部		
1	B: (前略) แต่ว่า.. คือ(0.2)ฝนมันตกนะ. วันนั้นฝนมันตก. แล้วไม่มีร่ม. พอไม่มีร่มเนี่ย, มันก็เปียก. อิม. B: あの(0.2)雨が降ってたのよ. あの日雨が降ってたのよ. 傘もなくて. B: 傘がないと、濡れちゃったんだ. うん.	⇒ 【事情説明】 【言い訳】
2	A: แล้วไงจ้ะ? A: ぞ? [それで?]	⇒ 【語り要求】
3	B: [ซึ่ง-] (それが-)	} 【事情説明の続き】
4	B: กระเป๋าแกเนี่ย มันช่วย(.) คุ่มหัวฉันอยู่. B: 君のバッグがね、私の頭の(.)雨よけになってくれた.	
5	B: พอออกมาดูอีกทีนี่ มันก็ต่างไปแล้ว. B: そして、もう一回バッグを見てみると、もうシミがついちゃった.	
6	A: ↑ เอ๊ย. นะ. อะ. มัน.. มันหลายจุดเลยอะ. A: ↑ ああ. 君. ああ.:、シミ、シミが何箇所もあるじゃないか.	⇒ 【指摘】
7	B: เออ . คือแบบ-. B: ええ. [あの-].	
8	A: [อือ]จ้ะจ้ะ. A: [しく]しく.	
9	B: ชั้น. มัน. ชั้นไม่รู้จะทำไงดี. ชั้นขอโทษ. เพราะว่าฉันซักแล้ว มันไม่ออกนอ. B: どうすればいいか分からない. ごめんなさい. 洗濯したけど、取れなかったの.	} 【謝罪】【対処遂行の報告】 【補償の申し出】 【謝罪】【許しの求め】
10	B: เอาจริงๆ. ถ้าฉันจะไปทาลาย(.) มาเหมือนอย่างจ้ะเลย. ซ้อมาไฟไหมเลยอะ. B: じゃ、これと同じデザインのを頑張って探してくる. 新しいのを買って返すね.	
11	B: เออ[:::ขอ]โทษนะ. อย่างอนเลย[นะ]. ไม่สวยนะ. เต็มหน้าแก. B: あ[:::ご]めんね. 怒らないで[.]. きれいじゃなくなるよ. しわもできちゃうし.	
12	A: [โทษ นก](もう、君) [โทษ](もう)	
13	A: hhh เออ[ไม่จนที่ใส่]. A: hっふん. [じゃ、もう怒らない.]	⇒ 【許し】
14	B: [นะจ้ะ]เออจ้ะ. B: [ねねね.]うんうん.	⇒ 【受け入れ】

会話 TH20 は、場面15:《間接・物・重・親》の状況である。加害者が1B で「แต่ว่า.. คือ(0.2)ฝนมันตกนะ. วันนั้นฝนมันตก. แล้วไม่มีร่ม. พอไม่มีร่มเนี่ย, มันก็เปียก. อิม. กระเป๋าแกเนี่ยมันช่วย(.)คุ่มหัวฉันอยู่. พอออกมาดูอีกทีนี่ มันก็ต่างไปแล้ว. (あの(0.2)雨が降ってたのよ. あの日雨が降ってたのよ. 傘もなくて. 傘がなくて、濡れちゃったんだ. うん. 君のバッグがね、私の頭の(.)雨よけになってくれた. そしてもう一回バッグを見てみるともうシミがつ

いちゃっていた.)」と【言い訳】と共に【事情説明】、【結果の言及】をしている。しかし、被害者がバッグの状態を確認した後すぐ6Aで「↑ เอ้ย. นก: อะ: มัน.. มันหลายจุดเลยอะ. (↑ ああ. 君: ああ:, シミ, シミが何箇所もあるじゃないか.)」と【指摘】をしている。

そこで、加害者はすぐに9Bで「ฉัน.. มัน.. ฉันไม่รู้จะทำไงดี. ฉันขอโทษ. เพราะว่าฉันซ้กแล้ว มันไม่ออกนถ. (どうすればいいかわからない. ごめんなさい. 洗濯したけど、取れなかったの.)」と【謝罪】をし、【対処遂行の報告】をした後、10Bで「เอาเป็นว่าเดี๋ยวจ้กจะพยามไปหลาย(.) มาเหมือนอย่างจ้เลย. ซ้อมาให้ใหม่เลยอะ. (じゃ、これと同じデザインのを頑張って探してくる. 新しいのを買って返すね.)」と【補償の申し出】をしている。また、このとき11Bのように【謝罪】と共に、冗談交じりの【許しの求め】も表明されている。最後に被害者が13Aで「hhh เอาไม่จนก้ได้. (hっふん. (じゃ、もう怒らない.)）」と【冗談】を言い放ちながら笑う。最後に相手の行動に【許し】を与えて会話は終わる。

以上で、《間接・物》の状況におけるTHの会話の流れについて述べてきた、THの会話の特徴は、次のようにまとめられる。

- ① 多くの場合は、加害者による【言い訳】から始まるが、被害者から【確認要求】(疎の相手に対して)で始まるもの、【文句】(親の相手に対して)から始まる会話もあった。
- ② 【言い訳】の際、被害が重いため、【謝罪】、【補償の申し出】などの相手への配慮の発話の使用もあるが、【同情の要求】、【悪気なしの表明】などの自己防衛的な発話の使用の方が目立つ。さらに、【言い訳】と同時に、シミがついたバッグにどのように対処したかについての【対処遂行の報告】も表明される。
- ③ それに対して、被害者は疎の相手には【理解】、【気遣い】のような肯定的な反応するが、親の相手には【文句】、【物の大事さの強調】、【指摘】のような否定的な反応をする傾向がある。
- ④ 後半はタイ語の軽い状況と同様で、肯定的な反応をされた場合、加害者が【謝罪】で会話を終了させるか、あるいは問題解決までやりとりするという2通りの会話の終了の仕方がある。しかし、否定的な反応をされた場合は、多くのTH調査対象者はすぐにバッグを弁償するという問題解決に入る会話が多く、さらに【悪気なしの表明】、【責任の軽減】、【努力の表明】などの自己防衛的な発話を使い続ける対象者も多かった。その後、ようやく被害者は肯定的な反応を示すようになるが、肯定的な反応を【文句】とともに使用する人もいる。

5. 2. 1. 3 《間接・物》状況での会話の流れのまとめ

《間接・物》状況においては、借りた物に何が起こったか加害者にしか分からないため、JP と TH は同じような〔自発的言い訳〕のタイプを使用している。同じ言い訳のタイプを使用するとはいえ、日本語とタイ語の間では会話の流れが異なり、その上被害の軽・重どちらの状況でも、会話の流れにばらつきがある。TH の場合は、加害者に非がないので、加害者が言い訳を行うとき、【悪気なしの表明】、【責任の軽減】のような自己防衛的な発話を多用している。また、被害者の反応も否定的な反応の使用が目立っていることが指摘できる。

相手の物に生じた被害をどうするかについて、JP の場合は、重い状況になると問題解決にまで会話が続くが、TH の場合は、重い状況ではいうまでもなく、軽い状況でさえも問題解決にまで会話が続く場合が多かった。

次は、言い訳の発話とそれに対する被害者の反応の発話に焦点を当てて考察する。

5. 2. 2 加害者が使用する言い訳内容、及びその言い訳に対する被害者の反応

本項では、《間接・物》状況において加害者が使用した言い訳と、被害者が使用する反応について論じる。以下、会話例を挙げながら、言い訳の内容がそれに対する反応とどのように関係するかについて、日本語とタイ語の違いを明らかにしたい。また、ここでも5. 1. 2と同じように、会話の前半だけに注目して結果を述べる。

分析では、まず言い訳を〔正直に言う〕、あるいは〔正直に言わない〕の2つに分け、使用した言い訳の内容に対する被害者側の反応に、どのように相手との関係、及び被害の程度の要因が関わっているかを考察する。

表 5-(6)は《間接・物》状況のロールプレイデータに見られた JP と TH の言い訳内容別の結果である。

表 5-(6) 《間接・物》状況における JP と TH が使用した言い訳内容別の会話数

《直接・所有物》状況		JP	TH
場面13「軽・親」	正直に言う	8	8
	正直に言わない	0	0
言い訳をしない		0	0
合計		8	8
場面14「軽・疎」	正直に言う	8	8
	正直に言わない	0	0
言い訳をしない		0	0
合計		8	8
場面15「重・疎」	正直に言う	8	8
	正直に言わない	0	0
言い訳をしない		0	0
合計		8	8
場面16「重・疎」	正直に言う	8	8
	正直に言わない	0	0
言い訳をしない		0	0
合計		8	8
合計		32	32

JP と TH はいずれも、被害の程度、及び親疎に関わらず、原因が直接的に自分の行動によらない《間接・物》状況では、被害の原因を[正直に言う]結果であったため、[正直に言わない]場合の分析は見送る。以下で、JP と TH が用いている会話例を挙げながら、言い訳の内容と被害者の反応を考察する。

5.2.2.1 言い訳の発話の特徴と被害者の反応の特徴

次に状況別に加害者が用いた言い訳の内容の特徴を見ていく。また、それぞれの言い訳の発話が被害者の反応にどのように影響を与えるかという点も考察する。

5.2.2.1.1 [正直に言う]場合

以下、日タイの母語話者が使用した[正直に言う]場合の会話例を挙げながら、考察する。

(1) 日本語母語話者の場合

日本語のデータを見ると、自分に非がないときは、JP 全員が[正直に言う] ようである。

図 5-(13) 被害程度の軽い状況における JP が使用している[正直に言う]言い訳会話のパターン

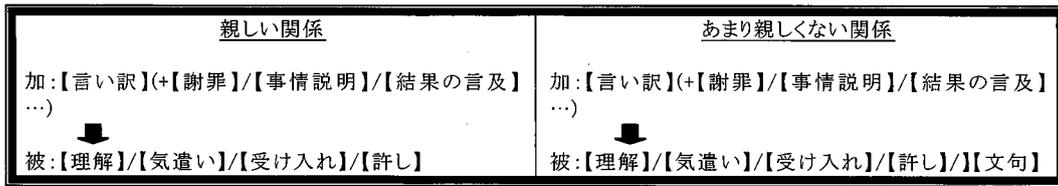


図 5-(14) 被害程度の重い状況における JP が使用している[正直に言う]言い訳会話のパターン

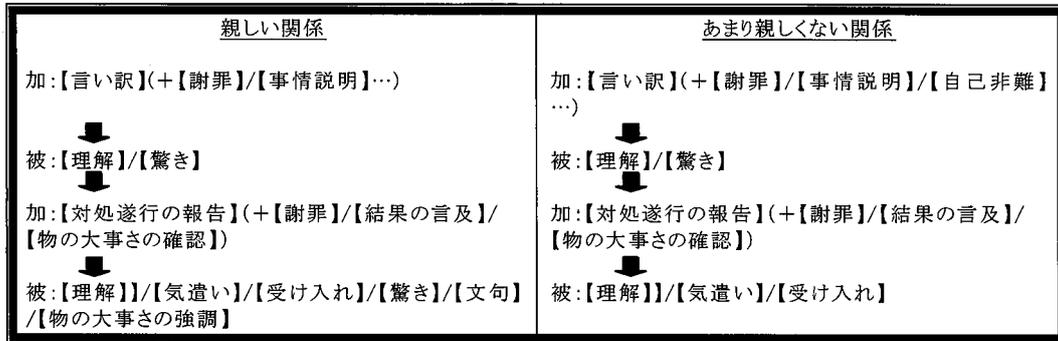


図 5-(13)に示したように、JP は被害の程度が軽い場合は、親・疎いずれの相手に対しても全員が【言い訳】を行っている。また、【言い訳】の際、【謝罪】がなされることが多い。

その言い訳に対して、被害者の多くは【理解】、【気遣い】、【受け入れ】などのような肯定的な反応を示すが、【文句】のような否定的な反応で返す調査対象者もいた。ただし、この文句というのは加害者の「ここに折り目が付いてる」という【結果の言及】に対して、被害者は「ああ、本当だ」と率直に自分が思ったままを言っているものである。

また、図 5-(14)に示したように、JP は被害の程度が重くなっても、軽い状況と同様、【言い訳】をよく【謝罪】とともに用いている。その言い訳に対する被害者の反応は、軽い状況に比べると、【理解】のような肯定的な反応が多く使用されているが、バッグが損傷したと言われた瞬間【驚き】を表明する人もいた。被害が重い場面の特徴としては、単に言い訳一反応では会話が終わらず、加害者が【対処遂行の報告】をすところまで続くことである。また、この時、【謝罪】はもちろん、相手にとって大事なものだということを認識していることを表す【物の大事さの確認】もよく発せられる。

この調査において、被害者の反応は親疎関係による異なりが見られた。あまり親しくない相手には【理解】、【気遣い】などのような肯定的な反応が多く使用されるが、親友の相手に対しては、【文句】、【物の大事さの強調】などの否定的な反応も見られている。

以下でまず、軽い状況での会話例を見ていく。

{被害の程度が軽い場合}

会話 JP16<場面13:人にぶつかられて自分が持っていた親しい同等の相手の本に折り目がついた>

主要部			
1	B: (0.3)でな[:(.)]ちよつとな,謝らなあかんことあつて[さ:]今日さ[:],	【謝罪】	
2	A: [うん.] [うん.] [うん.]		
3	B: 学校に来るときにさ,	【事情説明】	
4	A: うん.		
5	B: あ-* *そこで、そこでやねん.[ほんま]ほんますぐそこで[や]ねんけど:.		
6	A: [うん.] [うん.]		
7	B: ああ,Aさん-,Aさんと思つて[]で:かばんからこう取り出して[]歩いてつたら,		
8	A: [うん.] [うん.]		
9	B: (0.2)なんか(.)ラグビー部の[::]やつらが:	【言い訳】	
10	A: [hh]		
11	A: hhhh		
12	B: hh「ワハハ」とか笑いながら,		
13	A: うん.		
14	B: 歩いてきて..ああ:避けなきゃ思つた瞬間にもうぶつかつて[.]うわー		
15	A: [うん]		
16	B: 落としちゃつてんやんか.		
17	A: ああ,そうなん?		⇒ 【理解】
18	B: うん.ごめん.めっちゃ折り目ついてもうつてさ:.		⇒ 【謝罪】【結果の言及】
19	A: うん.		
20	B: (0.2)°ごめんな:°	⇒ 【謝罪】	
21	A: あ,ええよ.折り目ぐらいやつたらいいよいいよ.	⇒ 【許し】	

会話 JP16 は場面 13:《間接・物・軽・親》の会話である。加害者 B が 14B 後半と 16B で「ああ:避けなきゃと思つた瞬間にもうぶつかつて..うわー落としちゃつてんやんか。」と【言い訳】をしている。また、言い訳の際、まず1B で【謝罪】から始まり、そして、3B、5B、7B、9B、12B、14B の長い【事情説明】を一緒に用いている。

それに対して、被害者の反応としては、被害者が 17A で「ああ,そうなん?」と、まず【理解】をし、そして 20B の加害者からの【謝罪】に対して、21A で「あ,ええよ.折り目ぐらいやつたらいいよいいよ。」と【許し】を表明している。

次は、重い状況での会話例を見ていく。

{被害の程度が重い場合}

会話 JP17<場面15:雨のせいで親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグが雨に濡れた>

主要部				
1 B:	えっ.あのさ[:],あの(0.3)バックさ:,借りた[やん]か.	} 【前触れ】		
2 A:	[うん.] [ああ.]			
3 A:	そうやな.うんうん.			
4 B:	で,あの日さ[:]帰りさ[:]めっちゃ大雨降ってさ[:].			
5 A:	[うん.] [うん.] [ああ:]そうやな.うんうん.			
6 B:	で:なんか(.)細い路地のとこやったから,[タク]シーとかもそばまで来て			
7 A:	[うん.]			
8 B:	くれへん[くて]さ:,走ったんやけどさ:,			
9 A:	[はいはい]			
10 A:	うん.			
11 B:	めっちゃびしょに濡れてしまっ[て]さ:,			
12 A:	[ああ:]そう?			
13 B:	そう.バッグがさ[:],よ-,汚れてしまったんやんか.			
14 A:	[うん]		} 【事情説明】【言い訳】	
15 A:	ああ,ほんまに.	⇒ 【理解】		
16 B:	で:あの,ちょっと洗濯して[:]こう取ろうと思ったんやけど,[取]れへんくて:.	⇒ 【対処遂行の報告】		
17 B:	で,こんなことになっ[て]しまっ[て] hh.°	⇒ 【結果の言及】		
18 A:	[うん] [うん]			
19 A:	hh雨じゃない¥hh	⇒ 【否定】		
20 B:	hh雨やねんって¥hh たぶん(.)これあの:,色彩がさ:,	⇒ 【拒否】【説明】		
21 A:	ああ:[:]そうか[:]	⇒ 【理解】		
22 B:	[ほんまに]ごめんな.めっちゃ大事なやつって言ったやんか	⇒ 【謝罪】【物の大事さの確認】		
23 B:	[“申し]訳ない”			
24 A:	[そっか.]	} 【受け入れ】		
25 A:	まあ:雨は[しゃー]ないけど.:			⇒ 【気遣い】
26 B:	[ほんまに]ごめんな:			⇒ 【謝罪】

会話 JP17 は場面15:《間接・物・重・親》状況である。会話 JP4 では、まず 1B で【前置き】をしたあと、そして 4B、6B、8B で「で、あの日さ:帰りさ:めっちゃ大雨降ってさ:,で:なんか(.)細い路地のとこやったから,タクシーとかもそばまで来てくれへんくてさ:,走ったんやけどさ:,めっちゃびしょに濡れてしまっ[て]さ:,そう.バッグがさ:,よ-,汚れてしまったんやんか.」と【事情説明】と共に【言い訳】とをしている。

それに対する反応として、被害者は雨で濡れたから仕方がなく、「ああ,ほんまに.」と【理解】を示している。この【理解】の反応は、今回の日本語のデータの中で最も使用されているものである。

そして、この後加害者がバッグの対処について 16B で、「で:あの,ちょっと洗濯してこう取ろうと思ったんやけど,」と【対処遂行の報告】をし、このとき「取れへんくて:で,こんなことになっ[て]しまっ[て] hh.°」と【結果の言及】もしている。そこで、被害者は、最初は 19A のように現実を【否定】しようとしていたが、最終的には 24-25A で「そっか.まあ,雨はしゃーないけど.」と、現状を【受け入れ】ざるを得ず、【気遣い】を示して会話が終了となっている。

以上の JP の結果のように、《間接・物》状況では、被害の原因が直接自分の行動によらないため、被害の程度が軽い場合も重い場合も、JP の調査対象者全員が気軽に言い訳を[正直に言う]ことができるのだろう。また、その言い訳に対する被害者の反応は、大半は【理解】などの肯定的な反応を使うが、【驚き】という否定的な反応の使用も見られた。また、被害者が「へ：？まじで？」と【驚き】を表明したとしても、最終的には全員が【気遣い】を示すことが分かった。ただし、親の相手のときは、【対処遂行の報告】に対して、否定的な反応が見られたため、重い状況では相手との関係は被害者の反応に影響を及ぼすと言えるだろう。

次に、TH の結果を見ていく。

(2) タイ語母語話者の場合

JP と同様、4 場面とも TH の調査対象者全員が[正直に言う] 結果であった。

図 5-(15) 被害程度の軽い状況における TH が使用している[正直に言う]言い訳会話のパターン

親しい関係	あまり親しくない関係
加:【言い訳】(+【謝罪】/【結果の言及】/【事情説明】 【悪気なしの表明】…)	加:【言い訳】(+【謝罪】/【結果の言及】/【悪気なしの 表明】/【責任の回避】…)
被:【理解】/【文句】/【指摘】/【非難】/【責める】/【物 の大事さの強調】	被:【理解】/【受け入れ】/【許し】/【皮肉】/【驚き】

図 5-(16) 被害程度の重い状況における TH が使用している[正直に言う]言い訳会話のパターン

親しい関係	あまり親しくない関係
加:【言い訳】+【対処遂行の報告】 (+【謝罪】/【事情説明】/【結果の言及】/【努力の表 明】/【同情要求】/【冗談】…)	加:【言い訳】+【対処遂行の報告】 (+【謝罪】/【悪気なしの表明】/【努力の表明】/【補償 の申し出】…)
被:【理解】/【気遣い】/【驚き】/【文句】/【指摘】/【責 める】/【物の大事さの強調】	被:【理解】/【受け入れ】/【保留】/【指摘】/【責める】

図 5-(15) に示したように、TH は被害の程度が軽い場合は、親・疎いずれの相手に対しても全員が【言い訳】を正直に言っている。また、【言い訳】の際、【謝罪】の他、【悪気なしの表明】もよく一緒に使っている。その言い訳に対する被害者の反応は親疎によって異なり、疎の相手に対しては、【理解】、【受け入れ】などの肯定的な反応を示すが、親の相手には【文句】、【指摘】、【責める】のような否定的な反応で返す調査対象者が多かった。また、あまり親しくない相手への否定的な反応には、【皮肉】がよく用いられる。

また、図 5-(16)に示したように、THは被害の程度が重くなっても、被害の原因の【言い訳】を[正直に言う]とき、軽い状況と同様に、【悪気なしの表明】、【努力の表明】などを伴って言ったり、バッグを洗濯したという【対処遂行の報告】の発話を使用したりする。また、その言い訳に対する被害者の反応は、加害者自身がやったわけではないのに、親・疎とも【指摘】、【責める】などの否定的な反応がある。

以下でまず、軽い状況での会話例を見ていく。

{被害の程度が軽い場合}

会話 TH21<場面13:人にぶつかられて自分が持っていた親しい同等の相手の本に折り目がついた>

主要部		
1	B: แต่ก็มีเรื่องไม่หนักอีกแล้วอะ. B: また楽しくないこともあったんだ.	【前触れ】
2	A: อะไรอะ A: 何?	
3	B: โทวันก่อนดี,พวกMCAอะ,วิ่งมาทั้งหมดกลุ่มเลยนะ.เราก็เดินถือหนังสืออยู่ประมาณสิบเล่มอะA	【事情説明】
4	B: ก็มีเล่มแฮร์รี่พอตเตอร์ของAด้วยอะ. B: この前,MCA たちがね,全員走ってきた.私は 10 冊ぐらいの本を持ってて, B: その中に A のハリーポッターもあった.	
5	B: แล้วคำกั้นเราอะ.แล้วมันก็...เป็นอย่างที่เห็นนี่แหละ. B: で、私にぶつかってきて.それで、結果はこうなったんだ.	⇒ 【言い訳】【結果の言及】
6	A: โท ↑ เฉียนนะ? A: おお ↑ これ?	⇒ 【文句】
7	B: อ้อ. B: うん.	
8	A: <u>ยับถึงขนาดนี้เลย.</u> A: <u>こんなに折り目が付いたの?</u>	⇒ 【指摘】

会話 TH21 は場面 13:《間接・物・軽・親》の状況である。会話 TH14 で用いられている言い訳は「คำกั้นเราอะ(私にぶつかってきて)」と[正直に言う]ものである。言い訳の際、1B での【前触れ】、3B-4B での【事情説明】、及び 5B 後半での【結果の言及】などの発話と一緒に使用されている。それに対して、相手と親しい関係の場合、TH の被害者は、6A のように「โท ↑ เฉียนนะ?(おお ↑ これ?)」と【文句】で返す傾向がある。また、このとき【文句】と共に被害者が 8A で「ยับถึงขนาดนี้เลย(こんなに折り目が付いたの?)」と声を強調しながら、【指摘】をする例も見られた。

次に、あまり親しくない相手との会話を見ていく。

会話 TH22<場面14:人にぶつかられて自分が持っていたあまり親しくない同等の相手の本に折り目がついた>

主要部		
1	B: แต่ว่าhh(.)เอ้อ มันเป็น(.)รอยยับนิดนึงนะ. แต่คือว่าเราไม่ได้ทำเอง. B: でもhh(.)あの:ノートに(.)ちょっと折り目ついちゃったのよね. B: でも私がやったわけじゃないよ.	} 【結果の言及】【責任の回避】
2	B: มีคนวิ่งมาชนเราอะ. เราไม่ได้ตั้งใจนะ,[เอ้อ]. B: 人にぶつかって来られたんだ. 私のせいじゃないよ,[うん].	
3	A: [เพื่อ-] そう?	
4	A: เพื่อ. แต่ว่า(.)มันยังพออ่านได้ปะ?[ก็-] A: そうか. でも(.)なんとか読めるでしょ?[じゃ-]	⇒ 【理解】【確認要求】

上記の会話 TH22 は場面14:《間接・物・軽・疎》の状況である。この会話のように、あまり親しくない相手に対しても TH の【言い訳】は「มีคนวิ่งมาชนเราอะ (人にぶつかって来られたんだ)」と【正直に言う】ものである。ただし、言い訳をしたとき、あまり親しくない相手に理解してもらおうと、1B で「でも私がやったわけじゃないよ。」という【責任の回避】、2B で「私のせいじゃないよ」という【悪気なしの表明】の使用が見られる。それに対して、被害者の反応は、親の相手とは違い、いくら不満を感じてもこの会話のように、3A「เพื่อ(そっか)」と【理解】を示すことが多い。

場面13、場面14のような軽い状況で、しかも被害の原因が直接自分の行動によらない場合、TH の調査対象者は全員言い訳を【正直に言う】。ただし、言い訳と一緒に用いられる発話が親疎により多少異なり、親しくない相手の場合、相手に理解してもらおうとして【責任の回避】の使用が見られた。

また、言い訳に対する被害者の反応も、相手との親疎により異なっている。親の相手との会話のうち、肯定的な反応のような【理解】の使用はわずか1組しか見られず、残りは【文句】、【指摘】、【非難】、【責める】+【物の大事さの強調】などの否定的な反応の使用であった。一方、疎の相手との会話では、【理解】が最も多く、【受け入れ】、のような肯定的な反応も多く使用されている。また、【驚き】のような否定的な反応は、今回のデータでは1組しか見られなかった。ただし、疎の相手に肯定的な反応をするわけではなく、自分の不満な気持ちを表すために、TH の被害者は【理解】を示しつつ、【皮肉】を表明する会話もある。その意味で、疎の相手への TH の【理解】には、本当の【理解】と、相手を批判するための【理解】の2種類があることを念頭に置く必要がある。

次に被害程度の重い状況での結果を見ていく。

{被害の程度が重い場合}

会話 TH23<場面15:雨のせいで親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグが雨に濡れた>

主要部		
1	B: แต่..แต่ตอนที่เรากลับนะพกด้วยความที่ฉันไม่ได้เอาร่มไปเลย.ฉันก็ถือร่มมา. B: でも-,でも帰りは傘持ってなくて.堂々とバッグをかけて出かけた.	【事情説明】
2	B: แล้วแบบฝนมันก็ตกเว้ย.ตกมาแล้วมันก็เป็นรอยต่าง. B: そしたら雨が降っちゃったの.降ってきてシミになった.	【言い訳】【結果の言及】
3	B: เออแต่ฉันก็ดูแล้ว, ↑ ก็ ↑ ไม้ ↑ ไม้ ↑ ภา ↑ ภา ↑ เกลียดอะไรนี่นา.hh[มัน]ก็ไม่ได้มาเกลียดมาก. B: でも見た限りでは,↑ まあ↑ そんなに↑ 見↑ 見↑ 苦しくないんだ.hh[見苦]し B: くないけど.	【冗談・責任軽減】
4	A: [เออ.] (ええ.)	
5	B: แต่มันก็แบบ..มันก็เป็นดวงเป็นลายใจ.ลวดลายใหม่.hh[สิ]เจียสปาวะ? B: なんか玉みたいな柄になってる.新しい柄.hh[気]にしてる?	【心配度の確認要求】
6	A: [เฮ้ย] (おい)	
7	B: ถ้าแกสิ[เจียส],เราซื้อ-,เราซื้อใหม่ได้.อ้าว(.)เฮ้ยใคร-,ของแกไปได้จากไหนอะ. B: もし気に[してるなら],買う-,新しいのを買って返す.あのか(.)誰-だれに B: もらったの?	【補償の申し出】【情報要求】
8	A: [สิเจียส.](気にしてるよ.)	【文句・確認】
9	A: ได้มาจากโฮสต์อะดิ. A: โฮสต์ファミリーからもらったんだよ.	
10	B: ↓จริง↓ดิ. B: ↓本↓当.	【物の大事さの強調】
11	A: สมัยนั้นเคยนะเว้ย. A: その昔にだよ.	
12	B: เฮ้ย,แกเอาใจดิอะ. B: ああ,どうしよう.	⇒ 【相談】
13	A: แล้วไม่แกต้องไม่รู้จักซุกๆเอาไว้ในตัวโรยข้างเจีย? A: 何で体のどこかで隠したりしなかったの?	⇒ 【責める】

会話 TH23 は場面15:《間接・物・重・親》の状況である。この会話の言い訳では、加害者である B がバッグにシミがついた原因を「แล้วแบบฝนมันก็ตกเว้ย(そしたら雨が降っちゃったの)」と正直に言う。そして、相手が親友なので、3B の冗談交じりの【責任の軽減】と、5B の【許しの確認要求】の発話を使用し、お互いが親密な関係であることを表す。しかし、原因が直接的に親友によるものでないにもかかわらず、過半数の被害者は、会話 15 のように否定的な反応を返していた。上記の会話は、5B で「สิเจียสปาวะ?(気にしてる?)」と【許しの確認要求】をしているのに、被害者が 8A で「สิเจียส.(気にしてるよ.)」と厳しく【文句・確認】で返し、さらに 9A と 11A で「ได้มาจากโฮสต์อะดิ.สมัยนั้นเคยนะเว้ย..(ホストファミリーからもらったんだよ.その昔にだよ.)」と【物の大事さの強調】をして、相手により重く非を感じさせようとしている。

しかし、あまり親しくない相手となると、同じ[正直に言う]言い訳を使っても、被害者からの反応は異なる。以下の会話 TH24 を見てみよう。

会話 TH24<場面16<場面16:雨のせいであり親しくない同等の相手に貸してもらった大事なバッグが雨に濡れた>

主要部		
1	B: แต่แบบ(.)ต้องขอโทษด้วยอะ.มัน(.)และ.เปียกฝน. B: でも(.)謝らなきゃならないんだ.バッグが(.)汚れた.雨に濡れちゃった.	⇒ 【謝罪】【損傷の言及】【言い訳】
2	A: เอ๊ย?ตรงเนี่ยอะเหรอ? A: え?ここなの?	⇒ 【確認要求】
3	B: อือ... B: う::ん.	⇒ 【確認】
4	A: °อือ:::° A: °う::ん.°	⇒ 【理解】

会話 TH24 は場面16《間接・物・重・疎》の状況である。加害者の B が 1B で「แต่แบบ(.)ต้องขอโทษด้วยอะ.มัน(.)และ.เปียกฝน.(でも(.)謝らなきゃならないんだ.バッグが(.)汚れた.雨に濡れちゃった.)」と、まず【謝罪】をして【損傷の言及】を表明した後に、雨のせいでもバッグにシミが付いているという【言い訳】を正直に言っている。そして、バッグの損傷について【確認要求】-【確認】を終えた後、被害者である A が 4A で「°อือ:::°(°う::ん.°)」と小さい声で【理解】を示している。そして、この後、加害者が【対処遂行の報告】をし、さらに、「雨がすごく降っていた」と【事情説明】を強調している。そこで、被害者は「いいよ。しょうがない。汚れたし。」と【許し】と【気遣い】を表明している

場面14、15のような重い状況でも、被害の原因が直接自分の行動によらないため、TH の被害者全員が言い訳を[正直に言う]結果であった。ただし、言い訳と一緒に用いられる発話は、親疎の相手によって多少違いがある。ここに例を挙げてはいないが、あまり親しくない相手の場合、バッグをがんばって守ったという【努力の表明】の使用に対して、【冗談】など、相手との親しさを表すような発話の使用が見られた。また、軽い状況と同様、言い訳に対する被害者の反応も、親疎の相手によって異なっている。親の相手との会話では、【理解】と、【受け入れ】のような肯定的な反応を示したのは 2 組のみで、残りは【文句】、【指摘】、【責める】、【物の大事さの強調】などの否定的な反応であり、否定的な反応の使用が目立つ。一方、疎の相手との会話では、肯定的な反応と否定的な反応が半々の割合で使用されていることが分かった。ただし、親の相手に否定的な反応を示したと言っても、最終的には、被害者が【冗談】を言って緊張した雰囲気を改善するような会話もあった。

以上のように、《間接・物》状況は、被害の原因が直接的に自分の行動によらないため、TH は親疎の相手と関係なく、全会話において被害の原因を[正直に言う] 結果であった。なぜ[正直に言う]ことにしたかについてインタビューしたところ、「雨のシミでわざとじゃないから、そのまま言えたんです」、「天候のせいにするると誰も悪くなく、喧嘩も起こらないから」、「กระเป๋าเป็นของสำคัญรู้สึกเสียดกับสิ่งที่เกิดขึ้นแต่ตัวเองไม่ได้เป็นคนทำ(ฝน)จึงไม่จำเป็นต้องโทษอะไร(バッグは相手にとって大事な物なので、すごく気になるが、自分のせいじゃないので、特にうそとかはつく必要ない)」、「ถ้าตัวเองไม่ได้เป็นคนทำก็พูดไปเลย(自分が

その被害を起こした原因じゃなかったら、正直に言う」などと説明している。また、被害者の反応は、軽・重の状況にかかわらず同じ傾向が見られた。TH は、相手があまり親しくないと、いくら相手に不満を感じても、それを表に出さず、【理解】、あるいは【受け入れ】などの肯定的な反応で返す傾向がある。一方、親しい相手であると、不満をはっきりと伝えやすい仲であるため、【物の大事さの表明】などの否定的な反応で返すことができるのである。

5.2.2.1.2 [正直に言わない]場合

データなし。

5.2.2.2 《間接・物》加害者の言い訳の内容と、それに対する被害者の反応のまとめ

以上、《間接・物》状況での言い訳の内容と被害者の反応について見てきた。言い訳内容とそれに対する被害者の反応の結果を見ると、JP と TH の間で相違点が観察された。《間接・物》状況の場合、自分に非がないため、JP と TH の加害者全員が、第三者である雨によって被害が生じたと認め、言い訳を[正直に言う]。しかしながら、[正直に言う]と言っても、JP と TH の間では、そこで行われる発話が異なっている。JP と TH の相違点は以下のようにまとめられる。

- ① JP は【言い訳】の発話と【謝罪】などを一緒に用いるのに対して、TH は【謝罪】の他に、【悪気なしの表明】、【責任の軽減】など、自分のせいではないことを主張しようとする様々な発話と一緒に用いている。
- ② 被害者の反応に関しては、JP と TH では明らかに異なっている。JP はどの相手に対しても、あるいは、どの状況においても、【理解】のような肯定的な反応を示す傾向があるのに対して、TH は疎の相手には受け入れ的な反応をし、反対に親の相手には、否定的な反応をよく用いる。また、疎の相手には、間接的に不満を伝えようとする方法として【皮肉】を使用している。

5.2.3 まとめと考察

《間接・物》状況では、JPとTHは〔自発的言い訳〕の言い訳のタイプが最も使用された。これは遅刻の状況とは違って、相手に貸してもらった物に被害が生じた状況のため、本やバッグに何が起きたかは、そのときにいた加害者にしか分からないので、当然〔自発的言い訳〕が用いられるのであろう。ただし、相手が親友である場合、バッグを見せた瞬間すぐに「バッグどうしたの?」のような【説明要求】や、【文句】から始まる会話もある。この点について、THの特徴の一つとして親疎の影響が反映されていると言える。

会話の流れについては、日本語は軽・重の状況において前半は似たような流れだが、重い状況では、問題解決の段階まで続く会話が軽い状況より多くなっている。しかも、被害者のほとんどが、言い訳に対して肯定的な反応を示している。一方、タイ語は、軽・重どの状況においても、会話のやりとりがほぼ同じで、しかも、いずれの場合も、問題解決の段階まで続く会話が多かつた。これにはJPとTHの問題対処あるいは責任の取り方の違いが反映されていると推測できよう。

また、会話の中で加害者と被害者がそれぞれ使用している発話を観察すると、JPとTHの言語行動の違いが明らかになった。つまり、JPは【言い訳】を、遅刻の場面と同じように、【謝罪】と一緒によく使用する。さらに、直接的に自分のせいではないものの、多少自分にも責任があるという意味で、【自己非難】や相手にとってどれだけ大切な物を傷を付けたかという【物の大事さの確認】などの発話も見られる。それに対して、THは自分に非がない場合は、遅刻の場面と同じように【同情要求】、【悪気なしの表明】、【責任の軽減】、【責任の転嫁】など、自己防御のような発話の使用が目立つ。また、相手の反応も遅刻の場面と同様で、特に親しければ、【文句】、【責める】、【指摘】、【皮肉】など、相手を批判するような発話の使用が著しくなる。これらの発話の使用傾向を見ると、JPはたとえ自分に非がなくても必ず謝るが、THは自分が悪くないことを主張しようとする傾向が見られるといえる。ただし、THの場合、単に自分が悪くないこと主張するのではなく、責任をとろうとする姿勢も見られ、それゆえ、タイ語の会話の多くは問題解決の段階にまで続くのである。

5.3 直接的に自分の行動によらない原因で被害が与えられた場合の総括

本節では、「5.1 直接的に自分の行動によらない原因で相手との待ち合わせ時間に遅刻した」状況と、「5.2 直接的に自分の行動によらない原因で相手の所有物に被害が与えられた」状況で述べられた結果を基に、JPとTHの行動の仕方の背景となる要因について考察する。

本章のように、直接的に自分に非がない場合の会話においては、JPもTHも、当然その遅刻の原因や、所有物に生じた被害の原因をそのまま言う。ただし、同じように正直に言い訳を言うにもかかわらず、JPとTHがとる行動は異なっている。つまり、JPは自分に非がなくても必ず【謝罪】をする。さらに、被害者が言うことに対しても加害者が必ず謝罪を含めた発話をする。それに対して、THはJPと反対の行動をとっている。すなわち、自分に非がないことを言うために、一所懸命【悪気なしの表明】をしたり、自分のせいではないと【責任の回避】をしたり、あるいは自分のせいではないけど頑張っただけで来た【努力の表明】をしたりするのである。このような違いは、なぜ生まれるのだろうか。

ウィッターパンヤーンソン(2012)は、日本では謝罪の有無でその後の関係に雲泥の差が生まれると述べている。謝罪はトラブル後の関係維持に欠かせないものであり、理由の説明よりも一言の謝罪のほうが重視され、たとえ自分に非がなくても日本人は「とりあえず謝っとけ！」という行動を取る可能性が高いという(p.76)。また、高木(1996)は、謝罪は社会生活上の人間関係をスムーズにするうえで、ほとんど無意識のうちに非常に大きな役割を果たしていることは間違いなく、謝罪一言がギスギスしかけた対人関係をどんなにやわらげているかはいくらでもないと述べている(p.32-33)。

Boonmee(1992)は日本人や中国人、そしてタイ人にとって「ナーター」、つまり面子は人生で最も大事なものであると指摘している。人に褒められたら、タイ人は「ナーター」を立てられ嬉しく思い、反対にミスをして非難されたら「ナーター」を失って恥ずかしくなるのである。従って、本章で分析したような自分に非がない場面では、THは自分の「ナーター」を守ろうとして【責任転嫁】を使用し、またたとえ遅刻の原因が自分にはなくても、【努力表明】を使って被害者への配慮を示し、自分と相手との信頼関係を取り戻そうとするのである。

また、タイ語母語話者にとっては、謝罪という行為は非常に重みのある行為で、自動的に謝罪をしてしまったら、それに伴う責任を取らされても否定することができないのである。そのためか、タイ語母語話者には「とりあえず謝っておく」という考えはない。

また、被害者の反応に関しては、JPの結果ではほとんどが【理解】のような肯定的な反応を用いているという結果である一方、THは親疎により異なる。特に、ここでの状況は、加害者の直接的な行動によって被害が起きたわけではなく、さらに加害者に【言い訳】と共に、【謝罪】をされたので、これ

以上責めても仕方がないため、場の雰囲気改善を優先しているのではないかと推測される。一方、筆者の経験から言えば、TH の人付き合いは「率直さ」に尽きる。特に友人との付き合いでは、率直さが一番大事なことであり、物事を自分が思ったままストレートに言えることが重要なのである。また、JP に比べると、ささいなことにあまりこだわらない性質を持っており、人の言葉をいちいち深刻に受け止めることは好まない傾向がある。従って、自分が不満の感情を抱いている時には、それを口にするだけで気が済むし、反対に、言われた側も、言われたそのことばをあまり重大なこととして受け取らないのだと考えられる。

第6章

直接的に自分の行動による原因で相手に被害を与えた場合

本章では、直接的に自分の行動による原因で相手に被害を与えた場合について述べる。第5章と同様に、状況の内容によって「相手との待ち合わせ時間に遅刻した」状況を「時間」、また「相手の所有物に被害を与えた」状況を「物」と、便宜上分けて分析し、前者を6.1で、後者を6.2で述べる。各節では、それぞれ①会話全体の流れ、②加害者が使用する言い訳内容、及びその言い訳に対する被害者の反応の、2つのパートに分けて考察する。

6.1 「直接的に自分の行動による原因で相手との待ち合わせ時間に遅刻した」状況について

まず、本節で扱う「直接的に自分の行動による原因で相手との待ち合わせ時間に遅刻した」状況（以下《直接・時間》とする）とは、ある用事のために友達と待ち合わせをしたが、自分のせいで（=寝坊、電車・バスに乗り遅れたなど）遅刻した（以下《直接・時間》とする）状況のことである。分析対象は以下の表6-(1)の4場面である。

表6-(1) 6.1分析対象場面

場面	略称	状況内容
1	直接・時間・軽・親	自分のせいで親しい同等の相手と一緒にいく買い物の約束に30分遅刻した
2	直接・時間・軽・疎	自分のせいであまり親しくない同等の相手と一緒にいく買い物の約束に30分遅刻した
3	直接・時間・重・親	自分のせいで親しい同等の相手と一緒に映画を見る約束に30分遅刻した
4	直接・時間・重・疎	自分のせいで親しくない同等の相手と一緒に観覧する予定の公演の約束に30分遅刻した

分析の結果、《直接・時間》状況において、言い訳のタイプは、JPとTHともに〔自発的言い訳〕が最も使用された。会話全体の流れを見ると、遅刻の場面では、加害者の【言い訳】から始まり、それに対する被害者の反応がある。ここまでは日本語とタイ語で同様だが、それ以降の流れは異なっている。一方、所有物の場面では、JPとTHで会話が異なっている。日本語では、加害者の【言い訳】があり、それに対する被害者の反応があるのに対して、タイ語では、加害者の【言い訳】があつて、それから物の損傷について【確認要求】-【確認】がなされた後、被害者の反応がなされるというように、言い訳の後に物の損傷の【確認要求】-【確認】の段階が終わってから被害者の反応が現れるという点で異なる。

また、言い訳内容に関して、遅刻の場面ではJPは相手が親しい人である場合、よく過失を認め、遅刻の原因を[正直に言う]傾向がある。逆にTHは親しい人ほど、遅刻の原因を[正直に言わない]傾向がある。所有物の場面においても、JPは被害の原因を[正直に言う]傾向があるが、THの結果は遅刻の場面と異なり、相手との関係という要因はあまり影響せず、むしろ被害の程度のほうが言い訳の使用に影響を与える。つまり、被害の程度が重ければ重いほど[正直に言わない]言い訳を用いるTHが多くなるのである。

最後に、被害者の反応に関して、JPは全体的に肯定的な反応をするが、THは親の相手には否定的な反応をする可能性が高いという結果となっている。

以下では、具体的な例を用いながら、6.1.1で会話全体の流れを、6.1.2で加害者が使用する言い訳とそれに対する被害者の反応を詳述する。

6.1.1 会話全体の流れ

この項では、《直接・時間》状況における言い訳会話の連鎖がどのように構成されているかについて論じる。

6.1.1.1 言い訳のタイプの使用結果

以下の表6-(2)は、JPとTHの調査対象者が使用した言い訳のタイプの結果である。

表6-(2) 《間接・時》状況におけるJPとTHが使用した言い訳のタイプ別の会話数

設定要因			具体的な状況		話者	言い訳のタイプ				合計
						自発	説明	文句	他	
直接	軽	場面	内容							
			親	1	自分のせいで同等の相手と一緒にいく 買い物の約束に30分遅刻した		JP	1	6	-
					TH	1	4	3	-	8
	疎	2	自分のせいで同等の相手と一緒にいく 買い物の約束に30分遅刻した		JP	4	2	-	2	8
					TH	4	1	2	1	8
	親	3	自分のせいで親しい同等の相手と一緒に に映画を見る約束に30分遅刻した		JP	2	2	-	4	8
					TH	2	1	2	1	8
	重	4	自分のせいで親しくない同等の相手と 一緒に観覧する予定の公演の約束に 30分遅刻した		JP	4	1	-	3	8
					TH	3	1	2	2	8

上記の結果を、被害の程度と親疎関係の要因から見ると、＜場面3:自分のせいで親しい同等の相手と一緒に映画を見る約束に30分遅刻した＞を除いて、JPとTHの間で言い訳のタイプの使用傾向がほぼ一致していることがわかる。つまり、＜場面2:自分のせいで同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した＞と＜場面4:自分のせいで親しくない同等の相手と一緒に観覧する予定の公演の約束に30分遅刻した＞のように、相手とあまり親しくないときは、加害者自らが遅刻の原因を言うまで待つ〔自発的言い訳〕が最も使用されている。そして、＜場面1:自分のせいで同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した＞のように、相手が親友になると、待っていた側が、遅刻してきた相手に会ってすぐに遅刻した原因を追及する〔【説明要求】に対する言い訳〕が多く使用されている。

しかし、＜場面3＞のように、相手と親しくて被害の程度が重い場合は、JPは〔【説明要求】に対する言い訳〕と、〔【文句】に対する言い訳〕が同じ割合で使用されているのに対して、THは〔自発的言い訳〕と、〔【文句】に対する言い訳〕が、同じ割合で使用されている。

次に、言い訳会話の全体の流れを考察する。

6.1.1.2 言い訳会話の連鎖組織

以下の図6-(1)と6-(4)は、被害の程度別の日本語とタイ語の言い訳会話の流れである。

会話の流れを、言い訳とその言い訳に対する反応を前半、それ以降から会話の終了までを後半に分ける。6.1.2の分析対象は前半の流れであり、本項で結果を述べる際、この前半の流れを中心に述べていく。

図 6-(1) JP の《直接・時間・軽》会話の流れ

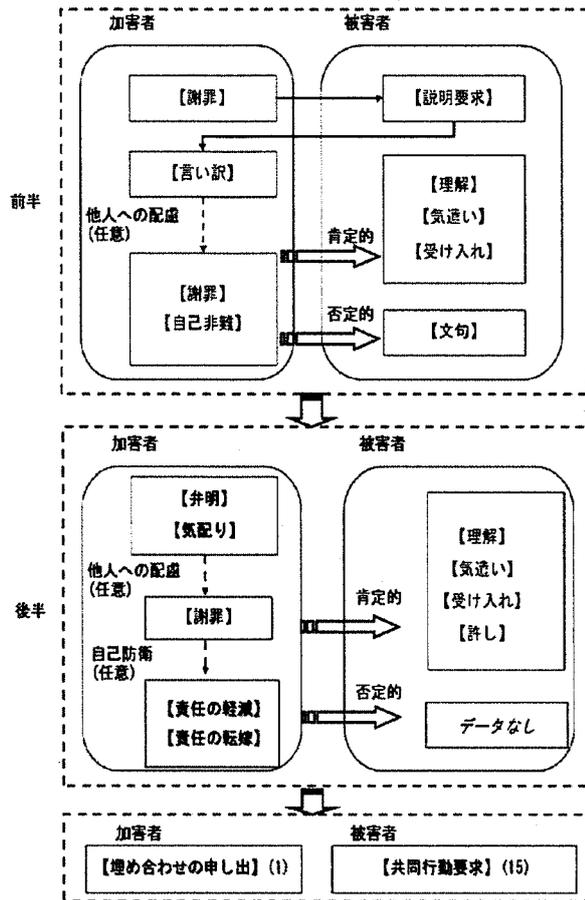
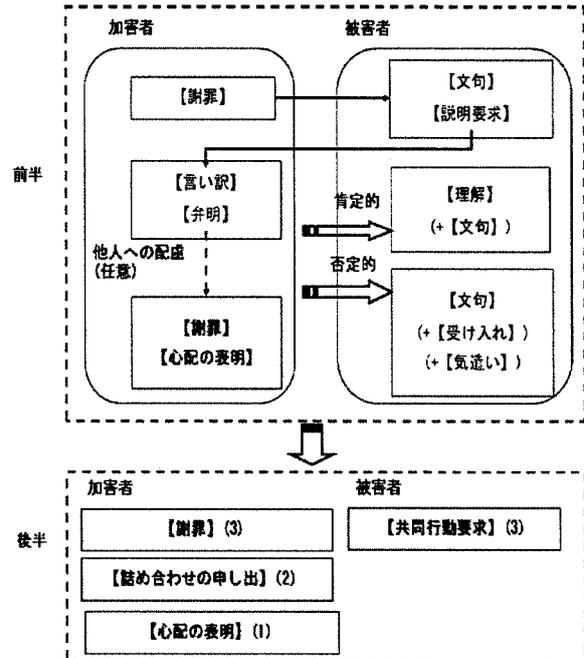


図 6-(2) JP の《直接・時間・重》会話の流れ



JP の会話の流れを示す図 6-(1)と図 6-(2)を見ると、会話の流れとして、前半は似ているが、後半は多少異なる結果である。会話の前半の部分は、「加:【謝罪】⇒ 被:【説明要求】/【文句】⇒ 加:【言い訳】⇒ 被:反応」という流れで、軽重とも同じである。しかし、その後の流れは、被害が軽い場合は、「加:【弁明】/【気配り】⇒ 被:反応⇒ 会話の終了」であるのに対して、被害が重い場合は、長く会話する余裕がないため、「加:【謝罪】/【埋め合わせの申し出】/【心配の表明】、あるいは、「被:【共同行動要求】」で会話が終了となる。

次に、この状況における発話種類の使用について述べたい。JP の加害者は【謝罪】、【言い訳】、【弁明】、【心配の表明】と同種の発話を使用している。さらに、自分の行動によって被害が発生したにもかかわらず、【責任の軽減】、【責任の転嫁】などの発話が見られた。一方、被害者の反応については、多くの調査対象者は肯定的な発話をよく使用しているが、否定的な反応も多少は見られる。

最後に、起こった問題をどのように解決したかについて述べると、JP の会話では、軽い状況の場合、【謝罪】をした後に「買い物に行こう」と【共同行動要求】で終わる会話が圧倒的に多かった。一

方、重い状況では、JPの調査対象者は【謝罪】、【共同行動要求】、【埋め合わせの申し出】、【心配表明】と、様々な発話で会話を終えていた。

次は、THの会話の流れを見ていく。

図 6-(3) THの《直接・時間・軽》会話の流れ

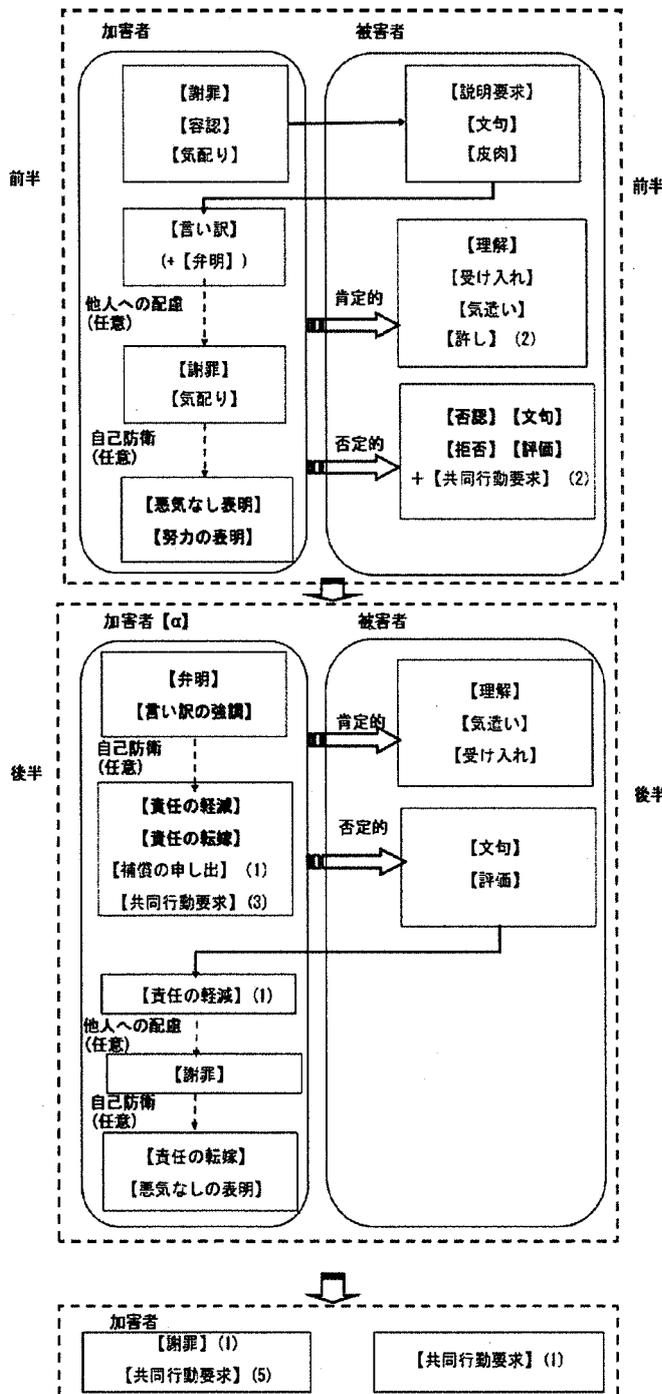
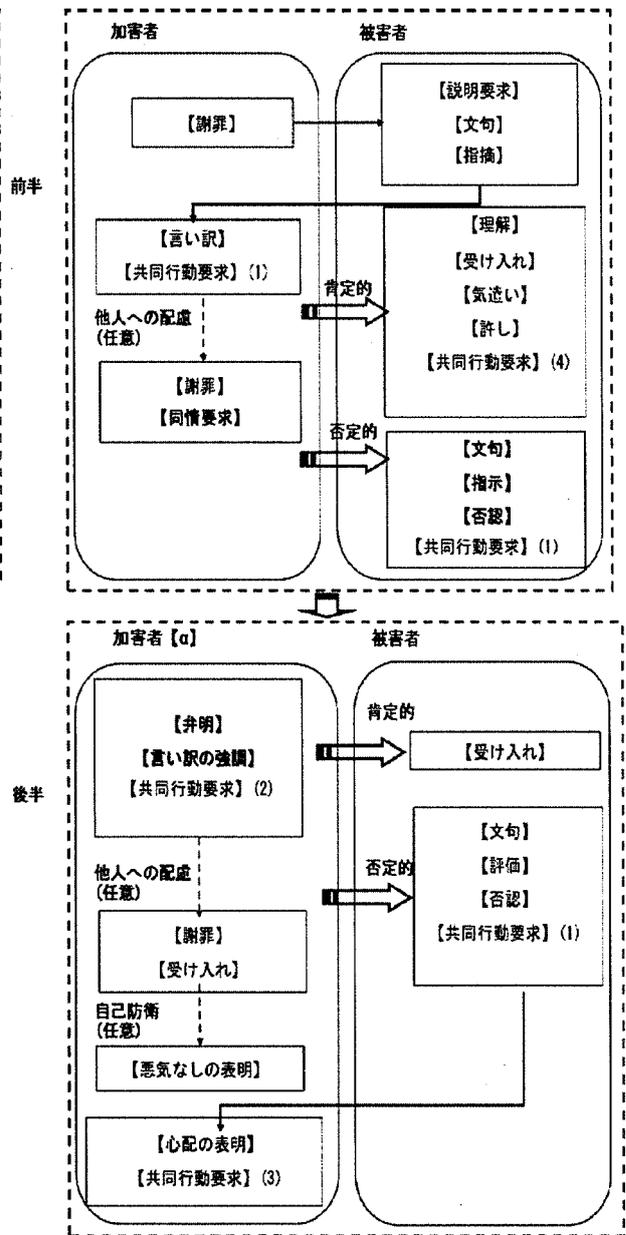


図 6-(4) THの《直接・時間・重》会話の流れ



THの会話の流れを示す図6-(3)と6-(4)を比較してみると、THの場合、軽・重の会話の流れがよく似ていることが分かる。すなわち、タイ語の会話の流れは、いずれも「加:【謝罪】/【容認】/【気配り】⇒ 被:【説明要求】/【文句】/【皮肉】⇒ 加:【言い訳】+【弁明】⇒ 被:反応⇒ 加:α⇒ 被:反応⇒ 会話の終了」という流れで、「α」がJPと異なる点である。

《直接・時間》における発話の種類の使用については、第5章で見たのと同様に、THの加害者は【謝罪】、【言い訳】、【弁明】、【悪気なしの表明】、【努力の表明】、【同情要求】、【言い訳の強調】と豊富な種類の発話を使用しているところが、JPと異なっている。また、自分の行動によって被害が発生したにもかかわらず、【責任の軽減】、【責任の転嫁】などの発話がTHのデータにも見られた。一方、被害者の反応については、THは特に親の相手には、否定的な反応が圧倒的に多かった。否定的な反応の内訳については、タイ語では【否認】、【拒否】、【評価】など様々な発話を用いられている。その他、THは疎の相手に【受け入れ】、【気遣い】などの肯定的な反応をしてはいるが、【文句】などと一緒に用いて相手を非難する会話が少ないという結果も出ている。

最後に、起こった問題をどのように解決したかについて述べると、JPと結果が異なっている。具体的には、THの会話では、【共同行動要求】で大半の会話が終わる他、【許し】、【補償の申し出】、【責任の軽減】、【謝罪】などの発話機能で会話が終わる。一方、重い状況では、THの調査対象者は全員【共同行動要求】で会話を終えている。ただし、この【共同行動要求】の現れる時点は【言い訳】の直後などの早い段階で現れる会話もあれば、会話が長く続いた場合、最後に現れるものもあった。また、THの【共同行動要求】の使用者はJPと違って、被害者・加害者の両方に使用が見られた。

次に、上記の図6-(1)～図6-(4)の流れを持つ日本語とタイ語の言い訳会話をそれぞれ取り上げながら、具体的な会話の連鎖組織を詳しく見ていく。

6.1.1.2.1 日本語母語話者

(a) 《直接・時間》で使用された言い訳のタイプ

まず、《直接・時間》状況においては、〔自発的言い訳〕、〔【説明要求】に対する言い訳〕、〔【文句】に対する言い訳〕の3タイプの使用が見られた。すなわち、被害の程度が軽い場合は、〔自発的言い訳〕と〔【説明要求】に対する言い訳〕、また、被害の程度が重い場合は3タイプが使用されている。以下、軽・重それぞれの状況における会話例を挙げて考察する。

(b) 《直接・時間・軽》会話の流れ(図 6-(1)を参照)

以下の会話 JP18 は親しい同等の相手との会話例である。

会話 JP18<場面1:自分のせいで親しい同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: ごめん.めっちゃ遅れた..	⇒ 【謝罪】【容認】
2	A: ふん.どうしたの?	⇒ 【説明要求】
3	B: ちょっとさ:今日寝坊しちゃって..	⇒ 【言い訳】
4	A: うん.	⇒ 【理解】
5	B: 30分も遅れちゃってごめ::ん.で,連絡しようと思ったんだけど[さ:],	} 【謝罪】【弁明】
6	A: [うん.]	
7	B: ちょっと携帯も忘れてきちゃってあまりにも慌ててたんもんだから..	⇒ 【理解】
8	A: [あ::,そうだったんだ:]	⇒ 【確認】【謝罪】
9	B: うん.ごめんね..	⇒ 【思いやり】
10	A: うん.連絡ないから,どうしたのかなと思って[たん]だけど.	⇒ 【謝罪】
11	B: [うん.]	⇒ 【受け入れ】【理解】
12	B: ごめんごめん,ほんとごめん.	
13	A: うん.(.)分かった.	

会話 JP18 は、場面1:《直接・時間・軽・親》の状況である。加害者であるBは、まず1Bで「ごめん.めっちゃ遅れた..」と【謝罪】、【容認】をしている。このとき待たされた被害者は、すぐに3Aで「どうしたの?」と【説明要求】をしているため、加害者は3Bで「ちょっとさ:今日寝坊しちゃって..」と【言い訳】を行い、それに対して、被害者であるAが4Aで「うん..」と【理解】を表明している。

加害者Bは、さらに5Bと7Bで「30分も遅れちゃってごめ::ん.で,連絡しようと思ったんだけどさ:,ちょっと携帯も忘れてきちゃってあまりにも慌ててたんもんだから..」と【謝罪】と共に【弁明】をし、それに対して、被害者Aは、8Aで「あ::,そうだったんだ..」とそれを【理解】した後、会話は終了部に向かう。

次に、あまり親しくない同等の相手との会話例を見る。

会話 JP19<場面2:自分のせいであまり親しくない同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	A: あっ,[Bさん.]	
2	B: [ごめ:ん],ごめん(.)なさい.ちょっと遅刻しちゃって[:ほんまに.30分も.]	⇒ 【謝罪】【過失の主張】
3	A: [あ::大丈夫大丈夫.]	⇒ 【許し】
4	B: はあ::.	
5	A: いや.私もさつき着いたとこやし,ふん.	⇒ 【気遣い】
6	B: いや.でも,なんかちょっとね::.	⇒ 【否定】
7	A: うん.	
8	B: めっちゃ急いだん(.)ですけど.	⇒ 【努力の表明】
9	A: うん.あ,大丈夫だよ.	⇒ 【理解】【気遣い】
10	B: ちょっとなんかバスに乗り遅れちゃっ(.)[て:].	⇒ 【言い訳】
11	A: [うん.]あ,みんな[よくあるし,そう]いう	⇒ 【理解】【慰め】
12	B: [ふ:::ん.]	
13	A: こと.(0.2)[ね.]	
14	B: [いや.]でも,あ,いや30分も遅れると,hいや,ごめんね::,ほんまに.	⇒ 【否定】【過失の主張】【謝罪】
15	A: いえいえいえ.私も本当に(.)うん.遅れ(.)ちゃったし,今日.うん.	
16	B: いや::.	⇒ 【受け入れ】【気遣い】
17	A: なんかちょうどよかった.うん.	
18	B: ほんまに?hh[ご]めんな.	⇒ 【確認要求】【謝罪】
19	A: [うん.]	⇒ 【確認】

会話 JP19 は、場面2:《直接・時間・軽・疎》の状況である。この会話も遅刻してきた加害者である B が、まず 2B で「ごめ:ん,ごめん(.)なさい.ちょっと遅刻しちゃって:ほんまに.30 分も。」と【謝罪】、【容認】、【過失の主張】をしている。このとき、待たされた被害者は、あまり親しくない相手に 5A で「いや.私もさつき着いたとこやし,ふん.」と情報提供で【気遣い】をしている。加害者は、自発的に 10B で「ちよつとなんかバスに乗り遅れちゃっ(.)て.:」と【言い訳】をしており、それに対して、被害者である A は、11A と 13A で「うん.あ,みんなよくあるし,そういうこと.(0.2)ね.」と【理解】の後に、遅刻で落ち込んでいる相手を【慰め】ている。この状況では、相手とはあまり親しくないので、加害者が【弁明】をせず、この会話の 14B と 18B のように、【謝罪】を重ねて行う例も見られた。

続いて、《直接・時間・重》の会話例を見ていく。

(c) 《直接・時間・重》会話の流れ(図 6-(2)を参照)

この重い状況も軽い状況と同様で、親疎関係という要因により言い訳のタイプの使用が少し違っているが、全体の流れとして軽い状況とあまり変わらないことが明らかになった。また、この状況は被害の程度が重くて、待ち合わせの場所に着いたとき既に映画・公演が始まっていて、長く会話をする余裕がないため、言い訳をせずに、謝罪をした後、すぐに次の行動に移る会話が圧倒的に多かった。

以下の会話 JP20 は、親しい友達との会話例である。

会話 JP20 <場面3:自分のせいで親しい同等の相手と一緒に映画を見る約束に 30 分遅刻した>

主要部		
1	B: あ,おはよ.:.ごめん.めっちゃ遅れたね.(0.2)[遅れ]てしまった.	⇒ 【挨拶】【謝罪】【容認】
2	A: [もう-]	
3	A: もう映画始まってよ.	⇒ 【文句】
4	B: あ,そうだよね.=本当ごめん.[ちょ]つと.	⇒ 【受け入れ】【謝罪】
5	A: [うん.]	
6	A: うんうん.	
7	B: 電車の-,乗り遅れちゃってさ:,電車なかなか来なくて,	⇒ 【言い訳】
8	A: うん.	
9	B: 連絡しようと思ったけどもう電車の中だし.(.)ちょっと乗り継ぎとかで大変でさ:.	⇒ 【弁明】
10	A: あ,そうか.	⇒ 【理解】
11	B: うん.	⇒ 【確認】
12	A: まあでも,メールぐらい送れたかな[と思うんだけど hh.]	⇒ 【文句】
13	B: [そうだよね.]¥ごめん.¥hh	⇒ 【受け入れ】【謝罪】
14	A: ¥うん.分かった¥	⇒ 【理解】

会話 JP20 は、場面3:《直接・時間・重・親》の状況である。遅刻してきた加害者 B がすぐに 1B で「ごめん、めっちゃ遅れたね。(0.2)遅れてしまった。」と【謝罪】、【容認】をしている。しかし、待ち合わせ時間が 30 分も前で、しかも、見る予定の映画がもう始まっているため、そのとき被害者 A は親友である B に 3A で「もう映画始まってよ。」と【文句】を言っている。すると、加害者は 4B でその【文句】を【受け入れ】て、【謝罪】をした後、7B で「電車の-, 乗り遅れちゃってさ:, 電車なかなか来なくて,」と【言い訳】をし、さらに、遅れることが分かっているのに、なぜ相手に連絡しなかったのか 9B で「連絡しようと思ったけどもう電車の中だし.(.)ちょっと乗り継ぎとかで大変でさ:。」と大変さを訴えて【弁明】を行っている。それを聞いた A は、仕方なく 10A で「あ, そうか。」と【理解】を示しつつも、遅れることを事前に連絡してこなかったことについてはまだ納得できず、12A のように【文句】を言っている。

次に、あまり親しくない同等の相手との会話例を見る。

会話 JP21 <場面4: 自分のせいで親しくない同等の相手と一緒に観覧する予定の公演の約束に 30 分遅刻した>

主要部		
1	B: お待たせしました A さ::ん.	⇒ 【謝罪】
2	A: あ, B さ:ん.	⇒ 【呼びかけ】
3	B: °ごめんなさい, すみません. 早く(.)行きましょうか.°	⇒ 【謝罪】【共同行動要求】
4	A: うんうんうん.[もう]たぶん始まってると思う.	⇒ 【同意】【現状の言及】
5	B: [あの-.]	
6	B: ですよ, [なんか-]	⇒ 【同意】
7	A: [たぶん]そっと入ったら, たぶん大丈夫[夫だと思う].	⇒ 【提案】
8	B: [大丈夫]かな?	⇒ 【心配表明】
9	A: うんうんうん.	⇒ 【確認】
10	B: ちょ-, 病院に行ってきたんですけど:.	⇒ 【言い訳】
11	A: あ, そうなんだ.	⇒ 【理解】
12	B: なんかもめっちゃ遅くって, 病院の人.	⇒ 【責任の転嫁】
13	A: あ, あ, あ(.)まあ:まあ:まあ:[後ろの]ほうからこっそり.	⇒ 【理解】【促し】
14	B: [なんか-]	
15	B: はい.	⇒ 【受け入れ】

会話 JP21 は、場面4:《直接・時間・重・疎》の状況である。この会話は遅刻してきた加害者 B がすぐに 1B と 3B で2回も【謝罪】をしている。相手とはあまり親しくなく、その上、学校の代表者としての参加という大事な約束に遅刻してしまったため、8B のように「大丈夫かな?」と【心配の表明】をし、続いて自発的に 10B で「ちょ-, 病院に行ってきたんですけど:。」となぜ遅刻したか【言い訳】を行っている。被害の程度が重く、しかも、相手あまり親しくないため、このミスが自分に原因があるとわかれば、信頼関係が失われる可能性があることを恐れ、12B で「なんかもめっちゃ遅くって, 病院の人。」と【責任の転嫁】までしているが、言い訳を聞く余裕がない被害者は 13A で「あ, あ, あ(.)まあ:まあ:まあ:後ろのほうからこっそり。」と【理解】を示しながら、早く会場に入るよう【促し】を表明している。

これまでに JP《直接・時間》における親疎、被害の軽重のそれぞれの状況の会話を見てきた。《間接・時間》状況における JP の会話の流れの特徴は次に3つにまとめられる。

- ① 被害の程度が軽い場合は、会話のやりとりが長いが、被害の程度が重い場合は、話す余裕がないため、会話が比較的短い。
- ② 軽い状況における被害者の反応では【文句】のような否定的な反応が見られるが、最終的に【理解】、【気遣い】などの肯定的な反応で会話が終了になることが多かった。しかし、重い状況になると、被害の程度が重いため、被害者が肯定的な反応を示したとしても、しばしば【文句】などで相手を非難するような発話を使用していることが明らかになった。
- ③ 遅刻してきた加害者のほとんどが第一発話として【謝罪】をよく用いることが、日本語の会話の特徴の一つである。

次に、TH の言い訳会話の流れを見ていく。

6. 1. 1. 2. 2 タイ語母語話者

(a) 《直接・時間》で使用された言い訳のタイプ

《直接・時間》の状況で使用された言い訳のタイプは、TH の場合も JP と同じように〔自発的言い訳〕、〔【説明要求】に対する言い訳〕、〔【文句】に対する言い訳〕の 3 タイプの言い訳の使用が見られた。

以下で、被害の程度の軽・重に分けて、それぞれの状況における会話例を挙げながら会話の流れを考察する。

(b) 《直接・時間・軽》会話の流れ(図 6-(3)を参照)

まず、被害の程度が軽い状況で親しい相手によく見られる会話例を TH25 で見ていく。

主要部		
1	A: <u>ท่อน, มาแล้วเธออะ.</u> A: <u>あんた, やつと来たね.</u>	⇒ 【文句】
2	B: เอ๊ยแก, ชันขอโทษอะ..วันนี้ชันทื่นสายอะ..เมื่อคืนดูละครหนักมาก..อะแก. B: <u>ああ君, ごめんね..今日寝坊してさ.夕べドラマ見すぎちゃって..</u>	⇒ 【謝罪】【言い訳】【事情説明】
3	B: ชันขอโทษจริงๆ.แต่ชันทรีบแล้วนะเว่ย..[เนีย]วิ่งหัวฟูเลยตุ๊ด. B: <u>本当にごめん.でも急いでたよ.[ほら]走って来て頭ぼうぼう.</u>	⇒ 【謝罪】【努力の表明】
4	A: [๔-]おい-	
5	A: หัวฟูบ้าง.นี่คือสรุปว่าแกมาสายเพราะ(.)ว่าแกนอนตึกอะไรอย่างเงี? A: <u>ぼうぼうなんてアホ.要するに遅刻したのは(.)寝るのが遅かったから</u>	⇒ 【拒否】【確認要求】
6	A: <u>ってわけ?</u>	
7	B: <u>ไซ. ชันตื่นสายแกชันขอโทษ.>ชันไม่ได้ตั้งใจจริงๆนะเว่ย.แกก็รู้ว่าหมกปกติชันไม่ได้เป็นคนสายซะหน่อย:อะ<</u> B: <u>そう.寝坊したの.ごめん.>でもわざとじゃなかったのよ.分かってるよね普通さ</u> B: <u>私遅刻するような人間じゃないんだから:..<</u>	} 【確認】【謝罪】 【悪気なしの表明】 【責任の軽減】
8	A: <u>นิสัย.[แรงมากจริงๆ.]</u> A: <u>まったく, 本当に.[なんてやつ.]</u>	⇒ 【文句】【評価】
9	B: [*****]ได้ปะละ? B: [*****]それでオーケー?	⇒ 【許しの求め】
10	A: ได้ๆ.โอเค.ไปๆ. A: <u>いいよ.うん.行こう行こう.</u>	⇒ 【受け入れ】【共同行動要求】

会話 TH25 は、場面1:《直接・時間・軽・親》の状況である。会話のはじめに、30分も待たされた被害者は、遅刻してきた親友に会ったとたん、1Aで「ท่อน, มาแล้วเธออะ. (あんた, やつと来たね.)」と【文句】で切り出している。遅刻した加害者 B は 2B で「เอ๊ยแก, ชันขอโทษอะ..วันนี้ชันทื่นสายอะ..เมื่อคืนดูละครหนักมาก..อะแก. (ああ君, ごめんね..今日寝坊してさ.夕べドラマ見すぎちゃって:..)」と【謝罪】と共に【言い訳】をし、続いて 3B で「ชันขอโทษจริงๆ.แต่ชันทรีบแล้วนะเว่ย..เนียวิ่งหัวฟูเลยตุ๊ด. (本当にごめん.でも急いでたよ.ほら走って来て頭ぼうぼう.)」と再び【謝罪】をし、【努力の表明】まで示している。ところが、被害者はその【努力の表明】を【拒否】して、相手が述べた言い訳に対して【確認要求】を行っている。

すると、加害者 B は 6B で「>ชันไม่ได้ตั้งใจจริงๆนะเว่ย.แกก็รู้ว่าหมกปกติชันไม่ได้เป็นคนสายซะหน่อย:อะ.< (でもわざとじゃなかったのよ.分かっているよね普通さ私遅刻するような人間じゃないんだから:..)」と【確認】で自分が寝坊したと容認すると同時に、【悪気なしの表明】と【責任の軽減】も行っている。しかし、遅刻した相手は親友なので、被害者はこの会話のように 7A で「นิสัย.แรงมากจริงๆ. (まったく, 本当に.なんてやつ.)」とさらに【文句】、【評価】を表している。

被害者が許してくれそうもないと見た加害者は、8B で【許しの求め】をし、最後に【共同行動要求】に移って会話が終わっている。

次に、あまり親しくない相手との会話例を見る。

会話 TH26<場面2:自分のせいであまり親しくない同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: อ๋อ, A: ขอโทษจริงๆ. เผอิญแบบแม่เราอะ, ไข่ให้ไปซื้อของก็เลยมาสาย. B: あら, A: 本当ごめん. ちょうどお母さんに, 買い物してくるよう頼まれたから B: 遅刻しちゃったんだ.	⇒ 【謝罪】【言い訳】
2	A: เทอ. เออ(.)ไม่เป็นไรหรอก. A: そうだったんだ. ええ(.)大丈夫だよ.	} 【理解】【許し】
3	A: เออคราวหน้าก็มาเร็วหน่อยแล้วกันเนอะ. เดี่ยวงานมันไม่เสร็จอะ. A: でも今度から早くきてね. 仕事が終わらなくなっちゃうから.	
4	B: อะจ๊ะ, จ๊ะ. เออ. ขอโทษๆ. B: うん, はい. ごめんごめん.	⇒ 【受け入れ】【謝罪】

会話 TH26 は、場面2:《直接・時間・軽・疎》の状況である。この会話では、遅刻してきた加害者が、相手に会ってすぐに1Bで「อ๋อ, A: ขอโทษจริงๆ. เผอิญแบบแม่เราอะ, ไข่ให้ไปซื้อของก็เลยมาสาย. (あら, A: 本当ごめん. ちょうどお母さんに, 買い物してくるよう頼まれたから遅刻しちゃったんだ.)」と【謝罪】した上、【言い訳】を行っている。それを聞いた被害者は、相手とそれほど親しくなく、しかも、遅刻の原因が原因なので、これ以上追及できず、2Aで「เทอ. เออ(.)ไม่เป็นไรหรอก. (そうだったんだ. ええ(.)大丈夫だよ.)」と【理解】、【許し】を示している。ただし、相手とは親しくなく、直接的に責めたり、あるいは叱ったりすることができず、「เออคราวหน้าก็มาเร็วหน่อยแล้วกันเนอะ. เดี่ยวงานมันไม่เสร็จอะ. (でも今度から早くきてね. 仕事が終わらなくなっちゃうから.)」と【注意】を用いることにしたようである。加害者 B は4Bで「อะจ๊ะ, จ๊ะ. เออ. ขอโทษๆ. (うん, はい. ごめんごめん.)」と【受け入れ】てから、【謝罪】をして会話は終了に向かう。

次に、《直接・時間・重》の会話例を見ていく。

(c) 《直接・時間・重》会話の流れ(図6-(4)を参照)

以下に示す会話 TH27 は親しい相手との会話である。

会話 TH27<場面3:自分のせいで親しい同等の相手と一緒に映画を見る約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: ↑อ้าย::A, A, A. ทิ้งฉายมึงอะ? ฮือๆๆ. ขอโทษนะ A. B: ↑ぎゃー::A, A, A. 映画もう始まった? しくしく. ごめんね A.	⇒ 【驚き】【確認要求】【謝罪】
2	A: คนอื่นเค้าเข้าโรงไปตั้งนานแล้วจะเธอ. hhh A: 他の人はだいぶ前に入場したよ. あなた. hhh	⇒ 【文句】
3	B: ↑อ๋อ, มันรีบรีบไปอะ. B: ↑あら, じゃ急いで行こうか.	} 【共同行動要求】
4	B: เราขอโทษนะ A. เราหาที่จอดรถไม่ได้::อะ. [ขอโทษจริงๆ.] B: ごめんね A. 駐車場がなかなか見つからなかったんだ:: [本当にごめん.]	
5	A: [นี่กรุ๊ปเนี่ยว่าฉาย] ที่โมงเนี่ยหา? A: [おい君何時に] 上映するって分かっている?	⇒ 【文句】
6	B: เฮ้ย A, จริงๆ เรามาถึงทันนะ A. แต่ที่ว่านี่มันหาที่จอดรถไม่ได้จริงๆ. B: A, 本当は間に合ったよ. でも今日は本当に駐車場がなかった.	⇒ 【言い訳の強調】
7	A: ไม่จริงอะ. ตลอด = บอกว่าให้มาสิบโมง, สิบโมง. A: いや. いつもそう. = 10時, 10時に来てって言ったのに.	} 【否認】【文句】
8	A: ทิ้งมา [สิบโมง] อึ้งไปโซ่ซิบฮือโมง. เข้าใจ? A: 映画は[10時]半からだよ. 11時からじゃなくて. 分かる?	

会話 TH27 は、場面3:《直接・時間・重・親》の状況である。加害者 B は、30 分も遅刻しており、さらに見る予定の映画も始まったところなので、1B で「↑ฮ้าย...:A,A,A,หนังฉายยังอะ? ฮือๆๆ. ขอโทษนะA. (↑ぎゃー...:A,A,A.映画もう始まった? しくしく.ごめんね A.)」と【驚き】、【確認要求】、さらには【謝罪】をしている。しかしながら、謝られたにもかかわらず、30 分も待たされた被害者 A は、2A で「คนอื่นเค้าเข้าโรงไปตั้งนานแล้วจะเธอ.hhh(他の人はだいぶ前入場したよ,あなた.hhh)」と【文句】で返している。それに対して、B は遅刻を気にかけているというふうに見せるため、積極的に 3B で【共同行動要求】を示し、続いて、4B で「เราขอโทษนะA.เราหาที่จอดรถไม่ได้...อะ.ขอโทษจริงๆ.(ごめんね A.駐車場がなかなか見つからなかったんだ...本当にごめん.)」と【謝罪】、【言い訳】をした後、最後に【謝罪】をしている。しかしながら、数回の謝罪にもかかわらず、A は許すどころか、5A で「นี่ไม่รู้ปะเนี่ยว่าฉายก็โม่งเนี่ยหา?(おい君何時に上映するって分かってる?)」と【文句】を言い続けている。

親友に【文句】を言われ続ける B は、6B で「เฮ้ยA จริงๆเรามาถึงทันนะA.แต่ว่าวันนี้มันหาที่จอดรถไม่ได้จริงๆ.(A、本当は間に合ったよ.でも今日は本当に駐車場がなかった.)」とさらに【言い訳の強調】をしている。それに対して、被害者は 7A と同じように【否認】、【文句】で相手に厳しく当たっている。この会話の後、加害者は話を終えるために、【共同行動要求】を行っているが、その際、【許し求め】、及び【改善約束】のような親友相手によく使われる発話を用いていた。

次に、あまり親しくない相手との会話例を見る。

会話 TH28<場面4:自分のせいで親しくない同等の相手と一緒に観覧する予定の公演の約束に 30 分遅刻した>

主要部		
1	B: เฮ้ย,นท.ขอโทษมากๆเลยนท.พอตึกรมันติดมากเลยอะนท... B: ああ,君.本当にごめん.すごい渋滞でさ...	⇒ 【謝罪】【言い訳】
2	A: ได้ๆ. A: うんうん.	⇒ 【理解】
終結部		
3	A: นท.รีบๆเข้าไปเถอะ. A: 君,さっさと入ろうよ.	⇒ 【促し】
4	B: เออๆๆ.โอเคเว่ย.ขอรับนะ,ขอรับนท. B: うんうん.分かった.ソーリー,ソーリー.	⇒ 【受け入れ】【謝罪】
5	A: เออ.↓ไม่↓เป็น↓ไร↓ๆ. A: うんうん.↓いいよ↓いいよ	⇒ 【受け入れ】【怒り】

会話 TH28 は、場面4:《直接・時間・重・疎》の状況である。この会話も 1B で「เฮ้ย,นท.ขอโทษมากๆเลยนท.พอตึกรมันติดมากเลยอะนท... (ああ,君.本当にごめん.すごい渋滞でさ...)」と加害者の【謝罪】から始まり、そして【言い訳】が行われている。被害者 A は単に「ได้ๆ.(うんうん.)」と【理解】を示すだけで、すぐに会話の終了部に入っている。

この会話TH28 はあまり親しくない相手との会話なので、被害の程度が大きくても、会話TH28 のように長くは続かなかった。とはいえ、相手と親しくないからといって怒るわけにはいかないという訳で

配表明】など、会話の終了の仕方が多様である。それに対して、TH の場合は、軽い状況では【共同行動要求】が使用され、【許し】、【補償の申し出】、【責任の軽減】などと、様々な発話が使われてバリエーションが多いという印象を受けるが、重い状況になれば、全ての会話が【共同行動要求】のみで終わっている点が軽い状況と決定的に異なっていた。

6. 1. 2では、言い訳の発話とそれに対する被害者の反応の発話だけに焦点を当てて考察する。

6.1.2 言い訳の内容とそれに対する反応

本項では、《直接・時間》状況において加害者が使用した言い訳について、会話例を挙げながら、JPとTHの間にどのような違いが見られたかを詳しく論じていく。

分析では、まず言い訳を[正直に言う]、あるいは[正直に言わない]の2つに分ける。

表6-(3)は《直接・時間》状況のロールプレイデータに見られたJPとTHの言い訳内容別の結果である。

表6-(3) 《直接・時間》状況におけるJPとTHが使用した言い訳内容別の会話数

《直接・時間》状況		JP	TH
場面1「軽・親」	正直に言う	7	3
	正直に言わない	0	5
言い訳をしない		1	0
合計		8	8
場面2「軽・疎」	正直に言う	6	4
	正直に言わない	1	4
言い訳をしない		1	0
合計		8	8
場面3「重・親」	正直に言う	3	4
	正直に言わない	1	2
言い訳をしない		4	2
合計		8	8
場面4「重・疎」	正直に言う	3	3
	正直に言わない	2	3
言い訳をしない		3	2
合計		8	8
合計		32	32

この結果を見ると、JPとTHの間に言い訳の内容の違いが見られた。〈場面1: 自分のせいで親しい同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した〉と〈場面2: 自分のせいであまり親しくない同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した〉のような被害の程度が軽い場合は、多くのJPの対象者は、親・疎どの相手に対しても遅刻の原因を「寝坊しちゃって」、あるいは「電車に乗り遅れた」と[正直に言う]傾向があるが、THの調査対象者は、親の相手には「รถเมล์มันไม่มาอะ (バスが来なかったんだ)」、あるいは「รถติดอะ (渋滞に巻き込まれたんだ)」と[正直に言わない]傾向がある。

ところが、〈場面3: 自分のせいで親しい同等の相手と一緒に映画を見る約束に30分遅刻した〉と〈場面4: 自分のせいで親しくない同等の相手と一緒に観覧する予定の公演の約束に30分遅刻した〉のように、被害の程度が重くなると、日タイの母語話者の結果には次のような違いが見られる。日本語のデータでは、親・疎の相手にその原因を[正直に言う]会話が少なくなり、言い訳をしない会話が増加する傾向がある。タイ語のデータでは、[正直に言わない]会話が少なくなり、JPと同じ

ように言い訳をしない会話が増加する傾向があるが、親しい相手には [正直に言う] 傾向があるというのが日本語と異なる点である。

このような状況で、なぜ JP と TH の間に、被害の原因を [正直に言う]、または [正直に言わない] という違いが生じたのか、以下で詳しく考察する。

6.1.2.1 言い訳の発話の特徴と被害者の反応の特徴

ここでは、状況別に加害者が用いた言い訳の内容の特徴を見ていく。また、それぞれの言い訳の発話が被害者の反応にどのように影響を与えるかという点も考察する。

6.1.2.1.1 [正直に言う] 場合

まず、日タイの母語話者が使用した [正直に言う] 場合の会話例を挙げながら考察する。

(1) 日本語母語話者の場合

日本語のデータを見ると、親・疎による違いがあまりなく、逆に被害の程度という要因の方が言い訳の発話の使用に影響を与えることが明確になった。[正直に言う] 場合は、ほとんどの調査対象者は「寝坊しちゃって」と遅刻の原因を [正直に言う] 結果であった。また、被害者の反応は【理解】、【気遣い】などのような肯定的なものが多く用いられていることも分かっている。

図 6-(5) 被害程度の軽い状況において JP が使用している [正直に言う] 言い訳会話のパターン

親しい関係	あまり親しくない関係
加:【言い訳】(+【謝罪】/【事情説明】/【弁明】 【努力の表明】…)	加:【言い訳】(+【謝罪】/【努力の表明】/【自己非難】 …)
↓	↓
被:【理解】/【許し】/【共感】/【驚き】/【文句】	被:【理解】/【気遣い】/【受け入れ】

図 6-(6) 被害程度の重い状況において JP が使用している [正直に言う] 言い訳会話のパターン

親しい関係	あまり親しくない関係
加:【言い訳】(+【謝罪】/【弁明】/【心配の表明】…)	加:【言い訳】(+【謝罪】/【弁明】…)
↓	↓
被:【文句】/【理解】/【気遣い】	被:【理解】/【受け入れ】

図 6-(5) に示したように JP は被害の原因を [正直に言う] とき、被害の程度が軽い場合は、親・疎いずれの相手に対しても【言い訳】を行っている。また、【言い訳】の前に、【謝罪】はもちろん、自分

の過失について【事情説明】をしたり、なぜ遅れたことを相手に連絡しなかったか【弁明】をしたり、被害者を待たせたくなかったと【努力の表明】をしたりするなど、様々な発話を使用されることが分かった。ただし、被害者とあまり親しくない場合は、遅刻した自分が悪いと【自己非難】したり、遅れたことを相手に連絡しなかったことを【後悔】するような発話の使用も見られた。

言い訳に対して、被害者の多くは【理解】、【気遣い】、【受け入れ】、【許し】などの肯定的な反応を示すが、相手が親友になると、【驚き】、【文句】などの否定的な反応をする調査対象者もいた。

一方、図 6-(6)に示したように被害の程度が重くなると、自分の遅刻によって起こりうる問題について【心配の表明】をしたりする発話も現れた。また、軽い状況に比べると、加害者は【言い訳】を【謝罪】、【弁明】など以外の他の発話と一緒に用いず、その結果、会話がより短くなっている。その言い訳に対する被害者の反応は、軽い状況と同じように、相手が親友の場合は、【文句】で反応する会話が多く見られた。

以下でまず、軽い状況での会話例を見ていく。

{被害の程度が軽い場合}

会話 JP22<場面1:自分のせいで親しい同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: 本当に遅れてごめんね。あの、寝坊しちゃって、朝、ごめんね。	⇒ 【謝罪】【言い訳】【謝罪】
2	B: 昨日ちょっと(.)飲み会があって。	⇒ 【事情説明】
3	A: ああ。	
4	B: で、寝るのが遅くなって。で、寝坊しちゃった。ほんとごめんね。	⇒ 【再言い訳】【謝罪】
5	A: ¥そうか、[そうか¥]	⇒ 【理解】
6	B: [¥本当]ごめんね。	⇒ 【謝罪】
7	A: 大丈夫、大丈夫。	⇒ 【受け入れ】

会話 JP22 は、場面1:《直接・時間・軽・親》の状況である。加害者 B が 1B で「本当に遅れてごめんね。あの、寝坊しちゃって、朝、ごめんね。」と【謝罪】、【言い訳】から始める。その後、「昨日ちょっと(.)飲み会があって。」と【事情説明】をし、再び 4B で「寝るのが遅くなって。で、寝坊しちゃった。ほんとごめんね。」と【再言い訳】し、非を認めている。

それに対して、被害者が 5A で「¥そうか、そうか¥」と笑いながら【理解】をし、そして、加害者からの【謝罪】に対して 7A で「大丈夫、大丈夫。」と【受け入れ】ている。一方、以下の会話 JP23 は同じように言い訳を[正直に言う]のに、被害者に否定的な反応を返される例である。

会話 JP23 <場面1: 自分のせいで親しい同等の相手と一緒にいく買い物の約束に 30 分遅刻した>

主要部		
1 B:	今日は起きたらさ、	} 【言い訳】【事情説明】
2 A:	ふん、	
3 B:	《つばを飲み込んだ》なんかもう:時間(.)9 時とかやって[.]で、そこから用意	
4 A:	[ふん.]	
5 B:	しとつたら[:]こんな時間みたいな、	
6 A:	[うん.]	
7 A:	ちよつ:と連絡[してよ:]	⇒ 【文句】
8 B:	[hhh]¥ごめん.¥	⇒ 【謝罪】

会話 JP23 は同じく、場面1:《直接・時間・軽・親》の状況である。加害者が 1B で「今日は起きたらさ:、なんかもう:時間(.)9 時とかやって_。」と【言い訳】をし、「そこから用意しとつたら:こんな時間みたいな。」と【事情説明】を加えている。

ところが、被害者は 7A で「ちよつ:と連絡してよ:。」と大きい声で【文句】を返している。ただし、この文句は言い訳に対するものではなく、遅刻したことを事前に連絡しなかったことに対する【文句】である。今回のデータでは、日本語のデータの中で用いられていた【文句】は、いずれも連絡をくれなかったことに対する文句を表明したものであった。

次に、重い状況での会話例を見ていく。

{被害の程度が重い場合}

会話 JP24 <場面4: 自分のせいで親しくない同等の相手と一緒に観覧する予定の公演の約束に 30 分遅刻した>

主要部		
1 B:	今日さ:,なんかあの:,バスに乗り遅れちゃっ[て:]で、連絡しよう	⇒ 【言い訳】
2 A:	[うん]	
3 B:	思ったんやけど[ど]携帯:をね,ちよつと家に置いてきちゃっ[て:],本当ごめんね、	⇒ 【弁明】【謝罪】
4 A:	[うん] [あ:うん.]	
5 A:	あ,大丈夫、	⇒ 【受け入れ】

会話 JP24 は、場面4:《直接・時間・重・疎》の状況である。加害者 B が 1B で「今日さ:,なんかあの:,バスに乗り遅れちゃって_。」と、自分のせいで電車に乗り遅れたことの【言い訳】を行っている。また、このとき B が 1B の後半で「連絡しようと思ったんやけど携帯:をね,ちよつと家に置いてきちゃって_。」と【弁明】もしている。

それに対して、被害者 A は 5A であまり親しくない加害者の【謝罪】を「あ,大丈夫。」と【受け入れ】している。しかし、以下の会話 JP25 のように親しい関係である場合、被害者が【文句】のような否定的な反応で返すこともある。

会話 JP25<場面3:自分のせいであまり親しくない同等の相手と一緒に映画を見る約束に30分遅刻した>

主要部		
1 B:	ごめ:ん,お待たせしました:.	⇒ 【謝罪】
2 A:	は:い,やつと来たか:↓今10時半だけど.	
3 A:	まあでも(.)まだ宣伝とかやってるし,大丈夫っし.=	⇒ 【気遣い】
4 B:	=大丈夫か[なごめんな:…朝起きれん]くって.hhh	⇒ 【心配の表明】【謝罪】【言い訳】
5 A:	[うん,間に合う間に合う.行こう行こう.]	
6 A:	hhh¥またか.¥	⇒ 【文句】
7 B:	hhh¥そうなん¥hhh遅れんくて,バスに,もう乗り遅れてしまったに.	
8 A:	ううん,大丈夫大丈夫.	⇒ 【受け入れ】【気遣い】

会話 JP25 は、場面3:《直接・時間・重・親》の状況である。加害者 B が相手に会ってすぐに 1B で【謝罪】をしている。そして、4B の前半で被害者の気遣いに対して「大丈夫かなごめんな:…」と【心配の表明】をした後、「朝起きれんくって.hhh」と笑いながら【言い訳】している。

そうすると、被害者である A は 6A で「¥またか.¥」と笑いながら【文句】で返している。この【文句】は親友の相手に対して笑いながら発せられ、しかも、この後 8A で【受け入れ】と【気遣い】の肯定的な反応が来ているため、この反応は軽く文句を言うと同時に、相手がやったことを受け止めて許していると言えるだろう。

以上の結果のように、JP が使用している[正直に言う]言い訳の発話は、被害の程度によって発話の内容が異なる。つまり、買い物する約束に遅刻したような軽い状況では、親・疎いずれの相手に対しても「寝坊した」という率直な内容がよく使われるが、映画を見る・公演を観覧するような、遅れたら見られなくなる状況では、「電車に乗り遅れた」という内容がよく使用される傾向がある。インタビューによると、「絶対に遅れてはいけないときに遅れてしまったので、『寝坊した』とは言えなくて、それで、『電車に乗り遅れた』にしたわけです。でも、よく考えたら、乗り遅れたその裏に寝坊したという原因が隠れているのです」という。

しかし、JPでは、どのような内容の言い訳をしても、被害者の反応は肯定的であり、言い訳の内容が反応の仕方に影響を与えていないのは事実のようである。

続いて、TH の結果を見ていく。

(2) タイ語母語話者の場合

タイ語のデータを見ると、TH は JP と違って、被害の程度は被害者の反応に影響を与えず、むしろ相手との親疎関係の方が、言い訳の発話の使用に影響を与えるという結果になった。つまり、親しい相手に「วันนี้ฉันตื่นสายอะ(今日寝坊してさ)」のような[正直に言う]言い訳の発話を使用することは軽い状況ではあまりないが、重い状況では多く見られている。また、被害者の反応は、JP と違って

【文句】などのような否定的なものが圧倒的に多く用いられるという結果も得られている。しかし、あまり親しくない相手の場合は、軽重の状況結果にあまり違いが見られなかった。

図 6-(7) 被害程度の軽い状況において TH が使用している[正直に言う]言い訳会話のパターン

親しい関係	あまり親しくない関係
加:【言い訳】(+【謝罪】)/【事情説明】/【気配り】/ 【努力の表明】…)	加:【言い訳】(+【謝罪】)/【心配の表明】…)
被:【文句】/【からかい】/【評価】	被:【気遣い】/【文句】/【皮肉】

図 6-(8) 被害程度の重い状況において TH が使用している[正直に言う]言い訳会話のパターン

親しい関係	あまり親しくない関係
加:【言い訳】(+【謝罪】…)	加:【言い訳】(+【謝罪】…)
被:【理解】/【指示】	被:【文句】

図 6-(7)に示したように、TH が被害の原因を[正直に言う]とき、被害の程度が軽い場合は、親・疎いずれの相手に対しても【言い訳】を行っているが、親しい相手に対しての使用は多少例が少なくなる。【言い訳】を行うとき、【謝罪】の他に、TH は自分の過失について【事情説明】をしたり、自分が遅れたことに対して相手への【気配り】をしたり、急いで来ようとしたと【努力の表明】をしたりするなど、様々な発話で使用されているところが JP とよく似ている点である。言い訳に対する被害者の反応は、疎の相手の場合は【気遣い】のような肯定的な反応が見られるが、親の相手になると【文句】、【からかい】、【評価】のような否定的な反応で返す傾向がある。

また、表 6-(8)から分かるように、被害の程度が重くなると、TH は親の相手に被害の原因を[正直に言う]傾向がある。また、【言い訳】を行うとき、【謝罪】の発話の使用しか見られず、加害者のターンはかなり短かった。また、その言い訳に対する被害者の反応は、軽い状況では否定的な反応しかないが、重い状況になると、【理解】のような肯定的な反応が見られた。逆に、あまり親しくない相手になると、【文句】のような否定的な反応しか見られない。

以下でまず、軽い状況での会話例を見ていく。尚、この状況では親疎関係による違いがあまりないため、会話例を1つだけ挙げることにする。

{被害の程度が軽い場合}

会話 TH29<場面1:自分のせいで親しい同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: เฮ้ยแก, ชั้นขอโทษอะ..วันนี้ชั้นตื่นสายอะ..เมื่อคืนดูละครหนักมาก..อะแก. ああ君,ごめんね..今日寝坊してさ.夕べドラマ見すぎちゃって..	} 【謝罪】【言い訳】【事情説明】
2	B: ชั้นขอโทษจริงๆ.แต่ชั้นก็รีบแล้วนะเว้ย.[เนี่ย]วิ่งห่าฟูเลยตุ๊ด. 本当にごめん.でも急いでたよ.[ほら]走って来て頭ぼうぼう.	
3	A: [สี่-]おい-	
4	A: หัวฟูบ้าง.นี่คือสรุปว่าหนักมาสายเพราะ(.)ว่านอนหลับพักผ่อนยังไง?	
	A: ぼうぼうなんてアホな.要するに遅刻したのは(.)寝るのが遅かった	⇒ 【拒否】【確認要求】
	A: からってわけ?	
5	B: ใช่.ตื่นตื่นมาขอโทษ.>ชั้นไม่ได้ตั้งใจจริงๆนะเว้ย.แกก็รู้ว่าหนักปกติชั้นไม่ได้เป็นคนสายซะหน่อย::.<	
	B: そう.寝坊したの.ごめん.>でもわざとじゃなかったのよ.分かっているよ.普通さ	⇒ 【確認】【謝罪】【悪気なしの表明】【責任の軽減】
	B: 私遅刻するような人間じゃない:んだから::.<	
6	A: นิสัย..แรงมากจริงๆ.]	
	A: まったく,本当に.[なんてやつ.]	⇒ 【文句】【評価】

会話 TH29 は、場面1:《直接・時間・軽・親》の状況である。加害者 B が相手に会って 1B ですぐに【謝罪】をした後、「วันนี้ชั้นตื่นสายอะ。(今日寝坊してさ)」と【言い訳】を行っている。さらに、1B の後半で「เมื่อคืนดูละครหนักมาก..อะแก。(夕べドラマ見すぎちゃって..)」と【事情説明】をし、「แต่ชั้นก็รีบแล้วนะเว้ย.เนี่ยวิ่งห่าฟูเลยตุ๊ด。(でも急いでたよ.ほら走って来て頭ぼうぼう.)」と【努力の表明】もしている。

それに対して、被害者は 6A で「นิสัย..แรงมากจริงๆ.(まったく,本当に.なんてやつ.)」と親友である相手の行動に対して【文句】を言った後に、厳しく【評価】をしている。この会話のような否定的な反応は、何でも話せる親友の相手によく使用されるが、あまり親しくない相手でも気にせずに【文句】、【皮肉】のような否定的な反応も多く使用されているところが、JP と異なっている。

{被害の程度が重い場合}

会話 TH30<場面3:自分のせいで親しい同等の相手と一緒に映画を見る約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: (前略) เฮ้ยโทษทีเว้ย.โทษทีเว้ยตื่นสาย. ごめんな,ごめん.寝坊してさ.	⇒ 【謝罪】【言い訳】
2	A: >เออๆ.[ไปๆ.]<	
	A: >うんうん.[行こう行こう.]<	⇒ 【理解】【促し】
3	B: [แต่ตัว]ช้าอะ.	
	B: [着替えるのが]遅くてさ.	⇒ 【言い訳の続き】
4	A: >เออๆ<	
	A: >うんうん<	⇒ 【理解】

会話 TH30 は、場面3:《直接・時間・重・親》の状況である。加害者 B が 1B で相手に「เฮ้ยโทษทีเว้ย.โทษทีเว้ยตื่นสาย。(ごめんな,ごめん.寝坊してさ.)」と【謝罪】と共に【言い訳】を行っている。さらに、加害者が 3B で「แต่ตัวช้าอะ.(着替えるのが遅くてさ.)」と【言い訳の続き】をしている。

それに対して、被害者が 4A で「>เออๆ<(うんうん)」と【理解】を示している。しかし、この会話のような【理解】は加害者が言っている【言い訳】を聞いたうえで、【理解】するのではなく、これ以上話す時間がないので、会話を遮断しようとして発したものであると捉えられる。

次に、あまり親しくない同等の相手との会話を見る。

会話 TH31<場面4:自分のせいであまり親しくない同等の相手と一緒に観覧する予定の公演の約束に30分遅刻した>

主要部	
1 B: ขอโทษเลยไม่จริง ๆ คือตื่นสาย. รถ-, รถไม่ทันเที่ยวอีก. B: ごめんなさい. いや-実は寝坊したんだ. バス-, バスにも間に合わなかった.	⇒ 【謝罪】【言い訳】
2 A: แล้วทำไมไม่โทรมาบอกก่อน. ติดต่อก็ไม่ได้. A: 何で電話くれなかった? 連絡もできないし.	⇒ 【文句】

上記の会話 TH31 は、場面4:《直接・時間・重・疎》の状況である。この会話も会話 TH30 と同様で加害者 B が 1B で「ขอโทษเลยไม่จริง ๆ คือตื่นสาย. รถ-, รถไม่ทันเที่ยวอีก. (ごめんなさい. いや-実は寝坊したんだ. バス-, バスにも間に合わなかった.)」と【言い訳】と共に【謝罪】を行っている。

ところが、相手とはあまり親しくないにもかかわらず、2A のように「แล้วทำไมไม่โทรมาบอกก่อน. ติดต่อก็ไม่ได้. (何で電話くれなかった? 連絡もできないし.)」と【言い訳】に対してではなく、遅れることを連絡しなかったことに対して【文句】を返している。

以上の結果のように、JP と比べると、TH が使用している[正直に言う]言い訳の会話は少ないが、発話の内容が親疎いずれの相手に対しても、またどの被害の程度においても、「寝坊した」という率直な内容がよく使われている。インタビューによると、「เพื่อนไม่สนิทพูดอะไรไปก็ไม่ถูกว่าอะไรกลับมา (相手とはあまり親しくないので、本当のことを言っても責められないだろう)」、「แต่ไปซื้อของไม่ใช่เรื่องใหญ่อะไร (買い物の約束は大した用事じゃないから)」、「เพื่อนสนิทพูดความจริงได้หมดถึงจะไม่พอใจแต่เดี๋ยวก็หาย (相手が親友だから、言えたわけ。また、怒られても親友だから、すぐ仲直りができるだろう)」などと説明している。また、被害者の反応も、親・疎を問わず、肯定的な反応と否定的な反応の両方が使用されている。

6. 1. 2. 1. 2 [正直に言わない]場合

ここでは、[正直に言わない]場合の会話例を挙げながら、日タイそれぞれの母語話者が使用した言い訳を考察したい。また、正直に言わないときに、どのような内容のことを言うのかを、以下の5つに分けている。

①曖昧な表現の使用

被害の原因が確実に自分にあるにもかかわらず、それを明示的に示さず、もしかすると自分に原因があるかもしれないと、相手の想像に任せるような発話をする方法である。

②偶発のアクシデントの使用

突然物が壊れたり、見つからなかったりしたなど、自分が予期をしていなかった状況を理由にする方法である。

③不可避的な状況の使用

避けることができず、しかもそのことを最優先しなければならない状況を理由にする方法である。

④ステレオタイプの使用

あるカテゴリーに属する事物に対する定型的なイメージを利用する方法である。

⑤第三者への罪の押し付け

被害の原因が確実に自分にあるにもかかわらず、あたかも他人が起こしたかのように、責任転嫁する方法である。

(1) 日本語母語話者の場合

日本語のデータを見ると、軽い状況では、JP の[正直に言わない]言い訳の使用は 1 例しかないが、重い状況の場合は、[正直に言わない]言い訳の会話が多くなっている。また、あまり親しくない同等の相手との会話の方が、遅れた本当の原因を言わない傾向がある。なお、被害者の反応は【理解】のみが用いられている。

図 6-(9) 被害程度の軽い状況において JP が使用している[正直に言わない]言い訳会話のパターン

親しい関係	あまり親しくない関係
データなし	加:【言い訳】(+【謝罪】) ↓ 被:【理解】

図 6-(10) 被害程度の重い状況において JP が使用している[正直に言わない]言い訳会話のパターン

親しい関係	あまり親しくない関係
加:【言い訳】(+【事情説明】) ↓ 被:【理解】	加:【言い訳】(+【謝罪】…) ↓ 被:【理解】

{被害の程度が軽い場合}

この状況で[正直に言わない]言い訳が用いられているのは、会話 JP26 の 1 例のみである。

会話 JP26 <場面2:自分のせいであまり親しくない同等の相手と一緒にいく買い物の約束に 30 分遅刻した>

主要部		
1	B: あ,ごめ::ん.	⇒ 【謝罪】
2	A: あっ(0.3)お[はよ]う.	⇒ 【挨拶】
3	B: [あ-]	
4	B: 遅れて¥ごめん.¥hh	⇒ 【謝罪】
5	A: うん.	⇒ 【受け入れ】
6	B: ¥ちよつ-30分¥も遅れて.	⇒ 【容認】
7	A: いいよ,別になんか人間観察してたら,結構楽しかつ[たし.]	⇒ 【許し】【気遣い】
8	A: [あ]hhh	
9	B: いやいやいや,でも,いやいやそう言っちょつと足痛いやろう?	⇒ 【拒否】【思いやり】
10	A: うん.hhhh=	⇒ 【受け入れ】
11	B: =30分待ったっば[なしで.]	⇒ 【過失の確認】
12	A: [まあ,ちよつ-]ちよつと.	⇒ 【受け入れ】
13	B: ごめんね:,連絡してなかったね.	⇒ 【謝罪】
14	A: え?電車が遅れたん?	⇒ 【情報要求】
15	B: うん.ちよつと...うん.[ごめん.]	⇒ 【言い訳】【謝罪】
16	A: [そっか.]	⇒ 【理解】
17	B: .hhh	
18	A: まあ,いいよ.全然.	⇒ 【許し】
19	B: ああ.°ありがとう.°	⇒ 【感謝】

会話 JP26 は<場面2:《直接・時間・軽・疎》の状況で、①の曖昧な表現を使用する会話である。加害者が相手に会ってすぐに 1B で【謝罪】、そして、6B で【容認】、さらに、11B で【過失の確認】のように、あまり親しくない人を待たせたため、責任を感じていることを表す発話がたくさん用いられているが、なかなか遅刻した本当の原因を言おうとしなかった。そのため、被害者が 14A で「電車が遅れたん?」と【情報要求】をして、それに対して、加害者 B が 15B で「うん.ちよつと...」と遅刻した原因をはっきりと言わず、曖昧な表現を使い、【言い訳】を行っている。

この言い方によって相手があまり原因を話したくないと分かった被害者は、その言い訳に対して 16A で「そっか」と【理解】を示すことしかできないのである。

続いて、重い状況での結果を見ていく。

{被害の程度が重い場合}

被害の程度が重い場合、あまり親しくない相手であると、JP は[正直に言わない]傾向がある。具体的に今回の日本語のデータで見られたのは、①曖昧な表現の使用、②偶発のアクシデントの使用、③不可避の状況の使用、⑤第三者への罪の押し付けという 3 つの用法である。

まず、親友のとの会話を見ていく。

会話 JP27 <場面3: 自分のせいで親しい同等の相手と一緒に映画を見る約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: ごめん A,遅くなった:.	⇒ 【謝罪】
2	A: あ.おはよう.どうしたん?	⇒ 【挨拶】【説明要求】
3	B: もうさ:,めっちゃ↑大↑変やっ(.)[て:]今日朝起きて.	⇒ 【事情説明】
4	A: [うん.]	
5	A: うん.	
6	B: 《咳払い》目覚しが壊れとっ(.)[て:]で,そっからめっちゃ急いで[準備]	} 【言い訳】
7	A: [うん] [うん]	
8	B: したんやけど,	
9	A: うんうん.	
10	B: なんか(0.3)電車も:[す]ごいhおく-,遅れとっ(.)[て:]	
11	A: [うん] [ああ:]::.	⇒ 【理解】

会話 JP27 は、場面3:《直接・時間・重・親》の状況で、[②偶然のアクシデントの使用]と[⑤第三者への罪の押し付け]を併用した会話である。加害者 B が 1B で【謝罪】をした後、6B-7B、10B で「目覚しが壊れとっ(.)てで,そっからめっちゃ急いで準備したんやけど,なんか(0.3)電車も:すごいhおく-,遅れとっ(.)て:。」と目覚まし時計が壊れた上、電車がこなかったせいで遅れたと【言い訳】している。また、言い訳をするとき、加害者は3Bのように【事情説明】もしている。このように、相手が親友である場合には、時間がなくても長く言い訳をしようとする傾向が見られる。

また、言い訳に対する反応として、被害者が 11A で「ああ:::。」と【理解】を示している。

今回のデータでは、この偶発のアクシデントを使った、あまり親しくない相手との会話も見られた。それは「チケットがさあのう、す-(.)ちゃんとしまってたんだけど見つからんくって」のように、チケットが見つからなくなって、それを探すのに時間がかかったため、遅刻したという内容である。

次に、あまり親しくない同等の相手との結果を見る。

会話 JP28 <場面4: 自分のせいであまり親しくない同等の相手と一緒に観覧する予定の公演の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: あ(.)ごめんな.あの,ちょっと(.)なんか(.)ばたばたしちやって.	1 【謝罪】【言い訳】
2	A: あ,そうなんや.	⇒ 【理解】

会話 JP28 は、《直接・時間・重・疎》の状況で、[①曖昧な表現の使用]の会話である。ここで加害者 B は、あまり親しくない相手である A に 1B で「ちょっと(.)なんか(.)ばたばたしちやって。」と、自分が慌ただしい状態に陥って遅刻したという曖昧な表現を使って【言い訳】を行っている。

それに対して被害者 A は「あ,そうなんや。」と【理解】を示している。

続いて、日本語のもう一つの方法を紹介する。

会話 JP29 <場面4:自分のせいであまり親しくない同等の相手と一緒に観覧する予定の公演の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: お待たせしました A さ:ん.	⇒ 【謝罪】
2	A: あ,B さ:ん.	⇒ 【呼びかけ】
3	B: °ごめんなさい.すみません.早く(.)行きましょうか.	⇒ 【謝罪】【共同行動要求】
4	A: うんうんうん.[もう]たぶん始まっていると思う.	⇒ 【同意】【現状に言及】
5	B: [あの-.]	
6	B: ですよね.[なんか-]	⇒ 【同意】
7	A: [たぶん]そっと入ったら,たぶん大丈夫[夫だ]と思う.]	⇒ 【情報提供】
8	B: [大丈夫]かな?	⇒ 【心配表明】
9	A: うんうんうん.	⇒ 【確認】
10	B: ちょ-,病院に行ってきたんですけど:.	⇒ 【言い訳】
11	A: あ,そうなんだ.	⇒ 【理解】
12	B: なんかもめっちゃ遅くて,病院の人.	⇒ 【責任転嫁】
13	A: あ,あ,あ(.)まあ:まあ:まあ:[後ろの]ほうからこっそり.	⇒ 【理解】【指示】

会話 JP29 は、《直接・時間・重・疎》の状況で、[③不可避的な状況の使用]の会話である。加害者が1B、3Bで【謝罪】を表明し、そして、8Bで【心配の表明】をした後、10Bで「ちょ-,病院に行ってきたんですけど:。」と、体調に関わるような不可避的な状況を使って【言い訳】を行っている。

すると、被害者は11Aで「あ,そうなんだ。」と【理解】で反応している。

この会話の言い訳の内容は、病院に行ってきた遅れたというものである。病院に行く予定は事前に分かっているかどうかは会話では分からないが、病院に行くのは健康・命に関わることなので、被害者はこの言い訳を聞いて理解せざるを得なかったようである。

次に、THの結果を見ていく。

(2)タイ語母語話者の場合

タイ語のデータを見ると、被害の程度が軽い場合、THは、[正直に言わない]言い訳を多く使用しているという結果であった。また、以下の図6-(11)と6-(12)のように、軽い状況では【言い訳】をする際、様々な発話と一緒に用いられ、また、それに対して被害者の反応も豊富であるが、重い状況になると、言い訳と一緒に使用される発話が著しく減少し、さらに、被害者の反応も軽重ともに【文句】の使用が見られた。タイ語のデータでは、[正直に言わない]言い訳の用法として、②偶発のアクシデントの使用、③不可避的な状況の使用、④ステレオタイプの使用、⑤第三者への罪の押し付けの4つが見られた。

図 6-(11) 被害程度の軽い状況において TH が使用している[正直に言わない]言い訳会話のパターン

親しい関係	あまり親しくない関係
加:【言い訳】(+【謝罪】/【弁明】/【悪気なしの表明】 …)	加:【言い訳】(+【謝罪】/【弁明】…)
↓	↓
被:【理解】/【否認】/【文句】/【指示】/【疑い】	被:【受け入れ】/【理解】/【許し】/【気遣い】

図 6-(12) 被害程度の重い状況において TH が使用している[正直に言わない]言い訳会話のパターン

親しい関係	あまり親しくない関係
加:【言い訳】(+【謝罪】/【同情要求】…)	加:【言い訳】(+【謝罪】…)
↓	↓
被:【文句】	被:【理解】/【受け入れ】/【気遣い】/【文句】

{被害の程度が軽い場合}

会話 TH32<場面2:自分のせいであまり親しくない同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: พอดีเรา-เออ(.)เมื่อเช้าพอดีที่บ้านเราอะ,แม่เราอะไม่อยู่บ้าน.เราต้องเฝ้าบ้านก่อนนะ. B: なんか-うん(.)今朝うちはさ,母がいなくてさ,留守番をしなきゃならな B: かったんだ.	} 【事情説明】【言い訳】
2	B: [แม่เราเค้า]กลับมาถึงออกมาได้อะ.[เออๆโทษทีนะ.] B: で[母が]戻ってきてから出かけられたの.[うん.ごめんね.]	
3	A: [อ้อ:::] [เออๆ ไม่เป็นไร]ๆ A: [ああ::なるほど.] [うんうん.大丈夫]大丈夫.	

会話 TH32 は、場面2:《直接・時間・軽・疎》の状況で、[③不可避的な状況の使用]の会話である。加害者 B が 1B で「พอดีเรา-เออ(.)เมื่อเช้าพอดีที่บ้านเราอะ,แม่เราอะไม่อยู่บ้าน。(なんか-うん(.)今朝うちはさ,たまたま母がいなくてさ,)」と【事情説明】をした後、「เราต้องเฝ้าบ้านก่อนนะ。(留守番をしなきゃならなかったんだ.)」と、家にいなければならないという不可避的な状況を使って【言い訳】を行っている。加害者は、2B でさらに【事情説明】をし、最後に【謝罪】している。バンコクの郊外にある家は、人がいなくなると、泥棒に入られる可能性が高いため、必ず誰かが留守番をしなければならないのが現状である。

お母さんの代わりに留守番をしたという言い訳内容に対して、被害者は「อ้อ:::(ああ::なるほど.)」と【理解】を表明し、最後に相手からの謝罪を【受け入れ】て【気遣い】を表明して会話が終了となった。

次に、[④ステレオタイプの使用]が見られる会話を紹介する。

会話 TH33<場面1:自分のせいで親しい同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: มังมานานมังอะ? B: お前だいぶ前に着いた?	⇒ 【気配り】
2	A: มา-, มาตรงเวลาปะเลยสินโมง. นัดสิบโมงก็มาสิบโมง. A: ちよ-, ちょうど10時に来た.10時に約束したから10時に来たんだ.	⇒ 【返答】【文句】
3	B: ↑ ไม่. กวนหาที่จอดรถตรงสถานีหมอชิตมันนานไป, กว่าจะขึ้นมา. รถไฟฟ้ามันก็คนก็เยอะอะ.	} 【言い訳】
4	B: [หา]ที่จอดรถไม่ได้อะ. B: ↑ いや. มอเตอร์ไซด์ที่จอดรถを探するのに時間がかかったんだ, BTS に乗れるまで. 結構人多かったし. [駐]車場がなかなか見つからなかった.	
5	A: [อือ](うん)	
6	A: อะ. เข้าใจอะ, เข้าใจ. A: うん. 分かる, 分かる.	⇒ 【理解】

会話 TH33 は、場面1:《直接・時間・軽・親》の状況で、[④ステレオタイプの使用]の会話である。被害者の2Aの【文句】を否定するために、加害者は3Bで「↑ไม่. กวนหาที่จอดรถตรงสถานีหมอชิตมันนานไป, กว่าจะขึ้นมา. รถไฟฟ้ามันก็คนก็เยอะอะ. หาที่จอดรถไม่ได้อะ. (↑いや. モーターサイクルで駐車場を探すのに時間がかかったんだ, BTS に乗れるまで. 結構人多かったし. 駐車場がなかなか見つからなかった.)」と、車が多くて、特に中心部ではなかなか駐車できないというタイプのステレオタイプな状況を使った【言い訳】を行っている。それに対して、被害者は6Aで「อะ. เข้าใจอะ, เข้าใจ. (うん. 分かる, 分かる.)」と【理解】を示している。

この会話 TH33 の言い訳は、公共交通手段がまだ十分に整備されず、自動車を持っている人々が非常に多いタイ(特にバンコク)ならではの状況を如実に表しているといえる。自動車が多くなると、当然駐車場を見つけるのが困難で、加害者はこの状況を利用して自分の非をごまかそうとしているのである。また、バンコクは渋滞の町としてもよく知られる。2012年10月に発表されたBBCのランキング(<http://news.mthai.com/world-news/194444.html>)では、世界で最も渋滞がひどい町としてバンコクが選ばれたほどである。そのため、「รถติด(渋滞に巻き込まれた)」というものも、言い訳の内容としてよく使用されているのである。

次は、THの[正直に言わない]言い訳の発話の最後の用法、[⑤第三者への押し付け]の例である。

会話 TH34<場面2:自分のせいであまり親しくない同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: เขี่ย, ขอโทษจ. รถมัน... มาช้าอะ. B: ああ, ごめんごめん. バスが...遅れたから.	⇒ 【謝罪】【言い訳】
2	A: °อือ° A: °うん°	⇒ 【受け入れ】

会話 TH35<場面1:自分のせいで親しい同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: เสีย: A เราขอโทษ. เราไม่ได้ตั้งใจอะ. รถเมล์มันไม่มาอะ.: B: あ:A ごめんなさい. わざとじゃなかったよ. バスが来なかったんだから.	⇒ 【謝罪】 ⇒ 【悪気なしの表明】【言い訳】
2	A: อะไรก็บอกแล้วไงว่ามาสิบโมง, สิบโมง. เนี่ยอะไรเนี่ย? A: なんだよ. 10時に来て10時だって言っただのに. なんだ?	⇒ 【否認】【文句】

会話 TH34 は、場面2:《直接・時間・軽・疎》の状況で[⑤第三者への押し付け]の会話であり、会話 TH35 は、場面1:《直接・時間・軽・親》の状況で、[⑤第三者への押し付け]の会話である。会話 TH34 では加害者 B が 1B で「รถมัน... มาช้าอะ. (バスが...遅れたから.)」とバスのせいにして【言い訳】を行っている。また会話 TH35 も 1B で「รถเมล์มันไม่มาอะ.: (バスが来なかったんだから.)」とバスのせいになっている。

ところが、この言い訳内容に対する被害者の反応は親・疎によって異なる。会話 TH34 では被害者は 2A で「โธ่ (°うん°)」と小さい声で【理解】³⁰を示しているのに対して、会話 TH35 では被害者が 2A で「อะไรก็บอกแล้วไงว่ามาสิบโมง, สิบโมง. เนี่ยอะไรเนี่ย? (なんだよ. 10時に来て10時だって言っただのに. なんだ?)」とその言い訳を【否認】し、さらに明示的に【文句】を言っている。このように、この会話は、同じ言い訳でも、相手が親友の場合は否定的な反応で返す可能性が高くなるということを示す良い例である。

この第三者に罪を押し付ける方法は、他に「แม่ให้ไปซื้อของ (お母さんに買い物を頼まれたから)」のように、母のせいにする言い訳もある。

次に、重い状況で使用された言い訳の内容を見ていく。

{被害の程度が重い場合}

会話 TH36<場面3:自分のせいで親しい同等の相手と一緒に映画を見る約束に30分遅刻した>

主要部		
1	B: แกรงชั่นขอโทษ. ชั้นท้องเสีย. แท[ก็รู้]ว่าชั้นท้องไม่สบายคืออะ. B: ごめん. お腹こわしてさ. お腹[弱い]の知っていますか?	⇒ 【謝罪】【言い訳】【同情要求】
2	A: [hhuss.] (hh もううう)	⇒ 【文句】

会話 TH36 は、場面3:《直接・時間・重・親》の状況で、[②偶発のアクシデントの使用]の会話である。加害者は 1B で「ชั้นท้องเสีย (お腹こわしてさ)」と、偶発のアクシデント(体調不良)を使って【言い訳】を行っている。また、このとき相手と仲がいいせいとか、【謝罪】の他、【同情要求】のような発話の使用も見られている。

³⁰ ただし、ここで小声で「うん」と言っていることは本当は不満を感じているのに、相手とはあまり親しくないため、明示的に叱ったり、責めたりすることができず、理解を示さざるを得ないことになると推測できる。

それに対して、被害者は 30 分も遅れて、しかも、見る予定の映画が始まったところなので、いくら体調不良であっても許せず、「hhurrng. (hh もううう)」と軽く【文句】を言っている。

続いて、[③ステレオタイプの使用]の例である。

会話 TH37<場面3:自分のせいで親しい同等の相手と一緒に映画を見るの約束に 30 分遅刻した>

主要部		
1	B: เราขอโทษนะ A. เราหาที่จอดรถไม่ได้::อ๊ะ.[ขอโทษจริงๆ.] B: ごめんね A. 駐車場がなかなか見つからなかったんだ::.[本当にごめん.]	⇒ 【謝罪】【言い訳】【謝罪】
2	A: [นี่กรุ๊ปเนี่ยว่าฉายกี่โมงเนี่ยหา? A: [おい君何時に]上映するって分かってる?	⇒ 【責める】
3	B: เอ้ย A จริงๆเรามาถึงทันนะ A. แต่วันนี้มันหาที่จอดรถไม่ได้จริงๆ. B: A、本当は間に合ったよ、でも今日は本当に駐車場がなかった.	⇒ 【言い訳の強調】
4	A: ไม่จริงอ๊ะ. ตลอด=บอกว่าให้มาสิบโมง, สิบโมง. A: いや、いつもそう.=10時,10時に来てって言ったのに.	} 【否認】【文句】
5	A: ทิ้งมา[สิบโมง]ครึ่งไม่ใช่สิบเอ็ดโมง. เข้าใจ? A: 映画は[10時]半からだよ.11時からじゃなくて.分かる?	

会話 TH38<場面4:自分のせいであまり親しくない同等の相手と一緒に観覧する予定の公演の約束に 30 分遅刻した>

主要部		
1	B: เอ้ย,เนก.ขอโทษมากเลยเนก.พอตึกรมมันติดมากเลยอ๊ะเนก::. B: ああ,君.本当にごめん.すごい渋滞でさ::.	⇒ 【謝罪】【言い訳】
2	A: ได้จ้. A: うんうん.	⇒ 【理解】

上記の会話 TH37 は、場面3:《直接・時間・重・親》の状況で、[③ステレオタイプの使用]の会話であり、会話 TH38 は、場面4:《直接・時間・重・疎》の状況で、[③ステレオタイプの使用]の会話である。まず、会話 TH37 では、加害者が 1B で「เราหาที่จอดรถไม่ได้::อ๊ะ.(駐車場がなかなか見つからなかったんだ::)」と【言い訳】をし、そして、会話 TH38 では 1B で「พอตึกรมมันติดมากเลยอ๊ะเนก::.(すごい渋滞でさ::)」とステレオタイプなバンコクの交通状況を使って【言い訳】をしている。

ところが、被害者の反応は、親の相手には 2A で「นี่กรุ๊ปเนี่ยว่าฉายกี่โมงเนี่ยหา?(おい、君何時に上映するって分かってる?)」と相手を【責める】のに対して、会話 TH38 のような疎の相手には、2A で「ได้จ้.(うんうん.)」と簡単な【理解】を示すのみで、親・疎の関係によって反応が違っている。

以上の結果のように、この《直接・時間》状況においては、自分に非があるため「正直に言わない」とする調査対象者が少なからずいた。インタビューによると、「相手は自分のことをあまり知らないので、『寝坊した』と言っちゃうと、『なんだこいつ』と思われるかも」、「被害が大きかったので、『寝坊した』と言えない」、「เพื่อนไม่สนิทก็ไม่พูดความจริง(あまり親しくない相手に正直に言えない)」、「กลัวถูกเอาไปนินทาหลัง(後で悪口言われるのが心配だから)」などの回答が得られた。タイ語では、この状況では、【悪気なしの表明】、【同情要求】などが、言い訳とともに多く使用されている。

さらに、どのような内容で言い訳をしたとしても、JP も TH も被害者の反応は変わらないということが明らかになった。その他、TH が使用する[正直に言わない]言い訳で、JP のデータにはない方法として、ステレオタイプの使用と、第三者に罪を押し付けるというものがある。これがどのように TH の社会の影響を受けているかについては、6. 3で論じたい。

6. 1. 2. 2 《直接・時間》での加害者の言い訳の内容と、それに対する被害者の反応のまとめ

これまで、JP と TH の言い訳内容を見てきた。言い訳内容とそれに対する被害者の反応の結果については、JP と TH で以下のような相違点が見られる。

- ① JP の結果として、被害の程度の軽い状況では、[正直に言う]言い訳の会話が多くのが、被害の程度の重い状況は、言い訳をする場合ではないと考えられるため、言い訳をしない会話が多かった。それに対して、TH の結果は、被害の程度の軽い状況では、親友との場合は[正直に言わない]言い訳の会話が多くのが、被害の程度の重い状況では、親疎ともに [正直に言う]言い訳の会話が多かった。
- ② 言い訳の使用に関して、[正直に言う]かどうかは、加害者の発話の使用に影響を与えないことが分かった。つまり、自分に非がある場合、JP も TH もよく言い訳とともに様々な発話を使用している。ただし、[正直に言わない]場合、TH は【努力の表明】、【悪気なしの表明】、【責任の軽減】なども多く使用している。
- ③ 被害者の反応には、日本語とタイ語の間で違いが見られた。JP は どの状況、及びどの相手に対しても肯定的な反応を示すのに対して、TH は親疎関係によって被害者の反応が異なる。
- ④ 今回のデータにおける [正直に言わない]言い訳の用法は、以下のようである。
JP: ①曖昧な表現の使用 ②偶発のアクシデントの使用 ③不可避的な状況の使用
TH: ②偶発のアクシデントの使用 ③不可避的な状況の使用 ④ステレオタイプの使用
⑤第三者への罪の押し付け
- ⑤ 言い訳に対する被害者の反応について、次のようにまとめられる。

加害者の言い訳が本当かどうかは本人にしか分からないため、言い訳の発話の真偽は被害者の反応に影響を与えない。しかし、関係が親しくなると、本心が言いやすくなるため、TH の調査対象者は、親しければ親しいほど、被害者は加害者を責めたり文句を言ったりするような否定的な反応をする傾向が高くなる。また、JP の多くは、被害者は肯定的な反応をするが、否定的な反応を使用している例も若干見られた。ただし、JP の否定的な反応は加

害者の【言い訳】に対するものではなく、連絡しなかったことに対して【文句】を言う反応である。

6.1.3 《直接・時間》のまとめと考察

以上の結果のように、《直接・時間》における言い訳のタイプの使用の傾向は、日タイで異なる。

第5章の《間接・時間》では、どの相手、及びいずれの被害の軽重の内容においても〔自発的言い訳〕のタイプが最も使用されていたが、《直接・時間》では、相手との関係によって言い訳のタイプが異なる。つまり、親しければ親しいほど相手に遅刻の原因を追究され、その結果、〔【説明要求】に対する言い訳〕と、〔【文句】に対する言い訳〕が使用される傾向がある。なぜ結果がこのように異なるかについては、次のように考えられる。

自分に非がある状況で、どのように相手に遅刻した原因を説明すべきかを考える時、相手の反応を考慮する必要がある。そこで、相手の気持ちを図ろうとするため【前触れ】、【謝罪】、【気配り】などを表明しているとき、相手との関係が親しければ親しいほど、被害者に【説明要求】や、【文句】などの質問の形で発話を求められやすくなると推測できる。それに対して、自分に非がない場合は、自分のせいで遅刻したわけではないということを相手に伝えようとして、ロールプレイカードに書かれている内容を用いて自発的に言い訳をしたのではないだろうか。

この状況において発見した面白い結果がもう一つある。それは言い訳の際に一緒に用いられる発話である。JP は《間接・時間》状況と変わらず、加害者は【謝罪】を最も使用しているという結果であった。しかし、TH は悪意がないことを相手にアピールしようとする【悪気なしの表明】と、自分のせいで遅れてきたにもかかわらず人のせいにする【責任の転嫁】もよく見られる。また、この【責任の転嫁】は日本語のデータにも1例あった。なぜ自分のせいだと認めず、相手のせいにするのかについては、6.3で考察したい。

6.2 「直接的に自分の行動による原因で相手の所有物に被害を与えた」状況について

本稿で扱う「直接的に自分の行動による原因で相手の所有物に被害を与えた」状況とは、友達から物(ノート/本・バッグ)を借りたが、直接的に自分に原因があつて(ノート/本に折り目を付けたり、赤ワインをこぼしたりするなど)、その物に被害を与えた状況(以下《直接・物》とする)のことである。分析対象は以下の表 6-(4)の4場面である。

表 6-(4) 6.2分析対象場面

場面	略称	状況内容
5	直接・物・軽・親	自分が持っていた親しい同等の相手の本に折り目をつけた
6	直接・物・軽・疎	自分が持っていたあまり親しくない同等の相手のノートに折り目をつけた
7	直接・物・重・親	親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした
8	直接・物・重・疎	あまり親しくない同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした

分析の結果、《直接・物》状況において、JPとTHともに[自発的言い訳]の言い訳タイプを最も使用していることが明らかになった。ただし、相手と親しい関係である場合、THは【説明要求】に対する言い訳を用いることもある。この状況では、日本語とタイ語の会話の流れ、及び言い訳内容の使用は、後述するように、異なりが顕著である。

JPは、軽・重、どの状況でもノート/本・バッグを損傷させた原因を、自分のせいだと[正直に言う]会話が過半数を占めている。一方、THは、被害の程度がこの言い訳発話の使用に影響を与える結果となった。すなわち、ノート/本を損傷させたような軽い状況では、全てが自分のせいだと[正直に言う]会話だったが、バッグを損傷させたような重い状況になると、自分のせいではないと[正直に言わない]会話の方が上回っていた。さらに、その際に取りられる言語行動にはJPとTHの間で違いが見られた。JPは【言い訳】と共によく【謝罪】を用いるのに対して、THは【悪気なしの表明】や、【責任の転換】などと一緒を用いている。また、被害者の反応、もJPは【言い訳】に対してよく【理解】で反応するのに対して、THは疎の相手には【理解】で反応するが、親の相手には【文句】、【責める】などの否定的な反応で返す傾向が見られた。

以下では、具体的な例を用いながら、6.2.1で会話全体の流れを、6.2.2で加害者が使用する言い訳とそれに対する被害者の反応を詳述する。

6.2.1 会話全体の流れ

この項では、《直接・物》状況における言い訳会話の連鎖がどのように構成されているかについて論じる。

6.2.1.1 使用された言い訳のタイプ

以下の表 6-(5) は、《直接・物》状況における JP と TH の調査対象者が使用した言い訳のタイプの結果である。

表 6-(5) 《直接・物》状況における JP と TH が使用した言い訳タイプ別の会話数

設定要因			具体的な状況		話者	言い訳のタイプ				合計	
						自発	説明	文句	他		言い訳なし
		場面	内容								
直接	軽	親	5	自分が持っていた親しい同等の相手の本に折り目をつけた	JP	8	-	-	-	-	8
					TH	4	3	1	-	-	8
		疎	6	自分が持っていたあまり親しくない同等の相手のノートに折り目をつけた	JP	8	-	-	-	-	8
					TH	6	1	1	-	-	8
	重	親	7	親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした	JP	8	-	-	-	-	8
					TH	6	2	-	-	-	8
		疎	8	あまり親しくない同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした	JP	8	-	-	-	-	8
					TH	7	1	-	-	-	8

上記の結果を、被害の程度と親疎関係の要因から見ると、JP と TH の間で言い訳のタイプの使用がほぼ一致している。つまり、JP も TH も、相手や内容の軽重と関係なく、ほとんどが〔自発的言い訳〕のタイプを使用している。ただし、TH は場面5のように、相手が親友であると、〔【説明要求】に対する言い訳〕、〔【文句】に対する言い訳〕のタイプの使用も見られる。

これは、相手の所有物に被害を与えたため、どのような被害が起き、あるいはなぜ被害が加えられたのかは加害者にしか分からないので、加害者が自発的に原因を言うのは当然だろうと考えられる。ただし、TH のデータで見られた〔【説明要求】に対する言い訳〕、〔【文句】に対する言い訳〕の会話は、被害者が相手に貸した自分の物を見た瞬間、すぐ【説明要求】や、【文句】を発したためである。

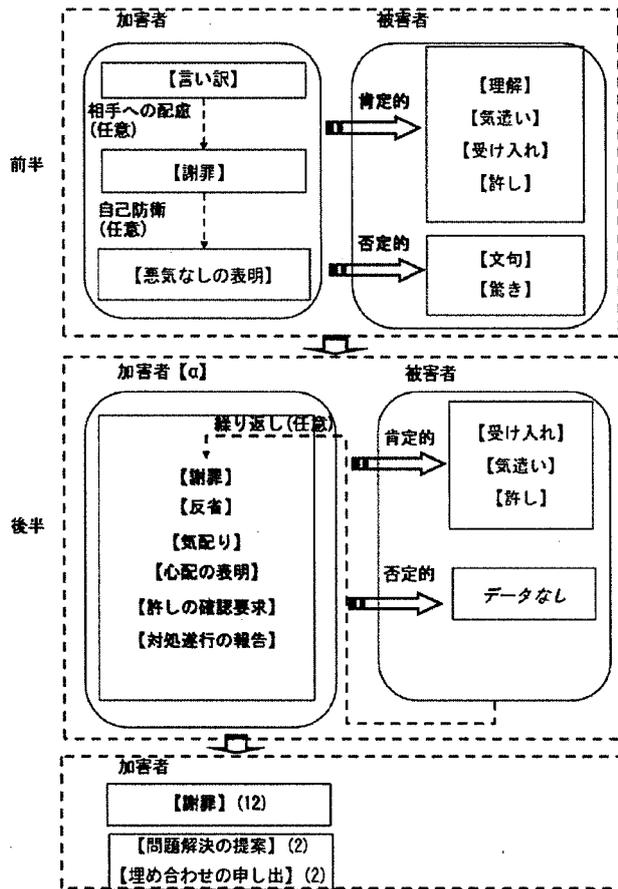
次に、言い訳会話の全体の流れを考察したい。

6.2.1.2 会話の連鎖組織

以下の図 6-(13)～(14)は、日本語とタイ語の言い訳会話の流れを、被害の程度の軽・重によって分けて表した図である。

会話の流れを、言い訳とその言い訳に対する反応を前半、それ以降から会話の終了までを後半に分ける。6.2.1.2の分析対象は前半の流れであり、本項で結果を述べる際、この前半の流れを中心に述べていく。

図 6-(13) JP の《直接・物・軽》会話の流れ図



6-(14) JP の《直接・物・重》会話の流れ

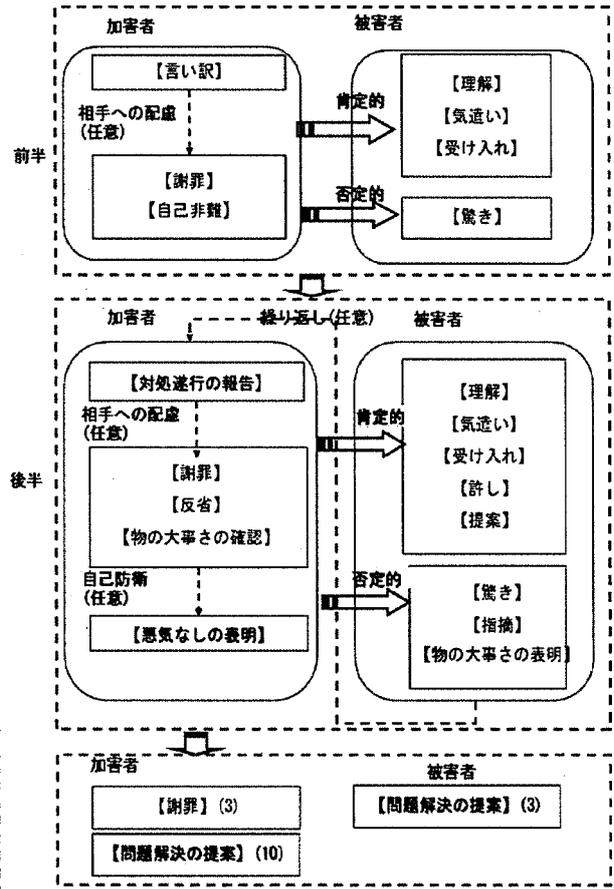


図 6-(13)と、図 6-(14)を見ると、全体的にいずれの被害の程度の状況においても、JPの被害者は、「加: 言い訳⇒ 被: 反応」のように【言い訳】に対してすぐに反応を返す。そして、この反応の後に、軽い状況の場合だけは様々な発話(=「α」)で会話を続けるが、重い状況ではロールカードに書かれている【対処遂行の報告】を行い、それに対する被害者の反応が来て、最後に問題解決の段階に入る。

加害者・被害者が使用している発話の種類の使用については、加害者の発話には相手への配慮として【謝罪】、自己防衛として【悪気なしの表明】がある。さらに、被害者の反応も、肯定的・否定的の両反応が見られている。

最後に、問題の処理方法についてだが、重い状況の場合は問題解決にまで続く会話が過半数を占めているが、軽い状況では、【謝罪】で済むものが多かった。

図 6-(15) THの《直接・物・軽》会話の流れ³¹

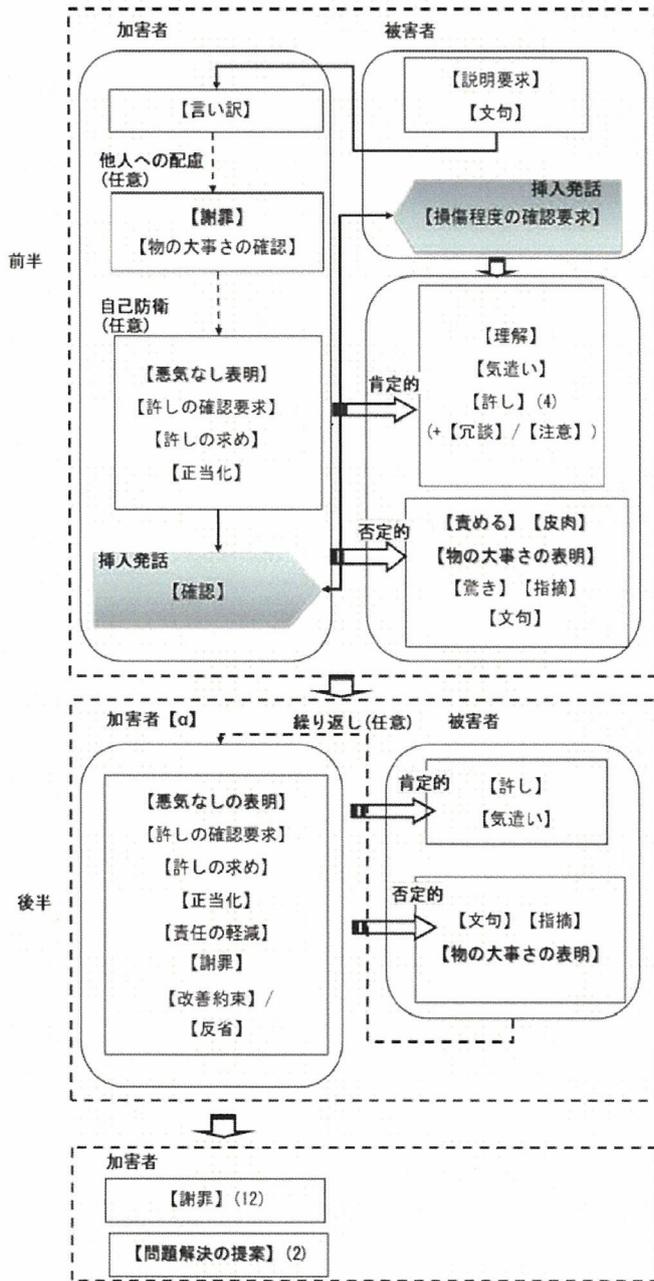
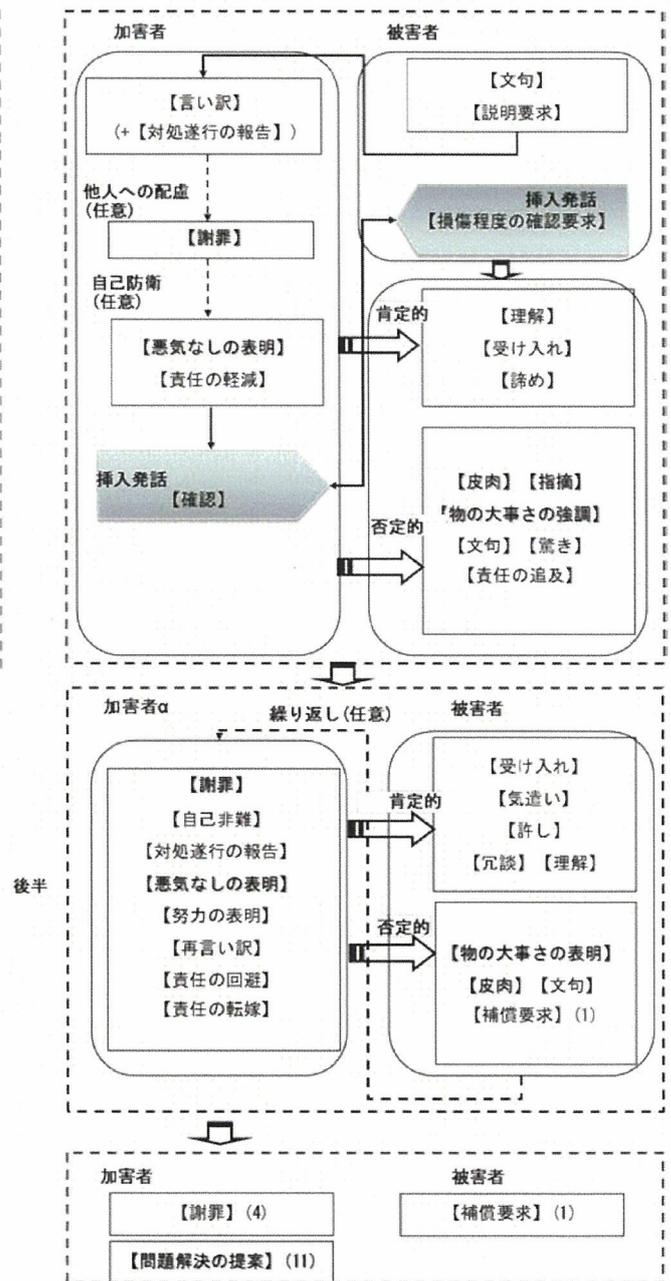


図 6-(16) THの《直接・物・重》会話の流れ



³¹ 図 6-(15)と 6-(16)の中の入挿発話とは、次のようなことを示す。通常は加害者からの【言い訳】に対して、直後に被害者の言い訳に対する反応が来るが、この状況では【言い訳】の後に言い訳に対する反応がすぐにはこず、被害者と加害者が被害が与えられた物の状態について【確認要求】—【確認】という発話連鎖で情報をやりとりしている。この挿入された発話を「挿入発話」と呼ぶ。

図 6-(15)、図 6-(16)を見ると、TH は「加: 言い訳⇒(【確認要求】-【確認】)⇒ 被: 反応」という流れで、【言い訳】を聞いた後、相手に貸した物の損傷について【確認要求】-【確認】を終えてから反応する。そして、被害者の反応の後、加害者が様々な発話(α)をする。

加害者・被害者が使用している発話に関しては、今回の調査で初めて JP と TH が同じ結果になった。すなわち、加害者の発話には、相手への配慮として【謝罪】、自己防衛として【悪気なしの表明】が、日本語にもタイ語にも見られた。また、被害者の反応も、肯定的・否定的の両方が日本語とタイ語で見られているが、TH の否定的な反応は JP より多く、【責める】、【皮肉】、【物の大事さの強調】など、バリエーションも多かった。

最後に、問題の処理方法についてだが、重い状況では、TH は JP と同様、問題解決にまで続く会話が過半数を占めている。しかし、軽い状況では、TH の場合は、加害者の【謝罪】や問題解決にまで続く会話もあれば、被害者の【許し】で終わる会話もあり、会話の終了の仕方にばらつきがあった。

次に、上記の図 6-(13)～図 6-(16)の流れを持つ日本語とタイ語の言い訳会話をそれぞれ取り上げながら、会話の連鎖組織を詳しく見ていく。

6. 2. 1. 2 .1 日本語母語話者

(a) 《直接・物》で使用された言い訳のタイプ

JP はいずれの状況においても[自発的言い訳]のタイプしか使用していないことがわかった。以下、軽・重、それぞれの状況における会話例を挙げ、会話の流れを考察する。

(b) 《直接・物・軽》での会話の流れ(図 6-(13)を参照)

以下の会話 JP30 は、あまり親しくない同等の相手との会話例である。《直接・物・軽》状況における会話の流れは親疎関係による違いがあまりないため、会話例を1つだけ挙げることにする。

会話 JP30 <場面 6: 自分が持っていたあまり親しくない同等の相手のノートに折り目をつけた>

主要部		
1	B: あのう、ところで勉強しよーあのう書き写しようときに、	} 【事情説明】【言い訳】
2	A: うん。	
3	B: なんか折り目: ついてしまってノートに:.	
4	A: あー、全然そんなん¥気にしない¥でください、[全然.]	⇒ 【許し】【気遣い】
5	B: [大丈夫]夫です?	⇒ 【許しの確認要求】
6	A: うんうん。	⇒ 【確認】
7	B: なんかすごいきれいなノートやったのに、[申し訳ないです.]	⇒ 【謝罪】
8	A: [いえいえ、全然.] は: い、大丈夫です。	⇒ 【受け入れ】
9	B: はい、[じゃあ]、これありがとうございました:.	⇒ 【感謝】

会話 JP30 は、場面6:《直接・物・軽・疎》の状況である。まず、この会話の直前の開始部で(紙幅の都合上省略)ノートを貸してくれたことに対して加害者が感謝を表明してから、1B の内容に入る。このとき、自ら 1B で「勉強しよ-あのお書き写しようときに、なんか折り目:ついてしまってノートに:。」と【事情説明】をした後、自発的に【言い訳】を行っている。

それに対して、被害の程度が軽いという理由もあるため、4A で「あー、全然そんなん¥気にしない¥でください、全然。」のようにJPの多くの調査対象者は、親・疎いずれの相手に対しても【許し】や【気遣い】などのように肯定的な反応で返している。そして、この後 5B-6A で【許しの確認要求】-【確認】が行われた後、7B で加害者の【謝罪】で会話が終了となっている。

さらに、このような《直接・物・軽》状況では自分に原因があるため、以下の会話 JP31 のように自分を守ろうとする【悪気なしの表明】の使用が現れた。

会話 JP31 <場面 6: 自分が持っていたあまり親しくない同等の相手のノートに折り目をつけた>

主要部		
1	B: でもね、ちよつとご-本当ごめん[ね]、ここの辺がね、	} 【謝罪】
2	A: [ん?]	
3	A: うん、	} 【結果の言及】
4	B: ちよつと折れ曲がっちゃってて、	
5	A: うん、	} 【謝罪】【悪気なしの表明】【謝罪】
6	B: ごめん、そんなつもりはなかってんやけど:、ごめんね、	
7	A: [え? ¥いいよ、全然¥そんな	⇒ 【許し】【気遣い】
8	A: [大丈夫だよ]	⇒ 【謝罪】【心配の表明】
9	B: [うん、ごめん、]大丈夫かな、	⇒ 【気遣い】
10	A: うん、[大丈夫大丈夫、]	⇒ 【謝罪】【感謝】
11	B: [ごめんね:、]ありがと、	⇒ 【受け入れ】
12	A: はい、	

会話 JP31 は、場面6:《直接・物・軽・疎》の状況である。まず、この会話は会話 TH30 と同様に、この会話の直前の開始部でノートを貸してくれたことに対して加害者が感謝を表明してから、1B の内容に入る。このとき、加害者 B が 1B で「でもね、ちよつとご-本当ごめんね。」と、まず【謝罪】をし、そして 1B の後半と 4B で「ここの辺がね、ちよつと折れ曲がっちゃってて。」と【結果の言及】をしている。その直後に、6B で「ごめん、そんなつもりはなかってんやけど:、ごめんね。」と【謝罪】を重ねて【悪気なしの表明】を述べ、非を認めている。

それに対して、この会話も被害の程度が軽いため、被害者は 7A-8A で「¥いいよ、全然¥そんな大丈夫だよ。」と【許し】、【気遣い】のように肯定的な反応で返している。しかし、加害者は自分に原因があると思っているので、再度 9B で「ごめん、大丈夫かな。」と【謝罪】をしながら、【心配の表明】を述べ、自分が犯した非を重く感じていることを表している。この後、被害者は 10A で「うん、大丈夫大丈夫。」と再び【気遣い】を表明し、最後に 11B で加害者による【謝罪】と【感謝】で会話が終了となっている。

会話 JP31 は加害者が「私がノートを折った」のように明示的な言い訳はしていないが、ノートの結果の状態を述べた際、「ノートが折れ曲がっちゃってごめんなさい。そんなつもりはなかった。」と、ミス認めながらも、自分がわざと折ったのではないと自分を守ろうとする態度も観察された。

次に、《直接・物・重》の会話例を見ていく。

(c) 《直接・物・重》会話の流れ(図 6-(14)を参照)

以下の会話 JP32 は、親しい同等の相手との会話例である。尚、被害が重い状況でも親疎関係による違いがあまりないため、以下のように会話例を1つだけ挙げることにする。

会話 JP32<場面7:親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>

主要部		
1	B: (0.2)ごめんな:[ちやうねん.]うん,聞いてごめんな[.:ほんまな:]	⇒ 【謝罪】
2	A: [え?]	[ああ:何?]何?
3	B: こないださ[:]その(.)バッグ貸してもらった[やんか]	⇒ 【前触れ】
	(中略)	
4	B: あのな:,会場でな[:],人と(.)ぶつかって:.	} 【言い訳】
5	A: [あ] [あ]	
6	A: ああ.	
7	B: (0.2)赤ワイン(.)をな:.	
8	A: うん.	
9	B: .hh(0.3)こぼしちゃってんやんか.	
10	A: 赤ワイン?	⇒ 【聞き返し】
11	B: うん.[で],クリーニングにも.hh(.)こう出して[:],こう取ろうと思ったんやけど[::]	
12	A: [あ] [うん] [うんうん]	⇒ 【理解】
13	B: 取れへんくて[::]	⇒ 【対処遂行の報告】
14	A: [ああ:]ほんまに?.hh	
15	B: で:《バッグを見せた》ほんま**	
16	A: ↑うわーほんまに.	⇒ 【驚き】
17	B: ほんまに[ごめんな:]めっちゃ大事や[って聞いて]てたからさ:.	⇒ 【謝罪】【物の大事さの確認】
18	A: [そっか:] [hhhh]	
19	A: うわ::結構やっちゃったなあ.	⇒ 【指摘】
20	B: そうやねん.ほんまに[ごめん]な:.	⇒ 【受け入れ】【謝罪】
21	A: [そっか:](1.0)hhhh	⇒ 【理解】
22	A: hhh	
23	B: hhh[ごめん]な:.	⇒ 【謝罪】
24	A: [そっか](0.3)[取られへん]かったよな:,[クリーニング.]	⇒ 【対処遂行の確認】
25	B: [どうしよう?] [そうや]ね:ん.	⇒ 【同意】
26	A: あ,そうか[:].赤ワインやしな.°そっか°	
27	B: [うん]	
28	B: (0.3)誰か(0.2)hh¥タイに¥h	} 【補償の申し出】
29	A: hh[hhh]	
30	B: [行った¥折に[買ってきてもらおうかと思ひますよ¥]	
31	A: [hhhhhhhhhhhhhhhhhhhhhh]	⇒ 【保留】
32	A: あ hhhh	
33	B: ¥たぶん¥その方がいいかなと思つてん(.)ねん(.)けど.もう同じのはきつとない	} 【配慮】
34	B: と思ふねん[やんか:]めっちゃ大事やって言っ(.)てたからさ:(0.2)ほんまに,	
35	A: [う:ん]	} 【謝罪】
36	B: もうほんまにごめんなさい.	
37	A: いやいや.[わざとじゃないし.](0.3)ただ hh(0.2)プレゼントやったから hh[hhhh]	⇒ 【気遣い】【物の大事の表明】
38	B: [ほんまにごめん.] [あ,ご	
39	B: めん.=ホンマに]ごめん	⇒ 【謝罪】

会話 JP32 は、場面7:《直接・物・重・親》の状況である。まず加害者 B が 1B で【謝罪】と、3B で【前触れ】をした後、4B、7B、9B で「会場でな:、人と(.)ぶつかって:、赤ワイン(.)をな:、)こぼしちゃってんやんか。」となぜバッグがこのような状態になったかを【言い訳】している。それに対して、被害者 A は 10A で【聞き返し】を行った後、12A で加害者の【言い訳】に対して【理解】を示している。

加害者は、続けて 11B と 13B で「クリーニングにも.hh(.)こう出して:、こう取ろうと思ったんやけど::取れへんくて::」と【対処遂行の報告】をしている。そのとき被害者である A がバッグを見た瞬間、16A で「↑うわーほんまに。」と【驚い】て、さらに 19A で「うわ::結構やっちゃったなあ。」と【指摘】をしている。

すると、加害者は 20B で「そうやねん、ほんまにごめんな:。」と相手からの【指摘】を【受け入れ】て【謝罪】を表明している。しかし、この後被害者は、21A、22A、24A、26A でまだ事実を受け入れられないことを表しているため、加害者は 28B と 30B で新しいバッグを買って返すと【補償の申し出】をしている。ただし、このとき 33B、34B、36B のように、バッグは相手にとって大事なものと配慮するような発話も見られている。

以上、JP《直接・物》における親疎、被害の軽重のそれぞれの状況の会話を見てきた。《直接・物》状況における JP の会話の流れの特徴は、次のようにまとめられる。

- ① 自分に非がある状況で加害者が【言い訳】を行う際、【悪気なしの表明】のような自己防衛的なものが初めて現れた。
- ② 被害者も主に【理解】、【気遣い】などの肯定的な反応を多用しているが、重い状況になると、多少【文句】、【指摘】などの否定的な反応も使用している。
- ③ 問題解決に関しては、被害が重い状況では、問題解決の段階まで続く会話が多くなり、会話自体もかなり長かった。

次に、TH の言い訳会話の流れを見ていく。

6.2.1.2 .2 タイ語母語話者

(a) 《直接・物》で使用された言い訳のタイプ

この状況では、TH も JP と同じように〔自発的言い訳〕が主に使用される結果となった。以下、軽・重それぞれの状況における会話例を挙げ、会話の流れを考察する。

(b) 《直接・物・軽》会話の流れ(図 6-(15)を参照)

TH の会話は、被害者による肯定的な反応と否定的な反応の両方の使用が目立っているため、それぞれの反応の会話を取り上げる。まず、会話 TH39 は肯定的な反応の会話例である。

会話 TH39 <場面 6: 自分が持っていたあまり親しくない同等の相手のノートに折り目をつけた>

主要部		
1	B: แต่ตอน-ตอนที่ก่อนไปซื้อเอกสารอะ, ชั้นก็เปิดๆ, แอบเปิดอ่านก่อนโรยยางเงี้ยใช้มะ. B: あの-コピーしに行く前, ノートをめくってめくって, なんか目を通してたのね.	⇒ 【事情説明】
2	A: อ้อ. (うん.)	
3	B: แล้วที่เนี่ยเหมือนกับว่าอ่านแล้วก็พับมูมเอาไว้, เผลอพับมูมอะไรอย่างเงี้ย. B: で, 読み終わったところに折り目を付けて, うっかり折り目をつけちゃったのね.	⇒ 【言い訳】
4	A: ไม่เป็นไรนิดเดียว.[พับมูม.] B: <u>ちょっと</u> だけだから大丈夫,[折り目は.]	⇒ 【許し】
5	B: [มันก็เลยพับตรงมุมๆอะนกก. B: [そこで, しわになって]端っこに.	⇒ 【結果の言及】
6	A: อ้อ. มันตรงมุมเลยๆใช้ปะ? A: ああ. 端っこにしわがあったただだよな?	⇒ 【損傷の確認要求】
7	B: เป็นไรหรือเปล่าอะ? B: 大丈夫?	⇒ 【許しの確認要求】
8	A: ไม่เป็นไรๆ. แต่พับมูมเอง. A: 大丈夫大丈夫. 折り目だけだから.	⇒ 【許し】【気遣い】
9	B: ขอโทษนะชั้นรู้สึกแย. ตอนแรกก็รู้สึกแย. เพราะเผลอไปพับ[ตามสีหน้าได้]. B: ごめんなさいね. 3-4 ページぐらい折り目つけちゃったから B: 最初なんか悪い...って思ったよ.	⇒ 【謝罪】 【反省】
10	A: [ไม่ๆ.] (全然全然いいよ.)	} 【拒否】
11	A: อย่าเวรหรืออย่าเวร. แต่พับมูม[มันยัง]อ่านออก. A: 大げさに謝らなくていい. ただの折り目だから[まだ]読めるし.	
12	B: [ก็มันแหละ][それだ (=折り目付けたから悪いと思ったのよ)]	} 【気遣い】
13	B: ใต้ใช่ปะ? B: 大丈夫?	
14	A: อืมได้. A: うん大丈夫.	⇒ 【許しの再確認要求】 ⇒ 【許し】

上記の会話 TH39 は、場面6:《直接・物・軽・疎》の状況である。まず、加害者 B が 1B で【事情説明】をした後、3B で「แล้วที่เนี่ยเหมือนกับว่าอ่านแล้วก็พับมูมเอาไว้, เผลอพับมูมอะไรอย่างเงี้ย. (で, 読み終わったところに折り目を付けて, うっかり折り目をつけちゃったのね.)」と【言い訳】と一緒に、5B で「มันก็เลยพับตรงมุมๆอะนกก. (そこで, しわになって端っこに.)」の【結果の言及】を行っている。

それに対して、被害者 A は 6A で【損傷の確認要求】をした後、8A で「ไม่เป็นไรๆ. แต่พับมูมเอง. (大丈夫大丈夫. 折り目だけだから.)」と【気遣い】を表している。しかし、あまり親しくない人の物に被害を与えた事態を重く捉え、改めて 9B「ขอโทษนะชั้นรู้สึกแย. ตอนแรกก็รู้สึกแย. เพราะเผลอไปพับ[ตามสีหน้าได้]. (ごめんなさいね. 3-4 ページぐらい折り目つけちゃったから最初なんか悪い...って思ったよ.)」と【謝罪】、【反省】を表明する態度が見られた。すると、加害者は、10A で加害者からの反省感を「ไม่ๆ. (全然全然いいよ.)」と【拒否】し、そして、11A で「อย่าเวรหรืออย่าเวร. แต่พับมูมมันยังอ่านออก. (大げさに謝らなくていい. ただの折り目だけだからまだ読めるし)」と【気遣い】を表明することによって、加害者が犯した非を本当に許していると強く表明している。

【謝罪】をするしかない。ただし、加害者はこのときもなお、【改善の約束】、【許し求め】、【悪気なしの表明】を言い続けている。

ただし、いくら怒っていても、あまり親しくない相手だと、タイ語母語話者はその怒りをあまり明示的に表さないで、会話 TH41 のように、形としては相手を許しているように一見見えるが、よく会話を聞くと、実はまだ怒っていて許していないのである。

会話 TH41 <場面 6: 自分が持っていたあまり親しくない同等の相手のノートに折り目をつけた>

主要部		
1	B: A: เื่อ, เร็องสมุดโน้ตAอ๊ะ, ที่เรียมไปอ๊ะ. B: A: あのだ、私が借りてた A: のノートなんです。	⇒ 【前置き】
2	A: เื่อจจ. ทำไมเทอ? A: うんうん. どうしたの?	⇒ 【語り要求】
3	B: อืม, ขอโทษนะ. พอดีมันเป็รอยยับอ๊ะ. B: あ、ごめんね. それに折り目ができちゃって.	} 【謝罪】【結果の言及】
4	B: เราค้นชินนะเผื่อไปพับสมุดAอ๊ะ. A, A, เป็นไรไหมอ๊ะสมุด. B: 私、癖で A のノートを折っちゃったの. A, A さん大丈夫かな、ノート.	
5	A: เื่อ... ก็ไม่เป็นไรอ๊ะ. พับไปน่ตัวก็(.) [อืม.] A: ン... まあ折っちゃったもんはしょうがないよ(.) [うん.]	⇒ 【保留】【許し】
6	B: [เฮ้ย] (ああ)	
7	A: แลวันคืนนี้เอามาคืนใช่ปะ. เื่อจจ. A: それで今日返しに持ってきたんでしょ、うん. ン.	⇒ 【返却の確認要求】
8	B: เื่อ. เอามา. เฮ้ยเราขอโทษจจ. ไม่ได้ตั้งใจอ๊ะ. B: うん. 持ってきた. あの本当にごめん. わざとじゃなかった.	⇒ 【確認】 ⇒ 【謝罪】【悪気なしの表明】
9	A: โอเค. ↓ ไม่↓ เป็น↓ ไร↓ ะ. A: うん. ↓ マイ↓ ペン↓ ไล.	⇒ 【怒りの表明】

上記の会話 TH41 は、場面6:《直接・物・軽・疎》の状況である。まず、加害者 B が 1B で【前置き】をした後、3B の【謝罪】、【結果の言及】と共に 4B で「เราค้นชินนะเผื่อไปพับสมุดAอ๊ะ. (私、癖で A のノートを折っちゃったの)」と【言い訳】を行っている。また、このとき「A, เป็นไรไหมอ๊ะสมุด. (A さん大丈夫かな、ノート.)」と【許しの確認要求】も見られている。

それに対して、被害者 A は 5A で「เื่อ... ก็ไม่เป็นไรอ๊ะ. พับไปน่ตัวก็(.) (ん... まあ折っちゃったもんはしょうがないよ.)」と一旦【保留】をしているが、その後【許し】を表明している。ただし、この後の 9A に【怒りの表明】の発話が現れているところを見ると、この 5A の【許し】は決して本当に相手を許しているものではないことがわかるだろう。加害者は最後に、【謝罪】と共に 8B で【悪気なしの表明】も用いているが、結局は A の【怒りの表明】で終わっている。

次に、《直接・物・重》の会話例を見る。

(c) 《直接・物・重》会話の流れ(図 6-(16)を参照)

以下の会話 TH42 は、親しい同等との会話例である。

会話 TH42<場面7:親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>

主要部		
1	B: < un: ฉันมีกระเป๋า > B: < 君:: 言わなきゃいけないことがあるの。 >	⇒ 【前置き】
2	A: ทำไมอะ มีไร ↓ un. A: どうしたの. 何があった ↓ の.	⇒ 【語り要求】
3	B: เขยวันนั้นอะในงานเลี้ยงฉันนะทำไวน์แดงหกใส่กระเป๋าอะ... B: あのさあの日パーティで君のかばんに赤ワインをこぼしたの::.	⇒ 【言い訳】
4	A: < ไวน์แดง > แล้วซักไม้ออก(.) เหม? A: < 赤ワイン > で洗っても落ちなかった(.) の?	⇒ 【繰り返し】【確認要求】
5	B: ไม้ออก. ฉันพยายามแล้วอะ un. ทำไรคือ. B: 落ちなかった. がんばったけど. どうしたらいい.	⇒ 【対処遂行の確認】【相談】
6	A: un คือ: โฮสต์ฉันให้มาเลยนะ ↓ เวีย. A: 君さあ: それホストファミリーにもらったんだ ↓ よ.	⇒ 【物の大事さの強調】
7	B: (0.2) เขย un: un โกรธใช้ไหมอะ.. B: (0.2) あのだ: 君, 怒ってるよね..	⇒ 【確認要求】
8	A: [โกรธ.] > [โกรธจริงอะไรจริง.] < A: 怒ってる. > 本当に怒っているよ. <	⇒ 【不満の確認】
9	B: { เขย un ฉันขอโทษนะ เวีย. ฉันไม่ได้ตั้งใจอะ. ให้ฉันทำยังไงก็ได้อะ.. } B: { ごめんね. わざとじゃなかったんだ. 何でもするから. }	⇒ 【謝罪】【悪きなしの表明】
10	B: เขยวันนั้นจะไปลองไปซักหรืออันใหม่ un. เผื่อเค้าจะเอาออกได้อะ. เหม? B: 後で別のクリーニング屋さんに行ってみる. もしかすると取ってもらえるかも. B: いい?	⇒ 【補償の申し出】
11	A: เอม [:::] (ええ:::)	⇒ 【受け入れ】

上記の会話 TH42 は、場面7:《直接・物・重・親》の状況である。加害者が 1B で【前置き】をした後、3B で「เขยวันนั้นอะในงานเลี้ยงฉันนะทำไวน์แดงหกใส่กระเป๋าอะ... (あのさあの日パーティーで君のかばんに赤ワインをこぼしたの::.)」と非を認めて【言い訳】をしている。被害者は 4A で自分のバッグを損傷された結果について【確認要求】をしているが、それに対して、加害者は 5B で「ไม้ออก. ฉันพยายามแล้วอะ un. ทำไรคือ. (落ちなかった. がんばったけど. どうしたらいい.)」と【対処遂行の確認】をし、【相談】をしようとしている。ところが、そのとき被害者が 6A で「un คือ: โฮสต์ฉันให้มาเลยนะ ↓ เวีย (君さあ: それホストファミリーにもらったんだ ↓ よ.)」と低い声で不満を表明しながら、【物の大事さの強調】をする。

加害者は 7B-9B で相手の気持ちに配慮しながら、【確認要求】-【謝罪】をしているが、最後に相手の気持ちをよくするために、10B のように【補償の申し出】までをし、問題解決しようとする。そこで、ようやく相手がそれを受け入れてくれたため、会話が無事に終了部に入っている。

以上、《直接・物》の状況における TH の会話の流れについて述べてきた、TH の会話の特徴は次のようにまとめられる。

- ① 軽い状況では、親疎関係が被害者の反応に影響を与えるが、重い状況になると、どの相手に対しても、同じように否定的な反応が使用されている。つまり、TH の会話の流れは、軽と重の状況の間で被害者の反応に違いが見られたということである。

- ② 言い訳の際、自分に非はあるが、わざとではないと徹底的に理解してもらおうとして【悪気なしの表明】や、他人のせいにする【責任の転嫁】などの発話も多用するのが、TH の特徴と言える。
- ③ あまり親しくない相手を非難するとき、【皮肉】を用いて自分の不満な気持ち、怒りを表明することも TH の特徴の一つである。

6. 2. 1. 3 《直接・物》状況での会話の流れのまとめ

《直接・物》状況は、《間接・物》と同じように、借りた物に何が起こったか加害者にしか分からないため、JP と TH は同じように〔自発的言い訳〕のタイプを多く使用している。

また、被害の軽い状況の会話と、被害の重い状況の会話の、それぞれの会話における流れは JP と TH ではあまり違わないが、加害者と被害者の発話の種類は異なる。JP の加害者は、会話をする相手である被害者に配慮しているのに対して、TH は、自分に非があるがゆえに不利な状況であるため、自分のことを優先的に考えていて、【悪気なしの表明】、【責任の軽減】のような自己防衛的な発話をよく用いる。また、被害者の反応も否定的な反応を多く使用しているところが、JP と異なる。

最後に、生じた被害をどうするかについて、重い状況では、JP も TH も会話が問題解決まで続いた。さらに、TH は軽い状況でも問題解決にまで会話が続く場合が多かった点が、JP と異なる。

6. 2. 2では、言い訳の発話とそれに対する被害者の反応の発話に焦点を当てて考察する。

6.2.2 加害者が使用する言い訳内容、及びその言い訳に対する被害者の反応

本項では、《直接・物》状況における加害者が使用する言い訳と、被害者が使用する反応について論じる。以下、会話例を挙げながら、言い訳の内容とそれに対する反応がどのように関係するかについて、日本語とタイ語の違いを明らかにしたい。

データの分析では、6.1.2と同様に、言い訳の内容を相手に[正直に言う]か、もしくは[正直に言わない]かの2つのタイプに分けて考察する。また、JPとTHが使用した言い訳の内容に対して、相手との関係及び被害の程度の要因が、どのように被害者側の反応と関係しているかについて考察する。

以下の表6-(6)は<場面5>、<場面6>、<場面7>、<場面8>の4つの状況のロールプレイデータに見られた、JPとTHの言い訳のタイプ別の結果である。

表 6-(6) 《直接・物》状況における JP と TH が使用した言い訳内容別の会話数

《直接・物》状況		JP	TH
場面5「軽・親」	正直に言う	7	8
	正直に言わない	1	0
言い訳をしない		0	0
合計		8	8
場面6「軽・疎」	正直に言う	6	8
	正直に言わない	2	0
言い訳をしない		0	0
合計		8	8
場面7「重・親」	正直に言う	6	3
	正直に言わない	2	5
言い訳をしない		0	0
合計		8	8
場面8「重・疎」	正直に言う	7	3
	正直に言わない	1	5
言い訳をしない		0	0
合計		8	8
合計		32	32

この結果を見ると、自分に非があるとき、JPは相手との関係及び被害の程度に関係なく、調査対象者は被害の原因を[正直に言う]傾向があるのに対して、THは親疎の関係による違いはないものの、被害の程度によって[正直に言う]か[正直に言わない]かを選択している。つまり、JPとTHで言い訳の発話の内容の使用が異なる。以下で、JPとTHの会話例を挙げながら、言い訳の内容と被害者の反応を考察する。

6.2.2.1 言い訳の発話の特徴と被害者の反応の特徴

ここでは、加害者が使用した言い訳の発話を、[正直に言う]場合と[正直に言わない]場合に分け、それぞれの特徴を見ていく。また、この時それぞれの言い訳の発話の使用が被害者の反応にどのように影響を与えるかについても考察したい。

6.2.2.1.1 [正直に言う]場合

まず、日タイそれぞれの母語話者が使用した[正直に言う]会話例を挙げながら、考察する。

(1) 日本語母語話者の場合

日本語のデータを見ると、自分に非があるときであっても、多くの JP は[正直に言う]ようである。具体的に例えば、自分が相手の本・ノートに折り目を付けたり、または、赤ワインをこぼしたりすることによって相手の物に被害を与えた状況では、調査対象者が「折っちゃって」、あるいは「ここ(.)に赤ワインをこぼしちゃって」などと他動詞を使い、自分の行為で被害が生じたと「正直に言う」のである。

図 6-(17) 被害程度の軽い状況における JP が使用している[正直に言う]言い訳会話のパターン

親しい関係	あまり親しくない関係
加:【言い訳】(+【謝罪】/【事情説明】/【結果の言及】…)	加:【言い訳】(+【謝罪】/【前触れ】/【事情説明】…)
↓	↓
被:【理解】/【受け入れ】/【気遣い】/【許し】/【文句】/【驚き】	被:【理解】/【気遣い】/【許し】/【驚き】

図 6-(18) 被害程度の重い状況における JP が使用している[正直に言う]言い訳会話のパターン

親しい関係	あまり親しくない関係
加:【言い訳】(+【謝罪】/【前触れ】/【事情説明】/【結果の言及】…)	加:【言い訳】(+【謝罪】/【前触れ】/【事情説明】/【結果の言及】/【自己非難】…)
↓	↓
被:【理解】/【驚き】	被:【理解】/【気遣い】

図 6-(17)に示したように被害の原因を[正直に言う]とき、被害の程度が軽い場合、JP は親・疎いずれの相手に対しても全員が【言い訳】を行っている。また、【言い訳】の際、よく【謝罪】と一緒に使っている。また、今から話す内容を【前触れ】でほのめかしたり、自分の過失について【事情説明】をしたり、あるいは【結果の言及】という物の現状を言う発話も使用されることが分かった。そして、その言い訳に対して被害者の多くは【理解】、【受け入れ】、【気遣い】などのような肯定的な反応を示す

が、相手が親しい人であると、【文句】のような否定的な反応で返す調査対象者もいた。ただし、最終的に被害者は【許し】、【気遣い】などを示すため、文句といっても、どちらかというとき軽い方であると見ていだろう。

また、図6-(18)に示したように被害の程度が重くなると、JPは軽い状況と同様の発話を【言い訳】と一緒に使っているが、自分の非を重く受け止めていることを表す【自己非難】の使用も見られる。また、その言い訳に対する被害者の反応は、バッグが損傷されたと報告された瞬間は【驚き】のような否定的な反応もあるが、全体的には肯定的な反応の方が圧倒的に多く、特にあまり親しくない関係では、肯定的な反応のみ使用されるという結果になっている。

以下でまず、軽い状況での会話例を見ていく。

{被害の程度が軽い場合}

会話 JP33<場面5:自分が持っていた親しい同等の相手の本に折り目をつけた>

主要部		
1 B:	A:、ごー、本当ごめん.あのさ、	【謝罪】
2 A:	ん?	
3 B:	あたし、いつもの癖で、	【説明】
4 A:	うん.	
5 B:	本,あの,栞代わりに(.)折る癖が[あってさ]折っちゃって、[¥本当]ごめん.¥	【言い訳】【謝罪】
6 A:	[hhhh] [なんか]	
7 B:	本当ごめん.これ型ついてもう直んなくて.	【結果の言及】
8 A:	うん.[¥気にしないで¥hh]	⇒ 【気遣い】
9 B:	[本当ごめん]本当ごめんね.[本当にごめん.]	⇒ 【謝罪】
10 A:	[大丈夫,大丈夫]	
11 A:	うん.大丈夫,大丈夫.	⇒ 【受け入れ】【許し】

会話 JP33 は、場面5:《直接・物・軽・親》の状況である。加害者Bが5Bで「本,あの,栞代わりに(.)折る癖があってさ折っちゃって、」と【言い訳】をしており、言い訳の際、まず1Bで【謝罪】を使い、3Bで【説明】と一緒に用いている。

それに対して、被害者は8Aで「うん.¥気にしないで¥hh」と笑いながら【気遣い】を表明している。加害者は再び9Bで「本当ごめん本当ごめんね.本当にごめん。」と何度も【謝罪】をするが、被害者は10A-11Aで「大丈夫,大丈夫。」と謝罪を【受け入れ】て、【許し】を表明している。

次は、重い状況での会話例を見ていく。

{被害の程度が重い場合}

会話 JP34 <場面7: 親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>

主要部		
1	B: あの:この前借りとっ(.)た、あのう(.)バックなんやけど、	⇒ 【前触れ】
2	A: あ、はいはいはいはい。	
3	B: あの:hh[パーティー]の最中に(.)なんか赤ワイン出て__	⇒ 【事情説明】
4	A: [どうしたん?]	
5	A: あ、はいはい。	
6	B: 赤ワインさ:バックにこぼしてしまったんやんか:.	⇒ 【言い訳】
7	A: あらら。	⇒ 【驚き】

会話 JP34 は、場面7:《直接・物・重・親》の状況である。加害者 B は 1B で「あの:この前借りとっ(.)た、あのう(.)バックなんやけど、」と【前触れ】をし、続いて 3B で「あの:hh パーティーの最中に(.)なんか赤ワイン出て__」と【事情説明】をした後、4B で「赤ワインさ:バックにこぼしてしまったんやんか:。」と【言い訳】を行っている。

それに対して、被害者は自分のバッグを見た瞬間に「あらら」と【驚き】で返している。

次は、あまり親しくない同等の相手との会話例を見ていく。

会話 JP35 <場面8: あまり親しくない同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>

主要部		
1	B: まあ:なんかめっちゃ大事なもんやのにほんまに(.)借りちゃって(.)[ごめんね.]	⇒ 【感謝】
2	A: [いえいえ]いえ。	⇒ 【受け入れ】
3	B: でちよつと(0.3).hh すごく言いにくいんですが、	⇒ 【前触れ】
4	A: うん.何?何?	
	B: 《バッグを見せながら》	
5	B: <ちよつ(.)と]赤ワイン[を]こぼし(.)ちゃっ(.)て__>[その]	⇒ 【言い訳】
6	B: パーティーのときに、	
7	A: [え?] [え?] [あ.]	
8	A: あ、そうなんや。	⇒ 【理解】

会話 JP35 は、場面8:《直接・物・重・疎》の状況である。加害者 B は、まず 1B で【感謝】を述べる。そして 3B で「でちよつと(0.3).hh すごく言いにくいんですが、」と【前触れ】を言った後、5B で「<ちよつ(.)と赤ワインをこぼし(.)ちゃっ(.)て__>そのパーティーのときに。」と【言い訳】を行っている。

それに対して、被害者は 8A で「あ、そうなんや。」と【理解】を表明している。

JP は被害程度の重い場合も、上記の会話のように、大半の加害者は被害の原因を[正直に言う]結果であった。そして、言い訳に対する反応は、今回のデータでは【理解】が最も多く使用された。また、親疎関係という要因によって、反応の仕方に違いが見られた。つまり、親しい相手に対しては、上記の会話 JP34 のように「あらら」と【驚き】で返すこともあることが分かった。

次に、TH の結果を見ていく。

(2) タイ語母語話者の場合

TH は JP と違って、被害の程度が軽い状況では調査対象者全員が「พอดีเราพบ(.)ถึงตอนหน้าที่เราจะอ่านอะ.(これから(.)読むところを折ったんだ.)」、あるいは「เอ้ยวันนี้มันอะในงานเลี้ยงชั้นนะทำไมมันแดงทกใส่กระเป๋านะ:::(あのさあの日パーティーで君のかばんに赤ワインをこぼしたの:::)」のように自分のせいだと非を認めるが、被害の程度が重くなると、[正直に言う]会話は半分以下に減るといった結果となった。

図 6-(19) 被害程度の軽い状況における TH が使用している[正直に言う]言い訳会話のパターン

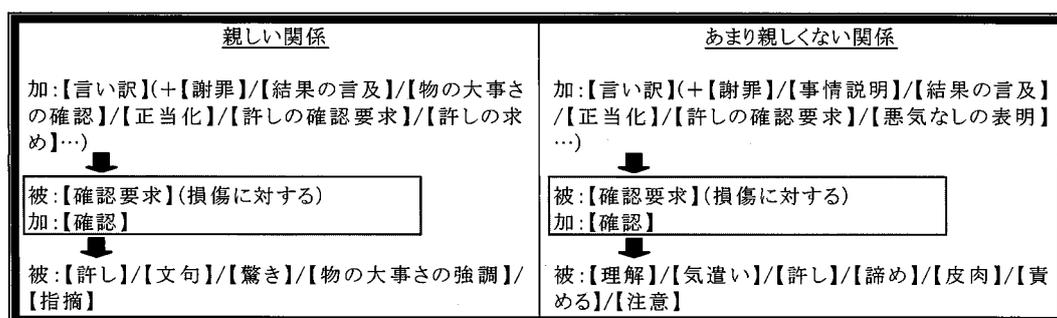


図 6-(20) 被害程度の重い状況における TH が使用している[正直に言う]言い訳会話のパターン

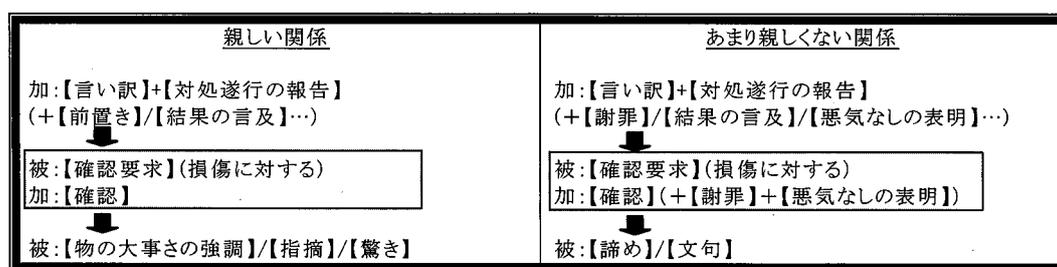


表 6-(6)のように、被害の原因を[正直に言う]とき、被害の程度が軽い場合は、TH は親・疎いずれの相手に対しても全員が【言い訳】を行っている。また、図 6-(19)に示したように、【言い訳】の際、親・疎いずれの相手に対しても同じように、【謝罪】の他に、【悪気なしの表明】、【許しの確認要求】、【正当化】もよく使用される。この後、多くの会話例で、被害者は【言い訳】に対してすぐには反応せず、自分のノート/本の損傷の程度を【確認要求】-【確認】で確認した上で、はじめて言い訳に対して反応する。ただし、この反応は親疎によって異なる。疎の相手には【理解】、【受け入れ】などのような肯定的な反応を示すが、親の相手には【文句】、【指摘】、【物の大事さの強調】のような否定的な反応で返す調査対象者が多かった。また、この状況でもあまり親しくない相手に対する反応として、【皮肉】がよく用いられる。

また、被害の程度が重くなると、被害の原因を[正直に言う]会話が少なくなるが、図 6-(20)に示したように、会話の流れは軽い状況とあまり変わらない。親しい相手の場合は【前置き】とともに【言い訳】を行うが、あまり親しくない相手の場合は、【謝罪】、【悪気なしの表明】とともに【言い訳】をするという違いが見られた。また、言い訳に対する被害者の反応は、軽い状況と違って、親・疎とも【物の大事さの強調】、【文句】などの否定的な反応がよく使用されている。

以下でまず、軽い状況での会話例を見ていく。

{被害の程度が軽い場合}

会話 TH43<場面5:自分が持っていた親しい同等の相手のノートに折り目をつけた>

主要部		
1	B: uk,หนังสือที่ฉันยืมไปอะ. ก็มันยืมเมื่ออาทิตย์ที่แล้วอะ. B: きみ,借りた本.先週借りた本だけど.	⇒ 【前触れ】
2	A: อ้อ::เออ(0.8)《本が返却された》↑ un::นี่อะไรอะ? A: ああ::うん(0.8)《本が返却された》↑ 君::何これ?	⇒ 【理解】【説明要求】
3	B: (0.3)เอ๊ยขอโทษนะ.พอดีเราพับ(.)ถึงตอนหน้าที่เราจะอ่านอะ. B: (0.3)あごめん.これから(.)読むところを折ったんだ.	⇒ 【謝罪】【言い訳】
4	A: ↑ unอะ::เล่มนี้ฉันรักด้วยอะ.เป็นรอยเลยอะ::. A: ↑ 君::この本大好きだったのに.傷つけられちゃった::..	⇒ 【物の大事さの強調】【指摘】

会話 TH43 は場面5:《直接・物・軽・親》の状況である。会話 TH43 で用いられた言い訳は「พอดีเราพับ(.)ถึงตอนหน้าที่เราจะอ่านอะ。(これから(.)読むところを折ったんだ。)」と[正直に言う]もので、言い訳の際、1B で【前触れ】を表明している。また、この会話の言い訳は2A で被害者によって聞かれる【説明要求】に対するものである。その言い訳に対して、親しい関係の場合、THの被害者は、この会話の4Aのように「↑ unอะ::เล่มนี้ฉันรักด้วยอะ.เป็นรอยเลยอะ::。(↑ 君::この本大好きだったのに.傷つけられちゃった::..)」と大きい声で【物の大事さの強調】、【指摘】で返す傾向がある。

次に、あまり親しくない相手との会話を見ていく。

会話 TH44<場面6:自分が持っていたあまり親しくない同等の相手のノートに折り目をつけた>

主要部		
1	B: แต่พอดีที่เราพับไปตรงที่มัน(.)ที่เราอ่านค้างไว้อะ.=เป็นอะไรเป่ล่า? B: でも読みかけのところ(.)折り目付けちゃって.=大丈夫かな?	⇒ 【言い訳】【許しの確認要求】
2	A: อ้อ.>ไม่เป็นไรจจ.< โอเค: A: ああ.>いいよいいよ<大丈夫:	⇒ 【理解】【許し】

会話 TH45<場面6: 自分が持っていたあまり親しくない同等の相手のノートに折り目をつけた>

主要部		
1 B:	เออ,แต่ว่า,เผอิญแบบ-เราเผลอไปอะ. เราลืมเรานึกว่าเป็นสมุดของเรา. เราก็เลยแบบพับ.	⇒ 【言い訳】
B:	あの,ちょっと,私-うっかりして. 自分のノートだと思って. 折り目, 折り目つけちゃったんだ.	
2 B:	เผลอพับมูมไปอะ. ขอโทษนะ. ไม่ได้ตั้งใจ.	
B:	つけちゃったんだ. ごめんね. わざとじゃないんだ.	⇒ 【謝罪】【悪気なしの表明】
3 A:	เออพับมูมก็ดีเนอะ. จะได้ว่าหน้าไหนมันมีข้อความสำคัญเนอะ.]	⇒ 【皮肉】
A:	折り目つけてくれて, まあよかったかな. どのページに	
A:	大切なことがあるか分かるし.	

上記の会話 TH44 と会話 TH45 は、場面6:《直接・物・軽・疎》の状況である。この会話のように、あまり親しくない相手に対してもTHの【言い訳】は「แต่พอตีว่าเราพับไฮ้ตรงที่มัน(.)ที่เราอ่านต่างไว้อะ.(でも読みかけのところ(.)折り目付けちゃって)」、「เออ,แต่ว่า,เผอิญแบบ-เราเผลอไปอะ. เราลืมเรานึกว่าเป็นสมุดของเรา. เราก็เลยแบบพับ. เผลอพับมูมไปอะ(あの,ちょっと,私-うっかりして. 自分のノートだと思って. 折り目, 折り目つけちゃったんだ)」と[正直に言う]ものである。ただし、言い訳をしたとき、あまり親しくない相手には会話 TH44 のように「อ้อ. >ไม่เป็นไรๆ. <โอเค..(ああ.>いいよいいよ<大丈夫:)」と【理解】、【許し】で返すことが多く、親しくない相手に不満を感じたときはあまり直接的に文句を言わず、会話 TH45 の3A のように「เออพับมูมก็ดีเนอะ. จะได้ว่าหน้าไหนมันมีข้อความสำคัญเนอะ.(折り目つけてくれてまあよかったかな. どのページに大切なことがあるか分かるし.)」と【皮肉】を使い、自分の不満を伝えようとするのである。

<場面5>と<場面6>は軽い状況だが、被害の原因が直接自分の行動による場合でも、THは全員言い訳を[正直に言う]のであった。ただし、言い訳と一緒に用いられる発話は、親疎の相手によって多少異なる。あまり親しくない相手の場合は、自分がわざとやったのではないと【悪気なしの表明】の使用が見られるが、親しい相手の場合は、相手に甘えるように【許し求め】の使用が見られる。また、言い訳に対する被害者の反応も親疎の相手によって異なる。親の相手との会話では、肯定的な反応の【許し】の使用が非常に少なく、【文句】、【物の大事さの強調】などの否定的な反応の使用が多い。一方、疎の相手との会話では、【理解】、【気遣い】のような肯定的な反応が多く使用されているが、全面的な肯定ではなく、【理解】を示しつつ【皮肉】を使って自分の不満を表す会話例もある。

次に被害程度の重い状況での結果を見ていく。

{被害の程度が重い場合}

会話 TH46 <場面7: 親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>

主要部		
1	B: <un::ฉันมีกระเป๋า> B: <君::言わなきゃいけないことがあるの.>	⇒ 【前置き】
2	A: ทำอะไร? มีอะไร ↓ un. A: 何があったの. 何があった↓の.	
3	B: เขยวันนั้นอะในงานเลี้ยงฉันนะทำไวน์แดงหกใส่กระเป๋าเนอะ... B: あのさあの日パーティで君のかばんに赤ワインをこぼしたの::	⇒ 【言い訳】
4	A: <ไวน์แดง> แล้วซักไม่ออก(.) เหม A: <赤ワイン>, で洗っても落ちなかった(.) の?	⇒ 【確認要求】
5	B: ไม่ออก. ฉันพยายามแล้วอะแก, ทำใจดีอะ.. B: 落ちなかった. がんばってたけど, どうしたらいい::	⇒ 【確認】【相談】
6	A: แกคือ: โอลด์ชั่นให้มาเลยนะ ↓ เวย์. A: 君さあ: それホストファミリーにもらったんだ ↓ よ.	⇒ 【物の大事さの強調】

会話 TH46 は、場面7:《直接・物・重・親》の状況である。会話 TH1 では、【言い訳】の発話の前に、加害者であるBが1Bで「<un::ฉันมีกระเป๋า> (君::言いたいことあるの.)」と【前置き】をしており、続いて3Bで「เขยวันนั้นอะในงานเลี้ยงฉันนะทำไวน์แดงหกใส่กระเป๋าเนอะ... (あのさ、あの日パーティーで君のかばんに赤ワインをこぼしたの::)」と【言い訳】を行っている。

それに対して、被害者Aは、4A-5Aでバッグの損傷について【確認要求】-【確認】を経て、6Aで「แกคือ: โอลด์ชั่นให้มาเลยนะ ↓ เวย์. (君さあ: それホストファミリーにもらったんだ ↓ よ.)」と【物の大事さの強調】をしている。

一方、疎の相手には、相手をはっきりと責めたり叱ったりすることができないため、言い訳を受け入れざるを得ず、会話 TH47 のように【諦め】やつぶやく【文句】が用いられる傾向が見られた。

会話 TH47 <場面8: あまり親しくない同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>

主要部		
1	B: เอะ: แต่แบบ(.) ต้องขอโทษด้วยอะคะ. บังเอิญทำไวน์หกไปนิดนึงอะคะเป็นรอย. B: うえんでも(.) 謝らなければならないことあるんです. B: ちょっとワインをこぼしてシミになっちゃったんです.	⇒ 【謝罪】 ⇒ 【言い訳】【結果の言及】
2	A: เนี่ยเพราะอะ.. เนี่ยที่ทำหกไปปะ? A: これですか. こぼれたのはここですか?	⇒ 【確認要求】
3	B: อะ. ต้องขอโทษจริงๆนะคะ. แบบไม่ได้ตั้งใจ. B: はい. 本当にごめんなさい. わざとじゃなかったんです.	⇒ 【確認】【謝罪】 ⇒ 【悪気なしの表明】
4	A: (0.3) คือก็.. ทำใจดีอะ. มันหกไปแล้วอะทำไรไม่ได้นั้น. A: (0.3) ンー どうしようもないなあ. こぼしちゃったものは, しょうがない.	⇒ 【諦め】【文句】

会話 TH47 は、場面8:《直接・物・重・疎》の状況である。ここでは、加害者Bが【言い訳】の前に1-2Bで「เอะ: แต่แบบ(.) ต้องขอโทษด้วยอะคะ. (う: んでも(.) 謝らなければならないことあるんです.)」と、会話 TH46 とは異なり、まず【謝罪】をしている。そして、3Bで「บังเอิญทำไวน์หกไปนิดนึงอะคะเป็นรอย. (ちょっとワインをこぼしてシミになっちゃったんです.)」と【言い訳】と共に【結果の言及】をしている。

すると、被害者であるAは、バッグの損傷について【確認要求】-【確認】で把握した後、4Aで「คือ
..ทำไม่ได้อะ. มันหกไปแล้วอะทำไรไม่ได้หนึ. (んーどうしようもないなあ.こぼしちゃったものは、しょうがない.)」と
【諦め】てつぶやく【文句】を示している。

また、疎の相手との会話では、今回の調査で興味深い結果も出ている。次の会話TH48 では、被害者であるAが【言い訳】に対して一旦【保留】をし、その後加害者Bの 3Bの【許しの確認要求】に対して一見 4Aの【許し】を示しているように見えるが、実はその後、8Aで「°อ้อ.° โอเคจ้ะ. ↓ ไม่เป็นไร. (°んー.°うん. ↓ マイペンライだよ.)」と小さい声で【理解】を示した後、低い声でマイペンライと言って【怒り】を示している。また、4Aの【許し】と 8Aの【怒り】のところでも、同じ「マイペンライ」ということばが使われているが、特に 8Aは文字通りの「大丈夫」ではなく、「大丈夫じゃない」というタイ語の特別な表現の仕方なのである³²。あまり親しくない相手なので、不満を露骨に表明できず、被害者は、会話TH48のように【怒り】などを使って、相手に自分の不満を間接的に伝えようとしていると言える。

会話 TH48 <場面8:あり親しくない同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>

主要部		
1	B: เธอพอดีมีเรื่องจะบอกเลอะอะA. B: あのさちょうど話したいことがあるの。 B: พอสิ(.)มันเกิดอุบัติเหตุขึ้นหน่อยอะ. เราดันทำไวน์อะหกใส่กระเป๋อะ. เป็นรอยแดงอย่างเงี้ยอะ. B: 《バッグを見せた》ちょっと(.)事故があって、ワインをバッグにこぼしちゃった。 B: こんな赤いシミになっちゃって.	【前置き】 【言い訳】【損傷に言及】
2	A: เอ้อ : h A: あ : h	⇒ 【保留】
3	B: Aโอเคไหมอะ?เราขอโทษนะ. เราไม่ได้ตั้งใจอะ. B: 大丈夫?ごめんね.わざとじゃなかったよ.	⇒ 【許しの確認要求】【謝罪】 ⇒ 【悪気なしの表明】
4	A: ↓ อืม ↓ จริง ๆแล้วโฮสต์เราให้มา. แต่มันก็ทำไรไม่ได้แล้ว. ไม่เป็นไรแล้วกัน,เออ. A: ↓うん ↓ 本当はホストファミリーにもらったの.でももうしょうがない. A: マイペンライ(=いいことにしよう).	【物の大事さの確認】【断念】 【許し】
5	B: เฮ้ยเรา-เราขอโทษจริงๆนะ.[เรา]ไม่ได้ตั้งใจอะ.[เรา]พยายามรักษามันแล้วอะ. B: あの-本当にごめん.[わ]ざとじゃなかったんだ.[大]事に扱おうとしてたけど.	⇒ 【謝罪】【悪気なしの表明】 ⇒ 【努力の表明】
6	A: [เออ](うん) [เออ](うん) A: เออ. A: うん.	⇒ 【理解】
7	B: แต่บังเอิญที่เราดันมีมือไปโดนอะ. แต่ไม่เป็นไรนะA, เราจะหาทางพยามหาทางไปซักให้อะ. B: 偶然手が滑っちゃって.でも心配しないで,何とか取る方法を探すからね.	⇒ 【言い訳の言い直し】 ⇒ 【補償の申し出】
8	A: °อ้อ.° โอเคจ้ะ. ↓ ไม่เป็นไร. A: °んー.°うん. ↓ マイペンライだよ.	⇒ 【理解】【怒り】

以上のように、《直接・物》の状況は、被害が直接自分の行動によるため、言い訳を[正直に言う]THの加害者が少なかった。また、被害者の反応について、THは相手があまり親しくないと、いくら相手に不満を感じても、それを表に出せず、上記の会話 TH48 のような【許し】、【理解】を示しつつ、【怒り】などで否定的な反応をする傾向がある。一方、親しい相手であると、不満をはっきりと伝えやすい仲であるため、会話 TH46 のような【物の大事さの表明】などの否定的な反応で返すことができるのである。

³² タイ語の否定的な意味を持つ「大丈夫」に関しては、ソーピットウツィウオン(2012)を参照されたい。

6.2.2.1.2 [正直に言わない]場合

ここでは、[正直に言わない]場合の会話例を挙げながら、日タイそれぞれの母語話者が使用した言い訳を考察したい。以下は、本調査に見られた、正直に言わない場合に用いられる方法である。

①曖昧な表現の使用

被害の原因が確実に自分にあるにもかかわらず、それを明示的に示さず、もしかすると自分に原因があるかもしれないと、相手の想像に任せるような発話をする方法である。

②偶発のアクシデントの使用

突然物が壊れたり、見つからなかったりしたなど、自分が予期していなかった状況を理由にする方法である。

③不可避的な状況の使用

避けることができず、しかもそのことを最優先をしなければならない状況を理由にする方法である。

④ステレオタイプの使用

あるカテゴリーに属する事物に対する定型的なイメージを利用する方法である。

⑤第三者への罪の押し付け

被害の原因が確実に自分にあるにもかかわらず、あたかも他人が起こしたかのように、責任転嫁する方法である。

(1) 日本語母語話者の場合

日本語のデータを見ると、[正直に言わない]言い訳の使用は、被害の程度及び親疎関係という要因の影響をあまり受けないのが特徴であるが、会話例が少なく、6 会話にとどまった。また日本語のデータに見られた [正直に言わない]言い訳の用法は、①曖昧な表現の使用のみであった。

図 6-(21) 被害程度の軽い状況において JP が使用している[正直に言わない]言い訳会話のパターン



図 6-(22) 被害程度の重い状況において JP が使用している[正直に言わない]言い訳会話のパターン

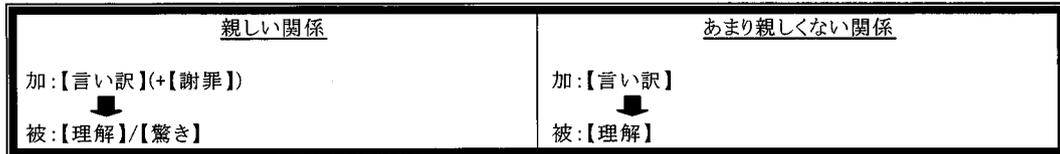


図 6-(21)に示したように、被害の程度の軽い状況では、親疎関係による違いが見られず、加害者は【言い訳】とともに【事情説明】を同時に用いている。また【言い訳】に対して、被害者は親・疎いずれの相手に対しても【理解】などの肯定的な反応しか使用しなかった。

また、図 6-(22)に示したように、被害の程度の重い状況では、親疎関係による違いが見られず、また加害者は【言い訳】をするとき、【謝罪】を同時に用いている。【言い訳】に対して、被害者は親・疎いずれの相手に対しても【理解】を用いているが、相手と親しい場合は、【驚き】のような否定的な反応も使用している。ただし、なぜあまり親しくない相手のとき、【謝罪】が行われず【言い訳】単独で用いられているかについての理由は、今回の調査で1例しか見られなかったため、論じることは控えておく。

{被害の程度が軽い場合}

以下でまず、軽い状況での会話例を見る。ここでは、親疎関係という要因が、言い訳内容の使用と被害者の反応に影響を与えないため、会話例を一つのみ挙げることにする。

会話 JP36<場面5:自分が持っていた親しい同等の相手のノートに折り目をつけた>

主要部		
1 B:	でもな[:],あの,読んでる途中で,	} 【事情説明】
2 A:	[うん]	
3 A:	うん.	
4 B:	ここに,	} 【言い訳】
5 A:	うん.	
6 B:	折り目付いちゃって.	⇒ 【理解】
7 A:	うん.	
8 B:	(0.4)そう.	
9 A:	え?大丈夫だよ.[折り目ぐらいは.]	⇒ 【許し】【気遣い】

会話 JP36 は、場面5:《直接・物・軽・親》の状況で、[①曖昧な表現の使用]の会話である。[開始部]で本に対する感想を聞いた後、加害者 B は 1B のように本題に入る。このとき「でもな:,あの,読ん

でる途中で、「と【事情説明】をした後、4Bと6Bで「ここに、折り目付いちゃって..」と自動詞を使って、自分の行為との因果関係を曖昧にした【言い訳】をしている。

また、言い訳に対する反応として、被害者が9Aで「大丈夫だよ.折り目ぐらいは..」と【許し】を示している。

次は、重い状況での結果を見ていく。

{被害の程度が重い場合}

この被害の重い状況で[正直に言わない]言い訳が用いられているのは、親・疎を含めて3例ある。まず、親しい同等の相手との会話を見ていく。

会話 JP37 <場面7:親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>

主要部		
1	B: うん.[だ]けど[ね],本当ごめんなんやけどね[:(:)]このこないだの	⇒ 【謝罪】
2	A: [ま-] [うん.] [うん.]	⇒
3	B: パーティーで[ね],赤ワイン(.)のね,ちよつとこぼれちゃって.	⇒ 【言い訳】
4	A: [うん.]	
5	A: うんうんうん.	⇒ 【理解】
6	B: こんなんやけど.《かばんを見せた》	⇒ 【結果の言及】

会話 JP38 <場面8:あまり親しくない同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>

主要部		
1	B: その時に赤ワインが:ここにこぼれちゃって.	⇒ 【言い訳】
2	A: え::?ふん.	⇒ 【驚き】【理解】
3	B: そう.なんか家で洗ってみたけど,取れへんかったんやんか[:]全然.	} 【対処遂行の報告】
4	A: [うん.]	
5	A: うん.	

会話 JP37 は、場面7:《直接・物・重・親》の状況で、[①曖昧な表現の使用]の会話であり、会話 JP38 は、場面8:《直接・物・重・疎》の状況で、[①曖昧な表現の使用]の会話である。会話 JP37 では加害者のBが1Bと3Bで「本当ごめんなんやけどね[:(:)]このこないだのパーティーでね,赤ワイン(.)のね,ちよつとこぼれちゃって..」と【謝罪】するとともに【言い訳】を行っている。一方、会話 JP38 では、加害者Bが[開始部]で、今日バッグを返すために持ってきたと【報告】した後、1Bの「その時に赤ワインが:ここにこぼれちゃって..」で【言い訳】を述べ始めているが、会話 JP38 のような【謝罪】の発話は見られない。

会話 JP37 と会話 JP38 は、ともに「ワインがこぼれた」と自動詞を使うことで、自分の行為によって被害が生じたという結果の因果関係を曖昧にしているため、「正直に言わない」タイプに分類される。なぜこのような曖昧な言い訳を使ったかの理由は、インタビューによると、「こぼれて」は自分の意思で起こるものじゃないから、使いました、「あまりにも罪が大きかったので、自分がやったという言

い訳を強調したくないので、ここで赤ワインがこぼれたことだけを言うことにしたんです」と説明している。従って、「正直に言わない」とする理由の一つのとして、自分の行為との因果関係をごまかすためだということも考えられるが、ここでは落ち込んでいる相手に、これ以上の苦しみを与えないため、ワインがこぼれてしまったという曖昧な言い訳をすることにしたということがわかる。

今回のデータでは、会話 JP38 のように、疎の相手の場合、【謝罪】が現れなかった。なぜそうなったかは、今度の調査で事例が1つしかなかったため論じるのが難しく、今後の課題としたい。

次に、THの結果を見ていく。

(2) タイ語母語話者の場合

タイ語のデータを見ると、被害の程度が軽い場合には、[正直に言わない]言い訳を使用していないが、反対に被害の程度が重い場合には[正直に言わない]会話が過半数を占め、また、親・疎いずれの相手に対しても、同じように[正直に言わない]方法をとるという傾向が見られた。

また、以下の図6-(24)のように、重い状況では【言い訳】をする際、様々な発話が併用された。被害者も、相手が親しければ否定的な反応で返す可能性が高い。また、タイ語のデータでは、[正直に言わない]言い訳の用法として、①曖昧な表現の使用と、⑤第三者への罪の押し付けの2つが見られた。

図 6-(23) 被害程度の軽い状況において TH が使用している[正直に言わない]言い訳会話のパターン

親しい関係	あまり親しくない関係
データなし。	データなし。

図 6-(24) 被害程度の重い状況において TH が使用している[正直に言わない]言い訳会話のパターン

親しい関係	あまり親しくない関係
加:【言い訳】(+【前触れ】/【対処遂行の報告】/【結果の言及】…) ↓ 被:【確認要求】(損傷に対する) 加:【確認】 ↓ 被:【理解】/【文句】/【驚き】/【皮肉】/【物の大事さの強調】/【責任追及】/【指摘】	加:【言い訳】(+【謝罪】/【前置き】/【悪気なしの表明】/【責任の軽減】/【対処遂行の報告】…) ↓ 被:【確認要求】(損傷に対する) 加:【確認】 ↓ 被:【理解】/【驚き】/【皮肉】

図 6-(24)を見ると、タイ語母語話者は、被害の原因を[正直に言う]場合と同様に、親と疎の相手によって用いる発話の種類が異なっている。つまり、親しい相手の場合は、【言い訳】は【前触れ】や

【対処遂行の報告】と共に使われる一方、あまり親しくない相手の場合は、【謝罪】、【前置き】、【悪気なしの表明】、【責任の軽減】、【対処遂行の報告】などと共に使われるのである。

以下で例を見ていきたい。

会話 TH49<場面8:あまり親しくない同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>

主要部		
1	B: แต่ว่ามี-กูมีเรื่องจะสารภาพแหละ. B: でもあの:,俺白状しなければならないことあるんだ。	⇒ 【前触れ】
2	A: ว่า: A: 何:	⇒ 【説明要求】
3	B: กัดตอนที่ถืออยู่ใช่ปะ, มันมีอีแก่คนนึงอะ, ทำไวน์หกใส่กระเป๋าข้างเอะนิดนึงอะ. B: แบกๆ 持ってた時, あるババアがね, 君のバッグにワインをこぼして B: ちょっと汚れちゃったんだ。	⇒ 【言い訳】
4	A: มีนิด นิดนึงแบบไหนอะ. ちょっとって, どれぐらい.	⇒ 【損傷程度の確認要求】
5	B: แต่ถูกซักให้มันแล้วนะ. でも洗濯しといたよ.	⇒ 【対処遂行の報告】
6	A: เหมอ. ซักแล้วออกไหม? ออกไหม? そうなの. 取れた? 取れた?	⇒ 【理解】【確認要求】
7	B: ออก " น้อยนิด." 取れた " ちょっと."	⇒ 【確認】
8	A: เหมอ. そっか.	⇒ 【理解】
9	B: แต่มันยังเหลือคราบอยู่. でもまだ汚れが残っている.	⇒ 【損傷に言及】
10	A: เหมอ. มีร้าน- มีร้านรับไหม? มีร้านรับไหม? A: そうか. クーやってくれるところ見付けた? 洗濯してくれるお店あった?	⇒ 【理解】【相談】
11	B: คือไป- ภูเขายามแล้วอะแต่มันไม่- มันไม่ซักไม่ออกอะ. B: 実は俺が-俺頑張ってたけど, とれん- 取れなくて.	⇒ 【再対処遂行の報告】 ⇒ 【結果に言及】
12	A: เหมอ. そっか.	⇒ 【確認要求】
13	B: เออ. うえ.	⇒ 【確認】
14	A: มีไอสตี้ให้มาเลยนะเนี่ย. ให้เป็นของขวัญก่อนกลับอะ. (これホストファミリーからプレゼントとしてもらったんだよ. [帰国する前に.] A: 这ホストファミリーからプレゼントとしてもらったんだよ. [帰国する前に.]	⇒ 【物の重大さの強調】

会話 TH49 は、場面8:《直接・物・重・疎》の状況で、[⑤第三者への罪の押し付け]の会話である。B は 1-2B で「แต่ว่ามี-กูมีเรื่องจะสารภาพแหละ. (でもあの:-俺白状しなければならないことあるんだ.)」と【前触れ】を述べた後、【言い訳】の発話をしているが、言い訳の内容は、5-7B の「กัดตอนที่ถืออยู่ใช่ปะ, มันมีอีแก่คนนึงอะ, ทำไวน์หกใส่กระเป๋าข้างเอะนิดนึงอะ. (バッグ持ってた時, あるババアがね, 君のバッグにワインをこぼしてちょっと汚れちゃったんだ.)」と、ロールカードに書かれてある、自分のせいでバッグにワインをこぼしたという事実とはまったく異なるものである。

それに対する被害者の反応としては、14A で「มีไอสตี้ให้มาเลยนะเนี่ย. ให้เป็นของขวัญก่อนกลับอะ. (これホストファミリーからプレゼントとしてもらったんだよ. 帰国する前に.)」と【物の大事さの強調】をしている。

このように、TH の被害者の反応は、親の相手には自分の気持ち・感情をそのままを伝える傾向があり、相手を傷付けてしまうような【物の大事さの強調】、【文句】などの発話がよく用いられている。

次に、他の用法例を見ていく。

会話 TH50 <場面7: 親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>

主要部		
1	B: เอ็นแอก, ขอโทษทีเวีย. พอคืนแบบว่า(0.5)อันนี้กระเป๋าะแกมันเกิดแบบว่า(.)ไวน์มันหกเวียแอก. B: 君,ごめん.あの(0.5)これバッグなんだけど(.)ワインがこぼれちゃって.	} 【謝罪】【言い訳】 【悪気なしの表明】 【責任の軽減】
2	B: กระเป๋าะ. เออฉันไม่ได้ตั้งใจเวียแอก. แต่มันแบบaccidentโรอย่างเนี่ย. B: バッグに, でもわざとじゃなかったよ. アクシデントだから.	
3	A: อ้อ. เออ[ไม่เป็นไรหรอกนุ.] A: なるほど. うん. [いいよ. (マイペンライ)]	⇒ 【理解】【怒り】
	(中略)	
4	B: ขอโทษนะเวีย. ไม่ได้ตั้งใจ. B: ごめんなさいね. わざとじゃなかった.	⇒ 【謝罪】 【悪気なしの表明】
5	A: เออ, ไม่เป็นไรจ. A: ええ, 大丈夫大丈夫. (マイペンライ, マイペンライ)°	⇒ 【怒り】
6	B: ซีเรียสป่าววะ? B: すごく気にしてる?	⇒ 【気配り】
7	A: (0.3)ไม่ใช่ซีเรียสมากหรอก. (0.2)แต่กระเป๋าะของ(.)โอสต์เองนุ, ไม่เป็นไร. ไม่ใช่ซีเรียส. A: (0.3)いやそんなに気にしてないよ. (0.2)ただホストファミリーに A: もらった(.)バッグなだけだから, 大丈夫 (マイペンライ). 気にしてない.	⇒ 【皮肉】

会話 TH50 は、場面7:《直接・物・重・親》の状況で、[①曖昧な表現の使用]の会話である。加害者は、まず 1B-2B で、「อันนี้กระเป๋าะแกมันเกิดแบบว่า(.)ไวน์มันหกเวียแอก. (君,ごめん.あの(0.5)これバッグなんだけど(.)ワインがこぼれちゃって.)」と【謝罪】に続いて【言い訳】している。ここでは「こぼれた」と自動詞を使って、自分の行為との因果関係を曖昧にしている。さらに、B は 3B-4B で「เออฉันไม่ได้ตั้งใจเวียแอก. แต่มันแบบaccidentโรอย่างเนี่ย. (でもわざとじゃなかったよ. アクシデントだから.)」と【悪気なしの表明】、【責任の軽減】を付け加えている。

それに対して、被害者 A は 3A で「อ้อ. เออไม่เป็นไรหรอกนุ. (なるほど. うん. いいよ.)」と一見【言い訳】に対して【理解】を示しているように見えるが、この後 7A で【皮肉】の使用が見られている。

疎の相手との会話では、TH50 のように、3Aで【理解】を示しているとき、直後に「大丈夫だ。」と言っているが、これは日本語の本来の「大丈夫」という意味ではなく、「大丈夫じゃない」というタイ語の特別な表現の仕方である³³。相手があまり親しくないため、不満を露骨に表明できず、被害者は7Aのように【皮肉】などを使って、相手に自分の不満を間接的に伝えようとしていると言える。

言い訳を[正直に言う]か[正直に言わない]かは、タイ語母語話者の調査対象者のほうが[正直に言わない]言い訳を使用する傾向があるという結果になった。また、そこで使用される言い訳の内容は、JP の場合はよく「赤ワインがこぼれて」と、自分との因果関係を曖昧にする表現を使うのに対して、TH は、会話 TH50 のように、「ワインがこぼれちゃって」という曖昧な表現に加えて、尚且つ「アクシデントだった」と責任のがれを図る発話の使用を付け加えているのが見られた。その他、会話 TH49 のように、第三者にミスを押し付けるような言い訳も、親・疎いずれにおいても見られ、興味深い結果となっている。

³³ タイ語の否定的な意味を持つ「大丈夫」に関しては、ソーピットウツティウオン(2012)を参照されたい。

6.2.2.2 《直接・物》加害者の言い訳の内容と、それに対する被害者の反応のまとめ

言い訳内容とそれに対する被害者の反応の結果を見ると、JP と TH で以下のような相違点が観察された。

- ① 《直接・物》状況の場合では、JP と TH の結果は大きく異なり、JP は被害の程度、及び親・疎いずれの相手に対しても[正直に言う]言い訳を使用している。一方、TH の場合は、[正直に言わない]結果が多く見られた。
- ② JP と TH で言い訳を[正直に言う]会話があっても、JP と TH の間では、そこで行われる言語行動が異なる。JP は軽い状況の場合、【言い訳】を【謝罪】や自分の過失についての【事情説明】などと共に用い、重い状況の場合、非を重く受け止めている【自己非難】を使用する傾向があるが、TH は【謝罪】はもちろんだが、【悪気なしの表明】、【許しの求め】、【正当化】を用いる傾向がある。
- ③ 言い訳を[正直に言わない]会話では、JP は「赤ワインがこぼれて」という曖昧な表現を使うのに対して、TH は曖昧な表現を使って、かつ第三者にミスを押し付けるような言い訳も、親・疎のいずれのデータでも見られ、興味深い結果となっている。
- ④ JP では【言い訳】の発話が発せられる際に、主に【謝罪】などと一緒に用いるのに対して、TH は自分のせいではないことを主張しようとして、【謝罪】の他に、【悪気なしの表明】、【責任の軽減】など、様々な発話と一緒に用いている。
- ⑤ 被害者の反応については、JP はいずれの状況においても【理解】のような肯定的な反応を示す傾向があるのに対して、TH は疎の相手には受け入れ的な反応をし、反対に親の相手には、否定的な反応をよく用いる。また、疎の相手には、間接的に不満を伝えようとする方法として【皮肉】を使用している。

6.2.3 まとめと考察

《直接・物》状況では、JPとTHは〔自発的言い訳〕の言い訳のタイプが最も使用された。これは遅刻の状況とは違って、相手に貸してもらった物に何が起きたか、加害者にしか分からないため、当然〔自発的言い訳〕が用いられるのであろう。ただし、THの場合は、相手が親友であると、バッグを見せた瞬間に「バッグどうしたの?」というような【説明要求】や【文句】から始まる会話もあり、それに対する【言い訳】は当然〔自発的言い訳〕ではなく、〔【説明要求】に対する言い訳〕と、〔【文句】に対する言い訳〕になる。この点は、「言い訳の使用選択は親疎関係の影響を受ける」というTHの一つの特徴が反映されていると言えるだろう。

会話の流れについては、日本語は軽・重どの状況においても似たような流れだが、重い状況では、被害者の否定的な反応の使用が見られ、しかも、問題解決の段階まで続く会話が軽い状況より多くなっている。一方、タイ語は軽・重どの状況においても、【言い訳】に対する反応がすぐ起きず、物の損傷についての【確認要求】-【確認】の発話を経てから、被害者の反応が来るという点で日本語と異なる。しかも、いずれの場合も、問題解決の段階まで続く会話が多かった。ここにJPとTHの問題対処あるいは責任の取り方の違いが反映されていると推測できよう。

また、会話の中で、加害者と被害者がそれぞれ使用している発話を観察すると、JPとTHの言語行動の違いが明らかになった。JPは【言い訳】を、遅刻の場面と同じように、【謝罪】と一緒によく使用する。さらに、直接的に自分のせいではないものの、多少自分にも責任があるという意味で、【自己非難】や、相手の大切な物を傷付けてしまったという【物の大事さの確認】などの発話も見られる。それに対して、THは自分に非がない場合は、遅刻の場面と同じように【同情要求】、【悪気なしの表明】、【責任の軽減】、【責任の転嫁】など、自己防御的な発話の使用が目立つ。また、被害者の反応も遅刻の場面と同様で、相手が親しければ、【文句】、【責める】、【指摘】、【皮肉】など、相手を批判するような発話の使用が著しくなる。これらの発話の使用傾向を見ると、JPはたとえ自分に非がなくても必ず謝るが、THは自分が悪くないことを主張しようとする傾向が見られるといえる。ただし、THの場合、単に自分が悪くないことを主張するだけでなく、責任をとろうとする姿勢も見られ、それゆえ、タイ語の会話の多くは問題解決の段階にまで続くのである。

6.3 直接的に自分の行動による原因で相手に被害を与えた場合の総括

この節では、「6.1 直接的に自分の行動による原因で相手との待ち合わせ時間に遅刻した」状況と、「6.2 直接的に自分の行動による原因で相手の所有物に被害を与えた」状況で述べた結果を基に、JPとTHの行動を考察する。

本章で述べてきたように、直接的に自分に非がある場合、JPの多くは、非を認めて、正直に原因を言うのに対して、THは状況と内容と被害の程度によって、選択される言い訳の発話が異なる。THの調査対象者は、遅刻の場面のような場合、あまり非を認めず、ステレオタイプの使用や、第三者にミスを押し付けるなど様々な方法を使い、所有物に被害を与えたような被害が重い場面でも、あまり非を認めず、曖昧な表現を使ったり、第三者にミスを押し付けたりするような方法を使って言い訳をしている。なぜ日タイの母語話者の間に、このような結果の差が生じたのか、興味深いところである。

JPがこのように、自分のミスを正直に認める傾向があることを理解するのに、司馬遼太郎の指摘が大変示唆的であろう。司馬・キーン(1984)によると、「(日本に)犯罪が少ないというのは、犯罪はカッコ悪いから」という(p.124)。つまり、日本人にとっては、罪を犯すというのは「恥ずかしい」ことであり「カッコ悪い」ことで、それが司馬のいう日本人の「美意識」にそぐわないからしない、だから日本には犯罪が少ないという論法である。このことから敷衍すれば、JPが自分の非を認めるのは、「恥ずかしい」ことをしてしまった以上、包み隠すことは余計に「恥」を重ねることになるのではないだろうか。つまり、罪を犯したことは恥ずかしいことであるが、それ以上に、自分の罪を認めないことのほうが「恥ずかしいこと」、「カッコ悪いこと」であり、JPはそのような「恥」を恐れる社会に育ったという見方もできる。

ところが、タイ人が日本人に比べて、率先して非を認めない原因は、一つは「罪を犯したこと」への意識の違いがあるかもしれない。つまり、日本人は非を認めたことで、次は同じことを繰り返さないようにするにはどのように防げばいいか、という段階に移行できると考えるのに対して、タイ人はそこまで考えるよりは、「罪を犯したら、償いをするもの」という社会の規範があり、時にはかなりの弁償をさせられることもあるため、できることなら罪を認めないでおいたほうが、身のためであると考えられる³⁴。また、タイのことわざにも、「*ทำผิดโทษดีโทษน้อย*(下手に踊って、笛太鼓のせいにする)」というものがあり、自分が悪いのに、人のせいにするというタイ人の性格を反映している。これについてVirat(2012)は、タイの発展に支障となるタイ人の性格の一つに、タイ人は生き残ろうとするために、

³⁴ 「処世術」といわれればそれまでだが、これはかなりタイ社会、特にリーダー層でない一般の人々の間で重要とされているものである。

よく他人に罪を押し付けるところがあると指摘している。この性格があるために、タイでは何事に対してもなかなか責任を取る人が存在せず、逆にいい結果になった途端、たくさんの人々がそのことに関わろうとするのであるという。また、Holmes(2000:153-155)は、タイ人が罪を認めて原因究明あるいは再犯予防をすることに対して消極的なのは、タイ人が「分析的な思考が欠けている」からであると指摘する。またその原因を、タイ人は「なぜ」という問いかけを発す文化に育っていないことに求め、農業社会であるタイでは、物事はあまり変化せず、また予測可能で、いつも同じような生活を送ることができるからと説明する。その意味では、今回のデータでは、積極的に非を認めて、「なぜ」と分析的思考を働かせて前に進むということに慣れていないTHは、認めないで責任逃れをするか、認めて弁償をするという、いずれもわかりやすく、分析的な思考を必要としない選択肢を選ぶ傾向があるという結果となっており、一応納得がいく。

最後に、悪いことをしたとき、きちんと非を認めた結果、被害者に【理解】などで肯定的に反応して許してもらえるJPに対して、THは非を認めるかどうかを問わず、被害が重ければ、相手に【文句】、【物の大事さの強調】で反応される可能性が高いという結果に関しては、次のことが考えられる。上にも述べたように、明示的に否定的な反応をするのは、ほとんど親友の相手との会話である。親友だから、自分が思っている気持ち・感情をそのまま言えるため、特に被害が重いとき、被害者の不満も親の相手に言いやすいのではないだろうか。しかし、あまり親しくない人にストレートな感情を出さないタイ人は、不満を感じているとき、調査結果のように、【皮肉】で間接的に相手を批判しようとする方法を使う。THの【皮肉】については、Panpothong(1996)や、Sukvisit(2004)や、ソーピットウツティウオン(2012)などの先行研究で言及されている。Panpothong(2001:30)は、タイ語の verbal irony は相手を傷付けようとしたり、否定的な態度を表したりするものであると見ている。また、Sukvisit(2004:125)は、皮肉がタイ語の間接的な批判の仕方のひとつであるとし、タイ語母語話者が自分のプライドやイメージを守ろうとするとき、また自分が品のない人間だと思われたくないときに使用されると述べている。ソーピットウツティウオン(2012)は、タイ語には皮肉の表現が豊富にあり、タイ人が好んで使う表現であると言ってよいと述べ、また、タイ語母語話者はよほど親しくない限り、直接相手を批判したり責めたりしないため、皮肉は親しくない人を批判するための方法として用いられることになるとも指摘している。

第7章

相手に被害を及ぼした状況での問題解決の方法と責任感の現れ

本研究は、待ち合わせに遅刻した状況、および所有物に被害が及ぼされた状況における日タイの母語話者の言い訳の使用と、それに対する反応を分析することが主たる目的である。その分析の中で明らかになったことは、状況によって、【言い訳】(遅刻の原因、被害の原因)の段階だけでは会話がなかなか終われず、多くの調査対象者がどのように問題を解決するかという段階まで会話を続けることが多かったということである。そこで、本章では、それぞれの場面において表れた問題解決の部分を中心に、JPとTHに見られた責任の取り方について論じたい。

尚、本章で扱う問題解決の部分とは、第5章と、第6章で提示した言い訳会話の連鎖組織の図(「5.1.1.2の図5-(1)~(4)」、「5.2.1.2の図5-(9)~(12)」、「6.1.1.2の図6-(1)~(4)」、「6.2.1.2の図6-(13)~(16)」を参照)の中の、後半の部分のことである。具体的に、以下の会話例のように、言い訳の段階(加害者の言い訳とそれに対する被害者の反応が行われる段階)以降の流れを、本章の分析対象とし、「問題解決の段階」と呼ぶ。

会話例<場面8:あまり親しくない同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>

主要部		
言い訳の段階		
1 B: แต่ว่า(.)คือ::<มันมีปัญหาเล็กน้อย.>(0.2)คือเหมือนว่า(0.2)	} 【言い訳】 } 【事情説明】 } 【対処遂行の報告】	
B: でも(.)あの::<ちょっと問題があったんです.>(0.2)なんか(0.2)		
B: มีคนนะมาชนเรา. แล้ว(.)เค้าถือไวน์แดงอยู่ะ. มันก็เลยหกใส่กระเป๋าเธอพอดีเลยอะ.		
B: 人にぶつかられてきて. で(.)その人は赤ワインを持っていたのね.		
B: それがバッグにこぼれちゃったんだ.		
B: เออ, แล้วเราพยายามซักอะ, มันไม่ออกจริงๆ.		
B: あの, 私頑張って洗濯したけど, 本当に取りなかった.	⇒ 【指示】【損傷の確認要求】 ⇒ 【驚き】 ⇒ 【謝罪】 ⇒ 【驚き】	
2 A: ไทขอโทษน้อยที. [มัน]เสอะเยอะแต่ไทอะ. ちょっと見せて[ええ..]汚らいいん?		
3 B: [嗯..] (ええ..)		
4 B: ก็...hhh(..hhh)		
5 A: ไ้โท A: うわー		
6 B: เออ, ขอโทษจริงๆ. B: うん, 本当にごめんなさい.		
7 A: ไ้โท A: うわー		
問題解決の段階		
8 B: เอาอย่างใหม่? ได้ยาวเราอะ, ซื้อใหม่เลยละกัน. ขอโทษจริงๆ. B: じゃこうしましょうか? 新しいのを買って返そうか. 本当にごめんなさい.		【補償の申し出】【謝罪】 【悪気なしの主張】 【言い訳の強調】
B: เราอะไม่ได้ตั้งใจ. เค้าเดินมาชนเราจริงๆ. B: わざとじゃなかったら. 本当にごめんなさい.		
9 A: ก็:::เออไม่... A: ん:::まあ...	⇒ 許し	
10 B: [เออ..]ขอโทษจริงๆนะ.		

	B:	[うん.]本当にごめんなさいね.	⇒ 【謝罪】
11	A:	๓๐๑.มันเป็นอุบัติเหตุ.	
	A:	ええ.それは事故だからね.	⇒ 【受け入れ】【気遣い】
12	B:	๓๐๒.[ขอบคุณมากเลย.]	
	B:	うん.[ありがとう.]	⇒ 【受け入れ】【感謝】
13	A:	[ก็เข้าใจ]แหละ.	
	A:	[うん.分かってる]けど.	⇒ 【気遣い】
14	B:	จ้า.ขอบคุณมาก.	
	B:	ええ.本当にありがとうございます.	⇒ 【受け入れ】【感謝】
15	A:	๓๐๓.	
	A:	ええ.	⇒ 【受け入れ】

上記の会話例は、《直接・物・重・疎》の状況である。言い訳の段階では、加害者がバッグにシミが付いた原因について 1B で【事情説明】、【対処遂行の報告】と共に【言い訳】を行っている。それに対して、被害者 A が 2A でバッグの状態についての【損傷の確認要求】を行った後、5A で【驚き】を表明している。加害者 B は、バッグに起きた被害に対して【謝罪】をしたが、被害者 A は 7A でもなお【驚き】を言い続けている。

この会話は、このまま終了するわけにはいかない。なぜなら、この段階では単にバッグの損傷の原因を相手に伝えただけであるし、被害者は損傷したバッグに驚きを表しているからである。したがって、ここからは、相手に与えた精神的なダメージを回復するために、問題解決を行う段階が必要となる。この会話例では、8B から 15B までで、加害者が問題を解決しようとする会話（＝問題解決の段階）が続けられている。

以下、まず問題解決の段階でどのような発話機能が現れたか、その傾向を述べた上で、JPとTHの責任の取り方について考察する。

7.1 問題解決の段階における発話機能の出現傾向

7.1では、待ち合わせに遅刻した状況（以下、「遅刻状況」とする）と、相手の所有物に被害が生じた状況（以下、「所有物被害状況」とする）におけるJPとTHの問題解決の方法の傾向を見ていく。以下の表1は、遅刻状況と、所有物被害状況における会話での問題解決の段階に、どのような発話機能が現れたのかを示す結果である。表の数字は、それぞれの状況におけるJP、THそれぞれの全データで現れた発話機能の回数である。

表 7-(1) 「遅刻状況」と「所有物被害状況」における問題解決での発話機能の使用数

使用状況	問題解決方法		JP	TH	合計
遅刻した状況	加害者	【謝罪】	49	39	88
		【埋め合わせの申し出】	2	0	2
		【問題解決方法の提案】	0	9	9
	被害者	【埋め合わせ要求】	1	1	2
		【第三者への配慮】	10	2	12
所有物に被害が生じた状況	加害者	【謝罪】	31	27	58
		【埋め合わせの申し出】	3	0	3
		【問題解決方法の提案】	21	34	55
	被害者	【問題解決方法の提案】	7	0	7
		【埋め合わせ要求】	1	1	2
会話数の合計 ³⁵			125	113	237

表 7-(1)に示したように、遅刻状況でも所有物被害状況でも、加害者のみならず被害者にも、生じた問題を解決するための発話が見られた。

観察された発話として、JPもTHも、加害者は【謝罪】を最も使用しているが、JPは次いで【問題解決方法の提案】、さらに被害者からの【第三者への配慮】、【問題解決の提案】の順であるのに対し、THは加害者による【問題解決方法の提案】のみであり、被害者からの発話はほとんど見られなかった。

上記の問題解決の発話について、会話中での使われ方を以下で説明する。

【謝罪】

【謝罪】による問題解決は、遅刻状況でも所有物被害状況においても見られ、特に遅刻状況では多用されていた。【謝罪】が現れる位置は、JP、THともに、問題解決の段階の最後に現れ、言い訳の会話を終了させていた。

ただし、遅刻場面のうち、<場面1:自分のせいで親しい同等の相手と一緒にいく買い物の約束に30分遅刻した>、<場面2:自分のせいであまり親しくない同等の相手と一緒にいく買い物の約

³⁵ 本研究ではJPとTH、それぞれ128会話、合計256会話のデータを収集したが、言い訳をした後、すぐ会話が終わったり、あるいは次の行動に移る促しで終了する会話は、本章の分析対象外とした。

束に 30 分遅刻した>、<場面3:自分のせいで親しい同等の相手と一緒に映画を見る約束に 30 分遅刻した>、<場面4:自分のせいで親しくない同等の相手と一緒に観覧する予定の公演の約束に 30 分遅刻した>については、THのデータで問題解決が見られないものもあり、その結果【謝罪】で解決する方法もとられていなかった。これらの会話では、以下の会話 TH51 のように、加害者は 1B で【言い訳】だけ、または、第一発話としての【謝罪】と一緒に言い訳を言い、被害者が3A で次の行動、つまり、公演の観覧に移るよう促す発話を行ったため、最後に謝罪のないまま発話が終わっていた。

会話 TH51<場面4:自分のせいで親しくない同等の相手と一緒に観覧する予定の公演の約束に 30 分遅刻した>

主要部	
言い訳の段階	
1 B:	เราขอโทษนะพอที่รถมันติดอะเราก็เลยมาสายอะ. あんた:ごめんなさいね.渋滞に巻き込まれて遅れちゃって遅れてしまった. ⇒ 【呼びかけ】【謝罪】【言い訳】
2 A:	หุบ:เนี่ย:,มันได้เวลา(.)แสดงแล้วอะ. ああ:もう:時間(.)公演始まっているよ. ⇒ 【文句】
終結部	
3 A:	ไป,เรารีบเข้าไปดูกันเถอะ. 行こう,早く中に入ろう. ⇒ 【共同行動要求】

一方、所有物被害状況の<場面5:自分が持っていた親しい同等の相手の本に折り目をつけた>、<場面6:自分が持っていたあまり親しくない同等の相手のノートに折り目をつけた>、<場面13:人にぶつかられて自分が持っていた親しい同等の相手の本に折り目がついた>、<場面14:人にぶつかられて自分が持っていたあまり親しくない同等の相手のノートに折り目がついた>の場面では、【謝罪】は、親疎にかかわらず、日本語でもタイ語でも最も使用されている。

以下の会話 JP39 と会話 TH52 は、遅刻状況の会話例で、会話 JP40 と会話 TH53 は所有物被害状況の会話例である。会話 JP39 と会話 TH52 のように、[主要部]で遅刻、または、会話 JP40 と会話 TH53 のように、所有物への被害の原因について言い訳のやりとりが成される段階を終えた後、加害者が最後に「本当にごめんね」、「ขอโทษนะที่มาสายอะ.(遅れてごめんなさい.)」、「私の不注意でもあるから申し訳ないな」、「ขอโทษนะกก.(ごめんね)」のように謝罪を表明し、会話が終了となっている。

まず、遅刻状況で【謝罪】が使用される会話例を見ていく。

会話 JP39<場面2:自分のせいであまり親しくない同等の相手と一緒にいく買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
言い訳の段階		
1 B:	私,うっかり,うっかりじゃないけど,	
2 A:	うん.	⇒ 【言い訳】
3 B:	寝坊しちゃってですよ.	
4 A:	hhh[寝坊した¥]	⇒ 【繰り返し】
5 B:	[2度寝しちゃって]寝坊しちゃっ-,[い]まして,[ほん]つとに(.)ごめん.	⇒ 【再言い訳】【謝罪】
6 A:	[うん] [うん]	
7 A:	うん.	⇒ 【受け入れ】
問題解決の段階		
8 B:	ほん[とに(0.2)]ごめんね.	⇒ 【謝罪】
9 A:	[大丈夫,大丈夫.]	
10 A:	うん.	⇒ 【受け入れ】
11 B:	本当にごめん.待ち合わせの時間,[遅れ]ちゃって本当にごめん.	⇒ 【謝罪】
12 A:	[ううん.]	
13 A:	気にしないで(.).いいよ.	⇒ 【気遣い】
14 B:	本当にごめんね.[き-]	⇒ 【謝罪】
終結部		
15 A:	[行]こう?[行]こう行こう?	⇒ 【共同行動要求】
16 B:	[い-]	
17 B:	うん.ご-ごめんね.	⇒ 【承諾】【謝罪】

会話 TH52<場面2:自分のせいであまり親しくない同等の相手と一緒にいく買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
言い訳の段階		
1 B:	เธอ,ขอโทษทีนะ.เราตื่นสายอะ.เลยมาไม่ทันเลยอะ.	
B:	あなた,ごめんなさいね.寝坊しちゃって.間に合わなかったんだ.	⇒ 【謝罪】【言い訳】【容認】
2 A:	(0.2)หุบ:...อิม::เนี่ยเสียเวลารอตั้ง(.)ครึ่งชั่วโมงนะ,แต่ไม่เป็นไร.	
A:	(0.2)も::う.う::ん 30分も(.)待ってたのよ.でもいいよ.	⇒ 【文句】【指摘】【許し】
終結部		
3 A:	รีบ(.)รีบไปซื้อของเถอะ.ฮือๆ.	
A:	早く(.)早く買い物しに行こう.うんうん.	⇒ 【共同行動要求】
4 B:	ฮือ.ได้.ขอโทษนะที่มาสายอะ.	
B:	うん.はい.遅れてごめんなさい.	⇒ 【承諾】【謝罪】
5 A:	ไม่เป็นไร.	
A:	いいよいいよ.	⇒ 【受け入れ】

会話 JP39と会話 TH52は、《直接・時間・軽・疎》の状況である。会話 JP39では、言い訳の段階の1B-5Bで、加害者は、なぜ遅刻したかについて【謝罪】を重ねながら【言い訳】を行っている。その【謝罪】に対して、被害者は「うん」と【受け入れ】を表明している。しかし、この後、問題解決の段階で、加害者が再度8B、11B、14B、17Bと【謝罪】を言い続けて、全面的に非を認めてから、会話が終了となっている。

一方、会話 TH52は、被害者が3Aで【共同行動要求】を発したため、言い訳の段階が2Aですぐに終了となった。しかし、[終結部]であっても、被害者の【共同行動要求】に対して、加害者が4Bでそれを【受け入れ】た後、最後に「ขอโทษนะที่มาสายอะ(遅れてごめんなさい)」と【謝罪】を表明して会話を終了させている。

次に、所有物被害状況で【謝罪】が使用される会話例を見ていく。

会話 JP40<場面13:人にぶつかられて自分が持っていた親しい同等の相手の本に折り目がついた>

主要部		
言い訳の段階		
1 B:	(前略)歩いてきて..ああ:避けなきゃと思った瞬間にもうぶつかって[:]うわー	}
2 A:	[うん]	
3 B:	落としちゃってんやんか.	⇒
4 A:	ああ,そうなん?	
5 B:	うん,ごめん,めっちゃ折り目ついてもうってさ:	⇒
6 A:	うん.	
7 B:	(0.2)°ごめんな.:°	⇒
8 A:	あ,ええよ,折り目ぐらいやったらいいよいいよ.	⇒
問題解決の段階		
9 B:	(0.3)ほんまにごめんな.:ほんまラグビー部やつらしばいたろうか[とってん]けど.	}
10 A:	[あ,ええよ,ええよ.]	
11 B:	でも,私の,私の不注意でもあるから[申し訳]ないなと,°よろしいかな?°	}
12 A:	[hh あ,ええよ,ええよ.]	
13 A:	いいよいいよ[.hhh]	}
14 B:	[.hhh]¥ごめん¥[ほんまに.]	
15 A:	[いいよ]いいよ,うん,いいよいいよ,大丈夫大丈夫.	⇒
16 A:	(0.2)大丈夫大丈夫.	⇒

会話 TH53<場面13:人にぶつかられて自分が持っていた親しい同等の相手の本に折り目がついた>

主要部		
言い訳の段階		
1 B:	(前略)↑ไม่ ↑ใช่.แบบมีคนมันมาชน.หนังสือของชั้นมันก็หล่นทั้งกอง.	}
B:	↑違↑う.人がぶつかってきて,私の本も全部落ちた.	
B:	แล้วไอเนี่ยมันก็อยู่ด้วยอะนกก. [แล้วประเด็นคือ (.)มันก็] เป็นรอยยับ.เห็นปะ?	}
B:	で <u>これ</u> も入っていたからね.[それがね (.)]折り目付いちちゃったんだ.見える?	
2 A:	[เห็นมันเป็นไงอะ?] それで?	}
A:	ยึดเขี้ยว.本当に折れ曲がってるんだね.	
3 B:	เออ:..ยับข้างหน้า: <ผิดหน่อยนะ.> แต่ข้างในเนี่ยมันก็ยังสะอาดเอี่ยมอ่องอรทัยอ่านได้เหมือนเดิมเลย.hh	}
B:	ええ:..表が:折り目付いちちゃって<ちよっと>ね.>でも中身はまだきれいで読めるよ.hh	
4 A:	เออ.	⇒
	うん.	⇒
問題解決の段階		
5 B:	¥ไม่เป็นไรนะ.¥hh ขอ-ขอโทษนะ.เราซุ่มซามด้วยแหละไปเดินไปชนเค้าอะ. ¥大丈夫だよね¥hhご-ごめんね.自分もおっちゃこちよいで その人にぶつかって行ったんだ.	⇒
6 A:	อืม.ก็หลังนั้นก็ยืมอะไรเราเนเวีย, เอาหลังจากเราอ่านจบแล้วไป (.)¥สิบวันก่อนแล้วกัน¥ うん.今度私のものを借りるときさ,¥10 日間後¥読み終わってから貸してあげる.	⇒
7 B:	เออๆๆ.รอบหน้าไม่กล้ายืมของใครแล้วเนี่ย.กลัวเกิดเหตุการณ์แบบนี่ขึ้นอีก.<ขอโทษ.> うんうんうんうん.今度からもう誰からもものを借りる勇氣ない. また今回みたいな事が起こるかもしれないから.<ごめんね.>	⇒
8 A:	อืม.	}
	うん.	

会話 JP40と会話 TH53は、場面13:《間接・物・軽・親》の状況である。まず、会話 JP40は、加害者が言い訳の段階で1B、3B、5B、7Bでなぜ本に折り目が付いたかと【謝罪】・【結果の言及】と共に、【言い訳】を行っている。それに対して、被害者が8Aで【許し】を表明している。

しかし、せっかく本を貸してくれたのに、守り切れず傷を付けてしまったミスに対して、この後も加害者Bは9Bで「ほんまにごめんな.:」、そして、11Bで「私の不注意でもあるから申し訳ないなと。」と重く非を受け止めて【謝罪】を重ねている。最後に、相手の【許し】に対して、13Bで「ごめん¥ほんま

に。」と【謝罪】の使用も見られた。

一方、会話 TH53 は、言い訳の段階で加害者が 1B で【言い訳】を行い、それに対して被害者が【評価】で反応している。また、【評価】した発話を【受け入れ】つつ、【責任の軽減】をしている加害者の発話に対して、被害者が【受け入れ】た後、問題解決に入った。

ここでは、加害者が【許しの確認要求】で相手に許してもらおうとした後、5B で【自己非難】と一緒に「ขอโทษค่ะ. (ご-ごめんね)」と【謝罪】をしている。これを受けて、被害者は 6A で【謝罪】を「อืม. (うん)」と受け入れているが、この後「ทีหลังแกจะยืมอะไรมานะเว้ย, เอาจริงจากเราอ่านจบแล้วไป(.) ¥สิบวันก่อนแล้วกัน ¥ (今度私のものを借りるときさ, ¥10 日間後 (=時間がしばらく経ってから) ¥読み終わってから貸してあげる.)」と【文句】を言っている。すると、加害者 B は、7B で被害者この【文句】を【受け入れ】、【心配表明】を示した後、最後にまた「ขอโทษ. (ごめんね.)」と【謝罪】を表明して、やっと、被害者が【受け入れ】たため、会話が終了となっている。

【埋め合わせの申し出】

加害者による【埋め合わせの申し出】は、日本語のデータにおいてのみ見られた発話である。日本語では、【謝罪】と同様に、遅刻状況でも、所有物被害状況でも使用が見られた。<場面3: 自分のせいで親しい同等の相手と一緒に映画を見る約束に 30 分遅刻した>のような親友と一緒に映画を見る約束に遅刻したり、<場面5: 自分が持っていた親しい同等の相手の本に折り目をつけた>、<場面6: 自分が持っていたあまり親しくない同等の相手のノートに折り目をつけた>のような相手の本/ノートに折り目をつけたという自分に原因がある状況において、この方法が使用されている。主に加害者が自分のせいで相手を待たせたり、相手の物に被害を与えてしまったりしたことに対して「今日悪かったから、お昼おごるし」、「おごるわ、ポップコーン」と、自分が加えた被害に対して賠償を申し出ている。

以下の会話 JP41 は、加害者が使用する【埋め合わせの申し出】の例である。

会話 JP41 <場面3: 自分のせいで親しい同等の相手と一緒に映画を見る約束に 30 分遅刻した>

主要部	
問題解決の段階	
1 B: (前略)ごめんね, [なん]かおごるよ.	⇒ 【謝罪】【埋め合わせの申し出】
2 A: [うん]	⇒ 【受け入れ】
3 A: あ, ¥ありがと¥	⇒ 【感謝】
4 B: ¥おごるよ¥[ごめんね.]	⇒ 【埋め合わせの強調】【謝罪】
5 A: [あ, いいよ.]気にしないで. 全然[大丈夫]だから.	⇒ 【拒否】【気遣い】【許し】
6 B: [¥おごる¥]	⇒ 【埋め合わせの主張】
7 B: ごめんね.	⇒ 【謝罪】

会話 JP41 は、《直接・物・親・軽》の状況である。この会話では、言い訳の段階で、加害者はなぜ遅刻したかについて【言い訳】を行っており、それに対して、被害者は【理解】、【気遣い】で返している。加害者は、約束に 30 分も遅刻してしまい、その映画が見られなくなってしまう恐れがあったため、会話 JP41 のように、問題解決段階で自分が犯したミスへの償いとして【埋め合わせの申し出】を行っている。

【問題解決方法の提案】

【問題解決方法の提案】は、JP では所有物被害状況において、加害者と被害者の双方の発話として、TH では遅刻状況と所有物被害状況ともに、加害者の発話としてのみ、現れていた。

まず、遅刻状況では、表 7-(1)の結果のように、この問題解決の方法はタイ語にのみ使用が見られたもので、タイ語のデータのうち、＜場面11:交通事情のせいで親しい同等の相手と一緒に行く作家のインタビューの約束に 30 分遅刻した＞と＜場面12:交通事情のせいであまり親しくない同等の相手と一緒に行く作家のインタビューの約束に 30 分遅刻した＞にのみ見られた。この場面は、交通事情のせいで作家へのインタビューの約束に遅刻した状況で、遅れたことで第三者の作家にまで迷惑をかけてしまうものである。このような被害程度の重い状況では、謝罪だけでは不十分で、多くの TH の加害者が、以下の会話 TH4 のように、「เรื่องนี้ฉันรับผิดชอบเอง.เดี๋ยวฉันเป็นคนบอกเค้าเองว่าฉันเป็นคนมาสาย.(このことは私が責任を取るから.遅刻したのは私だって自分から言うよ.)」と、この問題に相手をかかわらせないように、責任をとることを表明していた。

以下の会話 TH54 は、加害者が使用する【問題解決方法の提案】の例である。

会話 TH54<場面11:交通事情のせいで親しい同等の相手と一緒に行く作家のインタビューの約束に 30 分遅刻した>

主要部		
言い訳の段階		
1	A: (前略) แล้วผมโทรมาหาชั้นเลย. ชั้นไม่รู้จะบอกเค้าว่ายังไงเลยเนก[เข้ไปเพื่อไปขอโทษ-]	
	A: 電話もくれなかったし. 向こうにどう伝えればいいのかわかんないよ.	⇒ 【文句】【共同行動要求】
	A: [もう行こう行こう. 謝りに-]	
問題解決の段階		
2	B: [เข้เนกไม่ต้องซีเรียสนะเว่ย.]=เรื่องนี้	} 【責任表明】【提案】
	B: เดี่ยวฉันรับผิดชอบเอง.=เดี๋ยวฉันเป็นคนบอกเค้าเองว่าฉันเป็นคนมาสายอะเนก.	
	B: [心配しないで.]=このことは私が責任を取るから.=遅刻したのは私だって自分から言うよ.	
3	A: แต่มันก็ไม่ดีป่าววะ? แล้วเนกจะไปบอกเค้าว่าไร.	
	A: でもそれもよくないでしょう? 作家に君がなんて言うの.	⇒ 【否定】【情報要求】
4	B: [เข้รถไฟฟ้ามันขัดข้องจริงๆนะเว่ยเนก. ชั้นไม่รู้จะทำยังไงอะ.] ชั้นก็คิดว่าชั้นไม่ได้โทรบอกเนอะ.	} 【言い訳の主張】 【自己非難】
	B: だって本当に電車が故障したんだってさ. どうしたらいいか	
	B: わからなかったんだ. それに君に電話しなかったのが悪かったよ.	
5	A: เอออ.	
	A: わかったわかった.	⇒ 【受け入れ】
終結部		
6	A: จันเรารับไปเพื่อ จะได้ไปบอกเค้ากัน	⇒ 【共同行動要求】
	A: それじゃ急いで行こう. 彼に説明しに行こう.	

会話 TH54 は、《間接・時間・重・親》の状況である。被害者である A は、言い訳の段階で、遅れたことを連絡してくれなかったことについて 1A で【文句】を言っている。すると、加害者は、今回の遅刻は被害者だけでなく、これからインタビューに協力してくれる作家にまで迷惑をかけてしまったため、問題解決の段階で 2B のように「เสียแก่ไม่ต้องซีเรียสนะเว่ย.=เรื่องนี้ได้ยวชั้นรับผิดชอบเอง.=ได้ยวชั้นเป็นคนบอกตัวเองว่าฉันเป็นคนมาสายอะแก.(心配しないで.=このことは私が責任を取るから.=遅刻したのは私だって自分から言うよ.)」と【責任の表明】をし、問題解決する方法を【提案】している。

一方、所有物被害状況については、<場面5:自分が持っていた親しい同等の相手の本に折り目をつけた>、<場面6:自分が持っていたあまり親しくない同等の相手のノートに折り目をつけた>、<場面7:親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>、<場面8:あまり親しくない同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>、<場面13:人にぶつかられて自分が持っていた親しい同等の相手の本に折り目がついた>、<場面14:人にぶつかられて自分が持っていたあまり親しくない同等の相手のノートに折り目がついた>、<場面15:雨のせいで親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグが雨に濡れた>、<場面16:雨のせいであまり親しくない同等の相手に貸してもらった大事なバッグが雨に濡れた>の全場面で、JP でも TH でも使用が見られた。ただし、被害者側が使用するのは JP のみであり、TH では加害者の方が多く使用する。

加害者が使用する場合、例えば友人のバッグに赤ワインをこぼした場面では、言い訳の段階を終えた後に、「誰かがタイに行ったおりに、買ってきてもらおうかと思いますよ」、「เสียแต่เรา-เราแบบขอใช้ให้ได้นะเว่ยเดียวเราให้เพื่อน-(でも、弁償するよ。なんか友達に買ってきてもらうよう頼むから.)」と、新しいバッグで弁償したり、「ได้ยวชั้นจะไปลองไปซักรีดอันใหม่แก.เพื่อเค้าจะเอาออกได้อะ(後で別のクリーニング屋さんに行ってみる.もしかすると取れるかも.)」と、もう一度クリーニング屋に出したりするなどの提案が見られた。

以下の会話 JP42 と TH55 は、この加害者による【問題解決の提案】の会話例である。

会話 JP42<場面7:親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>

主要部		
問題解決の段階		
1 A:	(前略)そっか(0.3)[取られへん]かったよな;.[クリーニング.]	} 【対処の確認要求】 【確認】
2 B:	[どうしよう?][そうや]ね:ん.	
3 A:	あ,そうか[:].赤ワインやしな.°そっか°	} 【補償の申し出】
4 B:	[うん]	
5 B:	(0.3)誰か(0.2)hh¥タイに¥hhh	
6 A:	hh[hhhh.	
7 B:	[行った¥折に[買ってきてもらうかと思ひますよ¥]	
8 A:	[hhhhhhhhhhhhhhhhhhhhhhhh]	} 【先の断り】 【物の大事さの確認】
9 A:	あ hhhh	
10 B:	¥たぶん¥その方がいいかなと思つてん(.)ねん(.)けど.もう同じのはきつと	
12 B:	ないと思ふねん[やんか:]めっちゃ大事やつて言っ(.)てたからさ:	
13 A:	[う:ん]	} 【謝罪】
14 B:	(0.2)ほんまに.もうほんまにごめんなさい.	
15 A:	いやいや.[わざとじゃないし_](0.3)ただ hh(0.2)プレゼントやったから hh[hhh]	⇒ 【悪気なしの表明】【物の大事さの強調】
16 B:	[ほんまにごめん.] [あ,	⇒ 【謝罪】
17 B:	ごめん.=ホンマに]ごめ:ん.	
18 A:	(0.7)°そっか°(0.3)°そっか°hh	} 【再補償の申し出】
19 B:	(0.5)今度友達タイに行くつて言つてたから.	
20 A:	あ,ほんまに?	
21 B:	似たようなもの[***探して¥]もらう¥h	
22 A:	[hhhhh]	⇒ 【受け入れ】【感謝】
23 B:	(1.0)まあ::.	
24 A:	¥うん,ありがとう¥hh[ありがとう.]	⇒ 【謝罪】
25 B:	[¥ごめんな,ごめん¥ほんまにごめんな.そんな替えの	⇒ 【物の大事さの強調】
26 B:	物でな.利くのような話じゃないだけ.	
27 A:	いや:(.)じゃ:(.)ああ,そうか::.hh°そっか°	
28 B:	(1.5)うん.	
29 A:	うん.	
30 B:	うんんん.	
31 A:	(0.5)まあ,まあ,まあ,まあ.でも,わざとじゃないから(.)しゃーないよな.	⇒ 【悪気なしの表明】【気遣い】
32 B:	ごめんな:.	⇒ 【謝罪】
33 A:	いや,いいよいいよ.	⇒ 【許し】
34 B:	とりあえずじゃ、返しとくわ.	⇒ 【返却】
35 A:	うん,ありがとう.(0.2)h ありがとう h かばん替え楽しみしてるわ hh	⇒ 【感謝】【依頼】
36 B:	hh¥ごめ:ん¥	⇒ 【謝罪】

会話 TH55 場面7:親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>

主要部		
言い訳の段階		
1 A:	(前略)uncio.โฮตคั้งโฮมมาเลยนะ ↓ เร็ว.	⇒ 【物の大事さの強調】
A:	君さあ:それホストファミリーにもらつたんだ ↓よ.	
問題解決の段階		
2 B:	(0.2)เฮ้มเน:,unโทรขอโทษอะ::.	⇒ 【確認要求】
B:	(0.2)あのだ:君,怒つてるよね:.	
3 A:	[โทรขอ.]>โทรขอจริงอะไรจริง<.	⇒ 【不満の確認】
A:	怒つてる.>本当に怒つている<.	
4 B:	{เฮ้มเนชั้งขอโทษนะเร็ว.ฉันไม่ได้ตั้งใจอะ.ไฟชั่นทำยังไงก็ได้อะ.}	⇒ 【謝罪】【悪気なしの表明】
B:	{ごめんね.わざとじゃなかつたんだ.何でもするから.}	
5 B:	เดี๋ยวฉันจะไปตองไปซักกรีกอนใหม่เนก.เพื่อเดาจะเอาออกได้อะ.เคปะ?	⇒ 【提案】
B:	後で別のクリーニング屋さんに行つてみる.もしかすると取れるかも.いい?	
6 A:	เฮอ[::]	⇒ 【受け入れ】
A:	う[::]ん	
7 B:	[ชั้นลอง]อีกหนึง.	⇒ 【補償遂行の確認】
	[もう]一回トライさせて.	
8 A:	เฮอ.โอเคอะ.	⇒ 【受け入れ】
	うん.オーケー.	

会話 JP42 と TH55 は、《直接・物・重・親》の状況である。まず、会話 JP4 は、言い訳の段階で、加害者がなぜ被害者のバッグに赤ワインのシミが付いたのかについて【言い訳】をすると同時に、そのシミの対処について【対処遂行の報告】を言った後、問題解決の段階の 1A に入っている。被害者は、実際にバッグを目で確認して、1A のように【対処遂行の確認要求】をしている。それに対して、加害者である B は【確認】で返しているが、このバッグが相手にとって大事な物なので、【確認】の発話だけでは会話が終われないため、ここでは問題解決方法の提案が用いられている。

問題解決する方法として、この会話は、5B と 7B で「誰か(0.2)hh¥タイに¥hhh 行った¥折に買ってきてもらうかと思えますよ¥」、および 19B で「今度友達タイに行くって言ったから、似たようなもの***探して¥もらう¥h」と、2回【補償の申し出】を表明して、起きた問題を解決しようとする方法を提案している。また、バッグが被害者にとって大事な物であるため、新しいものを買って返すということになかなかはっきりと言いくいにくいため、会話が非常に長くなるのではないだろうか。

一方、会話 TH55 は、言い訳の段階で加害者が行った【言い訳】に対する反応として、被害者が 1A のように【物の大事さの強調】で否定的な態度を見せている。さらに、続いて 3A で【不満の確認】でより不満な気持ちが強調されている。すると、加害者はまず、4B で【謝罪】をした後、5B で「ได้ยงกัน จะไปลองไปซักกรีดอินใหม่แทน. เพื่อเค้าจะเอาออกได้อะ. (後で別のクリーニング屋さんに行ってみる. もしかすると取れるかも)」と改めてクリーニングに出すという【提案】を出しており、そこで、被害者はやっとなんかそれを【受け入れ】ている。

ここまでの JP と TH の加害者が用いる【問題解決方法の提案】の例であった。次は JP のデータにおいてのみ見られた、被害者がこの【問題解決方法の提案】を使用する状況を見ていく。

JPのデータにおいてのみ見られた、被害者がこの【問題解決の提案】を使用する状況というのは、<場面7: 親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>、<場面8: あまり親しくない同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>、<場面15: 雨のせいで親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグが濡れた>、<場面16: 雨のせいであまり親しくない同等の相手に貸してもらった大事なバッグが雨に濡れた>のような被害程度の重い状況のみとなっている。このような状況での被害者は、自分のバッグに付いているシミについて「たぶん(.) なんかお母さんそういうの、うまいから、頼んでみるわ」、「でも、大丈夫じゃないかな。たぶんクリーニング出してみて」と自分からも解決方法を提案し、加害者の罪悪感を和らげようとしていると考えられる。

会話 JP43<場面8:あまり親しくない同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>

主要部		
問題解決の段階		
1	B: うん,なんかクリーニングとかも出したんやけど[:],ちょっと(.)取れんくって:	⇒ 【対処遂行の報告】
2	A: [うん]	
3	A: あ::	⇒ 【理解】
4	B: ごめんね,[どうしたら](.)いいかな:=なんかどうしたらいいかな[とってん.]	⇒ 【謝罪】【心配の表明】
5	A: [あ,いいよ.] [あ hhhh]	⇒ 【受け入れ】【気遣い】
6	A: ¥大丈夫、大丈夫¥	
7	B: ほんとごめんね:.	⇒ 【謝罪】
8	A: うん.たぶん(.)なんかお母さんそういうの,うまいから[:],頼んでみるわ.	⇒ 【提案】
9	B: [hh]	
10	B: 大丈夫(.)[かな]?ごめんね:.	⇒ 【確認要求】【謝罪】
11	A: [うん]	
12	A: うん,いいよ:.	⇒ 【確認】【気遣い】
13	B: ありがとう.	⇒ 【感謝】
14	A: はい.	

会話 JP43 は、《直接・物・重・疎》の状況である。この会話は、4B でバッグに付いたワインのシミが取れないことで【心配の表明】をしている加害者 B に対して、被害者が 6A で【気遣い】を表明した後、自ら 8A で「たぶん(.)なんかお母さんそういうの,うまいから[:],頼んでみるわ.」とシミを取る方法という【提案】を出して、加害者が抱えている最悪感、心配などを和らげようとしていると推測できる。

【埋め合わせ要求】

この【埋め合わせ要求】は、加害者がする埋め合わせの申し出の逆で、被害者側から加害者に何かをしてくれるように要求する問題解決方法である。使用された回数はいずれも 1 回ずつであるが、遅刻状況でも、所有物被害状況でも、JP、TH ともに使用されていた。使用されていたのは、<場面1:自分のせいで親しい同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>、<場面7:親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>、<場面13:人にぶつかられて自分が持っていた親しい同等の相手の本に折り目がついた>の、相手が親友である場面であり、親しい相手にはこの方法が使用される可能性が高いと考えられる。

遅刻状況では、加害者から遅刻に対しての謝罪があっても、それだけでは気持ちが晴れないため、機嫌を直すために「じゃ、なんかおごってな」という発話をしたり、あるいは、遅れてきた加害者に謝ってもらったが、まだ物足りないと思ったとき、TH の被害者が「เลี้ยงข้าวเลยเนี่ย(おごってくれ)」と加害者にさらなる償いを求めたりしている。また、所有物の状況でも、「まあ、でも代わりにジュースでも買ってくれたら」と、JP は生じた被害で受けたショックから立ち直るためにこの方法を使っているが、あくまでも軽い気持ちで半ば冗談のような発言であり、弁償要求にまでは至っていない。一方、TH も、「หุ้ยแก.ซื้อมาให้เลย๗.(ああ、もう。君弁償してくれ)」と、ショックから立ち直るために、埋め合わせ要求をするが、親しければ親しいほど本音が言えるため、弁償まで要求するという点が JP と異なる。とはいえ、実際に弁償してもらったケースはほとんどないと言ってよい。

以下、遅刻状況の例として会話 JP44 と会話 TH56 を、続いて、所有物被害状況の例として会話 JP45 と会話 TH57 を順に挙げて、実際の使用の会話例を見る。

会話 JP44<場面1:自分のせいで親しい同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
問題解決の段階		
1	B: めっちゃ走ってさ[:], ¥地下鉄やったら ¥通じひんかったのかな.	⇒ 【弁明】
2	A: [hh]	
3	A: あ, そうなんや.	⇒ 【理解】
4	B: うん. ¥ごめんな. ¥	⇒ 【確認】【謝罪】
5	A: あ, いいよ, いいよ. hh	⇒ 【許し】
6	B: え::	⇒ 【言いよどみ】
7	A: <u>じゃ, なんかおごってな. hh</u>	⇒ 【埋め合わせ要求】
8	B: うん. ええよ hhh アイスとか(.)でいい?	⇒ 【提案】
9	A: うん. いいんだよね. °ほんとは. °	⇒ 【受け入れ】
10	B: 怒っとる? Hh	⇒ 【確認要求】
11	A: =いや, 怒ってない.	⇒ 【確認】
12	B: ¥ありがとう. [やさしい]な ¥hhhh	⇒ 【感謝】【ほめ】
13	A: [hhhh]	

会話 TH56<場面1:自分のせいで親しい同等の相手と一緒に行く買い物の約束に30分遅刻した>

主要部		
問題解決の段階		
1	A: ทำไม? โทรศัพท์(.) [ตั้ง]หมด. A: なんで? 携帯(.) [お金] なかった?	} 【責める】
2	B: [ป่าว.] (いや.)	
3	B: ¥ตั้งหมด. [ยังไม่ได้] เติม ¥. hh B: お金なかった. [まだチャージ] してない hh。	
4	A: [หรือจก. hh] (それともけち. hh)	
5	B: ยังไม่ได้เติมเงิน. B: まだお金をチャージしてない.	⇒ 【弁明の主張】
6	A: ทืม:: A: そうか::	⇒ 【理解】
7	B: เออ. [แมง-] B: うん. [なんか-]	⇒ 【確認】
8	A: [เดี๋ยว] ข้าวโดยเนี่ย. A: <u>[ご飯] おごってくれ.</u>	⇒ 【埋め合わせ要求】
9	B: เออจจ. B: ええ, ええ.	⇒ 【受け入れ】
終結部		
10	B: เดี่ยวๆ-เดี๋ยวไปซื้อของก่อนละกัน. B: じゃ-じゃ先に買い物しに行っからね.	⇒ 【共同行動要求】

会話 JP44 と会話 TH56 は、《直接・時間・軽・親》の状況である。まず、会話 JP44 は、問題解決の段階で、加害者が 1B でなぜ相手に遅れたことを連絡しなかったか【弁明】をすると共に 4B で【謝罪】も行っている。それに対して、被害者である A は 5A で「あ, いいよ, いいよ. hh」と【許し】を表明している。しかし、加害者は、6B で「ええ:::」と言いよどんで、被害者に許してもらうのに【謝罪】だけでは足りないと思っていることを表明すると、被害者は 7A で「じゃ, なんかおごってな. hh」と【埋め合わせの申し出】を表明し、最後に 12B と 13A で被害者にも加害者にも笑いが現れている。この【埋め合わせの申し出】は、【謝罪】をしてもまだ気が済まない加害者も、30 分も待たされて不愉快を感じ

させられた被害者自身も、双方とも少し気持ちが晴れるようになる方法なのではないかと考えられる。

一方、タイ語の会話 TH56 は、遅刻したにもかかわらず連絡してくれないことについて、被害者が 1Aと4Aで加害者を【責め】ており、加害者はなぜ連絡しなかったのかについて5Bで【弁明の主張】をしている。加害者が携帯にお金をまだチャージしていないことは仕方がないことであるので、被害者は、6Aで【理解】をせざるを得ないが、相手に待たされたミスに対して、8Aで「เลี้ยงข้าวเลยเถี่ย(おごってくれ)」と自ら償いを求めている。このようなことをすることによって、30分くらいと待っていた被害者の気分はすっきりするのであろうと考えられる。

続いて、所有物被害状況の会話例を見ていく。

会話 JP45<場面13:人にぶつかられて自分が持っていた親しい同等の相手の本に折り目がついた>

主要部		
問題解決の段階		
1	B: (前略)ごめん h[hhh]hhh.ごめん.どうしよう.えっ?	⇒ 【謝罪】
2	A: [hhh]	
3	A: いや.まあ,いいけど.	⇒ 【許し】
4	B: ¥え?(.)良くないよね.¥[hh]hhh ↑え::ごめんな:,ちよつと-	⇒ 【否定】【謝罪】
5	A: [hhh]	
6	A: <u>まあ,代わりになんか(.)[ジュ]ースでも買ってくれたら.</u>	⇒ 【埋め合わせ要求】
7	B: [うん]	
8	B: あ,まじで?[それで]いいの?でも,この本(.)って結構したんじゃないの?	} 【確認要求】
9	B: [hh]	
10	B: 高かったかな.	
11	A: うーん.1000円[ぐらいかな]	⇒ 【情報提供】
12	B: [きれいな紙やし](0.4) ↓いい↓の?	⇒ 【埋め合わせの確認要求】
13	A: うん.	⇒ 【確認】
14	A: ジュースなんかで[hhh]ごめんな,[気付ける]わ.	⇒ 【謝罪】【改善約束】
15	A: [hhh] [うん,いいよ.]	⇒ 【受け入れ】

会話 TH57<場面7:親しい同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>

主要部		
言い訳の段階		
1	A: ↑เฮ้ย ↑ นก.มันหกโดนทั้งกระเป๋าเลยเวีย: ↑ああ↑君, <u>バッグのほとんどにかかってんじゃ::ん</u>	⇒ 【驚き】【指摘】
問題解決の段階		
2	B: เออ:ฉันรู้.ฉันพยายามซักแล้วอะ,แต่มันไม่ออกอะ:: うん,分かてる.頑張って洗ったけど.取れなかった::	⇒ 【受け入れ】【対処遂行の報告】
3	A: <u>หุอ::นก.ซื้อมาใช้เลย.</u> <u>もう:君,弁償してくれ,弁償してくれ.</u>	⇒ 【文句】【埋め合わせ要求】
4	B: เออ,ก็ได้:: うん.分かった::	⇒ 【受け入れ】
5	A: เอานแบบให้เหมือนอย่างจี้ตัวฉันนะ. これと全く同じものだよ.	⇒ 【希望要求】
6	B: เออ.ฉันต้องไปซื้อที่ไหนอะ.เตี่ยวน(.)ไปกะฉันละกัน. うん.どこで買えるか.じゃ君は私と一緒にいこう.	⇒ 【受け入れ】【依頼】
7	A: อือ ↑ เออๆ.เดี่ยวเลือกเองเลย. うん.↑ええ,自分で選ぶわ.	⇒ 【受け入れ】

会話 JP45 は、《間接・物・軽・親》、そして、会話 TH57 は、《直接・物・重・親》の状況である。まず、会話 JP45 は、問題解決の段階だが、加害者は 1B の自分の【謝罪】に対して被害者が 3A で【許し】てくれたにもかかわらず、4B で「¥え？(.)良くないよね.¥hhhhh ↑え::ごめんな:,ちよつと-」と笑いながらそれを【否定】をすることで、自分ではまだ納得できていないことを表し、再び【謝罪】をしている。これを受けて、被害者 A は 6A で「まあ,代わりになんか(.)ジュースでも買ってくれたら.」と自ら【埋め合わせ要求】を言い出している。この【埋め合わせ要求】は、単に被害で受けたショックから立ち直る被害者自身のためだけではなく、自分の責任だと受け止めた加害者への思いやりにもなると考えられる。この会話のように、被害者が「ジュースを買ってくれ」と要求してきた場合、加害者はそれを実行することによって責任を果たすことができるため、責任を取るための方法の一つであると考えてよいだろう。

会話 TH57 では、加害者は、バッグの損傷状態について 1A で被害者に【指摘】されたことを、2B で【受け入れ】ながら、【対処遂行の報告】をしている。しかし、被害者はそれを受け入れてくれず、3A で【文句】と共に、「un. ร้องมาให้เลย.(君,弁償してくれ,弁償してくれ.)」と声を強調しながら【埋め合わせの要求】をしている。その結果、加害者は最終的に、4B と 6B のようにバッグを弁償することとなっている。

【第三者への配慮】

今回のデータにおいて、第三者が関わる状況は<場面11:交通事情のせいで親しい同等の相手と一緒に行く作家のインタビューの約束に 30 分遅刻した>と<場面12:交通事情のせいであまり親しくない同等の相手と一緒に行く作家のインタビューの約束に 30 分遅刻した>のみである。この状況は作家のインタビューの約束に遅刻した状況であり、JP でも TH でも【第三者への配慮】の使用が見られるが、JP の方が使用する傾向が目立つ。

この場面での遅刻は、待ち合わせをしている被害者にとどまらず、インタビュー相手の作家にまで被害が及ぶ。多くの被害者は一部自分にも責任があると感じているため、「なんか先輩にはなんかさっき電話してちよつと遅れるって言ったから」、「บอกเค้าแล้วว่าจะไม่สาย(遅れるって言った)」などと表明して、作家への配慮を表している。また、この発話は第三者に対する配慮だけではなく、遅刻について非のない加害者の負担を減らすことにも繋がり、一石二鳥の効果がある解決方法だと考えられる。

会話 JP46<場面11:交通事情のせいで親しい同等の相手と一緒に行く作家のインタビューの約束に30分遅刻した>

主要部	
問題解決の段階	
1 B: そう連絡がでにくっ[て:]遅くなってごめん.=これ,大:丈夫かな?	⇒ 【謝罪】【心配の表明】
2 A: [うん]	
3 A: あ,でもなんか先輩:には[:],なんかさっき:電話?[(.)]して,ちょっと遅れるって	} 【配慮】
4 B: [うん] [うん]	
6 A: =言ったから,[た]ぶん5分ぐらいだし.	
7 B: [あ-]	
8 B: °大丈夫かな? [ごめんね.]	⇒ 【心配の表明】【謝罪】
9 A: [たぶん]大丈夫[夫だと思っ.]	⇒ 【気遣い】
10 B: [hhhh]	

会話 TH58<場面12:交通事情のせいであまり親しくない同等の相手と一緒に行く作家のインタビューの約束に30分遅刻した>

主要部	
問題解決の段階	
1 B: เราที่ต้องรอไฟเค้าวิ่งได้ก่อนถึงออกมา. B: 運転再開できるようになってから出られたんだ.	⇒ 【事情説明】
2 B: แต่ที่เรานัดเค้าไว้ตอนสิบเอ็ดโมงใช่ไหม. B: ところで,彼と11時に約束したよね.	⇒ 【確認要求】
3 A: ใช่.นัดไว้สิบเอ็ดโมง,แต่เมื่อกี้โทรบอกพี่เค้าแล้วว่าจะเข้าไปสายสักนิดนึงอะไรอย่างเงี้ย.อ้อ. A: そう.11時に約束したけど,さっきちょっと遅れるかもと電話で言っといいたよ. A: うん.	⇒ 【確認】【配慮】
4 B: อ้าว Aโทรไปแล้วเหรอ B: え?電話してくれたの?	⇒ 【確認要求】
5 A: ใช่ [แต่พี่]เค้าบอกพี่เค้าว่าจะอยู่ได้ถึงแค่เที่ยงนะ A: はい。[でも,]先輩は12時までしかいられないって.	⇒ 【確認】【報告の続き】
6 B: [เออๆ] (うんうん)	
7 B: จริงปะ?แล้วบ้านเค้าไกลไหม?เดี่ยวเราต้อง-ต้องรีบไปบ้านเค้า. B: 本当に?いー彼の家は遠い?いそ-私たちは急がなきゃ	【理解】 ⇒ 【情報要求】【共同行動要求】

会話 JP46 は、《間接・時間・重・親》であり、会話 TH58 は《間接・時間・重・親》の状況である。まず、会話 JP46 では、加害者は問題解決の段階の1Bで相手に連絡しなかったことを【謝罪】をした後、作家に待たせていることについて【心配の表明】をしている。そこで、被害者Aは3Aで「でもなんか先輩:には[:],なんかさっき:電話?[(.)]して,ちょっと遅れるって言ったから」と第三者の作家に【配慮】をしている。

一方、会話 TH58 でも、遅れてきた加害者が、遅れた事情について1Bで【事情説明】を述べた後、作家とのインタビューの約束時間について【確認要求】をしている。被害者Aが3Aで【確認】をした後、会話 JP8 と同様に、「แต่เมื่อกี้โทรบอกพี่เค้าแล้วว่าจะเข้าไปสายสักนิดนึงอะไรอย่างเงี้ย(さっきちょっと遅れるかもと電話で言っといいたよ.)」と、作家への【配慮】の発話がなされている。

以上、問題解決の段階において現れた発話について、その現れ方を見てきた。【謝罪】【埋め合わせ要求】については、JPとTHで同じような現れ方であったが、それ以外の発話については、それぞれ異なる現れ方をしていた。次節では、このような問題解決方法の選択が、JPとTHの責任の取

り方にどのように反映しているのかについて論じたい。

7.2 問題解決の方法と責任の取り方についての考察

7.2.1 謝罪のあり方

前節で見たように、JP も TH も、被害・迷惑が生じた時、原因が自分にあるかどうかと関係なく【謝罪】を会話の締めくくりとして多用している。これは何らかの被害がもたらされた時、日本社会でもタイの社会でも、謝罪という言語行動が最も期待されているということの現れだと言えよう。

特に遅刻状況で謝罪が多く使用されていたことについては、自分に非があるかどうかは別として、結果的に被害者である相手を待たせて迷惑をかけたという事実は変わらないため、30分待たされた相手の気持ちやその場の雰囲気改善のために欠かせない方法として、行われたのだと考えられる。また、遅刻という行為は、それ以上改善の余地がないことから、【謝罪】によってその問題を終わったことにすることが、所有物の場合に比べてしやすいのではないかと考えられる。所有物の被害は、その結果が残っているため、【謝罪】で会話を終わらせると、その問題が終わったことになってしまい、実際に解決しないまま終わらせたという印象を与えかねない。そのため、遅刻状況の方が、【謝罪】が多く現れたのではないかと推測される。

7.2.2 問題解決の提案と責任の取り方

今回の調査では、問題解決方法の提案は、JP と TH で現れ方が異なっていた。一般的に、問題解決は、生じた問題の解決にあたり、加害者が過失を償うために何ができるかを述べるものであるため、提案する者は、加害者側であると思われる。そのため、同等の相手の物に被害を与えてしまったような状況では、JP も TH も【問題解決方法の提案】の解決方法が多く使用されるという結果になっている。

しかし、JP のデータでは、【問題解決方法の提案】は所有物被害状況においてしか見られず、特に被害の重い、バッグの損傷の状況のほうでよく用いられていた。また、特徴的だったのは、加害者だけでなく、被害者からの発話としても現れていたことである。これに対して、TH では、所有物被害状況だけでなく遅刻状況においても現れており、被害の軽・重を問わず、同じくらいの割合であった。なお、TH では、加害者からの発話としてしか現れていない。

このような JP と TH の違いは、問題に対する認識の差の表れであると考えられる。つまり、JP は相手に貸してもらった本/ノートに折り目を付けたという、被害程度の軽い状況では、非を認めて謝罪をし、相手に理解してもらおうことが、期待される行動だと捉えているようである。しかし、TH は謝罪で

はなく、新しい本を買って返したり、表紙を付け直したり、あるいは新しいノートに書き写すなど、様々な具体的な問題の解決案を提案し、できる限りの実際の行動で解決しようという態度が観察された。特に、相手にとって大事なバッグが損傷された状況では、JPは、新しいバッグを買って返すと申し出る例もあったものの、多くのデータで謝罪で非を認める方法が取られていた。それは、相手にとって大事なバッグだからこそ、買って返せば解決だと考えるのではなく、きちんと【謝罪】することが重要だと考えているからなのだろうと考えられる。ところが、TH は相手にとって大切なものだからこそ、バッグを買って返すという具体的な行動を提示する会話が少なくない。

このような違いが何に起因するのかを考えてみると、そもそも日本人とタイ人の責任の取り方が異なることによるものなのではないかと考えられる。謝罪することを最優先のこととして責任をとろうとするJPに対して、THは謝罪よりは具体的な行動で責任をとろうとするのである。その好例として、最近タイで話題になったあるLCC(Low Cost Carrier)の出来事が挙げられる。そのLCCは、国外の燃油税を払っていなかったため、ある日搭乗していた全乗客が、到着した先の空港内で足止めを喰い、結局その国の入国許可がおりず、乗客は旅行できないままタイに帰国する羽目になったという出来事である。そのとき、航空会社の取締役たちはお詫びとして、それらの乗客たちに花束を渡し、謝罪を行ったが、生じた事件に対しての具体的な対処はしなかったため、ある新聞社が「そんなに簡単に終わりにできるのか。400人もの乗客に迷惑をかけて、心を苦しめたにもかかわらず」とその件を記事に取り上げた(<http://www.oknation.net/blog/nfedlion/2012/10/19/entry-1>)。この新聞記事からわかるように、タイの社会では何らかの問題が起きたとき、謝罪だけで非を認めるよりは具体的な対策を講じるほうが重要なのである。

今回のデータでは、加害者側からの問題解決の提案が多い中、被害者から提案するデータも見られた。特に、日本語のデータではこの方法が多く取られていた。これは、日本語母語話者は、たとえ自分が被害者であっても、相手(加害者)がショックを受けているのを見ていると、一緒に問題を解決しようとする体勢になるということなのではないかと考えられる。この点について、インタビューでは「人に物を貸したのも一部自分に責任がある」と述べられていた。JPの場合、問題が生じた際には、加害者は被害者にまず謝罪し、その上で、全責任を一人に負わせるのではなく、可能であれば双方が協力し合って問題を解決していくという方法をとることが好まれるのではないかと考えられる。それに対して、THは加害者と被害者の立場がはっきり分かれている。つまり、加害者側は一所懸命問題を解決しなければならず、被害者はあくまで、相手からの謝罪や解決方法の提案を受け入れるかどうかを判断する立場にいるのである。

7.2.3 第三者への配慮と問題解決の優先順位

最後に、【第三者への配慮】と【問題解決方法の提案】の優先順位について考えたい。この点については、上に述べた、加害者と被害者が共に協力して問題を解決するかどうかということに関わっている。この【第三者への配慮】は、作家のインタビューの約束に遅刻した状況で見られた方法であり、特に JP のデータの中に多く見られたのに対して、TH のデータではわずかにしか見られなかった。

【第三者への配慮】が JP のデータに多く現れたのは、JP の被害者は、作家を待たせるのは一部自分にも非があると感じており、遅れてきた加害者の代わりに問題に対処しようとする姿勢を示しているためであると考えられる。具体的には、先に作家に電話して、遅れるという連絡をしておくなどの行動であり、すなわち、遅れているのは加害者だけでなく被害者の自分もであって、それによって被害を被るのは第三者の作家だととらえているということである。

これに対して、TH のデータには【第三者への配慮】はほとんど見られなかった。しかし、作家に配慮するような発話がないからといって、作家に配慮していないというわけではない。インタビューによれば、この状況に遅刻したことが最も負担が重かったと感じている調査対象者が過半数もいた。ただ、それを言葉にしていないのは「目の前にある現場の問題のほうが心配だ。先にこれを改善しなければならなかった」という。つまり、現場で今起きていること、すなわち、被害者に被害を与えたことが、第一に解決しなければならないことで、それが収束しないうちは次の問題に目を向けられないということなのだろう。それで、必死に相手の理解を求めたり、許してもらうために様々な提案、例えば「自分(=加害者)が作家に電話して、遅れたのは自分だ」と伝えるなど、具体的な責任表明をしたりしているのである。

このような違いは、日本人とタイ人の間で、問題解決の優先順位が異なることの表れであると考えられる。

以上の結果からわかるように、何らかの問題が生じたとき、状況によっては、単にその問題を生じさせた原因について言い訳するだけでは問題は収束せず、起きた問題をどのように解決するかという問題解決の段階が重要な場合がある。どのような問題解決の方法をとるかは、文化的・社会的背景に依拠するところが大きいと思われる。JP の場合、遅刻の場面と所有物に被害が生じた場面のいずれにおいても、もっとも多い問題解決の方法として「謝罪」が用いられている。このような結果、すなわち、なぜ日本人はよく謝罪をするのかということに対して、これまで高木、1996、ウィッターパンヤーソン、2012、など様々な説明がなされてきたが、共通していえるのは、日本人は他の国の

人に比べると、非常に対人関係を大事にする民族で、自分を取り囲む社会ないし「場」がいつでも良好な雰囲気には保たれていないと不安を感じてしまう、ということなのではなかろうか。そのため、何かトラブルがあったとき、加害者側はたとえ自分に直接的に非があってもなくても、謝罪をして問題を早い段階で終了させ、雰囲気が悪くなる以前の状態に戻そうとするのだと考えられる。被害者側も、相手に謝罪された以上、それを素直に受け止めないと、「場」の雰囲気の改善に対して今度は自分が妨げになりかねないため、理解をしてそれを受け入れ、最終的には加害者のミスを許すという結果につながるであろう。

それに対して、THは、「謝罪」を飛ばして、具体的な問題解決の提案に移ってしまうケースが、今回の結果で目立っている。このことは、タイ人は謝罪をあまりしない民族であるということを示しているというよりは、タイ人は日本人ほど、問題解決の方法として「謝罪」に重きを置いていないということを表しているのだと考えられる。タイの社会では謝罪をしなくても、自分が起こした、あるいは起こしたであろう問題を解決することは可能である。タイ人にとって、「謝罪」という行為は、後々にまで影響を及ぼす重みのある行為で、謝罪をした時点から「いかなる責任も、私は取る用意がある」という姿勢を相手に示すことになるのである。また、謝罪をされたらたいていは問題がそこで収まる日本人と違い、実際の被害以上の不当な責任—場合によっては賠償金になる—を追及してしまうタイ人が多いため、トラブルに巻き込まれた時、自己防衛の手段として安易に「謝罪」をしないことが、タイ社会ではひとつの常識になっているともいえる。それが本稿におけるTHの問題解決の選択結果に現れていると考えられる。

第8章

まとめと考察

本章では、第5章から第7章で述べてきた、本研究での調査の結果をまとめた上で、日本語母語話者とタイ語母語話者の言い訳の言語行動にどのような傾向が見られたかを考察し、今後の課題について述べる。

8.1 まとめ

本研究では、自分が過失を引き起こしたり、逆に過失を起こされたりした時、JPとTHそれぞれの会話で使用される加害者の言い訳、およびそれに対する被害者の反応が、どのような特徴を持ち、またどのように異なるかについて調査を行った。調査にあたっては、「直接的に自分の行動によらない原因で被害が与えられた場合」(《間接・時間/物》)と「直接的に自分の行動による原因で被害を与えた場合」(《直接・時間/物》)の2つの状況についてデータを収集した。調査の結果については、それぞれの状況について、第5章と第6章で、使用された言い訳とそれに対する反応を分析し、第7章でJPとTHの責任の取り方について考察した。本節では、改めて第5章から第7章までで論じたことを総括する。

8.1.1 直接的に自分の行動によらない原因で被害が与えられた場合の結果

本研究では、直接的に自分の行動によらない原因で被害が与えられた場合について、状況の内容によって「時間」と「物」に分けて分析を行った。以下、それぞれの状況について、結果をまとめる。

8.1.1.1 「直接的に自分の行動によらない原因で相手との待ち合わせ時間に遅刻した」状況

(1) 会話全体について

まず、使用される言い訳のタイプは、JPとTHの加害者が自ら言い訳をする〔自発的言い訳〕が最も多かった。しかし、〈場面9:間接・時間・軽・親〉のような被害の程度が軽く、しかも親しい相手の場合、THでは〔【文句】に対する言い訳〕が最も使用されている。

会話の流れについては、次のようにまとめることができる。

表 8-(1) JP と TH の《間接・時間》会話の流れ

	JP		TH	
	軽	重	軽	重
言い訳	加:【謝罪】 ³⁶ 加:【言い訳】	加+被:第三者への配慮 加:【言い訳】 (+【謝罪】)	被:【文句】 ³⁷ 加:【言い訳】 (+【謝罪】/【弁明】)	加:【言い訳】 (+【謝罪】/【弁明】)
	被:反応(肯・否) 加:【弁明】 被:反応(肯・否)	被:反応(肯のみ) 加:【α】 被:反応(肯のみ)	被:反応(肯・否) 加:【α】 被:反応(肯・否)	被:反応(肯・否) 加:【α】 被:反応(肯・否)
問題解決	加:【謝罪】	加:【謝罪】【第三者への配慮】	加:【謝罪】	加:【謝罪】【責任の表明】
	被:【共同行動要求】	被:【共同行動要求】	被/加:【共同行動要求】	被/加:【共同行動要求】

JP と TH の会話を比較してみると、JP は、軽・重の被害内容によって会話の流れに違いが見られるのが特徴的であるといえる。JP の会話のほとんどにおいて、第一発話に【謝罪】がよく用いられているが、重い状況になると、第三者(=作家)に配慮するような発話も観察された。そして、言い訳をした後、加害者は軽い状況では【弁明】を行うのに対して、重い状況では【心配の表明】、【責任の表明】など様々な発話(α)を発している。それに対して被害者の反応は、軽い状況では【理解】、【気遣い】、【受け入れ】のような肯定的な反応と、【文句】のような否定的な反応の両方があるが、重い状況では肯定的な反応のみである。また、遅れたというトラブルについて加害者がどのように問題を解決したかに関して、被害の程度が軽い場合は、ほとんどの加害者が【謝罪】を使用しているが、被害が重い場合は、作家である【第三者への配慮】の方法を多く使用している。

一方 TH は、会話の流れは被害の軽・重いずれの状況においても、加害者の発話の種類が豊富であり、また被害者の反応も肯定的と否定的の両方が使用されていて、同じような流れとなっている。問題解決に関しては、被害の程度が軽い場合は、JP と同様に【謝罪】を多く使用しているが、被害が重くなると、【責任の表明】の方法を用い、JP と異なっている。

(2) 加害者が使用する言い訳内容及びその言い訳に対する被害者の反応

この《間接・時間》の状況では、JP も TH もいずれも遅れた原因を[正直に言う]言い訳を選択した。しかしながら、同じ結果になったとはいえ、【言い訳】を行う際に、JP と TH の加害者と被害者がとる言語行動は異なる。

【言い訳】の際には、JP は【謝罪】、あるいは第三者に配慮するような【心配の表明】、【後悔】などが一緒用いられるのに対して、TH は場を改善しようとするために【冗談】を使ったり、【責任の回避】や【責任の軽減】などを使ったりして、自分に非がないことを主張しようとしていた。

³⁶ この【謝罪】は第一発話として用いられる。以下と同じである。

³⁷ 場面9:《間接・時・軽・親》の状況でよく使用されている。

被害者の反応に関しては、JP はどのような関係の相手に対しても、またどのような状況においても【理解】のような肯定的な反応を示す傾向があるが、TH の反応は【理解】、【気遣い】などの受け入れ的な反応と、【文句】、【皮肉】などの否定的な反応の両方があり、相手との関係によって反応の使用が異なる結果となった。

8. 1. 1. 2 「直接的に自分の行動によらない原因で相手の所有物に被害が与えられた」状況

(1) 会話全体について

使用される言い訳のタイプは、8. 1. 1. 1の《間接・時間》状況と同様で、JP も TH も、加害者が自ら言い訳をする〔自発的言い訳〕が最も多かった。

また、会話の流れについても、8. 1. 1. 1の《間接・時間》状況と同じような結果になった。以下会話の流れをまとめておく。

表 8-(2) JP と TH の《間接・物》会話の流れ

	JP		TH	
	軽	重	軽	重
言い訳	加:【言い訳】 (+【謝罪】)	加:【言い訳】 (+【謝罪】/【自己非難】/ 【物の大事さの確認】)	加:【言い訳】 (+【謝罪】/【悪気なしの表明】)	加:【言い訳】 (+【謝罪】/【悪気なしの表明】/【冗談】)
	被:反応(肯・否) - -	被:反応(肯・否) 加:【対処遂行の報告】 被:反応(肯のみ)	被:反応(肯・否) 加:【α】 被:反応(肯・否)	被:反応(肯・否) 加:【α】 被:反応(肯のみ)
問題解決	加:【謝罪】	加:【謝罪】【補償の申し出】 被:【提案】	加:【謝罪】【補償の申し出】	加:【謝罪】【補償の申し出】

《間接・物》状況でも、《間接・時間》状況と同じ結果で、JP の会話の流れは被害の程度の要因によって違いが見られるが、TH の会話の流れは相手との関係、また被害の程度によって異なるということはありません。

被害者の反応については、JP も TH も否定的な反応を使用しており、特に TH のデータではその使用が目立っている。また、言い訳に対する被害者の反応後、JP の会話では、損傷したバッグにどのように対処したかという【対処遂行の報告】が行われているのに対して、TH の会話では、使用された発話が様々であった。

生じた問題をどのように解決したかについては、JP の場合、特に軽い状況では【謝罪】で済む場合が多かったが、被害の程度が重くなると、問題解決の段階(弁償・埋め合わせの申し出など)にまで続く会話の割合が高くなった。それに対して、TH の場合は、軽・重のどの状況においても、【謝

罪】よりも弁償する・カバーを付ける・新しいノートに書き写すなどの申し出を選択する加害者が多く、謝罪が先決である JP と異なっている。

(2)加害者が使用する言い訳内容及びその言い訳に対する被害者の反応

加害者が使用する言い訳内容、及びその言い訳に対する被害者の反応に関しても、8. 1. 1. 1 の《間接・時間》状況と同様で、JPとTHはいずれも、被害の原因を[正直に言う]結果となった。しかしながら、[正直に言う]と言っても、JPとTHの間では発話の種類が異なっている。すなわち、JPは【言い訳】の発話を【謝罪】、【自己非難】など非を認めるようなものと一緒に用いるのに対して、THは【謝罪】の他に、自分のせいではないことを主張しようとする【悪気なしの表明】や【責任の軽減】など、様々な発話と一緒に使っていた。

また、被害者の反応に関しては、JPとTHの間では明らかに異なっている。JPはどの相手に対しても、あるいは、どの状況においても【理解】のような肯定的な反応を示す傾向があるが、THは疎の相手には受け入れ的な反応を示すのに対して、親の相手には、否定的な反応をよく用いる。ただし、疎の相手に対して受け入れ的な反応を示すとはいえ、間接的に不満を伝えようとする【皮肉】の使用も見られ、完全に肯定的な反応であるとは言いきれない。

8. 1. 2 直接的に自分の行動による原因で被害を与えた場合の結果

8. 1. 1と同様、直接的に自分の行動による原因で被害を与えた場合についても、状況の内容によって「時間」と「物」に分けて分析を行った。その結果を次のようにまとめることができる。

8. 1. 2. 1 「直接的に自分の行動による原因で相手との待ち合わせ時間に遅刻した」状況

(1)会話全体について

《直接・時間》状況において使用される言い訳のタイプは、相手との関係、すなわち相手が親か疎かによって言い訳タイプの選択が異なるという点で共通している。具体的に言えば、場面2:《直接・時間・軽・疎》と、場面4:《直接・時間・重・疎》のように、相手とあまり親しくないときは、加害者が[自発的言い訳]を最も使用しているのに対して、場面1:《直接・時間・軽・親》のように相手が親友になると、待っていた側が、遅刻してきた相手に会ってすぐに遅刻した原因を追及するため、その結果、加害者が【説明要求】に対する言い訳をすることになるケースが多かった。

一方、会話の流れについては、8. 1. 1. 1の《間接・時間》と同じような結果になった。まず、JPとTHの会話の流れを比較してみよう。

表 8-(3) JP と TH の《直接・時間》会話の流れ

	JP		TH	
	軽	重	軽	重
言い訳	加:【謝罪】 加:【言い訳】 (+【謝罪】/【自己非難】)	加:【謝罪】 加:【言い訳】 (+【謝罪】/【弁明】/【心配の表明】)	加:【言い訳】 (+【謝罪】/【弁明】/【努力の表明】/【悪気なしの表明】)	加:【言い訳】 (+【謝罪】/【同情要求】)
	被:反応(肯・否) 加:【弁明】 被:反応(肯のみ)	被:反応(肯・否) -	被:反応(肯・否) 加:【弁明】【言い訳の強調】 など 被:反応(肯・否)	被:反応(肯・否) 加:【弁明】【言い訳の強調】 【提案】など 被:反応(肯・否)
問題解決	加:【謝罪】 被:【共同行動要求】	加:【謝罪】【埋め合わせの申し出】 被:【共同行動要求】	加:【謝罪】解決なし ³⁸ 被/加:【共同行動要求】	加:【謝罪】解決なし ³⁹ 被/加:【共同行動要求】

上記の JP と TH の会話を比較してみると、JP の場合《間接・時間》状況と同じく、軽・重の被害内容によって会話の流れに違いが見られる。つまり、軽い状況の言い訳の段階の後半では、加害者の【弁明】とそれに対する被害者の反応が続くが、重い状況では、被害者の反応を受け、加害者が問題解決として【謝罪】、【埋め合わせの申し出】をした後、すぐに会話の終了部に入るという流れで、後半の会話の流れが異なっている。一方、TH の場合は被害の軽・重による違いがあまり見られなかった。また、問題解決の方法として、JP と同じように【謝罪】の使用もあるが、会話の最後に問題解決をすることなく、直ちに次の行動に移るといった会話も見られた。

(2) 加害者が使用する言い訳内容及びその言い訳に対する被害者の反応

この状況では、JP と TH の使用した言い訳内容に違いが顕著に現れた。被害が軽い状況では、JP は言い訳を[正直に言う]会話が多かったが、重い状況では会話を長く続けられる状況ではないため、言い訳をしない会話が増えた。それに対して TH は、被害が軽い状況では、特に親友との場合、[正直に言わない]会話が多いが、被害が重い状況では、[正直に言う]会話がかった。

加害者及び被害者が使用する発話の種類は、言い訳内容を[正直に言う]か[正直に言わない]かによって影響を受けることはなく、《間接・時間》の状況と同様の発話が見られた。すなわち、自分に非がある場合であっても、JP も TH もともに、言い訳と一緒にXやYなど様々な発話を使用してい

³⁸ 解決なしとは、問題解決の段階がないという意味である。被害の軽い状況として、買い物の約束に遅刻したような状況では、多くの TH の被害者が【弁明】、【言い訳の強調】などに対して反応をした後、被害者がすぐに【共同行動要求】をするため、会話がすぐ終了となる。また、【言い訳】をする際、[正直に言わない]言い訳を選択した加害者の一部は、会話の最後にも謝らないままで会話を終了する場合もあるため、タイ語のデータには問題解決の段階が現れない会話が多かった。

³⁹ 解決なしとは、問題解決の段階がないという意味である。被害の重い状況として、観覧しなければならない公演に遅刻したような状況では、多くの調査対象者が【言い訳】⇒反応+【共同行動要求】のように会話をすぐに終了させたため、タイ語のデータには問題解決の段階が現れない会話が多かった。

た。ただし、[正直に言わない]場合は、TH は【努力の表明】、【悪気なしの表明】、【責任の軽減】なども多く使用している。

また、今回の調査では、両言語で[正直に言わない]言い訳の使用が見られたが、使われ方は異なっていた。JP の場合は、[正直に言わない]際には、曖昧な表現、偶発のアクシデント、不可避的な状況の使用という3つの方法を持ち出して言い訳をしている。それに対して、TH は偶発のアクシデント、不可避的な状況の他、ステレオタイプと、第三者への罪の押し付けの使用という方法を使って言い訳をしていた。

最後に、被害者の反応についても、《間接・時間》の状況と同様に、日本語とタイ語の間に差が見られた。つまり、JP はいかなる状況、相手に対しても肯定的な反応を示すのに対して、TH はあまり親しくない相手に【理解】のような肯定的な反応をするが、親しい相手になると、【文句】、【責める】などの否定的な反応をし、親疎関係によって被害者の反応が異なっていた。

8. 1. 2. 2 「直接的に自分の行動による原因で相手の所有物に被害を与えた」状況

(1) 会話全体について

《直接・物》状況は、《間接・物》と同じように、借りた物に何が起こったかが加害者にしか分からないため、JP と TH は同じように[自発的言い訳]のタイプを多く使用している。

また、会話の流れについても、《間接・物》状況と同じ結果になった。以下が JP と TH の流れの比較である。

表 8-(4) JP と TH の《直接・物》会話の流れ

		JP		TH	
		軽	重	軽	重
言い訳	加:【言い訳】 (+【謝罪】/【悪気なしの表明】)		加:【言い訳】 (+【謝罪】/【自己非難】/ 【悪気なしの表明】)	加:【言い訳】 (+【α】)	加:【言い訳】 (+【α】)
	被:反応(肯・否)	-	-	被:【損傷程度の確認要求】	被:【損傷程度の確認要求】
問題解決	加:【α】	-	-	加:【確認】	加:【確認】
	被:反応(肯・否)	-	被:反応(肯・否)	被:反応(肯・否)	被:反応(肯・否)
	加:【謝罪】【埋め合わせの申し出】	加:【謝罪】【補償の申し出】	加:【謝罪】	加:【謝罪】	加:【謝罪】【補償の申し出】

《直接・物》状況も、《間接・物》状況と同じく、JP の会話の流れは被害の程度の軽重によって異なるが、TH の場合は、被害の軽重による違いが見られない上、相手による違いも見られない。つまり、言い訳に対して被害者が反応をした後、JP の場合、被害が重い状況でのみ損傷したバッグにど

のように対処したかという【対処遂行の報告】が行われているが、その他の状況では、日本語の会話もタイ語の会話も同じような流れとなっている。また、会話の最後の部分では、JPとTHの間に違いが見られた。JPは被害が重くなると、バッグを買って返すという【補償の申し出】が使用されたものの、全体的には軽・重いずれの状況においても【謝罪】の使用が最も多かったのに対して、THは被害の程度が軽い場合、【謝罪】が多く使用されるが、被害が重くなると、バッグを買って貸すという【補償の申し出】の使用が目立つ結果となり、JPと異なっている。

(2)加害者が使用する言い訳内容及びその言い訳に対する被害者の反応

《直接・物》状況では、JPとTHの結果は大きく異なり、JPは被害の程度、及びいずれの相手に対しても[正直に言う]言い訳を使用している。一方、THの場合は、どのような状況においても[正直に言わない]結果が多く見られた。

また、JPが【言い訳】を主に【謝罪】などと一緒に用いるのに対して、THは【謝罪】の他に、自分のせいではないことを主張しようとして【悪気なしの表明】、【責任の軽減】など、様々な発話と一緒に用いていた。また、言い訳を[正直に言わない]会話では、JPは「赤ワインがこぼれて」という曖昧な表現を使うのに対して、THは曖昧な表現を使う他に、第三者にミスを押し付けるような言い訳が親・疎のいずれのデータでも見られ、興味深い結果となっている。

被害者の反応については、JPはいずれの状況においても【理解】のような肯定的な反応を示す傾向があるのに対して、THは疎の相手には受け入れ的な反応をするものの、親の相手には、否定的な反応をよく用いる。また、THは疎の相手には、間接的に不満を伝えようとする方法として【皮肉】も使用している。

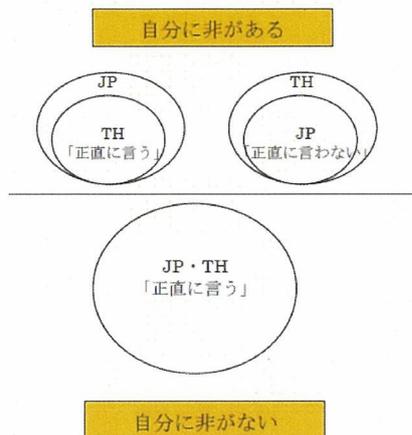
以上が本調査で得た結果である。次に、すべての結果からJPとTHの行動についてどのようなことが読み取れるかを考察したい。

8.2 考察

①加害者の使用する言い訳とそれに対する被害者の反応の関係

今回の調査結果からまず明らかになったのは、加害者が遅刻の原因や被害者の所有物に生じた被害の原因を正直に言うか否かという選択は、状況の内容と深く関わっているということである。つまり、自分に非がない状況では、JP と TH は被害の原因を[正直に言う]が、自分に非があると、JP も TH も原因を[正直に言わない]傾向があり、特に TH はそれが顕著である(図 8-(1))。

図 8-(1) 加害者が選択する言い訳の傾向の日・タイ比較



次に確認されたのは、加害者の言い訳の使用が被害者の反応に影響しないということである。遅刻あるいは所有物に生じた被害の真の原因は、基本的には加害者にしかわからず、被害者は言い訳の真相を調べようがない。従って、加害者がどのような内容の言い訳をしても、被害者はそれをそのまま受け止めるしかない。それゆえ、正直に言われても言われなくても、結果的に反応の仕方は同じになるのである。とはいえ、どの状況においても、JPとTHの間で言い訳に対する被害者の反応が相反する結果を呈しているのは興味深い。JP の場合、加害者側に非があってもなくても、被害側は【理解】、【受け入れ】などのような肯定的な反応を示すのに対して、TH の場合、加害者との関係が深ければ深いほど、被害者は否定的な反応を用いる傾向がある。あまり親しくない相手のときには、JP のように受け入れている TH もいたが、不満を感じたとき、【皮肉】を使って相手を遠回しに非難する TH もいた(図 8-(2))。

図 8-(2) 加害者の言い訳使用と被害者の反応の関係の日・タイ比較

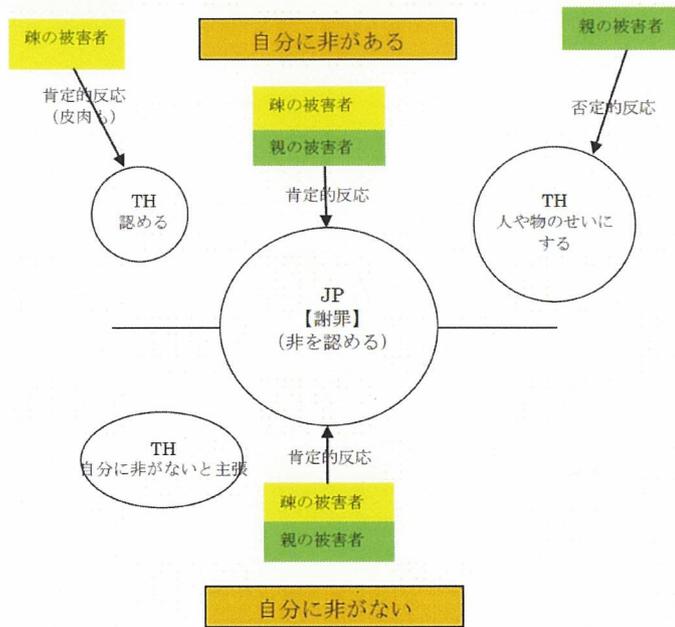


図 8-(2)からさらに言えることは、JP は何か問題が生じたとき、たとえ自分に非がなくても、「とりあえず謝っておく」ことが何よりも大事だと考えるということである。例えば、電車の遅れなどで、自分に非がなくても、結果的に自分が遅刻したことで相手に迷惑をかけてしまったり、あるいは相手の物を借りている間に何らかの原因で被害が生じたりすると、JP の調査対象者はそのことに対して少なからず罪の意識を感じ、【謝罪】でその非を認めて責任を取ることが多かった。これについて、日本人の社会的行動について研究している Pongthanayontakij (1999:18)は、「(日本人は)自分の所属しているグループを大切に考えているため、それぞれの立場に沿って行動をする義務がある」と考える。(中略)例えば、トップに立っているリーダーは会社全体に対して責任があるため、過失が生じたとき、たとえ自分が直接それを犯していなくても、責任を取らなければならない。時々責任の表明や自分のプライドを取り戻すために、武士のように自殺までする人もいる」(筆者訳)と述べている。このように、直接自分に非がなくても、少しでも関わっている場合には、責任を取る姿勢がうかがえる。内田(2009)もそれに近いことを述べている。すなわち、何かの過失を生じたとき、日本人は「加害者」と「被害者」という非対称的な関係を構築しなければならず、その関係が一旦決まれば、たとえ事実関係の根拠が薄弱でも、「加害者」の解釈は常に正しく、「被害者」は常に誤謬である。従って、「加害者」つまり「非を認めた」人間となってしまうと、何はともあれ相手に謝らなければならないという。

一方、南(1983)は、日本人の謝罪行為は恥意識の機能、つまり、人に非難される前に、自分で自分を非難するという自罰による一種の自己防衛の機能があることを指摘し、また自罰につ

いては、他罰の程度を軽くしてもらうのに役に立ち、先制攻撃ではなく先制防御のはたらきをすることも述べ、恥意識と自罰の観点から説明しようとしている。

それに対して、TH は何か問題が生じたとき、その原因が自分の行動によるものでなければ、どこまでも非がないことを主張しようとする。原因が自分の行動によるものであれば、JP のように非を認める人もいたが、多くは他人や物のせいにする。TH の調査対象者間で見られた言い訳内容の違いは、何によって生じたのだろうか。調査結果から、それは相手からの反応と深い関係にあるのではないかと思われる。TH は相手と仲が良い場合、互いに思ったり感じたりしたことをそのまま言えるため、相手に迷惑や被害を与えた場合は、否定的な反応を返される可能性があると予測できる。そのため、被害の原因を最初から正直に言わないのは、可能な限り否定的な反応をされないようにするためだと推測される。その好例として、親友との待ち合わせに遅刻した状況で使用された言い訳が挙げられる。多くの TH の調査対象者が使用した、正直にいわない言い訳では、誰もが知っているバンコクのひどい渋滞を言い訳に使用していた(=ステレオタイプの使用)。これは、渋滞を理由にすれば責めようがなく、否定的な反応を回避しやすいと考えていることの現れであるといえるのではないだろうか。

TH における加害者と被害者の関係でもう一つ言えることは、被害者が否定的な反応をするとき、加害者との関係によって、反応の質が違うということである。親の相手には、今後の付き合いを考える上で、単にその場を取り繕うために肯定的な反応をするよりは、否定的な反応であっても本心を言った方がいいと TH は考える。その意味で、たとえきつく聞こえても、感情がストレートに反映されている否定的な反応は、親しい友達同士の関係を維持するのに大事な役割を果たすことになる。反対に、普段あまり付き合いがない疎の相手には【文句】、【指摘】、【責める】などの否定的な反応をすると、品格を問われかねないため、【皮肉】などを使い、遠回しに相手を叱るのである(図 8-(2))。

②使用される発話機能と設定要因の関係

②-1 使用される発話機能と被害の原因(間接的・直接的)

本研究の結果を見ると、JP の調査対象者が使用する発話機能は、被害が間接的あるいは直接的に引き起こされた場合でも傾向は同じであり、どの状況においても JP の加害者は【言い訳】と共に【謝罪】をよく使用している。しかし、《直接・物》の自分に非があるような状況では、【悪気なしの表明】などの自己防衛的な発話の使用も多少見られた。それに対して、TH は自分に非がない場合は、【言い訳】と共に【責任の軽減】や【責任の回避】などのような自己防衛的な発話が多く見られる。そ

して自分に非があると、【悪気なしの表明】の発話が増える。

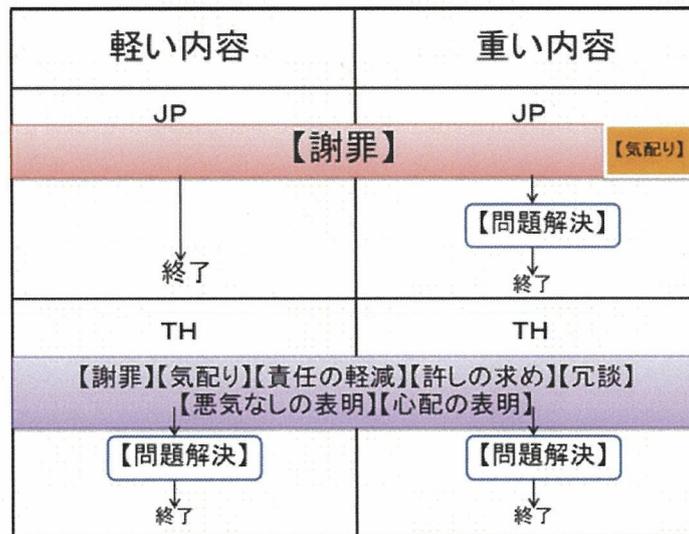
被害の原因が間接的であるか直接的であるかによって加害者の発話機能が異なるのは、上述したように被害者がとる反応の予測に影響されていると考えられる。つまり、JPは自分に非がない場合、その非を認めれば相手に許してもらえるのではないかと予測できるため、【謝罪】が用いられやすいが、自分に非がある場合であると、相手から責める恐れがあるので、それを防ぐために、【悪気なしの表明】のような自分を守ろうとする姿勢が現れたのではないかと考えられる。一方、THが自分に非がないとき【悪気なしの表明】をするのは、自分のせいではないと主張しなければ、被害者に責められるからである。反対に自分に非があれば、責められる度合いを少しでも軽くするために、【責任の軽減】や、【責任の回避】などが用いられていると推測できる。

②-2 使用される発話機能と内容の軽重

使用される発話機能は、言い訳の段階では内容の軽重による違いがあまり見られないものの、その段階を越えると、被害の程度による違いがみられる。軽い状況では単に【謝罪】で済むことが多いが、重い状況になると、問題解決まで続く会話が多かった。また、問題解決といってもJPとTHとは若干異なり、THの方がJPよりも解決方法として具体的な案を出している。そして、第三者に迷惑をかけるような状況では、日本語のデータではその人(作家)に【気配り】するような発話も見られている。

第7章で述べたように、JPの場合は、相手のバッグに被害を与えた場面以外では、【謝罪】で済む会話が最も多かったのに対して、THの場合は、被害の程度によって解決の仕方が異なる。例えば、遅刻場面も、買い物約束に遅刻した程度なら、多くのTHの調査対象者は謝ってすぐに次の行動の共同要求に移るが、第三者にまで被害が及ぶような被害の程度が重い場合は、遅刻した人にだけでなく、迷惑がかかった作家に対しても直接謝るという解決の仕方を提示するTHが多かった。一方、相手の物に被害が発生した状況では、被害そのものがどの程度であっても、THは損害した物を買って返すといった弁償の申し出が目立っている。

図 8-(3) 使用される発話機能と内容の軽重の日・タイ比較



この結果から読み取れるのは、JPは発生した問題に対して謝罪することで責任をとるが、THは具体的な案を出すことで責任を取るということであろう。とはいえ、JPは謝罪だけをして解決方法を示そうとしないわけではなく、調査で設定した言い訳の段階では、たまたまJPの方がTHよりよく謝罪をしているが、もう少し会話が長くなってくれば、JPも具体的な解決方法を出すケースも出てくると思われる。THは言い訳の段階が終わると、次に要求されるのは謝罪ではなく、具体的な問題解決の提案になる。そのため、今回の結果では、本稿で「問題解決」と呼ぶ段階でJPが主に謝罪を行っているのに対して、THは様々な具体的な提案をしているという違いが見られたのであろう(図 8-(3))。

②-3 使用される発話機能と親疎関係

本稿の分析結果では、使用される発話機能は相手との親疎関係に左右されることがわかった。JPの場合、親の相手に対しては【埋め合わせの申し出】のような親しさを表す発話の使用が現れている。一方、THは相手との親しさを現す【冗談】、【許しの求め】、加害者側からの【埋め合わせ要求】のような発話がある。さらに上述のように、疎の相手を非難する手段として【皮肉】の発話が使われる会話もあった(表 8-(5))。

表 8-(5) 使用される発話機能と親疎関係の日・タイ比較

		親の相手	疎の相手
被害者	JP	【理解】	【理解】【気遣い】【受け入れ】【許し】
	TH	【文句】【指摘】【責める】【埋め合わせの要求】	【理解】【気遣い】【受け入れ】【許し】【皮肉】
加害者	JP	【謝罪】【埋め合わせの申し出】【問題解決方法の提案】	【謝罪】【埋め合わせの申し出】【問題解決方法の提案】
	TH	【冗談】、【許しの求め】、【悪気なし表明】など	【努力の表明】、【悪気なしの表明】、【責任の軽減】、【責任の回避】など

なぜ JP の会話には TH ほど豊富な発話が見られず、しかも【皮肉】のようなマイナスイメージがある発話の使用がほとんど見られないのだろうか。本調査の結果で見られたように、JP はいくら相手の行動に不満を感じていても決して表に出さず、よく「うんうん」と【理解】を示している。ここで JP が示した【理解】はすなわち、相手を許していることを意味するのではないものの、【理解】という肯定的な態度を呈したことで、相手もその好意を受け入れて謝罪しやすくなる。結果的にその後口論になるようなことも起こらず、穏便に会話が終了することにつながる効果があると思われる。この理解の表明は、日本人の拒否の仕方の一つだとも考えられる。きっぱりと断るような方法を好まない日本人は相手の面子をつぶさないように曖昧な表現を使っているのだろう。このような表現は、日本人の考え方や、行動を知らない人には不誠実で、物事をはっきりしないと誤解される恐れがあると思われる。

それでは TH の場合はどうだろうか。今回の調査によれば、TH はあまり親しくない相手に直接的に文句を言ったり、責めたりはしないが、親友の相手には直接的に批判したり、汚い言葉で叱咤することが比較的多いことがわかった。あまり親しくない相手に直接文句を言ったり責めたりしない行動は、第2章の先行研究でも言及した Jaisue (2006) の論が有用である。Jaisue (2006)はこのようにタイ人の行動を「論争の回避」の行動と呼んでいる。それは Suntaree (1979)が言う“Relations Orientation”のようなタイ社会、つまり、様々な人と知り合いになったり、人間関係の維持をしたりすることが重要だと考える社会で生きる人間にとっては宿命的だといえる。この価値観が存在するからこそ、相手と明示的に対立せず、直接的な不満を表明しないのである (Jaisue 2006:152 引用)。また、Cooper and Cooper (1997: 153-157)も「タイでは面と向かっての批判は暴力の一形式と見られており、その理由は、人を傷つけ、表面的な調和を脅かすからだ」と述べ、タイ人を叱るときは、ストレートに言うよりも、例えば遅刻した社員に対して、「引っ越したのかい？」のように、質問を使って間接的に咎めた方が関係を悪くしないで済むと説明している。これらの指摘から、TH は誰かを批判するとき、遠回しな言い方で相手に気付かせようとする方法を好むと考えられる。ただし、Cooper and

Cooper (1997) は、この「遠回しに言う」表現が皮肉になってはいけないとも書いているが、これは、Cooper and Cooper が滞在していた時期 (1980 年代)、もしくはそれ以前のタイ社会を反映した意見ではないかと推察される。確かにタイ社会では、汚い言葉や皮肉などを言うてはならないということが一般的なマナーとされてきたが、今回のデータでは、調査対象者が若い世代であったため、伝統的なマナーをあまり重んじず、皮肉を使って相手のことを批判したと思われる。

また、調査結果に見られたように、JP はどの相手に対しても加害者も被害者もあまり変わらない行動を取っているが、TH は相手との親疎関係により行動が異なっている。特に、被害者の反応は、相手が親友であれば否定的な反応を示される可能性が高い。これは Samakkarn (1978) が述べているように、親友という関係は人間関係に生じる不和なども乗り越えて築かれたものであり、喧嘩をしても関係が変わらないということを意味する。親友に自分の不満が言えることはお互いの性格の勉強にもなるし、今後の付き合いの上で大切であると考えられる。

③[正直に言わない]言い訳の日タイ比較

最後に、自分に非がある場合、JP は、[正直に言わない]際に使用する言い訳として、主に曖昧な表現の使用の方法を使用しているが、TH はステレオタイプの使用や、第三者への罪の押し付けなど様々な方法を使用している結果となった。JP がなぜ曖昧な表現だけを使用するのかといえば、他人や物のせいにして、もし相手にばれたら互いの関係がさらに悪化する可能性があり、それを恐れて、曖昧な表現で相手の想像に任せる方がいいと考えたのではないかと推測される。

一方、TH が様々な方法を使って自分の非を否認しようとする背景には、タイ社会特有の価値観の一つである「サクスイー」(対面、面目、勢威)と関係があると考えられる。Boonmee (1992) は、このタイ人の「サクスイー」を、階級や地位によって与えられる「ギアート」(榮譽)、神聖な存在によって付与される「バーラミー」(カリスマ性)、前世の善業の応報である「ワーサナー」(福分)、そして「サブシン」(財産)と関連付け、各々が有している「サクスイー」は各自が持っているこれらの要素と比例するとし、普段タイ人は「サクスイー」をどのぐらい持っているかを比べあつたりはしないものの、他人の「サクスイー」を傷つけないよう気をつけるという暗黙の了解でタイ社会は成り立っているのだという。従って、非を認めて被害者から非難を浴びるというのは、タイ人にとって「サクスイー」を失うことになり、辱められることになる。言ってみれば、面目をつぶされるのと同じである。そのため、自分の「サクスイー」を保とうとしてタイ人は、ステレオタイプや、第三者への罪の押し付けなど様々な方法を使って[正直に言わない]ことを選ぶのではないかと考えられる。

8.3 今後の課題

本稿では、ソーピットウツティウオン(2010)を基にして、言い訳が起こりうる状況を、待ち合わせした約束に遅刻した場面から、相手の所有物に被害を与えた場面にまで範囲を広げ、日本語母語話者とタイ語母語話者の言い訳と、それに対する反応を中心に分析してきた。以下、残されたいくつかの課題をあげておく。

まず、調査方法に関する問題である。本稿で用いたロールプレイ手法は、相手とのやりとりを採取できる点で優れているが、自然さに欠け、いかにも演じているかのような会話がいくつかあるのが事実である。また、状況の設定も不自然な場面がある。例えば、<場面8 あまり親しくない同等の相手に貸してもらった大事なバッグに赤ワインをこぼした>という状況では、「このような大事な物をあまり親しくない相手からはなかなか借りられません」という意見があった。また、演劇鑑賞の約束に遅刻するような場面では、実際には言い訳を使用しないですぐ行動に移ることも多いのではないかと考えられる。

相手の設定条件は、ソーピットウツティウオン(2010)の反省点を踏まえ、被験者が経験したことのないような「先生」という立場は省いた。また、先輩と後輩のような上下関係も、タテの人間関係が強い日本社会では一般的であるものの、タイ社会では比較的馴染みがうすく日本と比較しにくいいため、本調査の設定条件から外した。最終的に、相手との関係は親疎という要因だけに絞ったが、親しさの程度までは設定せず対象者の経験に任せていたため、各調査対象者の親しい関係への理解が異なる恐れがあり、そのことがロールプレイにおける言語行動に影響を及ぼしたことが懸念される。

また、調査協力者の問題が挙げられる。今回調査に協力してくれた全員が20代の女性であったため、得た結果はあくまでも20代女性の場合の結果であり、実際に同じ場面を違う年代の女性同士、あるいは男女のペア・男性同士に会話してもらったら、異なる結果となる可能性がある。さらに、調査対象者数が少なく、調査を行った地域も限定的であることにより、結果を一般化することが困難であるという問題も残る。従って、今後の課題としては、性別、年齢、調査対象者の人数、地域の条件をより考慮したデータを収集し、同様の分析を行う必要があると思われる。

データの分析については、まず、【文句】、【非難】、【皮肉】のように、近い意味を持った発話機能の区別が、使用場面によっては曖昧になってしまっている。そして、今回は会話を中心に分析と考察を行ったが、ロールプレイのデータにおいては、会話すなわち言葉によるやりとり以外の部分、例えば、「沈黙」あるいは「間」や様々な種類がある「笑い」、「ため息」などがあり、それぞれにも意味が含まれている。これらの部分にも文化的背景が反映されると思われるため、今後の課題として、会話の部分と一緒に吟味する方法を考えなければならない。

最後の課題として、第7章で行った【問題解決】の問題点を指摘しておきたい。本稿は【言い訳】を巡る様々な要素を中心に分析するのが目的であるため、【問題解決】もまた【言い訳】の延長にあると捉え、【言い訳】をした調査者が最終的にどのような【問題解決】の方法を使用するのかというところにしか着目しなかった。しかし、【問題解決】の段階に至るまでにも加害者と被害者の興味深いやりとりが行われ、そのパターンを詳細に検討すれば、さらに【言い訳】に対する理解も深まり、【問題解決】の段階についても、その特徴がより明確になると思われる。このことは稿を改めて論じたい。

以上、本稿で得られた結果は、限定された年齢、性別、地域の調査対象者による言い訳の言語行動となっているため、結果を一般化するには不十分であるが、今回の分析から、日本語とタイ語の違い、ひいてはその背後にある考え方について考察することができた。この結果をさらに日本語教育に応用していくために、今後も研究を深めていきたいと考えている。

参考文献

〈日本語文献〉

- 池田理恵子(1993)「謝罪の対照研究—日米対照研究 face という視点からの一考察—」『日本語学』12(11):13-20
- 岩城雄二郎(1985)『日タイ比較文化考』頸草書房
- インタラタイ・かつ代(1985)『「顔」の悪い日本人』学生社
- ヴァンダーヴェーケン, ダニエル著, 西山文夫・渡辺扶美枝・渡辺良彦訳(1997)『意味と発話行為』ひつじ書房
- ウィッターヤーパーンヤーン, スニサー・樋口かおる(2012)『日本人のふしぎコミュニケーション』祥伝社
- 内田 樹(2009)『日本辺境論』新潮社
- 榎本博明(2012)『「すみません」の国』日本経済新聞出版社
- 大谷麻美(2001)「謝罪表現の日・英語対照研究—談話における機能中心に—」『日本英語コミュニケーション学会紀要』10(1):38-37
- 大淵憲一・渥美恵美(2007)「弁明選択の心理的および状況的規定因と文化的価値:何が謝罪を困難にするか?」『文化』70(3・4):1-9. 東北大学文学会
- 大宮冬洋(2011)「職場編『言い訳、叱る、頼む、断る』テクニック(解明!年収2000万のユーモア心理術『すべらない』話し方)—(場面別・気の利いた『ジョーク、洒落、比喻』の使い方)」『プレジデント』49(32):54-57
- 岡本真一郎(2007)『ことばのコミュニケーション—対人関係のレトリック』ナカニシヤ出版
- 菅 摂子(2009)「日独の謝罪行動に関する研究—日本語母語話者とドイツ語母語話者とする日本語学習者を対照に—」大阪大学大学院言語文化研究科国際言語社会専攻修士学位論文
- 粕川正光・藤崎哲郎・王晋民(2010)「友人間の謝罪場面における謝罪内容の重要性認知」『千葉科学大学紀要』(3):63-68
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明(2008)「過失に対する赦しの評価に怒り感情・信憑性・重大性の評価が及ぼす影響」『感情心理学研究』15(2):115-123
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明(2009)「弁明としてのウソが利益とコストの評価に及ぼす影響」『感情心理学研究』16(3):220-228
- 熊谷智子(1993)「研究対象としての謝罪—いくつかの切り口について—」『日本語学』12(12):4-12
- 熊取谷哲夫(1993)「発話行為対照研究のための統合的アプローチ—日英語の「詫び」を例に—」『日本語教育』(79):26-40
- ゴッフマン, アーヴィング・著, 浅野敏夫訳(2002)『儀礼としての相互行為』法政大学出版
- 小林琢哉(1997)「日常場面における規則違反の言い訳検討」『教育心理学年報』(39):293 日本教育心理学会
- 近藤富美子(2002)「日米比較「謝罪」考—謝罪のあり方とその照準」『広島国際学院大学現代社会学部』(3):49-62
- 笹川洋子(1997)「儀礼行動としての『笑い』—電話会話にみられる笑いを手がかりとして」『親和國文』(32):84-109
- 佐藤直樹(2011)『なぜ日本人はとりあえず謝るのか「ゆるし」と「はずし」の世間論』PHP 新書

- 宍戸道康・平賀正子・西川盛雄・菅原勉(1996)『表現と理解のことば学』ミネルヴァ書房
 司馬遼太郎・キーン, ドナルド(1984)『日本人と日本文化』 央公論社
 荘司和子(1989)『マイペンライ:タイ語ってどんなことば?』 筑摩書房
 城 仁士(2009)「言い訳方略から見たソーシャルスキルとトラブル処理能力との関係」『教育心理学年報』(51):37 日本教育心理学会
 シンハウオーラサップ, プラターンポーン(2007)「依頼場面における『感謝』発話の日・タイ対照研究—親しい上下・同等関係の会話データの分析—」 大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻修士学位論文
 ソーピットウッティウオン, ユパワン(2012a)「言い訳の日タイ対照分析—所有物に被害を与えた状況における言い訳と相手の反応—」『日本語教育』60:63-78. 韓国日本語教育学会
 ソーピットウッティウオン, ユパワン(2012b)「マイペンライの用法の再考—タイ語母語話者の言い訳場面におけるマイペンライの使用例を中心に—」『間谷論集』(6) (印刷中) 日本語日本文化教育学会
 ソーピットウッティウオン, ユパワン(2010)「遅刻場面における言い訳の日タイ対照分析」 大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻修士学位論文
 高木 剛(1985)『タイ見たまま感じたまま』 日本労働協会
 高木哲也(1996)『謝らないアメリカ人すぐ謝る日本人』 草思社
 高野秀行(2000)『極楽タイ暮らし『微笑みの国』のとんでもないヒミツ』 ワニ文庫
 滝浦真人(2008)『ポライトネス入門』 研究社
 田中忠治(1992)『タイ歴史と文化』 日中出版
 田中義厚(2005)「トラブル解決の達人が謝り方の極意を指南 大失敗も水に流す「カンペキな言い訳」(特集「話し方」革命—解明! 9割の人は「言い回し」で損をしている)』『プレジデント』 43(5):68-71
 筒井佐代(2012)『雑談の構造分析』 くろしお出版
 鶴田育子(1987)『オラワン家の居候』 文藝春秋
 中山晶子(1995)「親しさと冗談・からかいの表現」『日本語と日本語教育 阪田雪子学生古稀記念論文集』:163-185
 西阪 仰(2008)『分散する身体:エスノメソドロジー的相互行為分析の展開』 頸草書房
 西阪仰・串田秀也・熊谷智子(2008)「特集『相互行為における言語使用:会話データを用いた研究』について」『社会言語科学』 10(2):14-15
 西村史子(2007)「断りに見られる言い訳の日英対照分析」『世界の日本語教育』 (17):93-112
 橋内武(2007)『ディスコース談話の織りなす世界』 くろしお出版
 浜田昌子・成田高宏(2007)「タイ人日本語学習者の「申し出の断り」表現に見られる『マイペンライ』の影響—ポジティブ・ポライトネスの表現として」『小出記念日本語教育研究会論文集』(15):39-53
 藤森弘子(1995)「日本語学習者に見られる『弁明』意味公式の形式と使用—中国人・韓国人学習者の場合—」『日本語教育』 (87):79-90
 堀江インカピロム, プリヤー(1993)「謝罪の対照研究—日タイ対照研究—」『日本語学』 12(12):22-28

- 堀江インカピロム, プリヤー(1995)『マイペンライ:タイ人の言語行動を特徴づけることばをその文化的背景についての考察 その1』 国立国語研究所
- 堀江インカピロム, プリヤー(2000)『マイペンライ:タイ人の言語行動を特徴づけることばをその文化的背景についての考察 その2』 国立国語研究所
- 前田武彦(1989)「言語行動戦略としての言い訳」『大阪産業大学論集』(76):99-109 大阪産業大学学会
- 三宅和子(1994)「「詫び」以外で使われる詫び表現—その多様化の実態とウチ・ソト・ヨソの関係—」『日本語教育』(82):134-146
- 南 博(1983)『日本的自我』 岩波書店
- メイナード, 泉子・K(2005)『談話分析の可能性—理論・方法・日本語の表現性』 くろしお出版
- ルンティエーラ, ワンウィモン(2005)「タイ語を母語とする日本語学習者と日本語母語話者の断り表現に関する研究—語用論的特徴をふまえた日本語の教育方法の確立を目指して—」 大阪外国語大学大学院博士学位論文
- 山岡政紀(2008)『発話機能論』 くろしお出版
- 山本博文(2003)『切腹:日本人の責任の取り方』 光文社新書
- 吉田好美(2010)「勧誘場面の断りに見られる言い訳と不可表現及び勧誘者の言語行動について—日本人女子学生とインドネシア女子学生の比較」『言語文化と日本語教育』(20):11-20 お茶の水女子大学日本言語文化研究会
- 〈英語文献〉
- Benedict, R. (1946) *The Chrysanthemum and the Sword: Patterns of Japanese Culture*. Boston: Houghton Mifflin. [翻訳 長谷川松治(1967)『菊と刀』 教養文庫]
- Cooper, R. and Cooper, N. (1996) *Culture Shock! Thailand*. Tokyo: Times Editions. [翻訳 増永豪男(1997)『カルチャーショック 03:タイ人』 河出書房新社]
- Glenn, P. (2010) Interviewer Laughs: Shared Laughter and Asymmetries in Employment Interviews. *Journal of Pragmatics* 42(6):1485-1498
- Gonzales, M. H., Pederson, J. H., Manning, D. J., & Wetter, D. W. (1990) Pardon my Gaffe: Effects of Sex, Status, and Consequence Severity on Accounts. *Journal of Personal Relation and Social Psychology* 58(4):610-621
- Gonzales, M. H. (1992) A Thousand Pardons: The Effectiveness of Verbal Remedial Tactics during Account Episodes. *Journal of Language and Social Psychology* 11(3):133-151
- Gonzales, M. H., Manning, D. J., & Haugen, J. A. (1992) Explaining our Sins: Factors Influencing Offender Accounts and Anticipated Victim Responses. *Journal of Personality and Social Psychology* 62(6):958-971
- Heritage, J. (1988) Explanation as Accounts: A Conversational Analytic Perspective. In: C. Antaki (ed.) *Analysing Everyday Explanations*, 127-144 London: Sage.
- Hollinger, C. (1977) *Mai Pen Rai Means Never Mind*. Tokyo: John Weatherhill and Asia Book
- Holmes, H. and Tangtongtavy, S. (1995) *Working with Thais: A Guide to Managing in Thailand*. White Lotus Press. [翻訳 末廣昭(2000)『タイ人と働く:ヒエラルキー的社會と気配りの世界』 めこ

~]

- Itoi, R., Ohbuchi, K., & Fukuno, M. (1996) A Cross-Cultural Study of Preference of Account: Relationship Closeness, Harm Severity and Motives of Account Making. *Journal of Applied Social Psychology* 26(10) :913-934
- Jefferson, G. (1984) On the Organization of Laughter in Talk About Troubles. In: J.M. Atkinson and J.C. Heritage (eds.) *Structure of Social Action: Studies in Conversation Analysis*, Cambridge University Press: 346-369
- Jefferson, G. (1984) On Stepwise Transition from Talk about a Trouble to Inappropriately Next-positioned Matters. In J. Atkinson & J. Heritage (eds.) *Structures of Social Action*: 191-222 Cambridge University Press.
- Norrik, N.R. (1993) *Conversational Joking: Humor in Everyday Talk*. Bloomington: Indiana University Press.
- Norrik, N.R. (2003) Issues in Conversational Joking. *Journal of Pragmatics* 35(9): 1333-1359
- Panpothong, N. (1996) *Pragmatic Study of Verbal Irony in Thai*. Ph.D. Dissertation, University of Hawaii.
- Potter, J. and Hepburn, A. (2010) Putting Aspiration into Words: "Laugh particles", Managing Descriptive trouble and Modulating Action. *Journal of Pragmatics* 42(6): 1543-1555
- Sacks, H. (1974) An Analysis of the Course of a Joke's Telling in Conversation. In: R. Bauman and J.F. Sherzer (eds.) *Explorations in the Ethnography of Speaking*, 337-354. Cambridge University Press.
- Schegloff, E.A. (2001) Getting Serious: Joke → Serious "No" . *Journal of Pragmatics* 33(12): 1947-1955
- Schegloff, E.A. (2007) *Sequence Organization in Interaction: A Primer in Conversation Analysis 1*. Cambridge University Press.
- Schönbach, P. (1980) A Category System for Account Phrases. *European Journal of Social Psychology* 10(2): 195-200
- Schönbach, P. (1990) *Account episodes: The management or Escalation of Conflict*. Cambridge University Press.
- Scott, M.B. and Lyman, S.M. (1968) Accounts. *American Sociological Review* 33 (1) :46-62
- Searle, J.R. (1969) *Speech Acts an Essay in the Philosophy of Language*. Cambridge University Press
- Semin, G.R. and Manstead, A.S.R. (1983) *The Accountability of Conduct: A Social Psychological Analysis*. Academic Press
- Shimada, T. (2003) The Impacts of Reproach, Offense Severity, and Gender on Preference for Accounting Tactics. *Tenri University Journal* (204) :29-44.
- Shimada, T. (2004) Accounts and politeness: Towards a More Comprehensive Model of Account-Giving. *Tenri University Journal* 55(2) :43-58.
- Shimada, T. (2006) An Exploration into the Account-Making Process: The Effects of Self-Esteem, Reproach, Offense Severity, and Motives on Accounts. *Tenri University Journal* (221) : 129-151

Vöge, M. (2010) Local Identity Processes in Business Meetings Displayed through Laughter in Complaint Sequences. *Journal of Pragmatics* 42(6): 1556-1576

Wada, M. (1998) The Mitigative Effects of an Apology and Excuses in a Social Predicament. *Journal of Yamanashi Eiwa Junior College* (32): 84-72

(タイ語文献)

กุลพร โพรศิริเรือง. การศึกษาบทบาทของปริบทในการตีความเจตนาของรูปประโยคคำถามในภาษาไทย. วิทยานิพนธ์ปริญญาโท สาขาวิชาภาษาศาสตร์ ภาควิชาภาษาศาสตร์ คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๔๖.

Phothisriruang, Kunlaporn (2003) 「タイ語の疑問文の意味を解釈する文脈の役割の研究」 チュラーロンคอน大学文学部言語学研究科言語学科修士学位論文

คริสโตเฟอร์ ไรท์. Cross-Culture ฟรังไม่เข้าใจ คนไทยไม่แก้. กรุงเทพฯ : สำนักพิมพ์เนชั่นบุ๊คส์, ๒๕๔๕.

Wright, Christopher (2006) 『Cross-Culture : 白人には理解できない、タイ人にも意味不明』 ネーションブックス

จิรัตน์ เพชรรัตน โมรา. การศึกษาการขอโทษของผู้พูดที่มีสถานภาพทางสังคมต่างกันในประเทศไทย. วิทยานิพนธ์ปริญญาโท สาขาวิชาภาษาไทย คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๔๔.

Patcharatmora, Jeerarat (2001) 「タイ語における社会的地位の異なる発話者の謝罪の研究」 チュラーロンคอน大学文学部タイ語研究科修士学位論文

ชาพิมณัฐ บุญวิทยา. การศึกษาเปรียบเทียบกลวิธีตอบรับการขอโทษในภาษาไทยญี่ปุ่นและภาษาไทย. วิทยานิพนธ์ปริญญาโท สาขาวิชาภาษาและวรรณคดีญี่ปุ่น ภาควิชาภาษาตะวันออก คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๕๐.

Bunwittaya, Chaphimon (2007) 「謝罪に対する反応のストラテジーのタイ・日対照研究」 チュラーロンคอน大学文学部東洋言語学科日本語と日本文化研究科修士学位論文

ชาย โพรธิสิตา. “ไม่เป็นไร.” ใน คำ: ร่องรอยความคิดความเชื่อไทย. กรุงเทพฯ : สำนักพิมพ์แห่งจุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๓๕ : หน้า ๓๒๕-๓๓๖.

Phothisita, Chai (1992) 「マイペンライ」 『ことば: タイの思想と信仰の形跡』 チュラーロンคอน大学出版社 : 329-336

ทัศนีย์ เมฆถาวรวัฒนา. วัจนกรรมการขอโทษในภาษาไทย. วิทยานิพนธ์ปริญญาโท สาขาวิชาภาษาศาสตร์ คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๔๑.

Mekthavornvattana, Thasanee (1998) 「タイ語における謝罪の言語行為の研究」 チュラーロンคอน大学文学部言語学研究科修士学位論文

ธีรยุทธ บุญมี. “ศักดิ์ศรี – หน้าตา.” ใน คำ: ร่องรอยความคิดความเชื่อไทย. กรุงเทพฯ : สำนักพิมพ์แห่งจุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๓๕ : หน้า ๒๖๕-๒๗๕.

Boonmee, Theerayut (1992) 「サクスイーとナーター」 『ことば: タイの思想と信仰の形跡』 チュラーロンคอน大学出版社 : 265-275

นิธิ เอียวศรีวงศ์. (ต่าง) คิดในคอก (ตน) ว่าด้วยวัฒนธรรมและวิธีคิด. กรุงเทพฯ : สำนักพิมพ์มติชน, ๒๕๔๖.

Eawsriwong, Nithi (2003) 『(それぞれの) 小屋で(思い思いに) 考える: 文化と考え方について』 マティchon出版社

- นุชนารถ เฟ็งสุริยา. การใช้ภาษาเพื่อแสดงการตำหนิของคนไทย. วิทยานิพนธ์ปริญญาโท สาขาวิชาภาษาศาสตร์เพื่อการศึกษา คณะศิลปศาสตร์ มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์, ๒๕๔๕.
Pengsuriya, Nuchanart (2006)「タイ人の批判表現の研究」タマサート大学文学部コミュニケーション言語学研究科修士学位論文
- บัณฑิต โรจน์อารยานนท์ และคนอื่นๆ. รู้จักไทยเข้าใจญี่ปุ่น. กรุงเทพฯ : สำนักพิมพ์ภาษาและวัฒนธรรม สมาคมส่งเสริมเทคโนโลยี (ไทย-ญี่ปุ่น), ๒๕๔๗.
Rojarayanont, Bundhit 他 (2004)『日本タイ:クロスカルチャー』泰日経済技術振興協会語学文化出版部
- ภาสพงศ์ ผิวพอใช้. การตอบรับคำขอโทษในภาษาไทย. วิทยานิพนธ์ปริญญาโท สาขาวิชาภาษาไทย คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๔๕.
Pewporchai, Passpong (2002)「タイ語における謝罪の受け入れの研究」チュラーロンコーン大学文学部タイ語研究科修士学位論文
- รุ่งอรุณ ใจชื่อ. วัจนกรรมการแสดงความไม่พอใจในภาษาไทย : กรณีศึกษานิสิตนักศึกษา. วิทยานิพนธ์ปริญญาโท สาขาวิชาภาษาไทย คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๔๕.
Jaisue, Rungaroon (2006)「タイ語における不満表現の言語行為の研究:大学生の事例を中心に」チュラーロンコーン大学文学部タイ語研究科修士学位論文
- วรรณวรรณ เฟื่องจรรศักดิ์. ศึกษาเปรียบเทียบกลวิธีการขอโทษของคนญี่ปุ่นและคนไทย. วิทยานิพนธ์ปริญญาโท สาขาวิชาภาษาญี่ปุ่นศึกษา คณะศิลปศาสตร์ มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์, ๒๕๔๘.
Fuangkajonsak, Worawan (2005)「謝罪ストラテジーの日・タイ対照研究」タマサート大学文学部日本研究科修士学位論文
- วิไลลักษณ์ รุ่งเรืองอนันต์. ผลของความใกล้ชิดและการรับรู้ความรุนแรงของสถานการณ์ต่อการให้อภัยระหว่างบุคคลที่มีความสัมพันธ์ฉันเพื่อน. วิทยานิพนธ์ปริญญาโท สาขาวิชาจิตวิทยาสังคม คณะจิตวิทยา จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๔๔.
Rungruanganant, Wilailak (2001)「状況との距離とその深刻度の認知が与える友達同士の許しへの影響に関する研究」チュラーロンコーン大学心理学部社会心理学研究科修士学位論文
- วิสันต์ สุขวิสิทธิ์. วัจนกรรมการบริภาษในภาษาไทย. วิทยานิพนธ์ปริญญาโท สาขาวิชาภาษาศาสตร์ คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๔๗.
Sukwisith, Wison (2004)「タイ語における非難の言語行為の研究」チュラーロンコーン大学文学部言語学研究科修士学位論文
- มาริษา พงษ์ธนยตกิจ. “กลุ่มนิยมกับพฤติกรรมทางสังคมของคนญี่ปุ่น.” ใน ยุพา คลังสุวรรณ, บรรณาธิการ. รวมบทความญี่ปุ่นศึกษา. ปทุมธานี : โรงพิมพ์มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์, ๒๕๔๑ : หน้า ๑๔-๒๐.
Pongthanayontakij, Marisa (1998)「行動主義と日本人の社会行動」クランズワン, ユパー・編『日本研究論文集』タマサート大学印刷所 : 14-20
- สนิธิ สมัครการ. “ความขัดแย้ง ปัญหา และอนาคตไทย : พิจารณาจากค่านิยมทางวัฒนธรรมเป็นสำคัญ.” ใน ทิตยา สุวรรณชะชฎ, สนิธิ สมัครการ, เฉลียว นูริภักดี, บรรณาธิการ. สังคมและวัฒนธรรมไทย : ข้อสังเกตในการเปลี่ยนแปลง. รายงานการวิจัย(อัคราเนนา), ๒๕๒๑ : หน้า ๑๒-๕๕.
Samakkarn, Sanit (1978)「タイの対立・問題・将来:文化的価値観から考えて」スワンナシヨト,

テイツタヤー・サマツカーン, サニット・ブリーแพッดีเีย, シヤリアウ・編『タイの社会と文化:
変化に関する一考察』研究レポート(複写):32-59

สิริลักษณ์ หุ่นศรีงาม. การศึกษาประโยคภาษาไทยที่มีคำว่า “ทำไม” ทางด้านอรรถศาสตร์และวจนปฏิบัติศาสตร์.

วิทยานิพนธ์ปริญญาโทมหาบัณฑิต สาขาวิชาภาษาไทย คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๔๔.

Hunsringam, Sirilak (2001)「タイ語の『タンマイ(なぜ)』という表現がある文章の意味論と語用論
的研究」 チュラーロンコーン大学文学部タイ語研究科修士学位論文

สุธาสิณี พลอยขาว. วัจนกรรมการแสดงความไม่พอใจในกระดานสนทนาทางอินเทอร์เน็ต. วิทยานิพนธ์ปริญญาโทมหาบัณฑิต

สาขาวิชาภาษาไทย คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๕๑.

Ploykhao, Suthasinee, (2008)「インターネットの掲示板サイトに見られる不満表明の言語行為の
研究」 チュラーロンコーン大学文学部タイ語研究科修士学位論文

<参考 Web site>

<http://news.mthai.com/world-news/194444.html> (2012 年 10 月 20 日現在)

<http://www.oknation.net/blog/nfedlion/2012/10/19/entry-1> (2012 年 10 月 31 日現在)

<http://www.pattanakit.net/index.php?lay=show&ac=article&Ntype=53>, PAT&T (2012 年 11 月 20 日現在)

巻末資料 1 予備調査のロールカード

場面 1 被害者

立場 大学 4 年生(A)
相手 1 年生の時からあなたと同じ学部で在籍し、同じ専攻である親しい友達(B)
場所 ビッグマンの前
状況 あなたが 30 分約束相手を待っている状況を想像してください。
背景 あなたとその友達は、学部のイベントで必要なものを買う仕事を任されました。その買い物のために、今日の 10 時にビッグマンの前で待ち合わせをしています。ところが、10 時になっても、B さんはまだ来ていません。しかも、あなたに何の連絡もありません。10 時半になって、ようやく B さんが来ました。

その時にあなたは B さんに何と言いますか。B さんと会話をして下さい。

場面 1 加害者

立場 大学の 4 年生(B)
相手 1 年生の時からあなたと同じ学部で在籍し、同じ専攻である親しい友達(A)
場所 ビッグマンの前
状況 あなたが遅刻したせいで(朝寝坊や、準備が遅い、バスに乗り遅れたなど)待たせていた約束相手と会う状況を想像してください。
背景 あなたとその友達は、学部のイベントで必要なものを買う仕事を任されました。その買い物のために、今日の 10 時にビッグマンの前で待ち合わせをしています。ところが、あなたのせいで約束時間より 30 分遅れました。しかも、遅れることを A さんに連絡していません。あなたが 10 時半にようやくその待ち合わせ場所に着いたときには、すでに A さんはそこにいて、あなたを待っていました。

その時 A さんに何と言いますか。どうして遅刻したかを説明し、会話をして下さい。

場面 2 被害者

立場 大学 4 年生(A)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(B)
場所 ビッグマンの前
状況 あなたが 30 分約束相手を待っている状況を想像してください。
背景 あなたとその友達は、学部のイベントで必要なものを買う仕事を任されました。その買い物のために、今日の 10 時にビッグマンの前で待ち合わせをしています。ところが、10 時になっても、B さんはまだ来ていません。しかも、あなたに何の連絡もありません。10 時半になって、ようやく B さんが来ました。

その時にあなたは B さんに何と言いますか。B さんと会話をして下さい。

場面 2 加害者

立場 大学の 4 年生(B)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(A)
場所 ビッグマンの前
状況 あなたが遅刻したせいで(朝寝坊や、準備が遅い、バスに乗り遅れたなど)待たせていた約束相手と会う状況を想像してください。
背景 あなたとその友達は、学部のイベントで必要なものを買う仕事を任されました。その買い物のために、今日の 10 時にビッグマンの前で待ち合わせをしています。ところが、あなたのせいで約束時間より 30 分遅れました。しかも、遅れることを A さんに連絡していません。あなたが 10 時半にようやくその待ち合わせ場所に着いたときには、すでに A さんはそこにいて、あなたを待っていました。

その時 A さんに何と言いますか。どうして遅刻したかを A さんに説明して、会話をして下さい。

場面3 被害者

立場 大学の4年生(A)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部¹に在籍し、同じ専攻である親しい友達(B)
場所 映画館の前
状況 あなたが30分約束相手を待っている状況を想像してください。
背景 今日その親友と映画を見に行く約束をしています。その映画は10時半から始まるので、友人と10時に映画館の前で待ち合わせをしました。ところが、10時になっても、Bさんはまだ来ていません。しかも、あなたに何の連絡もありません。そして10時半ようやくBさんが来ました。また、Bさんが到着したときにちょうどその映画は始まりました。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面3 加害者

立場 大学の4年生(B)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部¹に在籍し、同じ専攻である親しい友達(A)
場所 映画館の前
状況 あなたが遅刻したせいで(朝寝坊や、準備が遅い、バスに乗り遅れたなど)待たせていた約束相手と会う状況を想像してください。
背景 今日その親友と映画を見に行く約束をしています。その映画は10時半から始まるので、友人と10時に映画館の前で待ち合わせをしました。ところが、あなたのせいで約束時間より30分遅れました。しかも、遅れることをAさんに連絡していません。あなたが10時半ようやく映画館に着いたときには、すでにAさんはいて、あなたを待っていました。また、到着したときにちょうどその映画は始まりました。

その時Aさんに何と言いますか。どうして遅刻したかをAさんに説明して、会話をして下さい。

場面4 被害者

立場 大学の4年生(A)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(B)
場所 劇場のロビー
状況 あなたが30分約束相手を待っている状況を想像してください。
背景 日タイ修好120周年の際、タイの大使館によってタイ古典舞踊の公演が行われる予定となった。しかし、それは大使館の招待で、チケットの枚数が限られているので、クラス内で抽選を行った。その結果としてあなたとBさんはタイ語専攻の代表としてこの公演を見に行くことになりました。公演は18時半開演なので、Bさんと18時に劇場のロビーで待ち合わせをしました。ところが、18時になっても、Bさんはまだ来ていません。しかも、あなたに何の連絡もありません。そして18時半ようやくBさんが来ました。また、Bさんが到着したときにちょうどその公演は始まりました。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面4 加害者

立場 大学の4年生(B)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(A)
場所 劇場のロビー
状況 あなたが遅刻したせいで(朝寝坊や、準備が遅い、バスに乗り遅れたなど)待たせていた約束相手と会う状況を想像してください。
背景 日タイ修好120周年の際、タイの大使館によってタイ古典舞踊の公演が行われる予定となった。しかし、それは大使館からの招待で、チケットの枚数が限られているので、クラス内で抽選を行った。その結果としてあなたとAさんはタイ語専攻の代表としてこの公演を見に行くことになりました。公演は18時半開演なので、Aさんと18時に劇場のロビーで待ち合わせをしました。ところが、あなたのせいで約束時間より30分遅れました。しかも、遅れることをAさんに連絡していません。あなたが18時半ようやく劇場に着いたときには、すでにAさんはいて、あなたを待っていました。また、到着したときにちょうどその公演は始まりました。

その時Aさんに何と言いますか。どうして遅刻したかをAさんに説明して、会話をして下さい。

場面 5 被害者

立場 大学の4年生(A)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部在籍し、同じ専攻である親しい友達(B)
場所 教室の前
状況 あなたが友達にものを貸している状況を想像してください。
背景 先週、友達 Bさんにハリー・ポッターの本を貸してあげました。今週末 Bさんに読んだ感想を聞きたいと思っていたら、ちょうど授業の前で Bさんに会いました。

その時にあなたは Bさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面 5 加害者

立場 大学の4年生(B)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部在籍し、同じ専攻である親しい友達(A)
場所 教室の前
状況 あなたが友達に貸してもらった本に折り目を付けた状況を想像してください。
背景 先週あなたは Aさんにハリー・ポッターの本を貸してもらって、週末の間に読んでしまおうと思いましたが、しかし、を読んでいる途中、あなたはつい本に折り目をつけてしまいました。今日その本を返すために持ってきました。ちょうど授業の前で Aさんを会いました。

その時 Aさんに何と言いますか。どうして本に折り目が付いたか Aさんに説明して、会話をして下さい。

場面 6 被害者

立場 大学の4年生(A)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(B)
場所 教室の前
状況 あなたが友達にものを貸している状況を想像してください。
背景 先週あなたは一緒に授業を取っている Bさんにノートを貸しました。Bさんはあなたのノートを週末の間に勉強すると言いました。今日自分のノートは役に立ったか Bさんに聞こうと思っていたところ、ちょうど授業の前で Bさんに会いました。

その時にあなたは Bさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面 6 加害者

立場 大学の4年生(B)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(A)
場所 教室の前
状況 あなたが友達に貸してもらったノートに折り目を付けた状況を想像してください。
背景 先週あなたは一緒に授業をとっている Aさんにノートを貸してもらって、週末の間に勉強しようと思いましたが、しかし、ノートを読んでいるうちに折り目をつけてしまいました。今日あなたはそのノートを返すために持ってきました。ちょうど授業の前で Aさんに会いました。

その時 Aさんに何と言いますか。どうしてノートに折り目が付いたかを Aさんに説明して、会話をして下さい。

場面7 被害者

立場 大学4年生(A)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部で在籍し、同じ専攻の親しい友達(B)
場所 大学の食堂
状況 あなたが友達に大事なものを貸している状況を想像してください。
背景 あなたの友達 Bさんが文学部のパーティーに参加するタイ語専攻の代表として選ばれました。このパーティーに参加するにはタイの民族衣装を着なければなりません。Bさんには衣装は持っていますが、バッグを持っていません。ちょうどあなたはタイのその衣装に合いそうなバッグを持っています。そこで、Bさんにそれを貸してあげました。今食堂でBさんを見ました。この前のパーティーについて聞こうと思っていたところ、ちょうどBさんもあなたのところに歩いて来ています。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面7 加害者

立場 大学4年生(B)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部で在籍し、同じ専攻の親しい友達(A)
場所 大学の食堂
状況 友達に貸してもらった大事なものに傷を付けた状況を想像してください。
背景 あなたは文学部のパーティーに参加するタイ語専攻の代表として選ばれました。このパーティーに参加するにはタイの民族衣装を着なければなりません。しかし、あなたには衣装は持っていますが、その衣装に合えそうなバッグは持っていません。ちょうどAさんがあなたに貸してくれました。しかし、パーティーではあなたはバッグに赤ワインをこぼしてしまいました。さらに、そのよごれは、いくら洗濯してもなかなか取れませんでした。今日Aさんにそのバッグを返すと約束しました。ちょうど今Aさんを見ました。

その時Aさんに何と言いますか。どうしてバッグにシミが付いたかをAさんに説明して、会話をして下さい。

場面8 被害者

立場 大学4年生(A)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(B)
場所 大学の食堂
状況 あなたが友達に大事なものを貸している状況を想像してください。
背景 あなたの友達 Bさんが文学部のパーティーに参加するタイ語専攻の代表として選ばれました。このパーティーに参加するにはタイの民族衣装を着なければなりません。Bさんには衣装は持っていますがバッグを持っていません。ちょうどあなたはタイのその衣装に合いそうなバッグを持っています。そこで、Bさんにそれを貸してあげました。今食堂でBさんを見ました。この前のパーティーについて聞こうと思っていたところ、ちょうどBさんもあなたのところに歩いて来ています。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面8 加害者

立場 大学4年生(B)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(A)
場所 大学の食堂
状況 友達に貸してもらった大事なものに傷を付けた状況を想像してください。
背景 あなたは文学部のパーティーに参加するタイ語専攻の代表として選ばれました。このパーティーに参加するにはタイの民族衣装を着なければなりません。しかし、あなたには衣装は持っていますが、その衣装に合えそうなバッグは持っていません。ちょうどAさんがあなたに貸してくれました。しかし、パーティーではあなたはバッグに赤ワインをこぼしてしまいました。さらに、そのよごれは、いくら洗濯してもなかなか取れませんでした。今日Aさんにそのバッグを返すと約束しました。ちょうど今Aさんを見ました。

その時Aさんに何と言いますか。どうしてバッグにシミが付いたかをAさんに説明して、会話をして下さい。

場面9 被害者

立場 大学4年生(A)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部で、同じ専攻である親しい友達(B)
場所 ビッグマンの前
状況 あなたが30分約束相手を待っている状況を想像してください。
背景 あなたとその友達は、学部のイベントで必要なものを買う仕事を任されました。その買い物のために、今日の10時にビッグマンの前で待ち合わせをしています。ところが、10時になっても、Bさんはまだ来ていません。しかも、あなたに何の連絡もありません。10時半になって、ようやくBさんが来ました。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面9 加害者

立場 大学の4年生(B)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部で、同じ専攻である親しい友達(A)
場所 ビッグマンの前
状況 交通事情のせいで(電車・バスのトラブルなど)あなたが遅刻しました。今待たせていた約束相手と会う状況を想像してください。
背景 あなたとその友達は、学部のイベントで必要なものを買う仕事を任されました。その買い物のために、今日の10時にビッグマンの前で待ち合わせをしています。ところが、交通事情のせいで約束時間より30分遅れました。しかも、遅れることをAさんに連絡していません。あなたが10時半にようやくその待ち合わせ場所に着いたときには、すでにAさんはそこにいて、あなたを待っていました。

その時Aさんに何と言いますか。どうして遅刻したかを説明し、会話をして下さい。

場面10 被害者

立場 大学4年生(A)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(B)
場所 ビッグマンの前
状況 あなたが30分約束相手を待っている状況を想像してください。
背景 あなたとその友達は、学部のイベントで必要なものを買う仕事を任されました。その買い物のために、今日の10時にビッグマンの前で待ち合わせをしています。ところが、10時になっても、Bさんはまだ来ていません。しかも、あなたに何の連絡もありません。10時半になって、ようやくBさんが来ました。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面10 加害者

立場 大学の4年生(B)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(A)
場所 ビッグマンの前
状況 交通事情のせいで(電車・バスのトラブルなど)あなたが遅刻しました。待たせていた約束相手と会う状況を想像してください。
背景 あなたとその友達は、学部のイベントで必要なものを買う仕事を任されました。その買い物のために、今日の10時にビッグマンの前で待ち合わせをしています。ところが、交通事情のせいで約束時間より30分遅れました。しかも、遅れることをAさんに連絡していません。あなたが10時半にようやくその待ち合わせ場所に着いたときには、すでにAさんはそこにいて、あなたを待っていました。

その時Aさんに何と言いますか。どうして遅刻したかをAさんに説明して、会話をして下さい。

場面 11 被害者

立場 大学 4 年生 (A)
相手 1 年生の時からあなたと同じ学部で在籍し、同じ専攻である親しい友達 (B)
場所 作家の家の近くにあるコンビニ
状況 あなたが約束相手を 30 分待っている状況を想像してください。
背景 Bさんと一緒に研究レポートのために、今日 11 時にある作家にインタビューをするとアポイントメントを取りました。あなたは Bさんと 10 時半にその作家の家の近くで待ち合わせをしました。しかし、30 分経っても Bさんはまだ現れていません。また、あなたに何も連絡をしていません。今は 11 時になり、ようやく Bさんが着ました。
その時にあなたは Bさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面 11 加害者

立場 大学の 4 年生 (B)
相手 1 年生の時からあなたと同じ学部で在籍し、同じ専攻である親しい友達 (A)
場所 作家の家の近くにあるコンビニ
状況 交通事情のせいで(電車・バスのトラブルなど)あなたが遅刻しました。今待たせていた約束相手と会う状況を想像してください。
背景 Aさんと一緒に研究レポートのために、今日 11 時にある作家にインタビューをするとアポイントメントを取りました。あなたは Aさんと 10 時半にその作家の家の近くで待ち合わせをしました。しかし、電車のトラブルによって 30 分遅れてしまいました。また、あなたは Aさんに連絡をしていません。今は 11 時になり、ようやく待ち合わせ場所に着ました。その時 Aさんは既にあなたを待っています。
その時 Aさんに何と言いますか。どうして遅刻したかを説明し、会話をして下さい。

場面 12 被害者

立場 大学 4 年生 (A)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達 (B)
場所 作家の家の近くにあるコンビニ
状況 あなたが 30 分約束相手を待っている状況を想像してください。
背景 Bさんと一緒に研究レポートのために、今日 11 時にある作家にインタビューをするとアポイントメントを取りました。あなたは Bさんと 10 時半にその作家の家の近くで待ち合わせをしました。しかし、30 分経っても Bさんはまだ現れていません。また、あなたに何も連絡をしていません。今は 11 時になり、ようやく Bさんが着ました。
その時にあなたは Bさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面 12 加害者

立場 大学の 4 年生 (B)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達 (A)
場所 作家の家の近くにあるコンビニ
状況 交通事情のせいで(電車・バスのトラブルなど)あなたが遅刻しました。今待たせていた約束相手と会う状況を想像してください。
背景 Aさんと一緒に研究レポートのために、今日 11 時にある小説の著者にインタビューをするとアポイントメントを取りました。あなたは Aさんと 10 時半にその作家の家の近くで待ち合わせをしました。しかし、電車のトラブルによって 30 分遅れてしまいました。また、あなたは Aさんに連絡をしていません。今は 11 時になり、ようやく待ち合わせ場所に着ました。その時 Aさんは既にあなたを待っています。
その時 Aさんに何と言いますか。どうして遅刻したかを説明し、会話をして下さい。

場面 13 被害者

立場 大学の4年生(A)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部在籍し、同じ専攻である親しい友達(B)
場所 教室の前
状況 あなたが友達にものを貸している状況を想像してください。
背景 先週、友達 Bさんにハリー・ポッターの本を貸してあげました。今日週末 Bさんに読んだ感想を聞きたいと思っていたら、ちょうど授業の前で Bさんに会いました。

その時にあなたは Bさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面 13 加害者

立場 大学の4年生(B)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部在籍し、同じ専攻である親しい友達(A)
場所 教室の前
状況 あなたが友達に貸してもらったものに傷が付いた状況を想像してください。
背景 先週あなたは Aさんにハリー・ポッターの本を貸してもらって、週末の間に読もうと思いました。しかし、本を読もうとするとき、本の表紙が折れてしまったことに気づきました。今日その本を返すために持ってきました。ちょうど授業の前で Aさんに会いました。

その時 Aさんに何と言いますか。どうして本に折れ目が付いたか Aさんに説明して、会話をして下さい。

場面 14 被害者

立場 大学の4年生(A)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(B)
場所 教室の前
状況 あなたが友達にものを貸している状況を想像してください。
背景 先週あなたは一緒に授業を取っている Bさんにノートを貸してあげました。Bさんはあなたのノートを週末の間に勉強するといいました。今日自分のノートが役に立ったか Bさんに聞こうと思っていたところ、ちょうど授業の前で Bさんに会いました。

その時にあなたは Bさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面 14 加害者

立場 大学の4年生(B)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(A)
場所 教室の前
状況 あなたが友達に貸してもらったものに傷が付いた状況を想像してください。
背景 先週あなたは一緒に授業をとっている Aさんにノートを貸してもらって、週末に勉強しようと思いました。しかし、ノートを勉強しようとするとき、表紙が折れてしまったことに気づきました。今日あなたはそのノートを返すために持ってきました。ちょうど授業の前で Aさんに会いました。

その時 Aさんに何と言いますか。どうしてノートに折れ目が付いたかを Aさんに説明して、会話をして下さい。

場面 15 被害者

立場 大学4年生(A)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部在籍し、同じ専攻の親しい友達(B)
場所 大学の食堂
状況 親友に大事なものを貸している状況を想像してください。
背景 あなたの友達 Bさんが文学部のパーティーに参加するタイ語専攻の代表として選ばれました。このパーティーに参加するにはタイの民族衣装を着なければなりません。Bさんには衣装は持っていますが、バッグは持っていません。ちょうどあなたはタイのその衣装に合いそうなバッグを持っています。そこで、Bさんにそれを貸してあげました。今食堂でBさんを見ました。この前のパーティーについて聞こうと思っていたところ、ちょうどBさんもあなたのところに歩いて来ています。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面 15 加害者

立場 大学4年生(B)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部在籍し、同じ専攻の親しい友達(A)
場所 大学の食堂
状況 親友に大事なものを貸している状況を想像してください。
背景 あなたは文学部のパーティーに参加するタイ語専攻の代表として選ばれました。このパーティーに参加するにはタイの民族衣装を着なければなりません。しかし、あなたには衣装は持っていますが、その衣装に合えそうなバッグは持っていません。ちょうどAさんがあなたに貸してくれました。しかし、パーティーでは赤ワインがバッグこぼれてしまいました。さらに、そのよごれは、いくら洗濯してもなかなか取れませんでした。今日Aさんにそのバッグを返すと約束しました。ちょうど今Aさんを見ました。

その時Aさんに何と言いますか。どうしてバッグにシミが付いたかをAさんに説明して、会話をして下さい。

場面 16 被害者

立場 大学4年生(A)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(B)
場所 大学の食堂
状況 自分の親友が大事なものを貸している状況を想像してください。
背景 あなたの友達 Bさんが文学部のパーティーに参加するタイ語専攻の代表として選ばれました。このパーティーに参加するにはタイの民族衣装を着なければなりません。Bさんには衣装は持っていますが、かばんは持っていません。ちょうどあなたはタイのその衣装に合いそうなバッグを持っています。そこで、Bさんにそれを貸してあげました。今食堂でBさんを見ました。この前のパーティーについて聞こうと思います。ちょうどBさんもあなたのところに歩いて来ています。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面 16 加害者

立場 大学4年生(B)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(A)
場所 大学の食堂
状況 親友に大事なものを貸している状況を想像してください。
背景 あなたは文学部のパーティーに参加するタイ語専攻の代表として選ばれました。このパーティーに参加するにはタイの民族衣装を着なければなりません。しかし、あなたには衣装は持っていますが、その衣装に合えそうなバッグは持っていません。ちょうどAさんがあなたに貸してくれました。しかし、パーティーではバッグに赤ワインがこぼれてしまいました。さらに、そのよごれは、いくら洗濯してもなかなか取れませんでした。今日Aさんにそのバッグを返すと約束しました。ちょうど今Aさんを見ました。

その時Aさんに何と言いますか。どうしてバッグにシミが付いたかをAさんに説明して、会話をして下さい。

สถานการณ์ 1 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนวิชาเอกเดียวกับคุณและเป็นเพื่อนสนิทของคุณด้วย (B)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผัดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด	คุณและเพื่อนสนิท (B) ถูกมอบหมายงานให้ไปซื้อของที่จะใช้สำหรับจัดงานกิจกรรมพิเศษของคุณ คุณจึงนัดเพื่อนที่สถานีรถไฟฟ้ายามเวลา 10.00 น. แต่เมื่อถึงเวลานัดเพื่อนก็ยังไม่มาและไม่ได้ติดต่อคุณเลย ขณะนี้เป็นเวลา 10.30 น. ในที่สุดเพื่อนของคุณก็มาถึง

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 1 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนสนิทของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน (A)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณทำให้อีกฝ่ายต้องรอ เนื่องจากคุณมาสายและสาเหตุที่มาสายเกิดจากตัวคุณเองด้วย (เช่น ตื่นสาย เตรียมตัวช้า ขึ้นรถเมล์/รถไฟฟ้าไม่ทัน)
รายละเอียด	คุณและเพื่อนสนิท (B) ถูกมอบหมายงานให้ไปซื้อของที่จะใช้สำหรับจัดงานกิจกรรมพิเศษของคุณ คุณจึงนัดเพื่อนที่สถานีรถไฟฟ้ายามเวลา 10.00 น. แต่คุณเกิดถึงช้ากว่าเวลานัดครึ่งชั่วโมง และคุณไม่ได้ติดต่อเพื่อนเพื่อบอกว่าคุณจะมาสาย เมื่อคุณไปถึงเพื่อนได้ยืนรอคุณอยู่แล้ว

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาอธิบายว่าทำไมคุณจึงมาสายและสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 2 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (B)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผัดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด	วันนี้คุณมีนัดไปซื้อของเพื่อมาทำงานกิจกรรมของคุณกับเพื่อนคนดังกล่าวตามที่ได้รับมอบหมาย คุณจึงนัดเพื่อนที่สถานีรถไฟฟ้ายามเวลา 10.00 น. แต่เมื่อถึงเวลานัดเพื่อนคนดังกล่าวกลับยังไม่มาและไม่ได้ติดต่อคุณเลย ขณะนี้เป็นเวลา 10.30 น. ในที่สุดเพื่อนของคุณก็มาถึง

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 2 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (A)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่าคุณทำให้อีกฝ่ายต้องรอ เนื่องจากคุณมาสายและสาเหตุที่มาสายเกิดจากตัวคุณเองด้วย (เช่น ตื่นสาย เตรียมตัวช้า ขึ้นรถเมล์/รถไฟฟ้าไม่ทัน)
รายละเอียด	คุณและ A ถูกมอบหมายงานให้ไปซื้อของที่จะใช้สำหรับจัดงานกิจกรรมพิเศษของคุณ คุณจึงนัด A ที่สถานีรถไฟฟ้ายามเวลา 10.00 น. แต่บังเอิญคุณมาถึงช้ากว่าเวลานัดครึ่งชั่วโมง และคุณก็ไม่ได้ติดต่อเพื่อนเพื่อบอกว่าคุณจะมาสาย เมื่อคุณไปถึง A ได้ยืนรอคุณอยู่แล้ว

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาอธิบายว่าทำไมคุณจึงมาสายและสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 3 ผู้เสียหาย

บทบาท นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา เพื่อนร่วมคณะตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนวิชาเอกเดียวกันและเป็นเพื่อนสนิทของคุณด้วย (B)
สถานที่ หน้าโรงภาพยนตร์
สถานการณ์ กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผัดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด วันนี้คุณมีนัดดูหนังกับเพื่อนสนิทคนดังกล่าว โดยหนังจะเริ่มฉายเวลา 10.30 น. คุณจึงนัดกับเพื่อนที่หน้าโรงภาพยนตร์เวลา 10.00 น. แต่เมื่อถึงเวลานัดเพื่อนคนดังกล่าวก็ยังไม่มาและไม่ติดต่อคุณเลย จนกระทั่งในที่สุดเพื่อนก็มาถึงเวลา 10.30 น. ซึ่งเป็นเวลาที่หนังเริ่มฉายพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 3 ผู้กระทำผิด

บทบาท นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา เพื่อนสนิทของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน (A)
สถานที่ หน้าโรงภาพยนตร์
สถานการณ์ กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณทำให้อีกฝ่ายต้องรอ เนื่องจากคุณมาสายและสาเหตุที่มาสายเกิดจากตัวคุณเองด้วย (เช่น ตื่นสาย เตรียมตัวช้า ขึ้นรถเมล์/รถไฟฟ้าไม่ทัน)
รายละเอียด วันนี้คุณมีนัดดูหนังกับเพื่อนสนิทคนดังกล่าว โดยหนังจะเริ่มฉายเวลา 10.30 น. คุณจึงนัดเพื่อนเวลา 10.00 น. ที่หน้าโรงภาพยนตร์ แต่คุณมาถึงช้ากว่าเวลานัดครึ่งชั่วโมง และคุณก็ไม่ได้ติดต่อเพื่อนเพื่อบอกว่าคุณจะมาสาย ในที่สุดคุณก็ไปถึงโรงหนังเวลา 10.30 น. และพบว่าเพื่อนได้ยืนรอคุณอยู่แล้ว ขณะนี้หนังเพิ่งจะเริ่มฉายพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาอธิบายว่าทำไมคุณจึงมาสายและสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 4 ผู้เสียหาย

บทบาท นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (B)
สถานที่ ล็อบบี้ของโรงละคร
สถานการณ์ กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผัดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด คุณ และ B ถูกเลือกให้เป็นตัวแทนของคณะไปชมละครคาบูกิของญี่ปุ่น การแสดงจะมีขึ้นวันนี้เวลา 10.30 น. ดังนั้นคุณและเพื่อนคนดังกล่าวจึงนัดพบกันที่บริเวณล็อบบี้ของโรงละครเวลา 10.00 น. แต่เมื่อถึงเวลานัด B ก็ยังไม่มาและไม่ติดต่อคุณเลย ขณะนี้เป็นเวลา 10.30 น. แต่ B เพิ่งมาถึง และละครเพิ่งจะเริ่มพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 4 ผู้กระทำผิด

บทบาท นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (A)
สถานที่ ล็อบบี้ของโรงละคร
สถานการณ์ กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณทำให้อีกฝ่ายต้องรอ เนื่องจากคุณมาสายและสาเหตุที่มาสายเกิดจากตัวคุณเองด้วย (เช่น ตื่นสาย เตรียมตัวช้า ขึ้นรถเมล์/รถไฟฟ้าไม่ทัน)
สถานการณ์ คุณ และ A ถูกเลือกให้เป็นตัวแทนของคณะไปชมละครคาบูกิของญี่ปุ่น การแสดงจะมีขึ้นวันนี้เวลา 10.30 น. ดังนั้นคุณและเพื่อนคนดังกล่าวจึงนัดเจอกันที่บริเวณล็อบบี้ของโรงละครเวลา 10.00 น. แต่คุณมาถึงช้ากว่าเวลาที่นัดไว้ถึงครึ่งชั่วโมง และคุณก็ไม่ได้ติดต่อเพื่อนเพื่อบอกว่าคุณจะมาสาย ในที่สุดคุณก็ไปถึงโรงละครเวลา 10.30 น. และพบว่าเพื่อนได้ยืนรอคุณอยู่แล้ว ขณะนี้การแสดงเพิ่งจะเริ่มขึ้นพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาอธิบายว่าทำไมคุณจึงมาสายและสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 5 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนวิชาเอกเดียวกันและเป็นเพื่อนสนิทของคุณด้วย (B)
สถานที่	หน้าห้องเรียน
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ให้เพื่อนยืมของชิ้นหนึ่งไป
รายละเอียด	เมื่อปลายสัปดาห์ที่แล้วคุณได้ให้ B ซึ่งเป็นเพื่อนสนิทยืมหนังสือนิยาย Harry Potter ไปอ่านในช่วงวันหยุดเสาร์อาทิตย์ วันนี้คุณกำลังคิดว่าจะถาม B ถึงหนังสือที่ยืมไปว่าเป็นอย่างไรบ้าง และในตอนเช้าก่อนเข้าห้องเรียนคุณได้เจอ B พอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 5 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนสนิทของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน (A)
สถานที่	หน้าห้องเรียน
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ทำของที่ยืมมาจากเพื่อนเสียหาย
รายละเอียด	เมื่อปลายสัปดาห์ที่แล้วคุณได้ขอยืมหนังสือนิยาย Harry Potter ของเพื่อนสนิท A มาอ่านในช่วงวันหยุดเสาร์อาทิตย์ แต่ในขณะที่อ่านคุณได้พับมุมหนังสือของเพื่อนจนเกิดรอยพับ วันนี้คุณตั้งใจเอาหนังสือเล่มดังกล่าวมาคืนเพื่อน ก่อนเข้าเรียนคุณได้เจอ A พอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนเรื่องรอยพับที่หนังสือว่าอย่างไร กรุณาอธิบายและสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 6 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (B)
สถานที่	หน้าห้องเรียน
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผัดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด	เมื่อปลายสัปดาห์ที่แล้วคุณได้ให้ B ซึ่งเป็นเพื่อนที่เรียนวิชาเอกเดียวกันกับคุณแต่ไม่ค่อยสนิทยืมสมุดจดเล็คเชอร์รายวิชาหนึ่งที่ลงทะเบียนเรียนด้วยกันไปอ่านในช่วงวันหยุดเสาร์อาทิตย์ วันนี้คุณกำลังคิดว่าจะถาม B ถึงสมุดโน้ตที่ยืมไป และในตอนเช้าก่อนเข้าห้องเรียนคุณได้เจอ B พอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 6 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (A)
สถานที่	หน้าห้องเรียน
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ทำของที่ยืมมาจากเพื่อนเสียหาย
รายละเอียด	เมื่อปลายสัปดาห์ที่แล้วคุณได้ขอยืมสมุดจดเล็คเชอร์รายวิชาหนึ่งที่ลงทะเบียนเรียนด้วยกันกับ A ซึ่งเป็นเพื่อนที่เรียนวิชาเอกเดียวกันแต่ไม่ค่อยสนิทไปอ่านในช่วงวันหยุดเสาร์อาทิตย์ แต่ในตอนเช้าก่อนเข้าเรียนคุณได้พับมุมหนังสือของเพื่อนจนเกิดรอยพับ วันนี้คุณตั้งใจเอาสมุดเล่มดังกล่าวมาคืนเพื่อน ตอนเช้าก่อนเข้าเรียนคุณได้เจอ A พอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนเรื่องรอยพับที่สมุดโน้ตว่าอย่างไร กรุณาอธิบายและสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 7 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนวิชาเอกเดียวกันและเป็นเพื่อนสนิทของคุณด้วย (B)
สถานที่	หน้าห้องเรียน
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ให้เพื่อนยืมของชิ้นหนึ่งไป
รายละเอียด	เพื่อนสนิทของคุณ ได้รับเลือกให้เป็นตัวแทนของวิชาเอกภาษาญี่ปุ่นเข้าร่วมงานเลี้ยงประจำปีของคณะซึ่งต้องแต่งกายด้วยชุดยูกะตะ B มีชุดยูกะตะแต่ไม่มีกระเป๋าคือที่เข้าชุดกัน บังเอิญคุณมีกระเป๋าที่น่าจะเข้ากับชุดของเพื่อนได้จึงได้ให้ยืมไปใช้ ตอนนี้คุณเห็น B ที่ร้านอาหารพอดี คุณกำลังคิดว่าจะถาม B เกี่ยวกับงานเลี้ยงดังกล่าว เป็นจังหวะเดียวกับที่ B ก็เดินเข้ามาหาคุณ

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 7 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนสนิทของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน (A)
สถานที่	หน้าห้องเรียน
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ยืมของที่ค่อนข้างมีความสำคัญสำหรับเพื่อนมา
รายละเอียด	คุณได้รับเลือกเป็นตัวแทนวิชาเอกภาษาญี่ปุ่นเข้าร่วมงานเลี้ยงประจำปีของคณะที่ต้องแต่งกายด้วยชุดยูกะตะ คุณมีชุดยูกะตะแต่ไม่มีกระเป๋าคือที่เข้าชุดกัน บังเอิญ A ซึ่งเป็นเพื่อนสนิทคุณมีกระเป๋าและดูท่าว่าจะเข้ากับชุดของคุณได้พอดี จึงได้ให้คุณยืมไปงานเลี้ยง แต่คุณได้ทำไว้จนแดงทกรดกระเป๋าจนเป็นรอยต่าง ไม่สามารถชักออกได้ วันนี้เป็นวันที่คุณสัญญากับเพื่อนว่าจะเอากระเป๋าดังกล่าวมาคืน ขณะนี้คุณอยู่ที่ร้านอาหารและเห็น A พอดี คุณกำลังเดินไปหา A

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนเรื่องกระเป๋าว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 8 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (B)
สถานที่	หน้าห้องเรียน
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผัดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด	B ซึ่งเป็นเพื่อนวิชาเอกเดียวกันกับคุณได้รับเลือกให้เป็นตัวแทนของวิชาเอกภาษาญี่ปุ่นเข้าร่วมงานเลี้ยงประจำปีของคณะซึ่งต้องแต่งกายด้วยชุดยูกะตะ B มีชุดยูกะตะแต่ไม่มีกระเป๋าคือที่เข้าชุดกัน บังเอิญคุณมีและน่าจะเข้ากับชุดของเพื่อนได้พอดี จึงได้ให้เพื่อนยืมไปใช้ ตอนนี้คุณเห็น B ที่ร้านอาหารพอดี และคุณกำลังคิดว่าจะถาม B เกี่ยวกับงานเลี้ยงดังกล่าว เป็นจังหวะเดียวกับที่ B ก็เดินเข้ามาหาคุณ

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 8 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (A)
สถานที่	หน้าห้องเรียน
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ยืมของที่ค่อนข้างมีความสำคัญสำหรับเพื่อนมา
รายละเอียด	คุณได้รับเลือกเป็นตัวแทนเอกภาษาญี่ปุ่นเข้าร่วมงานเลี้ยงประจำปีของคณะที่ต้องแต่งกายด้วยชุดยูกะตะ คุณมีชุดยูกะตะแต่ไม่มีกระเป๋าคือที่เข้าชุดกัน บังเอิญ A ซึ่งเป็นเพื่อนที่เรียนวิชาเอกเดียวกับคุณมีและดูท่าว่าจะเข้ากับชุดของคุณได้พอดี จึงได้ให้คุณยืมไปงานเลี้ยง แต่คุณได้ทำไว้จนแดงทกรดกระเป๋าจนเป็นรอยต่าง ไม่สามารถชักออกได้ วันนี้เป็นวันที่คุณสัญญากับเพื่อนว่าจะเอากระเป๋าดังกล่าวมาคืน ขณะนี้คุณอยู่ที่ร้านอาหารและเห็น A พอดี คุณกำลังเดินไปหา A

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนเรื่องกระเป๋าว่าอย่างไร กรุณาอธิบายและสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 9 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนวิชาเอกเดียวกันและเป็นเพื่อนสนิทของคุณด้วย (B)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผัดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด	คุณและเพื่อนสนิท (B) ถูกมอบหมายงานให้ไปซื้อของที่จะใช้สำหรับจัดงานกิจกรรมพิเศษของคุณ คุณได้นัดเพื่อนที่สถานีรถไฟฟ้ายามเวลา 10.00 น. แต่เมื่อถึงเวลานัดเพื่อนก็ยังไม่มาและไม่ได้ติดต่อคุณเลย จนกระทั่งตอนนี้เป็นเวลา 10.30 น. ในที่สุดเพื่อนของคุณก็มาถึง

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 9 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนสนิทของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน (A)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณทำให้อีกฝ่ายต้องรอ เนื่องจากคุณมาสายแต่สาเหตุที่มาสายไม่ได้เกิดจากตัวคุณเอง (เช่น รถเมล์/รถไฟฟ้าม่าช้า)
รายละเอียด	คุณและเพื่อนสนิท(B) ถูกมอบหมายงานให้ไปซื้อของที่จะใช้สำหรับจัดงานกิจกรรมพิเศษของคุณ คุณจึงได้นัดเพื่อนที่สถานีรถไฟฟ้ายาม เวลา10.00 น. แต่คุณเกิดมาสายกว่าเวลานัดครึ่งชั่วโมงเนื่องจากรถเมล์หรือรถไฟฟ้าม่าช้า และคุณก็ไม่ได้ติดต่อเพื่อนเพื่อบอกว่าคุณจะมาสาย เมื่อคุณไปถึงเพื่อนได้ยืนรอคุณอยู่แล้ว

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาอธิบายว่าทำไมคุณจึงมาสายและสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 10 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (B)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผัดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด	วันนี้คุณมีนัดไปซื้อของเพื่อมาทำงานกิจกรรมของคุณกับเพื่อนคนดังกล่าวตามที่ได้รับมอบหมายที่สถานีรถไฟฟ้ายามเวลา 10.00 น. แต่เมื่อถึงเวลานัดเพื่อนคนดังกล่าวก็ยังไม่มาและไม่ได้ติดต่อคุณเลย จนกระทั่งตอนนี้เป็นเวลา 10.30 น. ในที่สุดเพื่อนก็มาถึง

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไรบ้าง กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 10 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (A)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่าคุณทำให้อีกฝ่ายต้องรอ เนื่องจากคุณมาสายแต่สาเหตุที่มาสายไม่ได้เกิดจากตัวคุณเอง (เช่น รถเมล์/รถไฟฟ้าม่าช้า)
รายละเอียด	คุณและ A ถูกมอบหมายงานให้ไปซื้อของที่จะใช้สำหรับจัดงานกิจกรรมพิเศษของคุณ คุณจึงได้นัด A ที่สถานีรถไฟฟ้ายามเวลา 10.00 น. แต่คุณเกิดมาสายกว่าเวลานัดครึ่งชั่วโมงเนื่องจากรถเมล์หรือรถไฟฟ้าม่าช้า และคุณก็ไม่ได้ติดต่อเพื่อนเพื่อบอกว่าคุณจะมาสาย เมื่อคุณไปถึง A ได้ยืนรอคุณอยู่แล้ว

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาอธิบายว่าทำไมคุณจึงมาสายและสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 11 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนวิชาเอกเดียวกันและเป็นเพื่อนสนิทของคุณด้วย (B)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผิดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด	วันนี้คุณกับเพื่อนสนิท B มีนัดไปสัมภาษณ์นักเขียนนิยายคนหนึ่งเพื่อมาทำรายงานวิจัยเวลา 11.00 น. ที่บ้านนักเขียนคนดังกล่าว คุณจึงนัดกันไว้เวลา 10.30 น. ตอนนั้นเวลาผ่านไปครึ่งชั่วโมงแล้วและกำลังจะถึงเวลานัดแต่ B ก็ยังไม่มาและไม่ได้ติดต่อคุณเลย ขณะนั้นเอง B ก็มาถึงที่นัดหมายพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 11 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนสนิทของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนคณะวิชาและเอกเดียวกัน (A)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณทำให้อีกฝ่ายต้องรอ เนื่องจากคุณมาสายแต่สาเหตุที่มาสายไม่ได้เกิดจากตัวคุณเอง (เช่น รถเมล์/รถไฟฟ้ามาช้า)
รายละเอียด	วันนี้คุณกับเพื่อนสนิท A มีนัดไปสัมภาษณ์นักเขียนนิยายคนหนึ่งเพื่อมาทำรายงานวิจัยเวลา 11.00 น. ที่บ้านนักเขียนคนดังกล่าว คุณจึงนัดกันไว้เวลา 10.30 น. แต่รถเมล์หรือรถไฟฟ้าที่คุณนั่งมาเกิดเหตุขัดข้องต้องเสียเวลาซ่อมทำให้คุณมาถึงที่นัดช้าไปถึงครึ่งชั่วโมง และคุณก็ไม่ได้ติดต่อเพื่อนเพื่อบอกว่าจะไปสาย ตอนนั้นเวลา 11.00 น. คุณมาถึงที่นัดหมายพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาอธิบายว่าทำไมคุณจึงมาสายและสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 12 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4(A)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (B)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผิดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด	วันนี้คุณกับ B มีนัดไปสัมภาษณ์นักเขียนนิยายคนหนึ่งเพื่อมาทำรายงานวิจัยเวลา 11.00 น. ที่บ้านนักเขียนคนดังกล่าว คุณจึงนัดกันไว้เวลา 10.30 ตอนนั้นเวลาผ่านไปครึ่งชั่วโมงแล้วและกำลังจะถึงเวลานัด แต่ B ก็ยังไม่มาและไม่ได้ติดต่อคุณเลย ขณะนั้นเอง B ก็มาถึงที่นัดหมายพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 12 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (A)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่าคุณทำให้อีกฝ่ายต้องรอ เนื่องจากคุณมาสายแต่สาเหตุที่มาสายไม่ได้เกิดจากตัวคุณเอง (เช่น รถเมล์/รถไฟฟ้ามาช้า)
รายละเอียด	วันนี้คุณกับ A มีนัดไปสัมภาษณ์นักเขียนนิยายคนหนึ่งเพื่อมาทำรายงานวิจัยเวลา 11.00 น. ที่บ้านนักเขียนคนดังกล่าว คุณจึงนัดกันไว้เวลา 10.30 น. แต่รถเมล์หรือรถไฟฟ้าที่คุณนั่งมาเกิดเหตุขัดข้องต้องเสียเวลาซ่อมทำให้คุณมาถึงที่นัดช้าไปถึงครึ่งชั่วโมง และคุณก็ไม่ได้ติดต่อเพื่อนเพื่อบอกว่าจะไปสาย ตอนนั้นเวลา 11.00 น. คุณมาถึงที่นัดหมายพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาอธิบายว่าทำไมคุณจึงมาสายและสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 13 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนวิชาเอกเดียวกันและเป็นเพื่อนสนิทของคุณด้วย (B)
สถานที่	หน้าห้องเรียน
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ให้เพื่อนยืมของชิ้นหนึ่งไป
รายละเอียด	เมื่อปลายสัปดาห์ที่แล้วคุณได้ให้ B ซึ่งเป็นเพื่อนสนิทยืมหนังสือนิยาย Harry Potter ไปอ่านในช่วงวันหยุดเสาร์อาทิตย์ วันนี้คุณกำลังคิดว่าจะถาม B ถึงหนังสือที่ยืมไปว่าเป็นอย่างไรบ้าง ตอนเช้าก่อนเข้าห้องเรียนคุณได้เจอ Bพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไรบ้าง กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 13 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนสนิทของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน (A)
สถานที่	หน้าห้องเรียน
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า ของที่คุณที่ยืมมาจากเพื่อนเกิดความเสียหาย โดยที่สาเหตุนั้นไม่ได้มาจากคุณ
รายละเอียด	เมื่อปลายสัปดาห์ที่แล้วคุณได้ขอยืมหนังสือนิยาย Harry Potter ของเพื่อนสนิท A มาอ่านในช่วงวันหยุดเสาร์อาทิตย์ แต่ในขณะที่อ่านคุณสังเกตเห็นว่ามีรอยพับที่มุมหนังสือของเพื่อน วันนี้คุณตั้งใจเอาหนังสือเล่มดังกล่าวมาคืนเพื่อน ก่อนเข้าเรียนคุณได้เจอ Aพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนเรื่องรอยพับที่หนังสือว่าอย่างไร กรุณาอธิบายและสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 14 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (B)
สถานที่	หน้าห้องเรียน
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ให้เพื่อนยืมของชิ้นหนึ่งไป
รายละเอียด	เมื่อปลายสัปดาห์ที่แล้วคุณได้ให้ B ซึ่งเป็นเพื่อนที่เรียนวิชาเอกเดียวกันกับคุณแต่ไม่ค่อยสนิท ยืมสมุดจดเล็คเชอร์รายวิชาหนึ่งที่ลงทะเบียนเรียนด้วยกันไปอ่านในช่วงวันหยุดเสาร์อาทิตย์ วันนี้คุณกำลังคิดว่าจะถาม B ถึงสมุดโน้ตที่ยืมไป ตอนเช้าก่อนเข้าห้องเรียนคุณได้เจอ Bพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไรบ้าง กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 14 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (A)
สถานที่	หน้าห้องเรียน
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า ของที่คุณที่ยืมมาจากเพื่อนเกิดความเสียหาย โดยที่สาเหตุนั้นไม่ได้มาจากคุณ
รายละเอียด	เมื่อปลายสัปดาห์ที่แล้วคุณได้ขอยืมสมุดจดเล็คเชอร์รายวิชาหนึ่งที่ลงทะเบียนเรียนด้วยกันกับ A ซึ่งเป็นเพื่อนที่เรียนคณะเดียวกันแต่ไม่ค่อยสนิทไปอ่านในช่วงวันหยุดเสาร์อาทิตย์ แต่ในขณะที่อ่านคุณสังเกตเห็นว่ามีรอยพับที่มุมหนังสือของเพื่อน วันนี้คุณตั้งใจเอาสมุดเล่มดังกล่าวมาคืนเพื่อน ตอนเช้าก่อนเข้าเรียนคุณได้เจอ Aพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนเรื่องรอยพับที่สมุดโน้ตว่าอย่างไร กรุณาอธิบายและสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 15 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนวิชาเอกเดียวกันและเป็นเพื่อนสนิทของคุณด้วย (B)
สถานที่	หน้าห้องเรียน
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ให้เพื่อนยืมของชิ้นหนึ่งไป
รายละเอียด	เพื่อนสนิทของคุณ B ได้รับเลือกให้เป็นตัวแทนของวิชาเอกภาษาญี่ปุ่นเข้าร่วมงานเลี้ยงประจำปีของคณะซึ่งต้องแต่งกายด้วยชุดยูเกะตะ B มีชุดยูเกะตะแต่ไม่มีกระเป๋าถือที่เข้าชุดกัน บังเอิญคุณมีกระเป๋าที่นำจะเข้ากับชุดของเพื่อนได้จึงได้ให้ยืมไปใช้ ตอนนี้คุณเห็น B ที่โรงอาหาร คุณกำลังคิดว่าจะถาม B เกี่ยวกับงานเลี้ยงดังกล่าว เป็นจังหวะเดียวกับที่ B ก็เดินเข้ามาหาคุณ

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 15 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนสนิทของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน (A)
สถานที่	หน้าห้องเรียน
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ยืมของที่ค่อนข้างมีความสำคัญสำหรับเพื่อนมา
รายละเอียด	คุณได้รับเลือกเป็นตัวแทนวิชาเอกภาษาญี่ปุ่นเข้าร่วมงานเลี้ยงประจำปีของคณะที่ต้องแต่งกายด้วยชุดยูเกะตะ คุณมีชุดยูเกะตะแต่ไม่มีกระเป๋าถือที่เข้าชุดกัน บังเอิญ A ซึ่งเป็นเพื่อนสนิทคุณมีและดูทำว่าจะเข้ากับชุดของคุณได้พอดี จึงได้ให้คุณยืมไปงานเลี้ยง แต่ระหว่างงานเลี้ยงไวน์แดงได้ทรยศกระเป๋าจนเป็นรอยต่าง ไม่สามารถชักออกได้ วันนี้คุณสัญญากับเพื่อนว่าจะเอากระเป๋าดังกล่าวมาคืน ขณะนี้คุณอยู่ที่โรงอาหารและเห็น A พอดี คุณกำลังเดินไปหา A

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนเรื่องกระเป๋าว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 16 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนร่วมคณะและชั้นปีเดียวกันกับคุณแต่ต่างสาขาวิชากัน และเป็นเพื่อนที่คุณไม่ค่อยสนิท (B)
สถานที่	หน้าห้องเรียน
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผัดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด	B ซึ่งเป็นเพื่อนที่เรียนคณะเดียวกับคุณได้รับเลือกให้เป็นตัวแทนของวิชาเอกภาษาญี่ปุ่นเข้าร่วมงานเลี้ยงประจำปีของคณะซึ่งต้องแต่งกายด้วยชุดยูเกะตะ B มีชุดยูเกะตะแต่ไม่มีกระเป๋าถือที่เข้าชุดกัน บังเอิญคุณมีและน่าจะเข้ากับชุดของเพื่อนได้พอดี จึงได้ให้เพื่อนยืมไปใช้ ตอนนี้คุณเห็น B ที่โรงอาหาร คุณกำลังคิดว่าจะถาม B เกี่ยวกับงานเลี้ยงดังกล่าว เป็นจังหวะเดียวกับที่ B ก็เดินเข้ามาหาคุณ

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไรบ้าง กรุณาโต้ตอบบทสนทนา

สถานการณ์ 16 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (A)
สถานที่	หน้าห้องเรียน
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ยืมของที่ค่อนข้างมีความสำคัญสำหรับเพื่อนมา
รายละเอียด	คุณได้รับเลือกเป็นตัวแทนวิชาเอกภาษาญี่ปุ่นเข้าร่วมงานเลี้ยงประจำปีของคณะที่ต้องแต่งกายด้วยชุดยูเกะตะ คุณมีชุดยูเกะตะแต่ไม่มีกระเป๋าถือที่เข้าชุดกัน บังเอิญ A ซึ่งเป็นเพื่อนที่เรียนคณะเดียวกับคุณมีและดูทำว่าจะเข้ากับชุดของคุณได้พอดี จึงได้ให้คุณยืมไปงานเลี้ยง แต่ระหว่างงานเลี้ยงไวน์แดงได้ทรยศกระเป๋าจนเป็นรอยต่าง ไม่สามารถชักออกได้ วันนี้คุณสัญญากับเพื่อนว่าจะเอากระเป๋าดังกล่าวมาคืน ขณะนี้คุณอยู่ที่โรงอาหารและเห็น A พอดี คุณกำลังเดินไปหา A

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนเรื่องกระเป๋าว่าอย่างไร กรุณาอธิบายและสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

巻末資料 2 本調査のロールカード

場面 1 被害者

立場 大学 4 年生 (A)
相手 1 年生の時からあなたと同じ学部¹に在籍し、同じ専攻である親しい友達 (B)
場所 ビッグマンの前
状況 あなたが 30 分約束相手を待っている状況を想像してください。
背景 あなたとその友達は、学部のイベントで必要なものを買う仕事を任されました。その買い物のために、今日の 10 時にビッグマンの前で待ち合わせをしています。ところが、10 時になっても、B さんはまだ来ていません。しかも、あなたに何の連絡もありません。10 時半になって、ようやく B さんが来ました。

その時にあなたは B さんに何と言いますか。B さんと会話をして下さい。

場面 1 加害者

立場 大学の 4 年生 (B)
相手 1 年生の時からあなたと同じ学部¹に在籍し、同じ専攻である親しい友達 (A)
場所 ビッグマンの前
状況 あなたが遅刻したせいで(朝寝坊や、準備が遅い、バスに乗り遅れたなど)待たせていた約束相手と会う状況を想像してください。
背景 あなたとその友達は、学部のイベントで必要なものを買う仕事を任されました。その買い物のために、今日の 10 時にビッグマンの前で待ち合わせをしています。ところが、あなたのせいで約束時間より 30 分遅れました。しかも、遅れることを A さんに連絡していません。あなたが 10 時半にようやくその待ち合わせ場所に着いたときには、すでに A さんはそこにいて、あなたを待っていました。

その時 A さんに何と言いますか。どうして遅刻したかを説明し、会話をして下さい。

場面 2 被害者

立場 大学 4 年生 (A)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達 (B)
場所 ビッグマンの前
状況 あなたが 30 分約束相手を待っている状況を想像してください。
背景 あなたとその友達は、学部のイベントで必要なものを買う仕事を任されました。その買い物のために、今日の 10 時にビッグマンの前で待ち合わせをしています。ところが、10 時になっても、B さんはまだ来ていません。しかも、あなたに何の連絡もありません。10 時半になって、ようやく B さんが来ました。

その時にあなたは B さんに何と言いますか。B さんと会話をして下さい。

場面 2 加害者

立場 大学の 4 年生 (B)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達 (A)
場所 ビッグマンの前
状況 あなたが遅刻したせいで(朝寝坊や、準備が遅い、バスに乗り遅れたなど)待たせていた約束相手と会う状況を想像してください。
背景 あなたとその友達は、学部のイベントで必要なものを買う仕事を任されました。その買い物のために、今日の 10 時にビッグマンの前で待ち合わせをしています。ところが、あなたのせいで約束時間より 30 分遅れました。しかも、遅れることを A さんに連絡していません。あなたが 10 時半にようやくその待ち合わせ場所に着いたときには、すでに A さんはそこにいて、あなたを待っていました。

その時 A さんに何と言いますか。どうして遅刻したかを A さんに説明して、会話をして下さい。

場面3 被害者

立場 大学の4年生(A)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部在籍し、同じ専攻である親しい友達(B)
場所 映画館の前
状況 あなたが30分約束相手を待っている状況を想像してください。
背景 今日その親友と映画を見に行く約束をしています。その映画は10時半から始まるので、友人と10時に映画館の前で待ち合わせをしました。ところが、10時になっても、Bさんはまだ来ていません。しかも、あなたに何の連絡もありません。そして10時半ようやくBさんが来ました。また、Bさんが到着したときにちょうどその映画は始まりました。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面3 加害者

立場 大学の4年生(B)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部在籍し、同じ専攻である親しい友達(A)
場所 映画館の前
状況 あなたが遅刻したせいで(朝寝坊や、準備が遅い、バスに乗り遅れたなど)待たせていた約束相手と会う状況を想像してください。
背景 今日その親友と映画を見に行く約束をしています。その映画は10時半から始まるので、友人と10時に映画館の前で待ち合わせをしました。ところが、あなたのせいで約束時間より30分遅れました。しかも、遅れることをAさんに連絡していません。あなたが10時半ようやく映画館に着いたときには、すでにAさんはいて、あなたを待っていました。また、到着したときにちょうどその映画は始まりました。

その時Aさんに何と言いますか。どうして遅刻したかをAさんに説明して、会話をして下さい。

場面4 被害者

立場 大学の4年生(A)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(B)
場所 劇場のロビー
状況 あなたが30分約束相手を待っている状況を想像してください。
背景 日タイ修好120周年の際、タイの大使館によってタイ古典舞踊の公演が行われる予定となった。しかし、それは大使館の招待で、チケットの枚数が限られているので、クラス内で抽選を行った。その結果としてあなたとBさんはタイ語専攻の代表としてこの公演を見に行くことになりました。公演は18時半開演なので、Bさんと18時に劇場のロビーで待ち合わせをしました。ところが、18時になっても、Bさんはまだ来ていません。しかも、あなたに何の連絡もありません。そして18時半ようやくBさんが来ました。また、Bさんが到着したときにちょうどその公演は始まりました。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面4 加害者

立場 大学の4年生(B)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(A)
場所 劇場のロビー
状況 あなたが遅刻したせいで(朝寝坊や、準備が遅い、バスに乗り遅れたなど)待たせていた約束相手と会う状況を想像してください。
背景 日タイ修好120周年の際、タイの大使館によってタイ古典舞踊の公演が行われる予定となった。しかし、それは大使館からの招待で、チケットの枚数が限られているので、クラス内で抽選を行った。その結果としてあなたとAさんはタイ語専攻の代表としてこの公演を見に行くことになりました。公演は18時半開演なので、Aさんと18時に劇場のロビーで待ち合わせをしました。ところが、あなたのせいで約束時間より30分遅れました。しかも、遅れることをAさんに連絡していません。あなたが18時半ようやく劇場に着いたときには、すでにAさんはいて、あなたを待っていました。また、到着したときにちょうどその公演は始まりました。

その時Aさんに何と言いますか。どうして遅刻したかをAさんに説明して、会話をして下さい。

場面5 被害者

立場 大学の4年生(A)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部で在籍し、同じ専攻である親しい友達(B)
場所 大学の食堂
状況 あなたが友達にものを貸した状況を想像してください。
背景 先週、親友であるBさんにハリー・ポッターの本を貸してあげました。今日週末Bさんに読んだ感想を聞きたいと思っていたら、ちょうど食堂の前でBさんに会いました。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面5 加害者

立場 大学の4年生(B)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部で在籍し、同じ専攻である親しい友達(A)
場所 大学の食堂
状況 親友が貸してくれたものに傷を付けた状況を想像してください。
背景 先週、親友であるAさんからハリー・ポッターの本を貸してもらいました。週末の間に読んでしまおうと思って、読んでいる途中、あなたはつい本に折り目をつけてしまいました。今日その本を返すために持ってきました。ちょうど食堂の前でAさんに会いました。

その時Aさんに何と言いますか。どうして本がこのような状態になったのかAさんに説明して、会話をして下さい。

場面6 被害者

立場 大学の4年生(A)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(B)
場所 大学の食堂
状況 あまり親しくない友達にノートを貸している状況を想像してください。
背景 先週、あなたは一緒に授業を取っているBさんにノートを貸してあげました。Bさんはあなたのノートを週末の間に勉強するといいました。今日Bさんにノートが役に立ったか聞こうと思っていたところ、ちょうど食堂の前でBさんに会いました。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面6 加害者

立場 大学の4年生(B)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(A)
場所 大学の食堂
状況 あまり親しくない友達が貸してくれたものに傷を付けた状況を想像してください。
背景 先週、あなたは一緒に授業をとっているAさんのノートを借りてきて、週末の間勉強していました。しかし、ノートを読んでいるうちに、つい折り目をつけてしまいました。今日あなたはそのノートを返すために持ってきました。ちょうど食堂の前でAさんに会いました。

その時Aさんに何と言いますか。どうしてノートがこのような状態になったのかをAさんに説明して、会話をして下さい。

場面7 被害者

立場 大学4年生(A)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部在籍し、同じ専攻の親しい友達(B)
場所 大学の食堂
状況 友達に大事なものを貸している状況を想像してください。
背景 あなたの親しい友達 Bさんが文学部のパーティーに参加するタイ語専攻の代表として選ばれました。このパーティーに参加するにはタイの民族衣装を着なければなりません。Bさんには衣装は持っていますが、バッグは持っていません。ちょうどこの前タイに留学したときにタイ人のホストファミリーからプレゼントとしてもらったので、あなたはタイ衣装に合いそうなバッグを持っています。そこで、あなたはそれをBさんに貸してあげました。今食堂でBさんを見ました。この前のパーティーについて聞こうと思います。ちょうどBさんもあなたのところに歩いて来ています。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面7 加害者

立場 大学4年生(B)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部在籍し、同じ専攻の親しい友達(A)
場所 大学の食堂
状況 友達に貸してもらった大事なものに傷を付けた状況を想像してください。
背景 あなたは文学部のパーティーに参加するタイ語専攻の代表として選ばれました。このパーティーに参加するには、タイの民族衣装を着なければなりません。しかし、あなたは衣装は持っていますが、その衣装に合えそうなバッグは持っていません。ちょうどこの前タイに留学したときホストファミリーからかぼんをプレゼントとしてもらったAさんがあなたに貸してくれました。しかし、パーティーではあなたはバッグに赤ワインをこぼしてしまいました。さらに、その汚れは、いくら洗濯してもなかなか取れませんでした。今日Aさんにそのかぼんを返すと約束しました。ちょうど今Aさんを見ました。

その時Aさんに何と言いますか。どうしてバッグにシミが付いたかをAさんに説明して、会話をして下さい。

場面8 被害者

立場 大学4年生(A)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(B)
場所 大学の食堂
状況 あなたが自分にとって大事なものあまり親しくない友達に貸している状況を想像してください。
背景 あなたの友達 Bさんが文学部のパーティーに参加するタイ語専攻の代表として選ばれました。このパーティーに参加するにはタイの民族衣装を着なければなりません。Bさんには衣装は持っていますが、バッグは持っていません。ちょうどこの前タイに留学したときにタイ人のホストファミリーからプレゼントとしてもらったので、あなたはタイ衣装に合いそうなバッグを持っています。そこで、あなたはBさんにそれを貸してあげました。今食堂でBさんを見たため、この前のパーティーについて聞こうという気になりました。ちょうどBさんもあなたのところに歩いて来ています。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面8 加害者

立場 大学4年生(B)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(A)
場所 大学の食堂
状況 あまり親しくない友達が貸してくれた大事なものに傷を付けてしまった状況を想像してください。
背景 あなたは文学部のパーティーに参加するタイ語専攻の代表として選ばれました。このパーティーに参加するには、タイの民族衣装を着なければなりません。しかし、あなたは衣装は持っていますが、その衣装に合えそうなバッグは持っていません。ちょうどこの前タイに留学したときホストファミリーからバッグをプレゼントとしてもらったAさんがあなたに貸してくれました。しかし、パーティーではあなたはバッグに赤ワインをこぼしてしまいました。しかも、その汚れは、いくら洗濯してもなかなか取れませんでした。今日Aさんにそのバッグを返すと約束しました。ちょうど今Aさんを見ました。

その時Aさんに何と言いますか。どうしてバッグにシミが付いたかをAさんに説明して、会話をして下さい。

場面9 被害者

立場 大学4年生(A)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部在籍し、同じ専攻である親しい友達(B)
場所 ビッグマンの前
状況 あなたが約束相手を30分待っている状況を想像してください。
背景 あなたとその友達は、学部のイベントで必要なものを買う仕事を任されました。その買い物のために、今日の10時にビッグマンの前で待ち合わせをしています。ところが、10時になっても、Bさんはまだ来ていません。しかも、あなたに何の連絡もありません。10時半になって、ようやくBさんが来ました。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面9 加害者

立場 大学の4年生(B)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部在籍し、同じ専攻である親しい友達(A)
場所 ビッグマンの前
状況 電車・バストラブルにより、あなたは遅刻してしまいました。今待たせていた約束相手と会う状況を想像してください。
背景 あなたとその友達は、学部のイベントで必要なものを買う仕事を任されました。その買い物のために、今日の10時にビッグマンの前で待ち合わせをしています。ところが、電車・バスのトラブルのせいで約束時間より30分遅れました。しかも、遅れることをAさんに連絡していません。あなたが10時半にようやくその待ち合わせ場所に着いたときには、すでにAさんはそこにいて、あなたを待っていました。

その時Aさんに何と言いますか。どうして遅刻したかを説明し、会話をして下さい。

場面10 被害者

立場 大学4年生(A)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(B)
場所 ビッグマンの前
状況 あなたが約束相手を30分待っている状況を想像してください。
背景 あなたとその友達は、学部のイベントで必要なものを買う仕事を任されました。その買い物のために、今日の10時にビッグマンの前で待ち合わせをしています。ところが、10時になっても、Bさんはまだ来ていません。しかも、あなたに何の連絡もありません。10時半になって、ようやくBさんが来ました。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面10 加害者

立場 大学の4年生(B)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(A)
場所 ビッグマンの前
状況 電車のトラブルにより、あなたは遅刻してしまいました。今待たせていた約束相手と会う状況を想像してください。
背景 あなたとその友達は、学部のイベントで必要なものを買う仕事を任されました。その買い物のために、今日の10時にビッグマンの前で待ち合わせをしています。ところが、電車・バスのトラブルのせいで約束時間より30分遅れました。しかも、遅れることをAさんに連絡していません。あなたが10時半にようやくその待ち合わせ場所に着いたときには、すでにAさんはそこにいて、あなたを待っていました。

その時Aさんに何と言いますか。どうして遅刻したかをAさんに説明して、会話をして下さい。

場面 11 被害者

立場 大学4年生(A)
 相手 1年生の時からあなたと同じ学部在籍し、同じ専攻である親しい友達(B)
 場所 作家宅がある路地の入り口にある、作家宅まで徒歩5分のファミリーマートの前
 状況 あなたが30分約束相手を待っている状況を想像してください。
 背景 Bさんと一緒に研究レポートのために、今日11時に学部の先輩である小説作家にインタビューをするとアポイントメントを取りました。しかし、Bはその作家の家を知らないため、あなたは作家の家の近くにあるファミリーマートの前でBさんと10:30時に待ち合わせをしました。しかし、30分経ってもBさんはまだ現れていません。また、あなたに何の連絡もしていません。11時になり、ようやくBさんが着ました。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面 11 加害者

立場 大学の4年生(B)
 相手 1年生の時からあなたと同じ学部在籍し、同じ専攻である親しい友達(A)
 場所 作家宅がある路地の入り口にある、作家宅まで徒歩5分のファミリーマートの前
 状況 電車・バスのトラブルにより、30分遅刻したあなたを待っていた相手と会う状況を想像してください。
 背景 Aさんと一緒に研究レポートのために、今日11時にあなたの学部の先輩である小説の作家にインタビューをするとアポイントメントを取りました。しかし、あなたはその作家の家を知らないため、Aさんと10時半にその作家の家の近くにあるファミリーマートの前で待ち合わせをしました。しかし、電車のトラブルによって30分遅れてしまいました。また、あなたはAさんに連絡をしていません。11時になり、ようやく待ち合わせ場所に着ました。その時Aさんは既にあなたを待っています。

その時Aさんに何と言いますか。どうして遅刻したかを説明し、会話をして下さい。

場面 12 被害者

立場 大学4年生(A)
 相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(B)
 場所 作家宅がある路地の入り口にある、作家宅まで徒歩5分のファミリーマートの前
 状況 あなたが30分遅刻した相手を待っている状況を想像してください。
 背景 あなたはある授業でBさんと同じグループにいます。研究レポートのために今日Bさんと一緒に11時に学部の先輩である小説の作家にインタビューをするとアポイントメントを取りました。しかし、Bはその作家の家を知らないため、あなたは作家の家の近くにあるファミリーマートの前でBさんと10:30時に待ち合わせをしました。しかし、30分経ってもBさんはまだ現れていません。また、あなたに何も連絡をしていません。11時になり、ようやくBさんが着ました。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面 12 加害者

立場 大学の4年生(B)
 相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(A)
 場所 作家宅がある路地の入り口にある、作家宅まで徒歩5分のファミリーマートの前
 状況 電車・バスのトラブルにより、30分遅刻したあなたを待っていた相手と会う状況を想像してください。
 背景 あなたはある授業でAさんと同じグループにいます。研究レポートのために、今日Aさんと一緒に11時にあなたの学部の先輩である小説の作家にインタビューをするとアポイントメントを取りました。しかし、あなたはその作家の家を知らないため、Aさんと10時半にその作家の家の近くにあるファミリーマートの前で待ち合わせをしました。しかし、電車のトラブルによって30分遅れてしまいました。また、あなたはAさんに連絡をしていません。11時になり、ようやく待ち合わせ場所に着ました。その時Aさんは既にあなたを待っています。

その時Aさんに何と言いますか。どうして遅刻したかを説明し、会話をして下さい。

場面 13 被害者

立場 大学の4年生(A)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部在籍し、同じ専攻である親しい友達(B)
場所 大学の食堂
状況 あなたが親友にものを貸している状況を想像してください。
背景 先週、親友であるBさんにハリー・ポッターの本を貸してあげました。今日週末Bさんに読んだ感想を聞きたいと思っていたら、ちょうど食堂の前でBさんに会いました。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面 13 加害者

立場 大学の4年生(B)
相手 1年生の時からあなたと同じ学部在籍し、同じ専攻である親しい友達(A)
場所 大学の食堂
状況 あなたに直接的の原因がないが、親友から借りた本に傷が付いた状況を想像してください。
背景 先週、あなたは親友であるAさんからハリー・ポッターの本を貸してもらって、今日週末の間に読みました。教その本を返すために、持って来ましたが、歩いている途中、走っている人とぶつかり、その本も含めて、あなたの全ての荷物が床に落ちてしまいました。その結果、友達の本に折り目が付いてしまいました。今食堂の前でAさんを見ました。

その時Aさんに何と言いますか。どうして本に折り目が付いたかAさんに説明して、会話をして下さい。

場面 14 被害者

立場 大学の4年生(A)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(B)
場所 大学の食堂
状況 あなたがあまり親しくない友達にものを貸している状況を想像してください。
背景 先週、あなたは一緒に授業を取っているBさんにノートを貸してあげました。Bさんはあなたのノートを週末の間に勉強するといいました。今日自分のノートが役に立ったかBさんに聞こうと思っていたところ、ちょうど食堂の前にBさんに会いました。

その時にあなたはBさんに何と言いますか。Bさんと会話をして下さい。

場面 14 加害者

立場 大学の4年生(B)
相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(A)
場所 大学の食堂
状況 あまり親しくない友達がノートを貸してくれましたが、それに傷が付いてしまいました。しかし、その直接の原因はあなたにはない状況を想像してください。
背景 先週あなたは一緒に授業をとっているAさんのノートを貸してもらって、週末の間勉強してました。今日そのノートを返すために、持ってきました。ところが、歩いている途中、走っている人とぶつかり、そのノートも含めて、あなたの全ての荷物が床に落ちてしまいました。その結果、友達のノートに折り目が付いてしまいました。今食堂の前でAさんを見ました。

その時Aさんに何と言いますか。どうしてノートに折り目が付いたかをAさんに説明して、会話をして下さい。

場面 15 被害者

立場 大学4年生(A)
 相手 1年生の時からあなたと同じ学部在籍し、同じ専攻の親しい友達(B)
 場所 大学の食堂
 状況 あなたが自分にとって大事なものを親友に貸している状況を想像してください。
 背景 あなたの親友である B さんが文学部のパーティーに参加するタイ語専攻の代表として選ばれました。このパーティーに参加するにはタイの民族衣装を着なければなりません。B さんは衣装は持っていますが、バッグは持っていません。ちょうどこの前タイに留学したときにタイ人のホストファミリーからプレゼントとしてもらったので、あなたはその衣装に合いそうなバッグを持っています。そこで、あなたはそれをBさんに貸してあげました。今食堂でBさんを見ました。この前のパーティーについて聞こうと思います。ちょうど B さんもあなたのところに歩いて来ています。

その時にあなたは B さんに何と言いますか。B さんと会話をして下さい。

場面 15 加害者

立場 大学4年生(B)
 相手 1年生の時からあなたと同じ学部在籍し、同じ専攻の親しい友達(A)
 場所 大学の食堂
 状況 あなたの親友が自分にとって大事な物を貸してくれましたが、それが汚れてしまいました。しかし、その直接の原因はあなたにない状況を想像してください。
 背景 あなたは文学部のパーティーに参加するタイ語専攻の代表として選ばれました。このパーティーに参加するにはタイの民族衣装を着なければなりません。あなたは衣装は持っていますが、衣装に合えそうなバッグを持っていません。ちょうどこの前タイに留学したときホストファミリーからタイのバッグをプレゼントとしてもらった A さんがあなたに貸してくれました。しかし、パーティーでは人にぶつかられてきたとき、そのバッグは赤ワインがこぼれてしまいました。その汚れはいくら洗濯しても、なかなかとれませんでした。今日 A さんにそのバッグを返すと約束しました。ちょうど今 A さんを見ました。

その時 A さんに何と言いますか。どうしてバッグにシミが付いたかを A さんに説明して、会話をして下さい。

場面 16 被害者

立場 大学4年生(A)
 相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(B)
 状況 あなたが自分にとって大事なものをあまり親しくない友達に貸している状況を想像してください。
 背景 あなたの親友である B さんが文学部のパーティーに参加するタイ語専攻の代表として選ばれました。このパーティーに参加するにはタイの民族衣装を着なければなりません。B さんは衣装は持っていますが、バッグを持っていません。ちょうどこの前タイに留学したときにタイ人のホストファミリーからプレゼントとしてもらったので、あなたはその衣装に合いそうなバッグを持っています。そこで、あなたはそれをBさんに貸してあげました。今食堂でBさんを見ました。この前のパーティーについて聞こうと思います。ちょうど B さんもあなたのところに歩いて来ています。

その時にあなたは B さんに何と言いますか。B さんと会話をして下さい。

場面 16 加害者

立場 大学4年生(B)
 相手 あなたと同じ学部で、同じ専攻だが、あまり親しくない友達(A)
 状況 あなたのあまり親しくない友達が自分にとって大事な物を貸してくれましたが、それを汚してしまいました。しかし、その直接の原因はあなたにない状況を想像してください。
 背景 あなたは文学部というパーティーに参加するタイ語専攻の代表として選ばれました。このパーティーに参加するにはタイの民族衣装を着なければなりません。あなたは衣装は持っていますが、衣装に合えそうなバッグは持っていません。ちょうどこの前タイに留学したときホストファミリーからタイのかばんをプレゼントとしてもらった A さんがあなたに貸してくれました。しかし、パーティーでは人にぶつかられてきたとき、そのバッグに赤ワインがこぼれてしまいました。その汚れはいくら洗濯しても、なかなかとれませんでした。今日 A さんにそのバッグを返すと約束しました。ちょうど今 A さんを見ました。

その時 A さんに何と言いますか。どうしてバッグにシミが付いたかを A さんに説明して、会話をして下さい。

สถานการณ์ 1 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนวิชาเอกเดียวกันและเป็นเพื่อนสนิทของคุณด้วย (B)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผิดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด	คุณและเพื่อนสนิท (B) ถูกมอบหมายงานให้ไปซื้อของที่จะใช้สำหรับจัดงานกิจกรรมพิเศษของคุณ คุณได้นัดเพื่อนที่สถานีรถไฟฟ้ายามเวลา 10.00 น. แต่เมื่อถึงเวลานัดเพื่อนก็ยังไม่มาและไม่ติดต่อคุณเลย จนกระทั่งตอนนี้เป็นเวลา 10.30 น. ในที่สุดเพื่อนของคุณก็มาถึง

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 1 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนสนิทของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน (A)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณทำให้อีกฝ่ายต้องรอ เนื่องจากคุณมาสายและสาเหตุที่มาสายเกิดจากตัวคุณเองด้วย (เช่น ตื่นสาย เตรียมตัวช้า ขึ้นรถเมล์/รถไฟฟ้าไม่ทัน)
รายละเอียด	คุณและเพื่อนสนิท (B) ถูกมอบหมายงานให้ไปซื้อของที่จะใช้สำหรับจัดงานกิจกรรมพิเศษของคุณ คุณได้นัดเพื่อนที่สถานีรถไฟฟ้ายาม เวลา 10.00 น. แต่คุณเกิดมาถึงช้ากว่าเวลานัดครึ่งชั่วโมง และคุณก็ไม่ได้ติดต่อเพื่อนเพื่อบอกว่าคุณจะมาสาย เมื่อคุณไปถึงเพื่อนได้ยืนรอคุณอยู่แล้ว

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 2 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (B)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผิดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด	วันนี้คุณมีนัดไปซื้อของเพื่อมาทำงานกิจกรรมของคุณกับเพื่อนคนดังกล่าวตามที่ได้รับมอบหมายที่สถานีรถไฟฟ้ายามเวลา 10.00 น. แต่เมื่อถึงเวลานัดเพื่อนคนดังกล่าวก็ยังไม่มาและไม่ติดต่อคุณเลย จนกระทั่งตอนนี้เป็นเวลา 10.30 น. ในที่สุดเพื่อนก็ได้มาถึง

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 2 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (A)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายามสแควร์
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณทำให้อีกฝ่ายต้องรอ เนื่องจากคุณมาสายและสาเหตุที่มาสายเกิดจากตัวคุณเองด้วย (เช่น ตื่นสาย เตรียมตัวช้า ขึ้นรถเมล์/รถไฟฟ้าไม่ทัน)
รายละเอียด	คุณและ A ถูกมอบหมายงานให้ไปซื้อของที่จะใช้สำหรับจัดงานกิจกรรมพิเศษของคุณ คุณได้นัด A ที่สถานีรถไฟฟ้ายามเวลา 10.00 น. แต่บังเอิญคุณมาถึงช้ากว่าเวลานัดครึ่งชั่วโมง และคุณก็ไม่ได้ติดต่อเพื่อนเพื่อบอกว่าคุณจะมาสาย เมื่อคุณไปถึง A ได้ยืนรอคุณอยู่แล้ว

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 3 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนร่วมคณะตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนวิชาเอกเดียวกันและเป็นเพื่อนสนิทของคุณด้วย (B)
สถานที่	หน้าโรงพยาบาล
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผัดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด	วันนี้คุณมีนัดดูหนังกับเพื่อนสนิทคนดังกล่าว หนึ่งจะเริ่มฉายเวลา 10.30 น. คุณจึงนัดกับเพื่อนที่หน้าโรงพยาบาลเวลา 10.00 น. แต่เมื่อถึงเวลานัดเพื่อนคนดังกล่าวก็ยังไม่มาและไม่ได้ติดต่อคุณ จนกระทั่งในที่สุดเพื่อนก็ได้มาถึงเวลา 10.30 น. และเป็นเวลาที่หนังเริ่มฉายพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 3 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนสนิทของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกันด้วย (B)
สถานที่	หน้าโรงพยาบาล
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณทำให้อีกฝ่ายต้องรอ เนื่องจากคุณมาสายและสาเหตุที่มาสายเกิดจากตัวคุณเองด้วย (เช่น ตื่นสาย เตรียมตัวช้า ขึ้นรถเมล์/รถไฟฟ้าไม่ทัน)
รายละเอียด	วันนี้คุณมีนัดดูหนังกับเพื่อนสนิทคนดังกล่าว โดยหนึ่งจะเริ่มฉายเวลา 10.30 น. คุณจึงนัดเพื่อนเวลา 10.00 น. ที่หน้าโรงพยาบาล แต่คุณมาถึงช้ากว่าเวลานัดครึ่งชั่วโมง และคุณก็ไม่ได้ติดต่อเพื่อนเพื่อบอกว่าคุณจะมาสาย ในที่สุดคุณไปถึงโรงหนังเวลา 10.30 น. และพบว่าเพื่อนได้ยืนรอคุณอยู่ ณ ที่นัดแล้ว และขณะนี้หนังเพิ่งจะเริ่มฉายพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 4 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4(A)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (B)
สถานที่	ล็อบบี้ของโรงละคร
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผัดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด	คุณและ B ถูกเลือกให้เป็นตัวแทนของคณะในการไปชมละครคาบูกิของญี่ปุ่น การแสดงจะมีขึ้นวันนี้เวลา 10.30 น. ดังนั้นคุณและเพื่อนคนดังกล่าวจึงนัดเจอกันที่บริเวณล็อบบี้ของโรงละครเวลา 10.00 น. แต่เมื่อถึงเวลานัด B ก็ยังไม่มาและไม่ได้ติดต่อคุณเลย จนกระทั่งเวลา 10.30 น. ในที่สุด B ก็มาถึง ซึ่งขณะนี้ละครเพิ่งจะเริ่มพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 4 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4(B)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (A)
สถานที่	ล็อบบี้ของโรงละคร
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่าคุณทำให้อีกฝ่ายต้องรอ เนื่องจากคุณมาสายและสาเหตุที่มาสายเกิดจากตัวคุณเองด้วย(เช่น ตื่นสาย เตรียมตัวช้า ขึ้นรถเมล์/รถไฟฟ้าไม่ทัน)
สถานการณ์	คุณและ A ถูกเลือกให้เป็นตัวแทนของคณะในการไปชมละครคาบูกิของญี่ปุ่น การแสดงจะมีขึ้นวันนี้เวลา 10.30 น. ดังนั้นคุณและเพื่อนคนดังกล่าวจึงนัดเจอกันที่บริเวณล็อบบี้ของโรงละครเวลา 10.00 น. แต่คุณเกิดมาถึงช้ากว่าเวลาที่นัดไว้ถึงครึ่งชั่วโมง และคุณก็ไม่ได้ติดต่อเพื่อนเพื่อบอกว่าคุณจะมาสาย ในที่สุดคุณก็ไปถึงโรงละครเวลา 10.30 น. และเมื่อไปถึงคุณก็พบว่า เพื่อนได้ยืนรอคุณอยู่แล้ว และขณะนี้เป็นเวลาที่มีการแสดงเพิ่งจะเริ่มขึ้นพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 5 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนวิชาเอกเดียวกันและเป็นเพื่อนสนิทของคุณด้วย (B)
สถานที่	โรงอาหารของมหาวิทยาลัย
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ให้เพื่อนยืมของชิ้นหนึ่งไป
รายละเอียด	เมื่อปลายสัปดาห์ที่แล้วคุณได้ให้ B ซึ่งเป็นเพื่อนสนิทยืมหนังสือนิยาย Harry Potter ไปอ่านในช่วงวันหยุดเสาร์อาทิตย์ ตอนนี้คุณเห็น B อยู่ที่โรงอาหาร คุณกำลังคิดว่าจะถาม B ถึงหนังสือที่ยืมไปว่าเป็นอย่างไรบ้าง เป็นจังหวะเดียวกับที่ B ก็เดินเข้ามาหาคุณพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 5 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนสนิทของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน (A)
สถานที่	โรงอาหารของมหาวิทยาลัย
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ทำของที่ยืมมาจากเพื่อนเสียหาย
รายละเอียด	เมื่อปลายสัปดาห์ที่แล้วคุณได้ขอยืมหนังสือนิยาย Harry Potter ของเพื่อนสนิท A มาอ่านในช่วงวันหยุดเสาร์อาทิตย์ แต่ในขณะที่อ่านคุณได้พับมุมหนังสือของเพื่อนจนเกิดรอยพับ วันนี้คุณตั้งใจเอาหนังสือเล่มดังกล่าวมาคืนเพื่อน ขณะนี้คุณเห็น A อยู่ที่โรงอาหารพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 6 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (B)
สถานที่	โรงอาหารของมหาวิทยาลัย
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ให้เพื่อนยืมของชิ้นหนึ่งไป
รายละเอียด	เมื่อปลายสัปดาห์ที่แล้วคุณได้ให้ B ซึ่งเป็นเพื่อนที่เรียนวิชาเอกเดียวกันกับคุณแต่ไม่ค่อยสนิท ยืมสมุดจดเล็คเชอร์รายวิชาหนึ่งที่ลงทะเบียนเรียนด้วยกันไปอ่านในช่วงวันหยุดเสาร์อาทิตย์ วันนี้คุณกำลังคิดว่าจะถาม B ถึงสมุดโน้ตที่ยืมไป ในตอนเช้าก่อนเข้าห้องเรียนคุณได้เจอ B พอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 6 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (A)
สถานที่	โรงอาหารของมหาวิทยาลัย
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ทำของที่ยืมมาจากเพื่อนเกิดความเสียหาย
รายละเอียด	เมื่อปลายสัปดาห์ที่แล้วคุณได้ขอยืมสมุดจดเล็คเชอร์รายวิชาหนึ่งที่ลงทะเบียนเรียนด้วยกันกับ A ซึ่งเป็นเพื่อนที่เรียนวิชาเอกเดียวกันแต่ไม่ค่อยสนิทไปอ่านในช่วงวันหยุดเสาร์อาทิตย์ แต่ในตอนที่คุณได้พับสมุดโน้ตของเพื่อนจนเกิดรอยพับ วันนี้คุณตั้งใจเอาสมุดเล่มดังกล่าวมาคืนเพื่อน ในขณะที่คุณเห็น A ที่โรงอาหารพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนเรื่องรอยพับที่สมุดโน้ตว่าอย่างไร กรุณาอธิบายและสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 7 ผู้เสียหาย

บทบาท นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา เพื่อนของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนวิชาเอกเดียวกันและเป็นเพื่อนสนิทของคุณด้วย (B)
สถานที่ โรงอาหารของมหาวิทยาลัย
สถานการณ์ กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ให้เพื่อนยืมของที่ค่อนข้างมีความสำคัญกับคุณไป
รายละเอียด เพื่อนสนิทของคุณได้รับเลือกให้เป็นตัวแทนของวิชาเอกภาษาญี่ปุ่นเข้าร่วมงานเลี้ยงประจำปีของคณะซึ่งต้องแต่งกายด้วยชุดยูเกะตะ B มีชุดยูเกะตะแต่ไม่มีกระเป๋าทูตที่เข้าชุดกัน บังเอิญคุณเคยได้รับกระเป๋าทูตจาก Host Family เป็นของขวัญเมื่อสมัยที่คุณไปเรียนที่ญี่ปุ่นและน่าจะเข้ากับชุดของเพื่อนได้ จึงได้ให้ยืมไปใช้ ตอนนี้คุณเห็น B ที่โรงอาหาร คุณกำลังคิดว่าจะถาม B เกี่ยวกับงานเลี้ยงดังกล่าวพอดี เป็นจังหวะเดียวกับที่ B ก็เดินเข้ามาหาคุณ

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 7 ผู้กระทำผิด

บทบาท นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา เพื่อนสนิทของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน (A)
สถานที่ โรงอาหารของมหาวิทยาลัย
สถานการณ์ กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ทำของที่ค่อนข้างสำคัญที่ยืมมาจากเพื่อนเสียหาย
รายละเอียด คุณได้รับเลือกเป็นตัวแทนเอกภาษาญี่ปุ่นเข้าร่วมงานเลี้ยงประจำปีของคณะที่ต้องแต่งกายด้วยชุดยูเกะตะ คุณมีชุดยูเกะตะแต่ไม่มีกระเป๋าทูตที่เข้าชุดกัน บังเอิญ A ซึ่งเป็นเพื่อนสนิทของคุณมีกระเป๋าทูตซึ่งเป็นของขวัญที่ได้รับจาก Host Family เมื่อสมัยที่ไปเรียนที่ญี่ปุ่นพอดีและดูว่าจะเข้ากับชุดของคุณได้ จึงได้ให้คุณยืมไปงานเลี้ยง แต่คุณได้ทำไว้แฉกกระเป๋าทูตจนเป็นรอยต่าง ไม่สามารถซักออกได้ วันนี้เป็นวันที่คุณสัญญากับเพื่อนว่าจะเอากระเป๋าดังกล่าวมาคืน ขณะนี้คุณอยู่ที่โรงอาหารและเห็น A พอดี คุณกำลังเดินไปหา A

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 8 ผู้เสียหาย

บทบาท นักศึกษาชั้นปีที่ 4(A)
คู่สนทนา เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (B)
สถานที่ โรงอาหารของมหาวิทยาลัย
สถานการณ์ กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ให้เพื่อนยืมของที่ค่อนข้างมีความสำคัญกับคุณไป
รายละเอียด B ซึ่งเป็นเพื่อนที่เรียนวิชาเอกเดียวกันกับคุณได้รับเลือกให้เป็นตัวแทนของเอกภาษาญี่ปุ่นเข้าร่วมงานเลี้ยงประจำปีของคณะซึ่งต้องแต่งกายด้วยชุดยูเกะตะ B มีชุดยูเกะตะแต่ไม่มีกระเป๋าทูตที่เข้าชุดกัน บังเอิญคุณเคยได้รับกระเป๋าทูตจาก Host Family เป็นของขวัญเมื่อสมัยที่คุณไปเรียนที่ญี่ปุ่น และน่าจะเข้ากับชุดของเพื่อนได้ จึงได้ให้เพื่อนยืมไปใช้ ตอนนี้คุณเห็น B ที่โรงอาหาร คุณกำลังคิดว่าจะถาม B เกี่ยวกับงานเลี้ยงดังกล่าว ซึ่งเป็นจังหวะเดียวกับที่ B ก็เดินเข้ามาหาคุณ

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 8 ผู้กระทำผิด

บทบาท นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (A)
สถานที่ โรงอาหารของมหาวิทยาลัย
สถานการณ์ กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ทำของที่ค่อนข้างมีความสำคัญที่ยืมมาจากเพื่อนเสียหาย
รายละเอียด คุณได้รับเลือกเป็นตัวแทนเอกภาษาญี่ปุ่นเข้าร่วมงานเลี้ยงประจำปีของคณะซึ่งต้องแต่งกายด้วยชุดยูเกะตะ คุณมีชุดยูเกะตะแต่ไม่มีกระเป๋าทูตที่เข้าชุดกัน บังเอิญ A ซึ่งเป็นเพื่อนสนิทของคุณมีกระเป๋าทูตซึ่งเป็นของขวัญที่ได้รับจาก Host Family เมื่อสมัยที่ไปเรียนที่ญี่ปุ่นพอดี และดูว่าจะเข้ากับชุดของคุณได้ จึงได้ให้คุณยืมไปงานเลี้ยง แต่คุณได้ทำไว้แฉกกระเป๋าทูตจนเป็นรอยต่าง ไม่สามารถซักออกได้ วันนี้เป็นวันที่คุณสัญญากับเพื่อนว่าจะเอากระเป๋าดังกล่าวมาคืน ขณะนี้คุณอยู่ที่โรงอาหารและเห็น A พอดี คุณกำลังเดินไปหา A

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 9 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนวิชาเอกเดียวกันและเป็นเพื่อนสนิทของคุณด้วย (B)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผิดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด	คุณและเพื่อนสนิท(B) ถูกมอบหมายงานให้ไปซื้อของที่จะใช้สำหรับจัดงานกิจกรรมพิเศษของคุณ คุณจึงได้นัดเพื่อนที่สถานีรถไฟฟ้ายามเวลา 10.00 น. แต่เมื่อถึงเวลานัดเพื่อนก็ยังไม่มาและไม่ได้ติดต่อคุณเลย จนกระทั่งตอนนี้เป็นเวลา 10.30 น. ในที่สุดเพื่อนของคุณก็มาถึง

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 9 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนสนิทของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน (A)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณทำให้อีกฝ่ายต้องรอ แต่สาเหตุการมาสายนั้นไม่ได้เกิดจากตัวคุณเอง แต่เป็นเพราะรถที่คุณนั่งมาเกิดขัดข้อง เป็นต้น
รายละเอียด	คุณและเพื่อนสนิท (B) ถูกมอบหมายงานให้ไปซื้อของที่จะใช้สำหรับจัดงานกิจกรรมพิเศษของคุณ คุณจึงได้นัดเพื่อนที่สถานีรถไฟฟ้ายามเวลา 10.00 น. แต่รถที่คุณนั่งมาเกิดขัดข้อง ทำให้คุณไปถึงที่นัดหมายช้ากว่าเวลานัดครึ่งชั่วโมง และคุณก็ไม่ได้ติดต่อเพื่อนเพื่อบอกว่าคุณจะมาสาย เมื่อคุณไปถึงเพื่อนได้ยื่นรอคุณอยู่แล้ว

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 10 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะเดียวกันวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (B)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผิดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด	วันนี้คุณมีนัดไปซื้อของเพื่อมาทำงานกิจกรรมของคุณกับเพื่อนคนดังกล่าวตามที่ได้รับมอบหมายที่สถานีรถไฟฟ้ายามเวลา 10.00 น. แต่เมื่อถึงเวลานัดเพื่อนคนดังกล่าวก็ยังไม่มาและไม่ได้ติดต่อคุณเลย จนกระทั่งตอนนี้เป็นเวลา 10.30 น. ในที่สุดเพื่อนก็ได้มาถึง

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 10 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (A)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณทำให้อีกฝ่ายต้องรอ แต่สาเหตุการมาสายนั้นไม่ได้เกิดจากตัวคุณเอง แต่เป็นเพราะรถที่คุณนั่งมาเกิดขัดข้อง เป็นต้น
รายละเอียด	คุณและ A ถูกมอบหมายงานให้ไปซื้อของที่จะใช้สำหรับจัดงานกิจกรรมพิเศษของคุณ คุณจึงได้นัด A ไว้ที่สถานีรถไฟฟ้ายามเวลา 10.00 น. แต่รถที่คุณนั่งมาเกิดขัดข้อง ทำให้คุณไปถึงที่นัดหมายช้ากว่าเวลานัดครึ่งชั่วโมง และคุณก็ไม่ได้ติดต่อเพื่อนเพื่อบอกว่าคุณจะมาสาย เมื่อคุณไปถึง A ได้ยื่นรอคุณอยู่แล้ว

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 11 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนวิชาเอกเดียวกันและเป็นเพื่อนสนิทของคุณด้วย(B)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผิดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด	วันนี้คุณกับ B มีนัดไปสัมภาษณ์นักเขียนนิยายคนหนึ่งซึ่งเป็นรุ่นพี่ที่คณะเพื่อมาทำรายงานวิจัย คุณจึงนัดกับนักเขียนไว้ที่บ้านของเขาเวลา 11.00 น. แต่ B ไม่รู้จักบ้านของนักเขียนคนดังกล่าวคุณจึงได้นัด B ที่หน้าร้านสะดวกซื้อซึ่งอยู่ปากซอยบ้านของนักเขียนเวลา 10.30 น. เพื่อจะได้พาเพื่อนเข้าไปพร้อมกัน ตอนนั้นเวลาผ่านไปครึ่งชั่วโมงแล้วและกำลังจะถึงเวลานัดแต่ B ก็ยังไม่มา และไม่ติดต่อคุณเลย ขณะนั้นเอง B ก็มาถึงที่นัดหมายพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 11 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนสนิทของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน(A)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่าคุณทำให้อีกฝ่ายต้องรอ แต่สาเหตุการมาสายนั้นไม่ได้เกิดจากตัวคุณเอง แต่เป็นเพราะรถที่คุณนั่งมาเกิดขัดข้อง เป็นต้น
รายละเอียด	วันนี้คุณมีนัดกับเพื่อนสนิท A ไปสัมภาษณ์นักเขียนนิยายคนหนึ่งซึ่งเป็นรุ่นพี่ที่คณะของคุณเพื่อมาทำรายงานวิจัยโดย A เป็นผู้ติดต่อและได้นัดแนะกับนักเขียนเพื่อขอสัมภาษณ์ที่บ้านของเขาเวลา 11.00 น. แต่คุณไม่รู้จักบ้านของนักเขียนคนดังกล่าวคุณจึงได้นัด A ไว้ที่หน้าร้านสะดวกซื้อซึ่งอยู่ปากซอยบ้านของนักเขียนเวลา 10.30 น. เพื่อจะได้เข้าไปพร้อมกัน แต่รถไฟฟ้าที่คุณนั่งมาเกิดเหตุขัดข้องต้องเสียเวลาซ่อมทำให้คุณมาถึงที่นัดเข้าไปถึงครึ่งชั่วโมง และคุณก็ไม่ได้ติดต่อเพื่อนเพื่อบอกว่าจะไปสาย ตอนนี้เป็นเวลา 11.00 น. คุณมาถึงที่นัดหมายพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาและสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 12 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (B)
สถานที่	สถานีรถไฟฟ้ายาม
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณกำลังรออีกฝ่ายที่ผิดนัดไปครึ่งชั่วโมงแล้ว
รายละเอียด	วันนี้คุณกับ B มีนัดไปสัมภาษณ์นักเขียนนิยายคนหนึ่งซึ่งเป็นรุ่นพี่ที่คณะเพื่อมาทำรายงานวิจัย คุณจึงนัดกับนักเขียนไว้ที่บ้านของเขาเวลา 11.00 น. แต่ B ไม่รู้จักบ้านของนักเขียนคนดังกล่าวคุณจึงได้นัด B ที่หน้าร้านสะดวกซื้อซึ่งอยู่ปากซอยบ้านของนักเขียนเวลา 10.30 น. เพื่อจะได้พาเพื่อนเข้าไปพร้อมกัน ตอนนั้นเวลาผ่านไปครึ่งชั่วโมงแล้วและกำลังจะถึงเวลานัดแต่ B ก็ยังไม่มาและไม่ติดต่อคุณเลย ขณะนั้นเอง B ก็มาถึงที่นัดหมายพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 12 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (A)
สถานที่	รถไฟฟ้าสยามสแควร์
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่าคุณทำให้อีกฝ่ายต้องรอ แต่ทว่าสาเหตุการมาสายนั้นไม่ได้เกิดจากตัวคุณเอง แต่เป็นเพราะรถที่คุณนั่งมาเกิดขัดข้อง เป็นต้น
รายละเอียด	วันนี้คุณมีนัดกับ A ไปสัมภาษณ์นักเขียนนิยายคนหนึ่งซึ่งเป็นรุ่นพี่ที่คณะของคุณเพื่อมาทำรายงานวิจัยโดย A เป็นผู้ติดต่อและได้นัดแนะกับนักเขียนเพื่อขอสัมภาษณ์ไว้ที่บ้านของเขาเวลา 11.00 น. แต่คุณไม่รู้จักบ้านของนักเขียนคนดังกล่าวคุณจึงได้นัด A ที่หน้าร้านสะดวกซื้อซึ่งอยู่ปากซอยบ้านของนักเขียนเวลา 10.30 น. เพื่อจะได้เข้าไปพร้อมกัน แต่รถไฟฟ้าที่คุณนั่งมาเกิดเหตุขัดข้องต้องเสียเวลาซ่อมทำให้คุณมาถึงที่นัดเข้าไปถึงครึ่งชั่วโมง และคุณก็ไม่ได้ติดต่อเพื่อนเพื่อบอกด้วยว่าจะไปสาย ตอนนี้เป็นเวลา 11.00 น. คุณมาถึงที่นัดหมายพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 13 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา	เพื่อนของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนวิชาเอกเดียวกันและเป็นเพื่อนสนิทของคุณด้วย (B)
สถานที่	โรงอาหารของมหาวิทยาลัย
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ให้เพื่อนยืมของชิ้นหนึ่งไป
รายละเอียด	เมื่อปลายสัปดาห์ที่แล้วคุณได้ให้ B ซึ่งเป็นเพื่อนสนิทยืมหนังสือนิยาย Harry Potter ไปอ่านในช่วงวันหยุดเสาร์อาทิตย์ ตอนนี้คุณเห็น B อยู่ที่โรงอาหาร คุณกำลังคิดว่าจะถาม B ถึงหนังสือที่ยืมไปว่าเป็นอย่างไรบ้าง เป็นจังหวะเดียวกับที่ B ก็เดินเข้ามาหาคุณ

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 13 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนสนิทของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน (A)
สถานที่	โรงอาหารของมหาวิทยาลัย
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่าของที่คุณขอยืมมาจากเพื่อนเกิดความเสียหาย แต่สาเหตุที่นั้นไม่ได้เกิดมาจากตัวคุณ
รายละเอียด	เมื่อปลายสัปดาห์ที่แล้วคุณได้ขอยืมหนังสือนิยาย Harry Potter ของเพื่อนสนิท A มาอ่านในช่วงวันหยุดเสาร์อาทิตย์ วันนี้คุณตั้งใจเอาหนังสือเล่มดังกล่าวมาคืนเพื่อน แต่ในระหว่างทางมีคนวิ่งมาชนคุณทำให้ข้าวของทั้งหมดของคุณตกลงพื้น รวมทั้งหนังสือของเพื่อน จนทำให้ที่หน้าปกหนังสือของเพื่อนเป็นรอยยับ ขณะนี้คุณได้เห็น A ที่โรงอาหารพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนเรื่องรอยพับที่หนังสือว่าอย่างไร กรุณาอธิบายและสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 14 ผู้เสียหาย

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4(A)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (B)
สถานที่	โรงอาหารของมหาวิทยาลัย
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ให้เพื่อนยืมของชิ้นหนึ่งไป
รายละเอียด	เมื่อปลายสัปดาห์ที่แล้วคุณได้ให้ B ซึ่งเป็นเพื่อนที่เรียนวิชาเอกเดียวกันกับคุณแต่ไม่ค่อยสนิท ยืมสมุดจดเล็คเชอร์รายวิชาหนึ่งที่ลงทะเบียนเรียนด้วยกันไปอ่านในช่วงวันหยุดเสาร์อาทิตย์ วันนี้คุณกำลังคิดว่าจะถาม B ถึงสมุดโน้ตที่ยืมไปว่าเป็นอย่างไรบ้าง เป็นจังหวะเดียวกับที่ B ก็เดินเข้ามาหาคุณ

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 14 ผู้กระทำผิด

บทบาท	นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา	เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (A)
สถานที่	โรงอาหารของมหาวิทยาลัย
สถานการณ์	กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า ของที่youขอยืมมาจากเพื่อนเกิดความเสียหาย แต่สาเหตุที่นั้นไม่ได้เกิดจากตัวคุณ
รายละเอียด	เมื่อปลายสัปดาห์ที่แล้วคุณได้ขอยืมสมุดจดเล็คเชอร์รายวิชาหนึ่งที่ลงทะเบียนเรียนด้วยกันกับ A ซึ่งเป็นเพื่อนที่เรียนคณะเดียวกันแต่ไม่ค่อยสนิทไปอ่านในช่วงวันหยุดเสาร์อาทิตย์ วันนี้คุณตั้งใจเอาสมุดเล่มดังกล่าวมาคืนเพื่อน แต่ในระหว่างทางมีคนวิ่งมาชนคุณทำให้ข้าวของทั้งหมดของคุณตกลงพื้น รวมทั้งสมุดของเพื่อนด้วย จนทำให้ที่หน้าปกสมุดโน้ตเป็นรอยยับ ขณะนี้คุณได้เห็น A ที่โรงอาหารพอดี

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 15 ผู้เสียหาย

บทบาท นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา เพื่อนของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนวิชาเอกเดียวกันและเป็นเพื่อนสนิทของคุณด้วย (B)
สถานที่ โรงอาหารของมหาวิทยาลัย
สถานการณ์ กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ให้เพื่อนยืมของที่ค่อนข้างสำคัญกับคุณไป
รายละเอียด เพื่อนสนิทของคุณ B ได้รับเลือกให้เป็นตัวแทนของวิชาเอกภาษาญี่ปุ่นเข้าร่วมงานเลี้ยงประจำปีของคณะซึ่งต้องแต่งกายด้วยชุดยูกะตะ B มีชุดยูกะตะแต่ไม่มีกระเป๋าทิ้งที่เข้าชุดกัน บังเอิญคุณเคยได้รับกระเป๋าทิ้งจาก Host Family เป็นของขวัญเมื่อสมัยที่คุณไปเรียนที่ญี่ปุ่น และน่าจะเข้ากับชุดของเพื่อนได้ จึงได้ให้ยืมไปใช้ ตอนนี้คุณเห็น B ที่โรงอาหาร คุณกำลังคิดว่าจะถาม B เกี่ยวกับงานเลี้ยงดังกล่าว เป็นจังหวะเดียวกับที่ B ก็เดินเข้ามาหาคุณ

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 15 ผู้กระทำผิด

บทบาท นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา เพื่อนสนิทของคุณตั้งแต่อยู่ชั้นปีที่ 1 เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน (A)
สถานที่ โรงอาหารของมหาวิทยาลัย
สถานการณ์ กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า ของสำคัญที่คุณขอยืมมาจากเพื่อนเกิดความเสียหาย แต่สาเหตุนั้นไม่ได้เกิดจากตัวคุณ
รายละเอียด คุณได้รับเลือกเป็นตัวแทนเอกภาษาญี่ปุ่นเข้าร่วมงานเลี้ยงประจำปีของคณะที่ต้องแต่งกายด้วยชุดยูกะตะ คุณมีชุดยูกะตะแต่ไม่มีกระเป๋าทิ้งที่เข้าชุดกันบังเอิญ A ซึ่งเป็นเพื่อนสนิทคุณมีกระเป๋าทิ้งซึ่งเป็นของขวัญที่ได้รับจาก Host Family เมื่อสมัยที่ไปเรียนที่ญี่ปุ่นพอดี และดูท่าว่าจะเข้ากับชุดของคุณได้ จึงได้ให้คุณยืมไปงานเลี้ยง แต่ระหว่างงานเลี้ยงวันนั้นได้หกรตกระเป๋านั้นเป็นรอยต่าง ไม่สามารถซักออกได้ วันนี้คุณสัญญากับเพื่อนว่าจะเอากระเป๋าดังกล่าวมาคืน ขณะนี้คุณอยู่ที่โรงอาหารและเห็น A พอดี คุณกำลังเดินไปหา A

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน

สถานการณ์ 16 ผู้เสียหาย

บทบาท นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (A)
คู่สนทนา เพื่อนร่วมคณะและชั้นปีเดียวกันกับคุณแต่ต่างสาขาวิชากัน และเป็นเพื่อนที่คุณไม่ค่อยสนิท (B)
สถานที่ โรงอาหารของมหาวิทยาลัย
สถานการณ์ กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า คุณได้ให้เพื่อนยืมของที่ความสำคัญกับคุณไป
รายละเอียด B ซึ่งเป็นเพื่อนที่เรียนคณะเดียวกับคุณได้รับเลือกให้เป็นตัวแทนของเอกภาษาญี่ปุ่นเข้าร่วมงานเลี้ยงประจำปีของคณะซึ่งต้องแต่งกายด้วยชุดยูกะตะ B มีชุดยูกะตะแต่ไม่มีกระเป๋าทิ้งที่เข้าชุดกัน บังเอิญคุณเคยได้รับกระเป๋าทิ้งจาก Host Family เป็นของขวัญเมื่อสมัยที่คุณไปเรียนที่ญี่ปุ่น และน่าจะเข้ากับชุดของเพื่อนได้ จึงได้ให้เพื่อนยืมไปใช้ ตอนนี้คุณเห็น B ที่โรงอาหาร คุณกำลังคิดว่าจะถาม B เกี่ยวกับงานเลี้ยงดังกล่าว เป็นจังหวะเดียวกับที่ B ก็เดินเข้ามาหาคุณ

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกัน

สถานการณ์ 16 ผู้กระทำผิด

บทบาท นักศึกษาชั้นปีที่ 4 (B)
คู่สนทนา เพื่อนที่เรียนคณะและวิชาเอกเดียวกัน แต่คุณไม่ค่อยสนิท (A)
สถานที่ โรงอาหารของมหาวิทยาลัย
สถานการณ์ กรุณาจินตนาการถึงสถานการณ์ว่า ของสำคัญที่คุณขอยืมมาจากเพื่อนเกิดความเสียหาย แต่สาเหตุนั้นไม่ได้เกิดจากตัวคุณ
รายละเอียด คุณได้รับเลือกเป็นตัวแทนเอกภาษาญี่ปุ่นเข้าร่วมงานเลี้ยงประจำปีของคณะที่ต้องแต่งกายด้วยชุดยูกะตะ คุณมีชุดยูกะตะแต่ไม่มีกระเป๋าทิ้งที่เข้าชุดกัน บังเอิญ A ซึ่งเป็นเพื่อนสนิทคุณมีกระเป๋าทิ้งซึ่งเป็นของขวัญที่ได้รับจาก Host Family เมื่อสมัยที่ไปเรียนที่ญี่ปุ่นพอดี และดูท่าว่าจะเข้ากับชุดของคุณได้ จึงได้ให้คุณยืมไปงานเลี้ยง แต่ระหว่างงานเลี้ยงวันนั้นได้หกรตกระเป๋านั้นเป็นรอยต่าง ไม่สามารถซักออกได้ วันนี้คุณสัญญากับเพื่อนว่าจะเอากระเป๋าดังกล่าวมาคืน ขณะนี้คุณอยู่ที่โรงอาหารและเห็น A พอดี คุณกำลังเดินไปหา A

ในตอนนั้นคุณจะพูดกับเพื่อนว่าอย่างไร กรุณาสนทนาโต้ตอบกับเพื่อน